

Nikon

デジタルカメラ

D500

使用説明書



- 製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。
- 「安全上のご注意」(xiiiページ)も必ずお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに保管してください。

Jp

SnapBridge



あなたの映像を、世界につなげよう

“SnapBridge”へ、ようこそ。ニコンの新たなサービスが、かつてない豊かな映像体験への扉を開きます。

BLE (Bluetooth® low energy) テクノロジーと専用アプリで、あなたのカメラとスマートフォン/タブレット端末を常時接続。

そこには、もう境界はありません。ニコンのカメラとレンズで特別な映像として刻まれたあなたの想いは、端末に自動転送され、クラウドストレージサービスに直接アップロード可能。もちろん、クラウド上の映像は、あなたがお持ちのさまざまな端末からもアクセスできます。あなたの想いは、いつでも、どこからでも、シェアできるのです。

豊かな映像体験へ。まずはアプリをダウンロード！

“SnapBridge”の多彩な機能を楽しむには、まず専用アプリをお手持ちのスマートフォン/タブレット端末にダウンロードしてください。対応するiPhone®、iPad®、iPod touch®、またはAndroid™ 端末なら、簡単な手順でカメラと連係できます。専用アプリは、ウェブサイト (<http://snapbridge.nikon.com>) およびApple App Store®またはGoogle Play™でダウンロード可能です(無料)。SnapBridgeの最新情報については当社ホームページでご確認ください(□xix)。



Download on the
App Store



GET IT ON
Google Play

映像体験をもっと便利に楽しく。“SnapBridge”なら...



常時接続により、撮影した映像をカメラからスマートフォン/タブレット端末に自動転送。映像のオンライン共有がこれまでよりも簡単に、ストレスなく行えます。

NIKON IMAGE SPACE



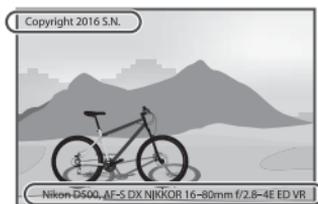
撮影画像やサムネイル画像を、ニコンのクラウドストレージサービス「NIKON IMAGE SPACE」にアップロードできます。

映像体験を豊かにする各種サービス

- カメラのリモート操作



- 映像へのクレジット情報の写し込み
(著作権情報、画像コメント、任意テキスト、ロゴなどから最大2種類)



- カメラの日時・位置情報の自動更新



- ファームウェア更新案内の受け取り



お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探するときにご活用ください。



カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。



カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。



使用説明書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- XQD メモリーカードを「XQDカード」と表記し、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードを「SDカード」と表記しています。説明が「XQDカード」と「SDカード」で共通の場合は「メモリーカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- この使用説明書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。

メニューガイドについて

このカメラには、メニューの詳細やパソコン、プリンター、テレビとの接続などが記載されたPDF形式のメニューガイドが当社のホームページに用意されています。ダウンロードの方法は次の通りです。

- 1 Webブラウザで下記のホームページにアクセスする
<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>
 - 2 機種を選んで、PDFファイルをダウンロードする
- メニューガイドをご覧いただくためには、Adobe Reader または Adobe Acrobat Readerが必要です。



「Nikon Manual Viewer 2」アプリ

ニコンデジタルカメラの説明書をスマートフォンやタブレットで見ることができるアプリです。App StoreまたはGoogle Playでダウンロードできます（無料）。

* アプリおよび使用説明書をダウンロードするには、インターネットに接続できる環境が必要です（通信料が発生します）。

安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは  xiii～xviii をご覧ください。

カメラと付属品を確認する

お使いになる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。万一、付属品がそろっていない場合は、ご購入店にご連絡ください。



- ボディーキャップ
BF-1B (□17、324)

- D500カメラ本体 (□1)



- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15
(端子カバー付) (□12、14)



- バッテリーチャージャー MH-25a
(電源プラグ (直付け型) 付) (□12)



- USBケーブルクリップ



- HDMIケーブルクリップ

- USBケーブルUC-E22

- 保証書

- ストラップAN-DC17 (□12)

- 使用説明書 (本書)

- レンズキットの場合はレンズも付属しています。
- メモリーカードは別売です。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。

ニコンソフトウェアViewNX-iとCapture NX-Dについて

ViewNX-iはカメラで撮影した画像の転送や閲覧・調整が、Capture NX-Dは画像の調整やRAW現像ができるニコンのソフトウェアです。下記のホームページでソフトウェアの最新情報や動作環境をご確認の上、ダウンロードしてください。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

目次

カメラと付属品を確認する.....	iv
安全上のご注意.....	xiii
ご確認ください.....	xix
Wi-Fi（無線 LAN）機能 /Bluetooth 機能に ついて.....	xxii

お使いになる前に **1**

各部の名称と機能.....	1
カメラ本体.....	1
表示パネル.....	5
ファインダー.....	6
チルト式画像モニター.....	8
タッチパネル.....	10

撮影前の準備 **12**

ストラップを取り付ける.....	12
バッテリーを充電する.....	12
カメラにバッテリーとメモリーカードを入れる.....	14
レンズを取り付ける.....	17
電源を ON にして、カメラをセットアップする.....	19
ファインダーを見やすくする.....	26

基本操作 **27**

メニューの操作方法.....	27
メニュー項目の設定.....	28
撮影と再生の基本操作.....	31
バッテリーとメモリーカードの残量を確認する.....	31
かんたんに静止画を撮影する.....	34
撮影した画像を確認する.....	36

ライブビュー撮影

39

オートフォーカスで撮影する	42
AF モードを変更する	42
AF エリアモードを変更する	43
マニュアルフォーカスで撮影する	45
i ボタンを使う	46
情報表示について	49
表示を切り換える	50
タッチシャッターで静止画を撮影する	51

動画撮影と再生

54

動画を撮影する	54
インデックスマーキングについて	56
i ボタンを使う	57
情報表示について	59
[画像サイズ / フレームレート] および [動画の画質] について	61
表示を切り換える	62
動画撮影時の画角について	63
動画撮影時の静止画撮影	64
静止画をつないで動画にする (微速度撮影)	68
動画の再生	74
動画の編集	77
動画の必要な部分を残す	77
動画の 1 フレームを JPEG 画像として保存する	81

画像の記録

82

撮像範囲を変更する	82
画質モードを変更する	85
画像サイズを変更する	88
2 枚のメモリーカードに記録する (主スロットの選択、 副スロットの機能)	90

フォーカス 91

オートフォーカスで撮影する.....	91
AF モードを変更する.....	95
AF エリアモードを変更する.....	97
フォーカスポイントを自分で選ぶ.....	102
ピントを固定して撮影する (フォーカスロック).....	105
マニュアルフォーカスで撮影する.....	108

レリーズモード 110

1 コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、レリーズモードを 変更する.....	110
セルフタイマーを使って撮影する (☺).....	113
ミラーアップして撮影する (MUP).....	115

ISO 感度 116

ISO 感度を変更する.....	116
感度自動制御機能を使う.....	118

測光・露出 121

測光モードを設定する.....	121
シャッタースピードや絞り値で露出を設定する (露出モード).....	123
P (プログラムオート).....	124
S (シャッター優先オート).....	125
A (絞り優先オート).....	126
M (マニュアル).....	128
長時間露出で撮影する (露出モード M のみ).....	130
シャッタースピードと絞り値をロックする.....	133
AE ロックして露出を固定する.....	135
露出補正して画像の明るさを調整する.....	137
オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、 アクティブ D- ライティングを変えながら撮影する.....	140

ホワイトバランス

151

ホワイトバランスを変更する	151
ホワイトバランスを微調整する	154
色温度設定で色温度を指定する	157
プリセットマニュアルで基準となる白を設定する	159
ファインダー撮影時にプリセットマニュアル データを新規取得する	160
ライブビュー時にスポットホワイトバランスでプリ セットマニュアルデータを取得する	164
プリセットマニュアルデータを管理する	168

画像処理

171

ピクチャーコントロールを使って画像の仕上がりを 簡単に設定したり、思い通りに調整する	171
ピクチャーコントロールを選ぶ	171
ピクチャーコントロールを調整する	173
カスタムピクチャーコントロールを登録する	176
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する	180
アクティブ D-ライティングで撮影する	180
HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う	182

別売スピードライトをカメラに装着して撮影する	187
カメラに装着したスピードライトの発光モードを 設定する	190
フラッシュモードを設定する	192
フラッシュモードを切り換える	193
調光補正してフラッシュの発光量を変更する	194
FV ロックして調光量を固定する	196
複数のスピードライトを同時に発光させる (ワイヤレス増灯撮影)	199
ワイヤレス増灯撮影の準備をする	200
ワイヤレス増灯撮影を行う	205
スピードライトの設定を確認する	214
各発光モードの表示について	214

 ボタンを使う	218
 ボタンを使う	221
ツーボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す	222
フリッカー低減機能を使う	225
多重露出撮影で1つの画像に重ねて写し込む	227
設定した間隔で撮影する (インターバルタイマー撮影)	232
非 CPU レンズを使う (レンズ情報手動設定)	239
GPS 機器で取得した位置情報を画像に記録する	242

画像を再生する.....	245
1 コマ表示モード.....	245
サムネイル表示モード.....	245
画像再生時のボタン操作.....	246
再生時にタッチパネルでできること.....	248
<i>i</i> ボタンを使う.....	250
画像情報を表示する.....	251
画像を拡大表示する.....	261
プロテクトで画像を削除できないように保護をする.....	263
画像にレーティングを設定する.....	264
スマートフォンに取り込みたい画像をカメラで 送信指定する.....	265
表示中の画像を送信指定する.....	265
複数の画像をまとめて送信指定する.....	266
画像を削除する.....	267

再生メニュー.....	270
静止画撮影メニュー.....	272
動画撮影メニュー.....	277
カスタムメニュー.....	281
セットアップメニュー.....	292
画像編集メニュー.....	301
マイメニュー / 最近設定した項目.....	303
画像編集メニューの詳細.....	304
RAW 現像 (パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する).....	304
トリミング.....	306
画像合成.....	307

使用できるレンズ.....	310
ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) に ついて	317
使用できるアクセサリ	324
カメラのお手入れについて.....	326
保管について.....	326
クリーニングについて.....	326
撮像素子のお手入れについて	327
撮像素子前面をブローアースで掃除する.....	329
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意.....	333
チャージャーの使用上のご注意.....	338
故障かな?と思ったら	339
警告メッセージ.....	347
主な仕様.....	356
AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VR について ..	366
使用できるメモリーカード.....	375
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数.....	376
撮影可能コマ数 (電池寿命) について.....	379
索引.....	381
修理サービスのご案内.....	388
ニコンプラザについて	389

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。表示と意味は、次のようになっています。



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

警告 (カメラとレンズについて)



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと
感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと
感電したり、破損部でケガをする原因となります。



すぐに修理依頼を

電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



電池を取る

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと



すぐに修理依頼を

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。
電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらさない
感電や発火などの事故や故障の原因になります。



使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと
失明や視力障害の原因となります。



発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと
事故の原因となります。



発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しない
視力障害の原因になります。
撮影時には、1m以上離れてください。
特に乳幼児の撮影には注意してください。



保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届くところに置かない
幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。



警告

ストラップが首に巻き付かないようにする
特に幼児・児童の首にストラップをかけない
首に巻き付くと窒息の原因になります。



使用禁止

ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

警告 (カメラとレンズについて)



警告

指定の電源 (電池、ACアダプター) を使う
指定以外のものを使用すると、事故や故障の原因になります。

注意 (カメラとレンズについて)



感電注意

ぬれた手でさわらない
感電の原因になることがあります。



使用注意

カメラの電源がONの状態、長時間直接触れないこと
使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



保管注意

製品は幼児の手の届くところに置かない
ケガの原因になることがあります。



使用注意

逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらすこと
太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。



保管注意

使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること
太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。



移動注意

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと
転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。



使用注意

航空機内での使用については、航空会社の指示に従う
病院内での使用については、病院の指示に従う



電池を取る

長期間使用しないときは電源 (電池やACアダプター) を外すこと
電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。



プラグを抜く

ACアダプターをご使用の際は、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと
熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

注意 (カメラとレンズについて)



放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない
故障や火災の原因になることがあります。

危険 (専用リチウムイオン充電機について)



禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



分解禁止

電池を分解しない
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

電池、または電池を入れたカメラに強い衝撃を与えたり、投げたりしない
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になることがあります。



危険

専用の充電器を使用すること
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管したりしない
ショートして液もれ、発熱、破裂、発火の原因になりますので、端子カバーをつけて絶縁してください。



使用禁止

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15は、D500に対応しています。EN-EL15に対応していない機器には使用しないこと
液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと
液もれ、発熱、発火の原因となります。

警告 (専用リチウムイオン充電機について)



警告

電池からもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること
そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。



保管注意

電池は、幼児の手の届くところに置かない
幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告 (専用リチウムイオン充電機について)



変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱・破裂、発火の原因になります。



充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときには、充電をやめること

液もれ、発熱・破裂、発火の原因になります。



電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはビニールテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

注意 (専用リチウムイオン充電機について)



電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。



充電中の電池に長時間直接触れないこと

充電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

警告 (チャージャーについて)



分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。



電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

警告 (チャージャーについて)



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらさない
感電や発火などの事故や故障の原因になります。



使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使わない
プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること
そのまま使用すると火災の原因になります。



使用禁止

雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと
感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



感電注意

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと
感電の原因になることがあります。



禁止

チャージャーを海外旅行者用電子式変圧器(トラベルコンバーター)やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと
発熱、故障、火災の原因となります。

注意 (チャージャーについて)



感電注意

ぬれた手でさわらない
感電の原因になることがあります。



使用注意

通電中のチャージャーに長時間直接接触しないこと
通電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



放置注意

製品は幼児の手の届くところに置かない
ケガの原因になることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと
熱がこもりケースが変形し、火災の原因となる場合があります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないこととなります。お受け取りにならなかった場合は、直ちに購入店にご請求ください。

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

<http://www.nikon-image.com/support/>

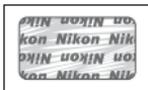
●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリ（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15 には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの十分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。



●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権について

カメラで著作物を撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、個人として楽しむなどの目的であっても、実演や興行、展示物などは、撮影や録音が制限されている場合がありますのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やケガなどに充分ご注意ください。

本製品を譲渡/廃棄する際は、使用者によって本製品内に登録または設定された、無線LAN接続設定などの個人情報を含む内容を、カメラのセットアップメニュー【カメラの初期化】を行って削除してください。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

●AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

- (i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
- (ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

<http://www.mpegla.com> をご参照ください。

☑ アクセサリーについてのご注意

このカメラには、当社製のアクセサリをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリ使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリについての最新情報は、最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください（□xix）。

Wi-Fi (無線LAN) 機能/Bluetooth機能について

●電波に係わるご注意

- 本製品はWi-Fi (無線LAN) およびBluetooth機能を搭載しています。国や地域によって、法律によりWi-Fi (無線LAN) およびBluetooth機能が使用できない場合があります。ご購入された国以外での使用については、本書の裏表紙に記載のニコンカスタマーサポートセンターへお問い合わせください。
- 本製品のWi-Fi (無線LAN) およびBluetoothの無線機能は、2.4 GHz 帯の周波数を使用します。

2.4 DS1/OF1

Wi-Fi (無線LAN) 機能：2.4DS1/OF1

本製品の使用周波数は2.4 GHz 帯、変調方式はDS-SS、OFDM、与干渉距離は約10mです。

2.4 FH2/XX2

Bluetooth機能：2.4FH2/XX2

本製品の使用周波数は2.4 GHz帯、変調方式はFH-SS、その他の方式、与干渉距離は約20mです。

- 本製品は、「電波法」に基づく技術基準適合認証を受けた無線設備を内蔵し、証明ラベルは無線設備上に表示しています。

以下の行為は法令で罰せられることがあります。

- 本製品の分解/改造
- 本製品から証明ラベルをはがす
- 本製品の使用周波数帯は、以下の機器や無線設備と同じです。
 - 電子レンジなどの産業・科学・医療用機器
 - 工場の製造ライン等の移動体識別用の
 - ① 構内無線局 (免許を要する無線局)
 - ② 特定小電力無線局 (免許を要しない無線局)
 - アマチュア無線局 (免許を要する無線局)

これらの無線設備の近くでは、電波干渉で通信速度の低下、通信距離の短縮、通信の途絶が双方に生じることがあります。

- 本製品で電波干渉を起こさないよう、以下にご注意ください。
 - 使用周波数帯が同じ無線設備が近くにないか、事前に確認する
 - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に電波干渉を生じたら、Wi-Fiアクセスポイントのチャンネル番号を変更して使用周波数を変える
- その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書の裏表紙に記載されているニコンカスタマーサポートセンターへお問い合わせください。

- データの送受信は、第三者に傍受される危険性にご留意ください。
データ送受信による情報漏洩には、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品は、電子レンジなどの電気製品、AV機器、OA機器などの電磁波や磁気の発生源の周辺で使わないでください。
 - 雑音が増大したり、通信が途絶したりします。
 - AV機器、OA機器などの受信障害の原因になります。

●本製品の使用上のご注意

本製品は、Wi-Fi（無線LAN）およびBluetooth機器としてお使いください。

Wi-FiおよびBluetooth機器以外としての使用による損害は、当社では一切の責任を負いません。

- 医療機器や人命に直接的または間接的に係わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使わないでください。
- Wi-Fi および Bluetooth 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途では、使用システムの安全設計や故障に対する適切な処置をしてください。

●セキュリティについて

- 本製品は電波を利用して情報を交換するため、電波の届く範囲で自由に無線接続が可能であるという利点がありますが、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。
 - 情報の漏洩：悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、IDやパスワードなどの個人情報漏洩する可能性があります。
 - 不正アクセス：悪意ある第三者が無断でネットワークにアクセスして、なりすまし、情報の改ざんなどの行為を行う可能性があります。また、本製品にセキュリティを設定したにもかかわらず、Wi-FiおよびBluetoothの仕様上、特殊な方法によりセキュリティが破られることもありますので、ご理解の上で使用ください。
- スマートフォンに使用権限のないネットワークが表示されても、接続しないでください。接続すると、不正アクセスとみなされるおそれがあります。使用権限のあるネットワークだけをお使いください。

●本製品の輸出、持ち出しに係るご注意

本製品は米国輸出管理規則 Export Administration Regulations (EAR) を含む米国法の対象です。EAR の輸出規制国（キューバ、イラン、北朝鮮、スーダン、シリア：変更される可能性があります）以外への輸出や持ち出しは、米国政府の許可は不要です。

●個人情報の管理および免責事項

- 使用者によって本製品内に登録または設定された、Wi-Fi（無線 LAN）接続設定等の個人情報を含む情報は、誤操作、静電気の影響、事故、故障、修理、その他の取り扱いで変化、消失する場合があります。

必要な内容は、お客様の責任において控えを必ずおとりください。

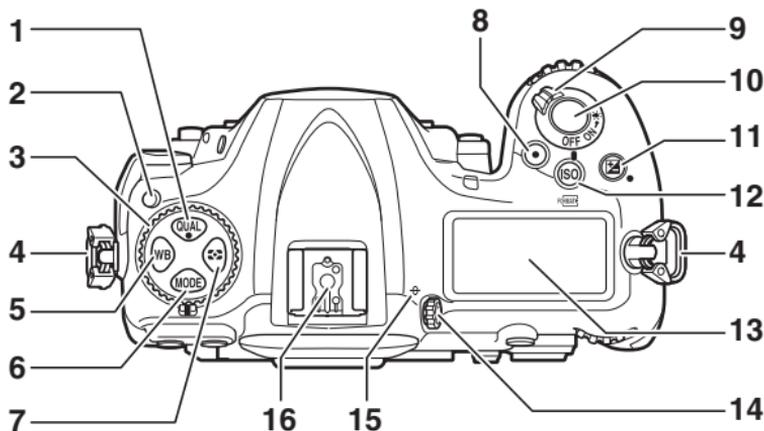
当社の責によらない内容の変化、消失、それらに起因する直接または間接の損害および逸失利益には、当社は一切の責任を負いません。

- 本製品を譲渡 / 廃棄するときは、使用者によって本製品内に登録または設定された、Wi-Fi接続設定等の個人情報を含む内容を、セットアップメニュー [**カメラの初期化**] で工場出荷時の設定にリセットしてください（□□297）。
- 本製品の盗難や紛失などで、第三者による不正使用の被害が発生しても、当社は一切の責任を負いません。

お使いになる前に

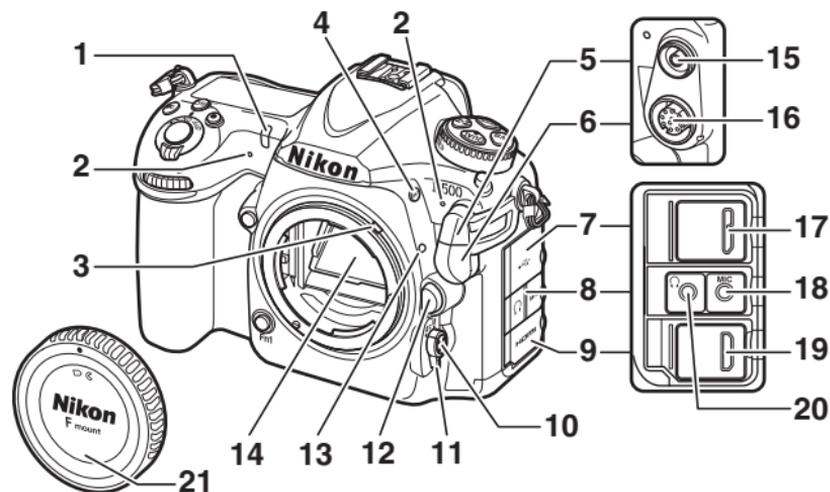
各部の名称と機能

カメラ本体



1	QUAL ボタン86、89、222	9	電源スイッチ3、14、19
2	レリーズモードダイヤル ロックボタン110	10	シャッターボタン35、291
3	レリーズモードダイヤル110	11	☑ ボタン137、222
4	ストラップ取り付け部 (吊り金具)12	12	ISO (FORMATT) ボタン116、120
5	WB ボタン152、155、158	13	表示パネル5
6	MODE ボタン123	14	視度調節ノブ26
7	☑ ボタン122	15	∅ 距離基準マーク109
8	動画撮影ボタン55、289	16	フラッシュ取り付け部 (アクセサリースュー)187

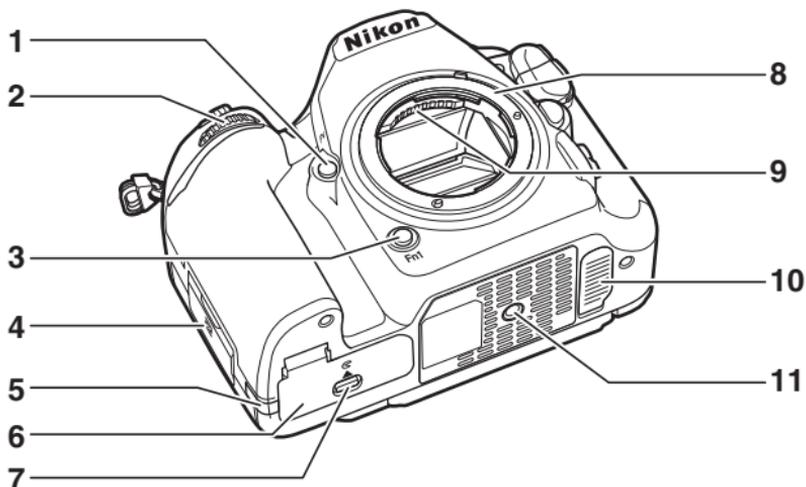
カメラ本体 (つづき)



1	セルフタイマーランプ113	11	フォーカスモードセレクター42、91、108
2	マイク (ステレオ)55、57、279	12	レンズ取り外しボタン18
3	露出計連動レバー359	13	レンズ着脱指標17
4	BKT ボタン141、145、148、289	14	ミラー115、329
5	シンクローターミナルカバー188	15	シンクローターミナル188
6	10ピンターミナルカバー242、325	16	10ピンターミナル242、325
7	USB端子カバー	17	USB端子
8	ヘッドホン/マイク端子カバー58、60、66	18	外部マイク入力端子66、325、362
9	HDMI端子カバー294、324	19	HDMI端子294、324
10	AFモードボタン42、44、95、99	20	ヘッドホン出力端子58、362
		21	ボディーキャップ17、324

端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。



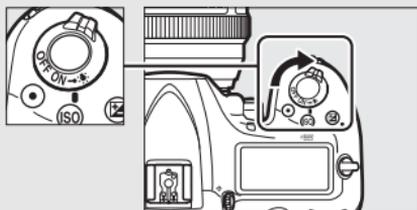
1	Pvボタン41、127、289、291	7	バッテリー室開閉ノブ 14
2	サブコマンドダイヤル290	8	レンズマウント17、109
3	Fn1ボタン289、291	9	レンズ信号接点
4	Nマーク (NFCアンテナ部)20	10	MB-D17用接点カバー324
5	パワーコネクターカバー	11	三脚ネジ穴
6	バッテリー室カバー14		

表示パネルの照明 (イルミネーター) について

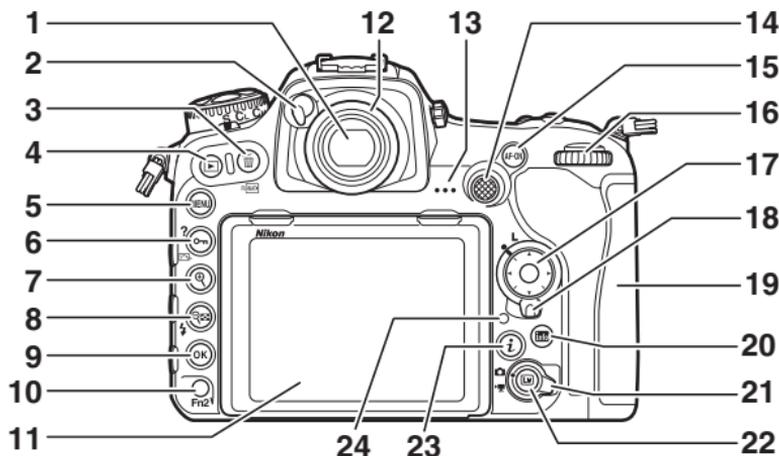
電源スイッチを☼マークの方向に回すと、表示パネルとボタンのイルミネーター (照明) が点灯し、電源スイッチを放すと、数秒間点灯し続けます。ただし、シャッターをきるか、もう一度☼マークの方向に回すと消灯します。

- ボタン照明が点灯すると、暗い場所で操作しやすくなります。

電源スイッチ



カメラ本体 (つづき)



1	ファインダー接眼窓	26	13	スピーカー	75
2	アイピースシャッターレバー	113	14	サブセレクター	103、105、135、289、291
3	⌫ (FORMAT) ボタン	37、267、292	15	AF-ON ボタン	96、106、289
4	▶ ボタン	36、245	16	メインコマンドダイヤル	290
5	MENU ボタン	27、270	17	マルチセレクター	28、38、246
6	ⓘ (i/?) ボタン	28、48、172、263	18	フォーカスポイント ロックレバー	102
7	⏏ ボタン	41、45、48、75、261	19	メモリーカードカバー	14
8	⏏ (⚡) ボタン	41、48、75、 193、194、245、246、261	20	info ボタン	218
9	Ⓞ OK ボタン	28	21	ライブビューセレクター	39、54
10	Fn2 ボタン		22	LV ボタン	39、54、290
11	チルト式画像モニター	8、36、 39、54、245、292、293	23	i ボタン	46、57、221、250
12	アイピース	113	24	メモリーカードアクセス ランプ	16、35、112

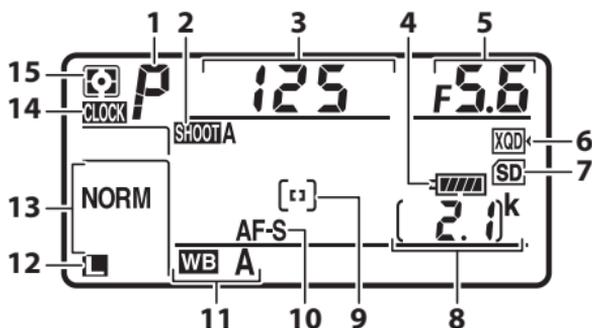
☑ スピーカーについての注意

スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。

表示パネル

カメラの電源をONにすると、表示パネルが点灯します。表示パネルにはカメラの設定に関するさまざまな情報が表示されます。

初めて電源をONにしたときは、次の情報が表示されます。その他の情報については、本文中の各機能で説明しています。

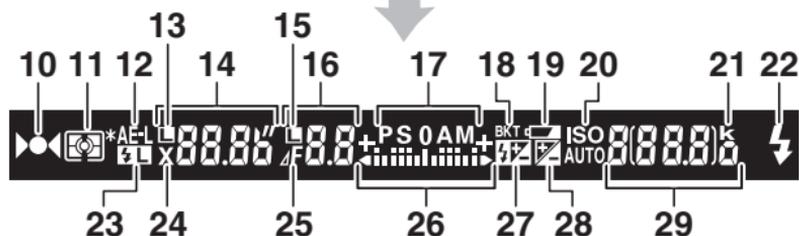
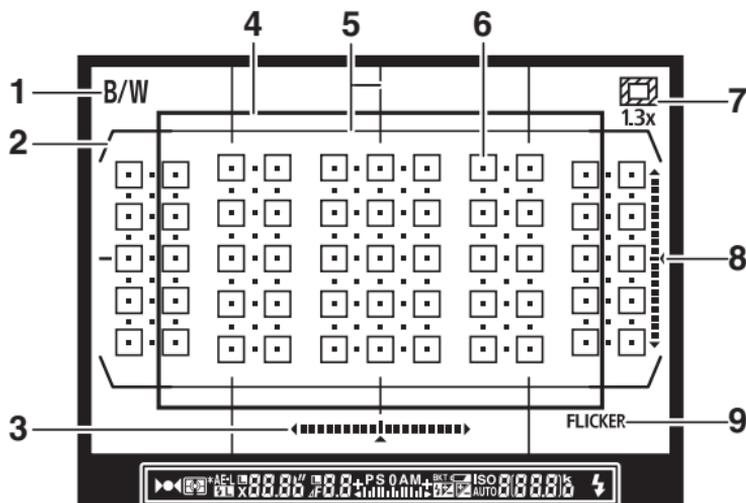


1	露出モード	123	8	記録可能コマ数	32、376
2	静止画撮影メニュー設定表示	272	9	AFエリアモードマーク ..	97、100
3	シャッタースピード	125、128	10	AFモードマーク	95
4	バッテリー残量表示	31	11	ホワイトバランスモード	151
5	絞り値	126、128	12	画像サイズ (JPEG/TIFF)	88
6	XQDカードマーク	32、292	13	画質モード	85
7	SDカードマーク	32、292	14	CLOCK マーク	
			15	測光モード	121

CLOCK マークについて

表示パネルで **CLOCK** が点滅している場合、カメラの内蔵時計が初期化されています。その場合は撮影日時が正しく記録されないため、セットアップメニュー **[地域と日時]** (□292) の **[日時の設定]** で日時設定をしてください。カメラの内蔵時計は、バッテリーとは別の時計用電池で作動します。カメラにバッテリーを入れるか、別売のパワーコネクタとACアダプターを接続すると、時計用電池が充電されます。フル充電するには約2日間かかります。充電すると、約3カ月の間時計を動かすことができます。

ファインダー (説明のため、全ての表示を点灯させています)



1	白黒マーク171	9	フリッカー検出225、276
2	AFエリアフレーム26	10	ピント表示35、109
3	ローリング方向の水準器*1、2293	11	測光モード121
4	対DX 1.3×クロップ撮像範囲	...83	12	AEロックマーク135
5	構図用格子線286	13	シャッタースピード133
6	フォーカスポイント表示34、102、282、283	14	ロックマーク133
7	対DX 1.3×クロップマーク83	15	シャッタースピード125、128
8	ピッチング方向の水準器*1、3293	16	AFモード95
			17	絞り値ロックマーク133
			18	絞り値126、128
			19	絞り込み段数126、313
			20	露出モード123
			21		
			22		
			23		
			24		
			25		
			26		
			27		
			28		
			29		

18	オートブラケティング マーク 141	27	調光補正マーク 194
	WBブラケティングマーク 145	28	露出補正マーク 138
	ADLブラケティングマーク 148	29	記録可能コマ数 32、376
19	バッテリー警告表示 31		連続撮影可能コマ数 111、376
20	ISO感度マーク 116		ISO感度 116
	感度自動制御設定マーク 119		ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得モード 表示 161
21	1000コマ以上補助表示 32		アクティブD-ライティング度合い 表示
22	レディーライト※4 187、197、360		AFエリアモード 99
23	FVロックマーク 197		露出補正值 138
24	フラッシュシンクロマーク 287		調光補正量 194
25	絞り込み段数マーク 126、313		PC接続中マーク
26	インジケータ 露出 129		
	露出補正 138		

※1 カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (□289) で、[ファインダー内水準器] を割り当てたボタンを押したときに水準器インジケータを表示します。

※2 カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ピッチング方向の水準器になります。

※3 カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ローリング方向の水準器になります。

※4 別売のスピードライト (□317) 使用時のみ点灯します。スピードライトの充電が完了してフラッシュ撮影できることを示します。

✓ ファインダーについてのご注意

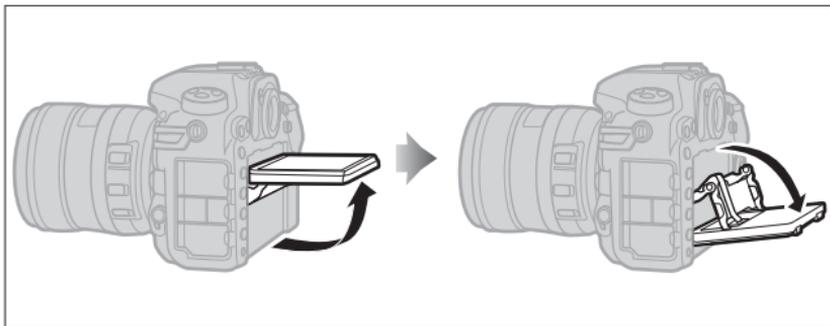
カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

✓ 高温、低温下での液晶表示について

表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

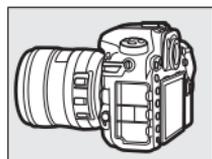
チルト式画像モニター

このカメラの画像モニターは、角度を変えて使えます。



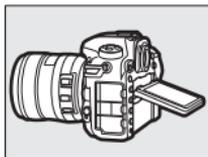
通常の撮影

通常の撮影では、画像モニターを収納している状態でお使いください。



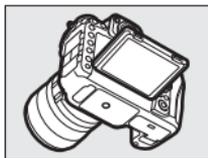
ローアングル撮影

ライブビュー撮影時にモニター画面を上に向けると、カメラを低い位置に構えて撮影できます。



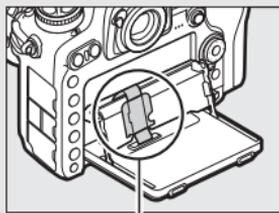
ハイアングル撮影

ライブビュー撮影時にモニター画面を下に向けると、カメラを高い位置に構えて撮影できます。



✔ チルト式画像モニター取り扱い上のご注意

- 画像モニターの角度を変える場合は、可動範囲内でゆっくりと動かしてください。無理な力がかかると、カメラ本体や画像モニターの破損の原因となります。
- 画像モニターの内側には触れないでください。故障の原因となります。
- 画像モニターの内側に水などの液体がかからないようにご注意ください。故障の原因となります。
- 撮影時以外は、画像モニターをカメラ本体に収納することをおすすめします。
- 画像モニター部分を掴んで、カメラを持ち上げたりしないでください。カメラが破損することがあります。
- 三脚使用时には、画像モニターが三脚に接触しないように注意しながら角度を変えてください。



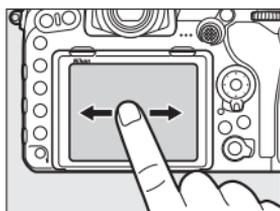
特にこの部分には
触れないでください。

タッチパネル

このカメラの画像モニターはタッチパネルになっており、指で画面にタッチして操作できます。操作方法は次の通りです。

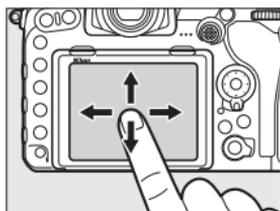
フリック

タッチパネルを指で左右に払う操作です。



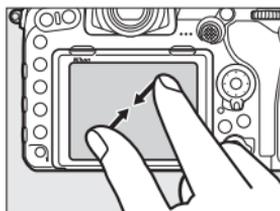
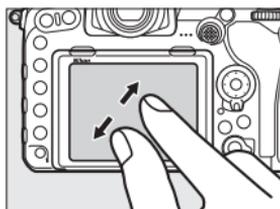
スライド

タッチパネルに触れたまま指を上下左右に動かす操作です。



広げる/つまむ

タッチパネルに2本の指に触れたまま、指の間隔を広げたり、つまむように狭めたりする操作です。



■ タッチ操作でできること

再生時 (□248)

- 前後の画像を表示する
- 静止画を拡大/縮小表示する
- サムネイル表示する
- 動画を再生する

ライブビュー撮影時

- タッチシャッターで静止画を撮影する (□51)
- スポットホワイトバランスでプリセットマニュアルデータを取得する (□164)

その他

- 文字を入力する (□177)

✔ タッチパネルについてのご注意

- このカメラのタッチパネルは静電式です。爪でタッチしたり、手袋などをはめたままタッチしたりすると反応しないことがあります。
- 先のとがった硬い物で押さないでください。
- タッチパネルを必要以上に強く押したり、こすったりしないでください。
- 市販の保護フィルムを貼ると反応しないことがあります。

✔ タッチパネル操作時のご注意

- タッチパネルに指が触れたまま、別の指でタッチすると、適切に動作しないことがあります。
- スライド/広げる/つまむ操作時に次の操作をすると、適切に動作しないことがあります。
 - タッチパネルをはじく
 - 指を動かす距離が短すぎる
 - タッチパネルを軽くなでるように指を動かす
 - 指を動かす速度が速すぎる
 - 広げるとき/つまむときに、2本の指のタイミングの差が大きい

✍ タッチ操作の有効/無効について

セットアップメニュー [タッチ操作] (□294) で、タッチ操作の有効/無効を切り換えられます。

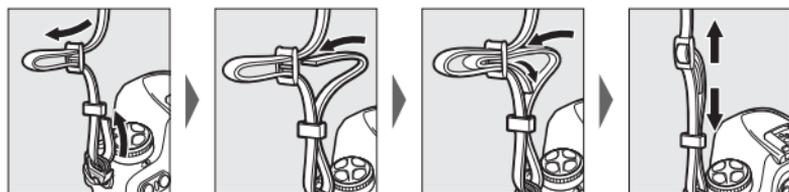
✍ 関連ページ

次の画像を表示するときフリックの方向を変更する → 📄 [タッチ操作] (□294)

撮影前の準備

ストラップを取り付ける

ストラップの取り付け手順は次の通りです。

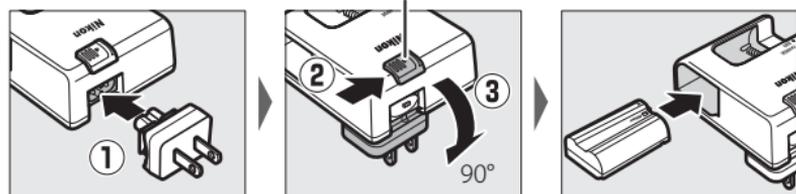


バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL15は、お使いになる前に付属のバッテリーチャージャーMH-25aでフル充電してください。

- 電源プラグ（直付け型）を取り付けた後（①）、電源プラグ（直付け型）回転ロックを矢印の方向にスライドさせながら（②）、電源プラグ（直付け型）を90°回転させ、しっかりと固定させます（③）。

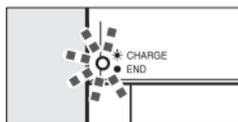
電源プラグ（直付け型）
回転ロック



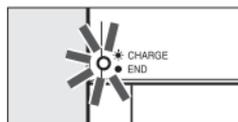
☑ バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」（□xiii～xviii）、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」（□333～338）をお読みになり、記載事項をお守りください。

- フル充電するには約2時間35分かかります（残量の少ないバッテリーの場合）。



充電中
(点滅)



充電完了
(点灯)

✓ チャージャーの「CHARGE」ランプが速く（1秒間に8回）点滅する場合

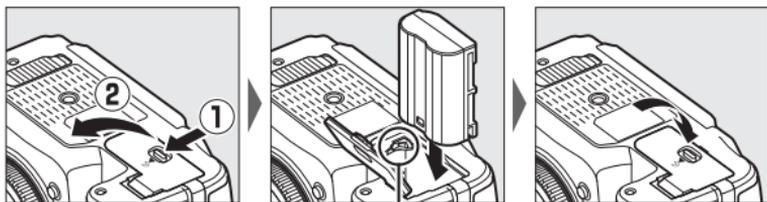
- バッテリーのセットミス：電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、チャージャーにセットし直してください。
- 指定温度外での使用：チャージャーを指定温度範囲内（0℃～40℃）でお使いください。
- 上記の処置をしても不具合が続く場合は、直ちに電源プラグをコンセントから抜いて、充電を中止してください。販売店またはニコンサービス機関にチャージャーおよびバッテリーをお持ちください。

✓ 付属の電源プラグ（直付け型）についてのご注意

付属の電源プラグ（直付け型）は、バッテリーチャージャー MH-25a以外の機器に接続しないでください。この電源プラグ（直付け型）は、日本国内専用（AC 100V 対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）<http://shop.nikon-image.com/>でもお求めいただけます。

カメラにバッテリーとメモリーカードを入れる

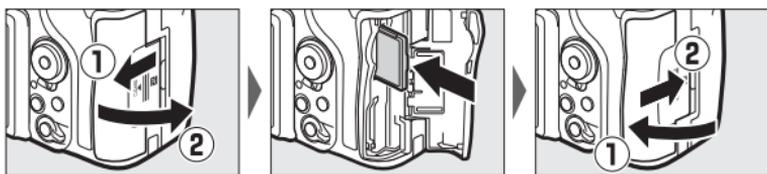
- バッテリーやメモリーカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源スイッチがOFFの位置にあることを確認してください。
- バッテリーとメモリーカードは、図のように正しい向きで入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをバッテリー側面で押しながら、バッテリーを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがバッテリーに掛かって固定されます。



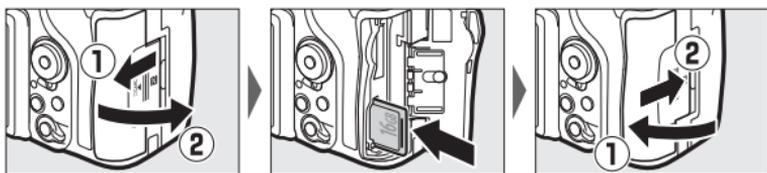
バッテリーロックレバー

- メモリーカードは、カチッと音がするまで挿入してください。

- XQDカードの場合 :



- SDカードの場合 :

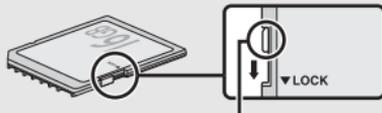


✓ メモリーカード取り扱い上のご注意

- カメラの使用後はメモリーカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- メモリーカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やメモリーカードの故障の原因となります。
 - メモリーカードの着脱をしないでください
 - カメラの電源をOFFにしないでください
 - バッテリーを取り出さないでください
 - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- メモリーカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

🔪 SDカードの書き込み禁止スイッチについて

- SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「LOCK」の位置にすると、データの書き込みや削除が禁止され、カード内の画像を保護できます。

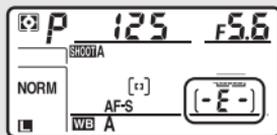


書き込み禁止スイッチ

- 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとすると、警告メッセージが表示され、撮影できません。撮影時や、画像を削除するときは「LOCK」を解除してください。

🔪 メモリーカードが入っていないときの表示について

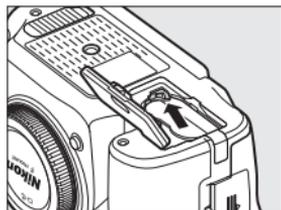
メモリーカードが入っていないときは、表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に[-E-]マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、表示パネルの[-E-]マークは点灯します。



■■ バッテリーとメモリーカードの取り出し方

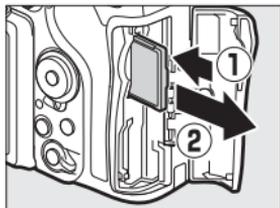
バッテリーを取り出すには

電源をOFFにしてからバッテリー室カバーを開けてください。バッテリーロックレバーを矢印の方向に押し、バッテリーが少し飛び出します。引き抜いて取り出してください。

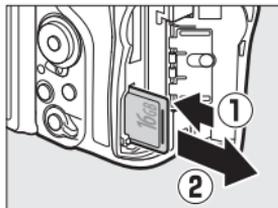


メモリーカードを取り出すには

メモリーカードアクセスランプの消灯を確認し、電源をOFFにしてからメモリーカードカバーを開けてください。メモリーカードを奥に押し込んで放すと (①)、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください (②)。



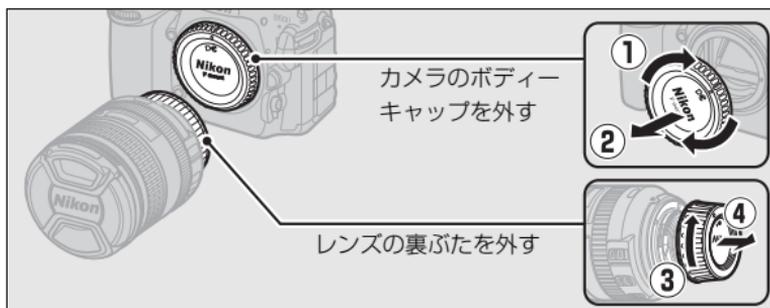
XQDカードの場合



SDカードの場合

レンズを取り付ける

- この使用説明書では、主にAF-S DX NIKKOR 16–80mm f/2.8–4E ED VRのレンズを使用して説明しています。
- ほこりなどがカメラ内部に入らないように注意してください。

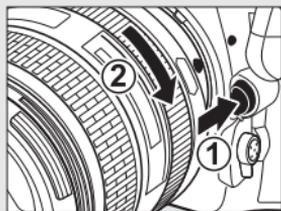


- 撮影する前に、レンズキャップを取り外してください。

レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら (①)、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し (②)、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。



絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズ (□313) を取り付ける場合は、最小絞り (最大値) にして、ロックしてください。

電源をONにして、カメラをセットアップする

■ スマートフォンまたはタブレットを使ってセットアップする場合

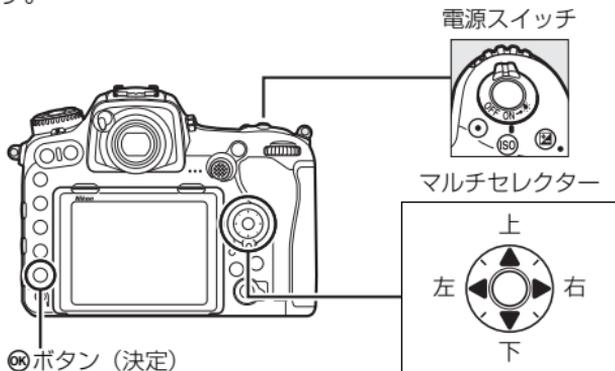
- スマートフォンまたはタブレット（ここでは「スマートフォン」を使って説明します）にあらかじめSnapBridgeアプリをインストールしてください。SnapBridgeアプリのダウンロードについては、表紙の裏ページにあるSnapBridgeの紹介ページをご覧ください。
- スマートフォンのBluetoothとWi-Fiの設定を有効にしてください。カメラとの接続はSnapBridgeアプリを使って行います。スマートフォンのBluetooth設定画面からは接続できません。
- 途中で電源が切れないよう、十分に残量のある電池をお使いください。
- 残量のあるメモリーカードをカメラに入れてください。
- カメラおよびスマートフォンの画面は、実際の画面と異なる場合があります。
- ここでは、SnapBridgeアプリバージョン2.0を使って説明しています。
- 最新の接続方法は「SnapBridge接続ガイド」(PDF形式)をダウンロードセンターからダウンロードしてご覧ください。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com>



1 カメラ：電源をONにする

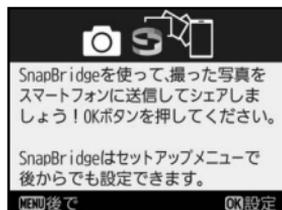
- 設定項目の変更や決定にはマルチセレクターおよびOKボタンを使います。



2 カメラ：右の画面が表示されたら、

OKボタンを押す

- スマートフォンを使わずにカメラをセットアップする場合は、**MENU**ボタンを押します (□24)。
- 右の画面が表示されない場合は、セットアップメニューの「スマートフォンと接続」で「開始」を選んで**OK**ボタンを押してください。



3 カメラ/スマートフォン：ペアリングを開始する

- カメラとスマートフォンをBluetoothで接続する設定のことを、ここではペアリングと言います。

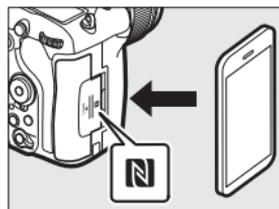
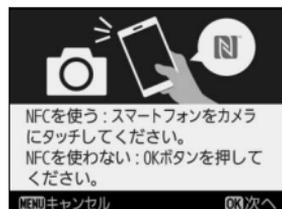
NFC対応のAndroidの場合：

カメラのN (Nマーク) にスマートフォンのNFCアンテナ部をタッチすると、SnapBridgeアプリが起動します。SnapBridgeアプリが起動したら画面に従って操作し、手順7にお進みください。

- スマートフォンのNFC設定を、あらかじめONにしてください。
- スマートフォンの画面にSnapBridgeアプリのダウンロードサイトが表示された場合は、インストール後に操作をやり直してください。

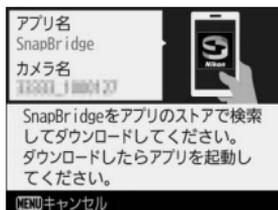
iOSまたはNFC非対応のAndroidの場合：

カメラの**OK**ボタンを押して接続待機状態にします。



4 カメラ：右の画面が表示されていることを確認する

- スマートフォンを用意して次の手順に進んでください。



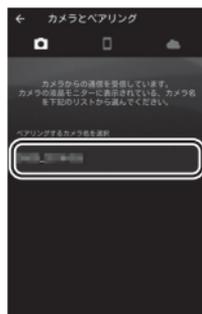
5 スマートフォン：SnapBridgeアプリを起動し、[カメラとペアリング]をタップする

- カメラを選択する画面が表示された場合は、接続するカメラを選んでタップしてください。



6 スマートフォン：[カメラとペアリング]画面でカメラ名をタップする

- iOSの場合は、はじめて接続するときに手順説明の画面が表示されます。内容を確認して[確認しました]をタップします（表示されていない場合は、画面を下にスクロールしてください）。アクセサリを選択する画面が表示されたら、再度カメラ名をタップします（カメラ名の表示に時間がかかることがあります）。



7 カメラ/スマートフォン：カメラとスマートフォンに同じ番号（6桁）が表示されていることを確認する

- iOSの場合、OSのバージョンによってはスマートフォンに番号が表示されないことがあります。その場合は手順8へお進みください。



8 カメラ/スマートフォン：カメラのOKボタンとSnapBridgeアプリの【ペア設定する】を押す

- ご使用のスマートフォンの機種やOSのバージョンによっては、表示が異なる場合があります。



9 カメラ/スマートフォン：接続設定を完了する

- **カメラ**：右の画面が表示されたら、**OK** ボタンを押してください。



- **スマートフォン**：右の画面が表示されたら、**[OK]** をタップしてください。



10 カメラ：画面の指示に従ってセットアップを完了する

- **[位置情報をスマートフォンから取得しますか?]** で **[する]** を選ぶと、撮影画像に位置情報を記録できます。スマートフォン本体の位置情報機能を有効にし、SnapBridgeアプリの  タブで **[自動連携設定]** → **[位置情報を同期]** を有効にしてください。
- **[日時をスマートフォンと同期させますか?]** で **[する]** を選ぶと、カメラの内蔵時計の設定をスマートフォンの日時設定と同期させることができます。SnapBridgeアプリの  タブで **[自動連携設定]** → **[時刻情報を同期]** を有効にしてください。

カメラとスマートフォンの接続が完了しました。

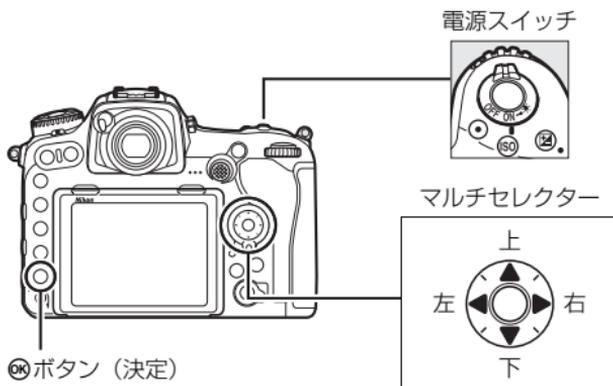
カメラで撮影した画像がスマートフォンに自動送信されます。

■ スマートフォンまたはタブレットを使わずに セットアップする場合

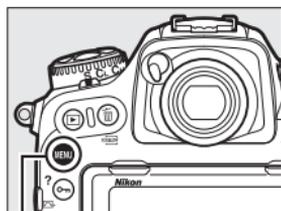
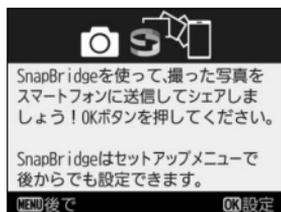
日付と時刻は手動で設定します。

1 カメラの電源をONにする

- 設定項目の変更や決定にはマルチセレクターおよびOKボタンを使います。

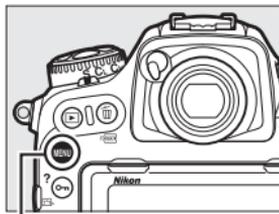


2 右の画面が表示されたら、MENUボタンを押す



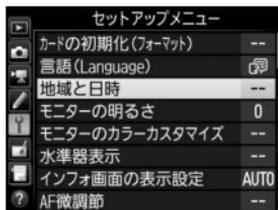
3 日付と時刻を設定する

- MENUボタンを押して、セットアップメニューを表示します。
- メニューの操作方法について詳しくは、「メニューの操作方法」をご覧ください(□27)。



MENUボタン

- ご購入後、初めてセットアップメニュー画面を表示したときは、[地域と日時]が選ばれています。マルチセレクターの \blacktriangle を押して、[地域と日時]画面を表示します。



- [地域と日時]画面で[日時の設定]を選びます。



- マルチセレクターの \blacktriangle または \blacktriangledown を押して、選択中の項目の数値を合わせ、 \blacktriangle または \blacktriangledown で項目を移動します。
- 日付と時刻の設定を完了したら、OKボタンを押します。



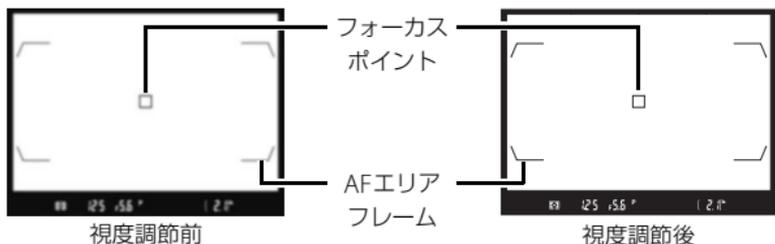
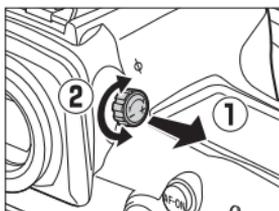
- 設定した日付と時刻は、セットアップメニュー [地域と日時] (□292) の [日時の設定] で変更できます。

セットアップメニュー [地域と日時] について

[地域と日時]では現在地、日付の表示順、夏時間も設定できます(□292)。

ファインダーを見やすくする

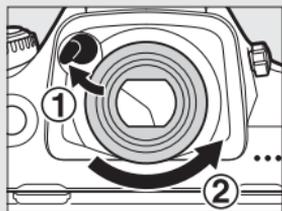
- ファインダーで構図を決めながら撮影する場合は、あらかじめ、ファインダー内がはっきり見えるように視度調節をしてください。
- ノブを引き出し、ファインダーをのぞきながら視度調節ノブを回して、フォーカスポイントまたはAFエリアフレームの枠が最もはっきり見えるように調節してください。



- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。
- 調節が終わった後は、視度調節ノブを押し込んで戻してください。

接眼補助レンズを取り付けるには

別売の接眼補助レンズを取り付けるには、アイピース (DK-17F) を取り外す必要があります。アイピースシャッターを閉じてロックを解除してから (①)、アイピースを軽くはさむように二本の指で持ち、図の方向に回して取り外します (②)。

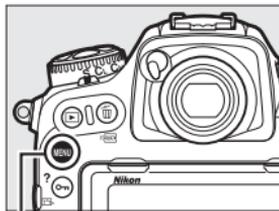


基本操作

メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

MENUボタンを押すと、画像モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。



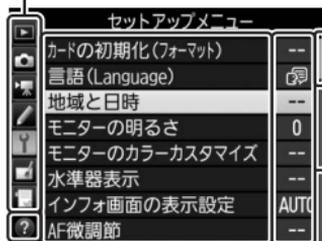
MENUボタン

メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます

 再生メニュー (☞270)	 セットアップメニュー (☞292)
 静止画撮影メニュー (☞272)	 画像編集メニュー (☞301)
 動画撮影メニュー (☞277)	 マイメニュー /
 カスタムメニュー (☞281)	 最近設定した項目 (☞303) *

* どちらかに設定できます。初期設定は [マイメニュー] です。



ヘルプあり表示 (☞28)

項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

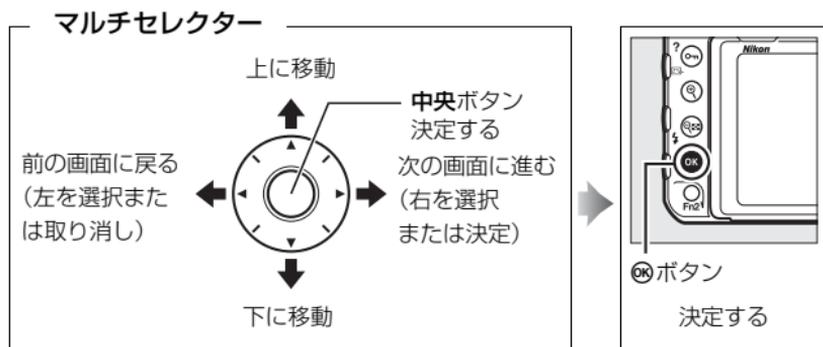
各項目の設定をアイコンで表示します

メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

メニュー項目の設定

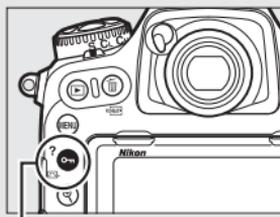
メニューの操作には、マルチセクターとOKボタンを使います。



② (ヘルプあり表示)

ヘルプがある場合に **?** (ヘルプ) ボタンを押すと、その項目のヘルプ (説明) を表示します。

- 説明が2ページ以上ある場合は、**?** (ヘルプ) ボタンを押しながらマルチセクターの **?** を押して、次のページを表示してください。
- **?** (ヘルプ) ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。



? (ヘルプ) ボタン

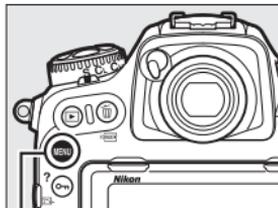
? 多重露出

[コマ数]で設定した回数で撮影した画像を選択した合成モードで重ね合わせて1枚の画像として記録できます。半押しタイマーの作動時間は自動的に30秒延長されます。撮影途中で半押しタイマーがオフになると、多重露出は解除され、それまで

■ メニュー項目の設定方法

1 メニュー画面を表示する

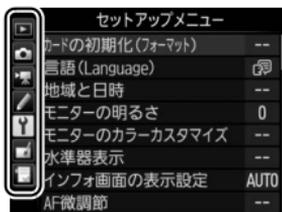
- MENUボタンを押します。



MENUボタン

2 メニューのタブを選ぶ

- を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。



3 メニューを切り換える

- またはを押して、メニューのタブを切り換えます。



4 選んだメニューに入る

- を押して、選んだメニューに入ります。



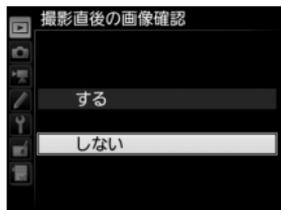
5 メニュー項目を選ぶ

-  または  で項目を選びます。



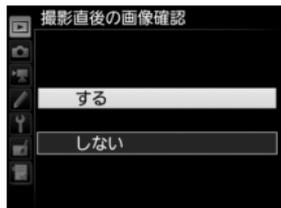
6 設定内容を表示する

-  を押して設定内容を表示します。



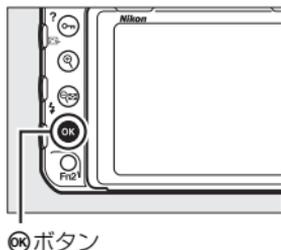
7 設定内容を選ぶ

-  または  で設定内容を選びます。



8 決定する

-  ボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル (中止) するには、**MENU** ボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。



☑ メニュー項目の設定について

- カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
-  ボタンの代わりにマルチセレクターの  や中央ボタンを押しても決定できませんが、画像の削除やメモリーカードの初期化などの重要な設定項目については、 ボタンしか使えない項目があります。

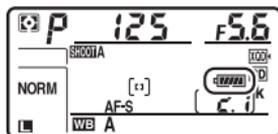
撮影と再生の基本操作

バッテリーとメモリーカードの残量を確認する

撮影を始める前に、バッテリーの残量と記録可能コマ数を確認してください。

■ バッテリーの残量について

表示パネルまたはファインダー内表示で、バッテリーの残量を確認できます。



表示パネル



ファインダー内表示

表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	残量が減り始めました。
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
 (点滅)	 (点滅)	撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

■メモリーカード表示と記録可能コマ数について

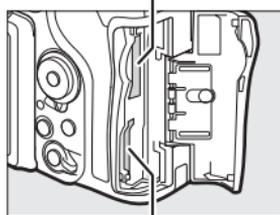
このカメラは、XQDスロットとSDスロットの2つのメモリーカードスロットを装備しており、XQDカードとSDカードをそれぞれ1枚ずつ使用することができます。

- 両方のスロットにメモリーカードを入れると、**[主スロットの選択]** で選択されている優先的に使うスロット（主スロット）から記録し、空き容量がなくなったら、記録先をもう一方のスロット（副スロット）に変更します（**[副スロットの機能]**（□272）が初期設定の**[順次記録]**のとき）。

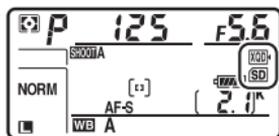
- 表示パネルには、使用中のスロットが右図のように表示されます（例：両方のスロットにメモリーカードが入っている場合）。
- 何らかのエラーが発生しているときは、エラーが発生しているメモリーカードのアイコンが点滅します（□351、352）（例：メモリーカードの残量がなくなった場合やカードがロックされている場合など）。

- 表示パネルまたはファインダー内表示で、メモリーカードの記録可能コマ数（これから撮影できる枚数）を確認できます。
- 記録可能コマ数が 1000 コマ以上あるときは、1000を意味する「k」マークが点灯します。

XQDスロット

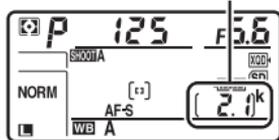


SDスロット



表示パネル

記録可能コマ数



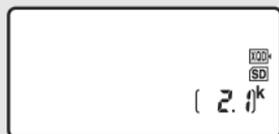
表示パネル



ファインダー内表示

電源OFF時のパネル表示について

バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、表示パネルのメモリーカードマークと記録可能コマ数が点灯します。メモリーカードの種類によっては、電源がOFFのときにメモリーカードを挿入しても、まれにメモリーカードマークと記録可能コマ数の表示が点灯しないことがあります。この場合、カメラの電源をONにすると点灯します。



表示パネル

かんたんに静止画を撮影する

1 カメラを構える

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。

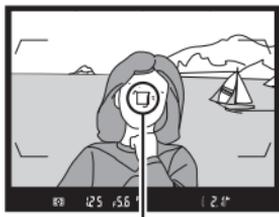


- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。



2 構図を決める

- ファインダーをのぞいて、構図を決めてください。
- 被写体を中央のフォーカスポイントに合わせます。



フォーカスポイント

3 シャッターボタンを軽く 押して（半押しして）、ピ ントを合わせる

- ご購入時の設定では、中央のフォーカスポイントに重なっている被写体に自動的にピントが合います。
- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

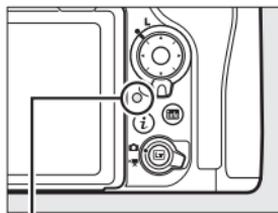


ピント表示

ファインダー内 ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
▶（点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません（「オートフォーカスの苦手な被写体について」(P107) をご覧ください）。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。メモリーカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。

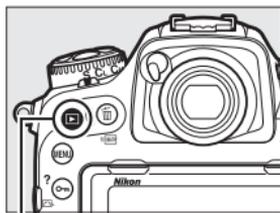


メモリーカード
アクセスランプ

撮影した画像を確認する

1 ▶ ボタンを押す

- 撮影した画像をカメラ背面の画像モニターに表示します。



▶ ボタン

- 表示中の画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。



2 マルチセレクターの◀または▶を押して他の画像を確認する

- 画面を左右にフリックしても画像を切り換えられます (□248)。
- ◀または▶を押すたびに、撮影情報の表示が切り替わります (□251)。



- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

📌 撮影直後の画像確認について

再生メニューの「撮影直後の画像確認」(□271)を「する」に設定すると、▶ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に画像モニターに表示します。

📌 関連ページ

画像を表示するスロットを切り換える→「画像再生時のボタン操作」(□246)

■ 画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのご注意ください。

1 削除したい画像を表示する

- ▶ ボタンを押して画像モニターに画像を表示してから、マルチセレクターの◀ または ▶ で削除したい画像を選びます。



▶ ボタン

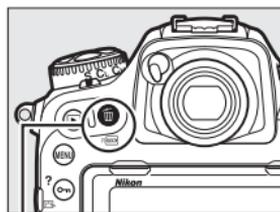


- 削除する画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。



2 画像を削除する

- 🗑️ (FORMAT) ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。もう一度🗑️ (FORMAT) ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で▶ ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。



🗑️ (FORMAT) ボタン

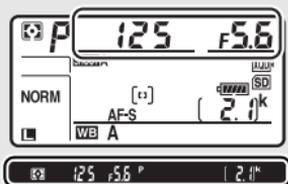


再生メニュー [削除]

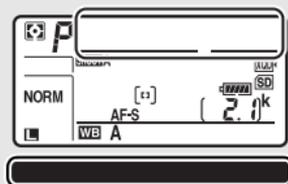
再生メニューの [削除] (□270) では、複数の画像を選んで削除したり、再生フォルダー内の全画像を一括して削除したりできます。また、メモリーカードを2枚使っているときは、全画像を削除するメモリーカードスロットを指定できます。

ファインダー撮影時の半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）とオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] (□284) で変更できます。



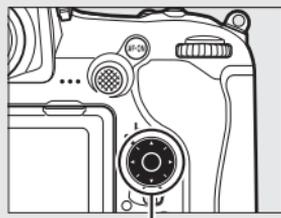
半押しタイマーオン



半押しタイマーオフ

撮影時のマルチセレクターの操作について

半押しタイマーがオンのときにマルチセレクターの  またはななめを押すと、フォーカスポイントを自分で選べます (□102)。

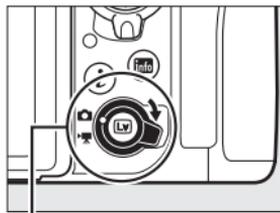


マルチセレクター

ライブビュー撮影

画像モニターで被写体を見ながら静止画を撮影できます。

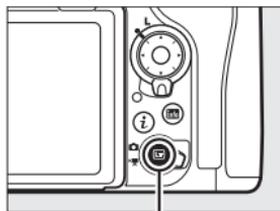
1 ライブビューセレクターを📷（静止画ライブビュー）に合わせる



ライブビューセレクター

2 **Lv** ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。



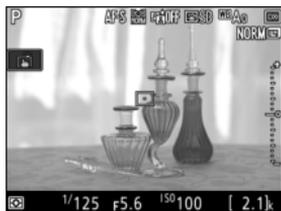
Lv ボタン

3 フォーカスポイントを被写体に重ねる

- フォーカスポイントの形状はAFエリアモードによって異なります (□43)。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
- フォกัสポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないとき赤色で点滅します。
- 露出を固定（AEロック）するには、サブセレクターの**中央**を押し続けます（□135）。
- ライブビュー時に \odot ボタンを押すと、右のような露出プレビュー画面に切り替わります。露出プレビューに設定すると、表示されたシャッタースピード、絞り値、ISO感度での撮影で、どのような露出（明るさ）になるのかを画像モニターで確認しながら静止画撮影できます。露出補正（□137）は、通常と同じ ± 5 段まで設定できますが、画像モニターで確認できるのは ± 3 段までになります。

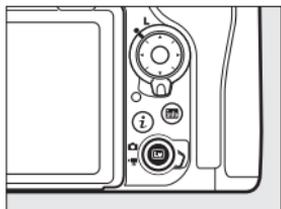


5 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 撮影時は画像モニターが消灯します。



6 \odot ボタンを押してライブビューを終了する



✔ 露出プレビューについて

- シャッタースピードが**bulb** (バルブ) または**- -** (タイム) の場合、露出プレビューには切り替わりません。また、次の場合は、露出プレビューの表示が実際に撮影される画像と異なります。
 - 別売スピードライト装着時
 - [アクティブD-ライティング] (□180) または [HDR (ハイダイナミックレンジ)] (□182) を設定した場合
 - ピクチャーコントロールの [コントラスト] が [A] (オート) の場合 (□174)
 - シャッタースピードを **x 250** に設定した場合
 - オートブラケティング撮影時
- 被写体が極端に明るい場合や暗い場合には、画像の明るさを正しく表示できないことがあります (露出インジケーターが点滅します)。

🔍 ライブビュー時の拡大表示

ライブビュー中に🔍ボタンを押すと、拡大表示できます (最大約11倍)。

- 🔍ボタンを押すごとに拡大率が上がり、🔍(⚡)ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ (グレーの枠) が表示されます。
- 拡大表示中は、マルチセレクターを操作すると、見たい部分に移動できます。



🔍 ライブビュー時のプレビュー機能

ライブビュー中に **Pv** ボタンを押すと開放絞りになり、ピントが確認しやすくなります。再度 **Pv** ボタンを押すか、オートフォーカスでピントを合わせると、設定した絞り値に絞り込まれます。開放絞りにしたままでシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り値に絞り込まれてから撮影します。開放絞り中は画像モニターに開放絞りのアイコンが表示されます (□49)。

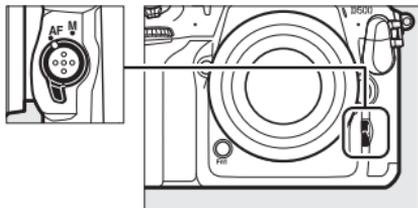
🔍 HDMI接続時の撮影について

HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。

オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセレクターをAFに合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、ライブビュー時のオートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。

フォーカスモード
セレクター



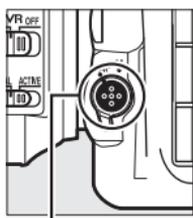
AFモードを変更する

AF-S シングル AFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
AF-F 常時AF サーボ	動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

■ ライブビュー時のAFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- AFモードは画像モニターに表示されます。



AFモードボタン



メインコマンド
ダイヤル



画像モニター

AFエリアモードを変更する

 顔認識AF	記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大35人まで）は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセレクターで二重枠を移動して他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。
 ワイド エリアAF	風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセレクターで任意の位置に移動できます。 中央ボタン を押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。
 ノーマル エリアAF	画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセレクターで任意の位置に移動できます。 中央ボタン を押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。三脚の使用をおすすめします。
 ターゲット 追尾AF	指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。フォーカスポイントを被写体に重ねて 中央ボタン を押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度 中央ボタン を押すと、追尾を終了します。

✓ ターゲット追尾AFについてのご注意

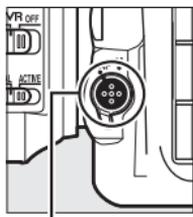
次のような場合は、追尾動作が正常に行われなことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

■ ライブビュー時のAFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- AFエリアモードは画像モニターに表示されます。



AFモードボタン



サブコマンド
ダイヤル



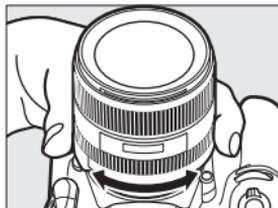
画像モニター

▼ ライブビュー時のオートフォーカスについてのご注意

- ライブビュー時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスより、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
 - 画面の長辺側と平行な線の被写体
 - 明暗差の少ない被写体
 - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
 - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
 - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
 - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
 - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
 - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントが合っていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- AF-SやAF-P以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、十分なピント精度が出ない場合があります。

マニュアルフォーカスで撮影する

マニュアルフォーカス (□108) で撮影するときは、レンズのフォーカスリングを回して、被写体にピントを合わせます。



- ピントの状態を細部まで確認したい場合は、 ボタンを押して被写体を拡大表示してください (□41)。

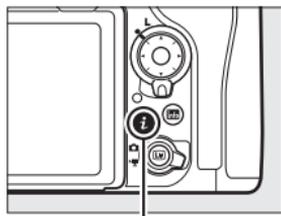


 ボタン

i ボタンを使う

ライブビュー撮影時に **i** ボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセレクターの **▶** を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、**OK** ボタンを押して決定します。
- 撮影に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。



i ボタン



撮像範囲設定	ライブビュー撮影時の撮像範囲を選べます (□82)。
アクティブD-ライティング	アクティブD-ライティングの設定を変えられます (□180)。
電子先幕シャッター	電子先幕シャッターを有効にするかどうかを設定できます (□286)。
モニターの明るさ	<ul style="list-style-type: none">ライブビュー時の画像モニターの明るさを、▲ または ▼ を押して調整できます。画像モニターの明るさを調整すると、ライブビュー中の表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。  A screenshot of the camera's menu system. The title is 'モニターの明るさ' (Monitor Brightness). The main display shows a live view of perfume bottles. On the right, there is a vertical slider with a scale from -5 to 5, and a '0' at the top. At the bottom right, there are 'i キャンセル' (Cancel) and 'OK 決定' (OK Confirm) buttons.

📌 画像再生時やメニュー表示時の明るさについて

画像再生時やメニュー表示時などの画像モニターの明るさは、セットアップメニューの **[モニターの明るさ]** (□292) で設定してください。

静止画Lv画面の ホワイトバランス

ライブビュー撮影時には、撮影用のホワイトバランス(□151)とは別に、画像モニター用のホワイトバランス(画像モニターの色み)を設定できます。撮影用のホワイトバランスを[フラッシュ]や[プリセットマニ

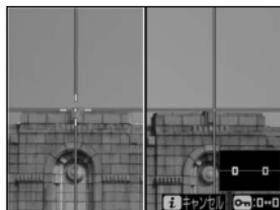


アル]などに設定していると、実際に撮影される画像の色みと画像モニターで表示されている色みが異なることがあります。あらかじめ画像モニターの色みを撮影する画像の色みに合わせておくことで、撮影画像の仕上がりをイメージしやすくなります。

- [撮影時と同じ] を選ぶと、画像モニター用ホワイトバランスは撮影用ホワイトバランスと同じになります。
- 画像モニター用ホワイトバランスは、カメラの電源をOFFにすると解除されます。**WB** ボタンを押しながら **Lv** ボタンを押すと、前回設定した画像モニター用ホワイトバランスの表示でライブビューを開始できます。

2点拡大

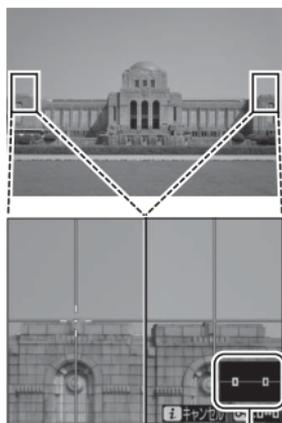
同じ水平面上の異なる2カ所を同時に拡大表示します。建築物などの水平合わせの確認に便利です(□48)。



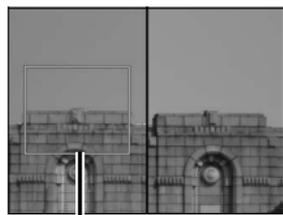
■ 2点拡大

ライブビュー撮影時に **i** ボタンを押して[2点拡大] を選ぶと、左右に並んだ拡大表示画面が表示されます(2点拡大表示)。それぞれの画面には、ナビゲーションウィンドウの2カ所の□部分が拡大されて表示されます。

- **Q** ボタンを押すごとに拡大率が上がり、**Q** (⚡) ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- マルチセレクターの **⏪** または **⏩** を押すと、左右それぞれの拡大表示画面を横方向にスクロールできます。左右の画面を切り換える場合は **⏪** (⏪/?) ボタンを押します。
- マルチセレクターの **⏴** または **⏵** を押すと、左右の拡大表示画面が縦方向に同時にスクロールします。
- シャッターボタンを半押しすると、選択されている画面の中心点にピントが合います。



ナビゲーション
ウィンドウ



ピントが合う部分

- **i** ボタンを押すと、2点拡大表示を終了します。

情報表示について

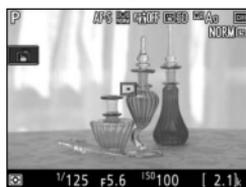


① ライブビュー残り時間	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	☞53
② 静止画Lv画面のホワイトバランス	画像モニターの色み（画像モニター用ホワイトバランス）を表示します。	☞47
③ 開放絞り表示	Pv ボタンを押して開放絞りにすると表示されます。	☞41
④ AFモード	AFモードを表示します。	☞42
⑤ AFエリアモード	AFエリアモードを表示します。	☞43
⑥ フォーカスポイント	枠内の被写体にピントが合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモードにより異なります。	☞43

表示を切り換える

info ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

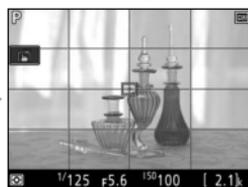
情報表示



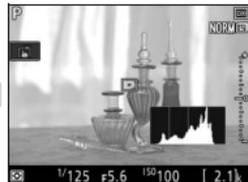
情報表示なし



格子線表示



水準器表示 (□293)

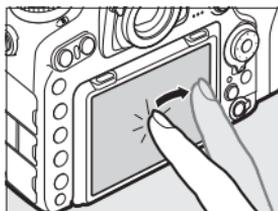


ヒストグラム※

※ 露出プレビュー時 (□40) のみ表示されます。

タッチシャッターで静止画を撮影する

タッチした位置にピントを合わせ、指を放すとシャッターがきれます。タッチしている間はピントが固定されます。



撮影画面で右図のアイコンにタッチすると、画面をタッチしたときの機能を切り換えられます。



	タッチした位置にフォーカスポイントを移動してピント合わせを行い、指を放すとシャッターがきれます。
 AF	タッチした位置にフォーカスポイントを移動して、ピント合わせを行います。 <ul style="list-style-type: none">AFエリアモードがターゲット追尾AF (□43) の場合、追尾中に画面をタッチすると、追尾している被写体にピント合わせを行います。
 OFF	タッチ操作は無効になります。

▼ タッチ操作で撮影するときのご注意

- フォーカスモードセレクターを**M**にしている場合 (□108) は、タッチしてもピント合わせを行いません。
- タッチするときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がブレる (手ブレする) ことがあります。
-  に設定していても、シャッターボタンを押して撮影できます。
- タッチシャッターでは動画撮影中に静止画の撮影 (□64) はできません。
- レリーズモードを**CL** (低速連続撮影)、**CH** (高速連続撮影)、または**QC** (静音連続撮影) に設定していても、1コマしか撮影されません。連続撮影するには、シャッターボタンを押して撮影してください。
- セルフタイマー (□113) 設定時は、画面の被写体をタッチするとピントが固定され、指を放してから約10秒後にシャッターがきれます。また、セルフタイマーの撮影コマ数を1コマ以外に設定した場合、連続で撮影します。セルフタイマーの作動時間と撮影コマ数は、カスタムメニューc3 [セルフタイマー] で変更できます (□285)。
- フォーカスポイントロックレバーが**L** (ロック) の位置になっている場合、タッチ操作によるフォーカスポイントの移動はできません。ただし、AFエリアモードが顔認識AFの場合は、タッチした顔に黄色の二重枠を移動します (□43)。

▼ ライブビュー撮影時のご注意

- 画像モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
 - 動きのある被写体が歪んで表示される
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、動画撮影メニューの [フリッカー低減] (□279) で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターを閉じてください (□113)。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- ライブビュー中は、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] (□284) の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

✔ ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

自動的にライブビューを終了する30秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します (□49)。

- カスタムメニュー c4 [モニターのパワーオフ時間] (□285) の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。[モニターのパワーオフ時間] の [ライブビュー表示] を [制限なし] に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了30秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まることがあります。

📄 関連ページ

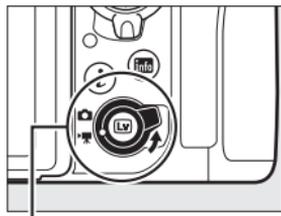
- ライブビューの表示時間を設定する → 🖋 c4 [モニターのパワーオフ時間] (□285)
- マルチセレクターの中央ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする → 🖋 f2 [中央ボタンの機能] (□289)
- 戻るボタンの動作を制限する → 🖋 f8 [ライブビューボタンの設定] (□290)
- ライブビュー中の動画撮影ボタンとコマンドダイヤルの機能を設定する → 🖋 f1 [カスタムボタンの機能] の [動画撮影ボタン+📷] (□289)

動画撮影と再生

動画を撮影する

画像モニターを見ながら音声付きの動画を撮影できます。

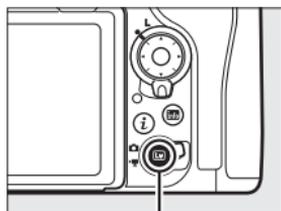
1 ライブビューセレクターを \blacktriangleleft （動画ライブビュー）に合わせる



ライブビューセレクター

2 Lv ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。
- ライブビュー中は、実際に撮影される動画や静止画の露出（明るさ）を画像モニターで確認できます。



Lv ボタン

3 動画撮影時のAFモードを設定する

- 動画撮影時のAFモードの設定方法については、「AFモードを変更する」（ $\square 42$ ）をご覧ください。



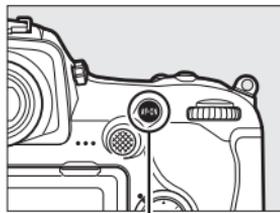
4 動画撮影時のAFエリアモードを設定する

- 動画撮影時のAFエリアモードの設定方法については、「AFエリアモードを変更する」(□43)をご覧ください。



5 AF-ONボタンを押して、ピントを合わせる

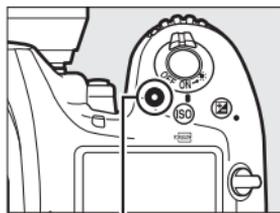
- 動画撮影を開始する前に、被写体にピントを合わせます。



AF-ONボタン

6 動画撮影ボタンを押して、動画記録を始める

- 動画記録中は録画中マークが画像モニターに表示されます。メモリーカードに記録できる残り時間の目安も画像モニターで確認できます。
- 動画記録中も、**AF-ON**ボタンを押すと被写体にピントを合わせられます。
- 内蔵マイク (□2) で音声を記録します。録画中は、マイクを指でふさがないようにしてください。
- 露出を固定 (AEロック) するには、サブセレクターの**中央**を押し続けます (□135)。
- 動画記録中は±3段の範囲で露出補正ができます (□137)。
- 動画撮影中に画面をタッチすると、タッチした位置にフォーカスポイントが移動してピントを合わせることができます。



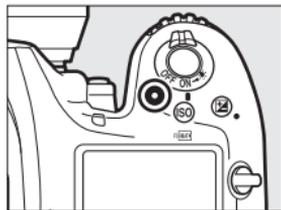
動画撮影ボタン

録画中マーク

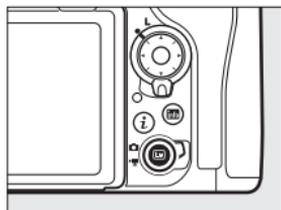


残り時間

- 7 もう一度動画撮影ボタンを押して、
動画記録を終了する



- 8 **[LV]** ボタンを押してライブビューを
終了する



インデックスマーキングについて

動画記録中に、カスタムメニューg1 [カスタムボタンの機能] (□291) で [インデックスマーキング] を割り当てたボタンを押すと、記録中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□75)。インデックスマークは1つの動画に最大20個まで付けられます。



インデックスマーク

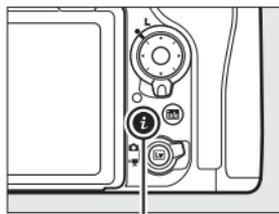
動画撮影時のピント合わせについて

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせることもできます。

i ボタンを使う

動画撮影時に **i** ボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセクターの **⏪** を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、**OK** ボタンを押して決定します。
- 撮影に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。



i ボタン



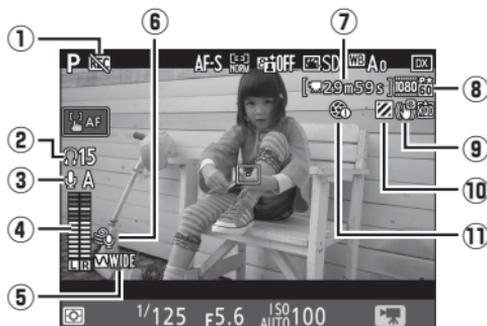
撮影範囲設定	動画撮影時の撮影範囲を選べます (□63)。
画像サイズ/ フレームレート	動画を記録するときの画像サイズ (ピクセル) / フレームレートを設定します (□61)。
アクティブ D-ライティング	動画撮影時のアクティブD-ライティングの設定を変えられます (□180)。 <ul style="list-style-type: none"> • 動画の画像サイズ (□61) が3840×2160の場合、アクティブD-ライティングは機能しません。
動画の画質	動画の画質を選べます (□61)。
マイク感度	内蔵マイクまたは外部マイク (□325) の感度を、 ⬆ または ⬇ を押して調整できます (□279)。
録音帯域	内蔵マイクまたは外部マイクの周波数特性を設定します (□279)。
風切り音低減	内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えるローカットフィルター機能を有効にするかどうかを設定できます (□279)。
動画記録先	メモリーカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定できます (□277)。

<p>モニターの明るさ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 動画撮影時の画像モニターの明るさを、またはを押して調整できます。 画像モニターの明るさを調整すると、ライブビュー中の表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。
<p>マルチセレクターによるパワー絞り</p>	<p>マルチセレクターによるパワー絞りを有効にするかどうかを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [有効] に設定すると、を押している間、開放絞り側に絞りが動きます。また、を押している間、最小絞り側に絞りが動きます。
<p>ハイライト表示</p>	<p>動画撮影時、ハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示するかどうかを設定できます。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p>ハイライト部分</p> </div>  </div>
<p>ヘッドホン音量</p>	<p>ヘッドホン音量を、またはを押して調整できます。</p>
<p>電子手ブレ補正</p>	<p>動画撮影時に電子手ブレ補正を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画の画像サイズ (□61) が 3840×2160 の場合、電子手ブレ補正は機能しません。 [撮像範囲設定] が [DX] の場合 (□63)、電子手ブレ補正を [する] に設定すると画角が小さくなるため少し拡大されます。

ヘッドホンについて

- 市販のヘッドホンをヘッドホン端子に接続すると、音声はヘッドホンから再生されます。
- マイク感度を最大にして撮影した動画を再生すると、大音量で再生される場合がありますので、ヘッドホン使用時は特にご注意ください。

情報表示について



① 動画記録禁止マーク	動画が記録できない状態のとき表示します。	—
② ヘッドホン音量	市販のヘッドホン接続時に表示されます。ヘッドホン出力の音量レベルを表示します。	☞58
③ マイク感度	マイク感度のレベルを表示します。	☞279
④ 音声レベルインジケータ	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケータの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。	—
⑤ 録音帯域マーク	録音帯域の設定を表示します。	☞279
⑥ 風切り音低減マーク	風切り音低減が有効の場合に表示します。	☞279
⑦ 動画記録残り時間	動画記録時に、メモリーカードに記録できる残り時間を表示します。	☞55
⑧ 動画の画像サイズ	動画の画像サイズを表示します。	☞61
⑨ 電子手ブレ補正マーク	電子手ブレ補正が有効の場合に表示します。	☞280
⑩ ハイライト表示マーク	ハイライト表示が有効の場合に表示します。	☞58
⑪ パワー絞りができないとき	パワー絞りができないときに表示します。	☞58

✔ ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- 自動的に動画撮影を終了する 30 秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します (□49)。
- 撮影条件によっては、動画撮影を開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、画像モニターの右上に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。

✎ 動画撮影中の調整について

- ヘッドホンの音量は変更できません。
- マイク感度を  以外に設定すると、動画記録中にマイク感度を変更できます。
 には変更できません。

【画像サイズ/フレームレート】 および 【動画の画質】 について

動画撮影メニュー [画像サイズ/フレームレート] では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。[動画の画質] では、動画の画質を高画質と標準から選べます。それぞれの設定時の最大ビットレートと最長記録時間は次の通りです。

	【画像サイズ/フレームレート】 ※1	最大ビットレート （【動画の画質】 ※2： ★高画質/標準）	最長記録時間
	3840×2160 (4K UHD) 30p ※3	144Mbps	29分59秒※4
	3840×2160 (4K UHD) 25p ※3		
	3840×2160 (4K UHD) 24p ※3		
	1920×1080 60p	48Mbps/24Mbps	
	1920×1080 50p		
	1920×1080 30p		
	1920×1080 25p	24Mbps/12Mbps	
	1920×1080 24p		
	1280×720 60p		
	1280×720 50p		

※1 60p：59.94コマ/秒（fps）、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、
25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

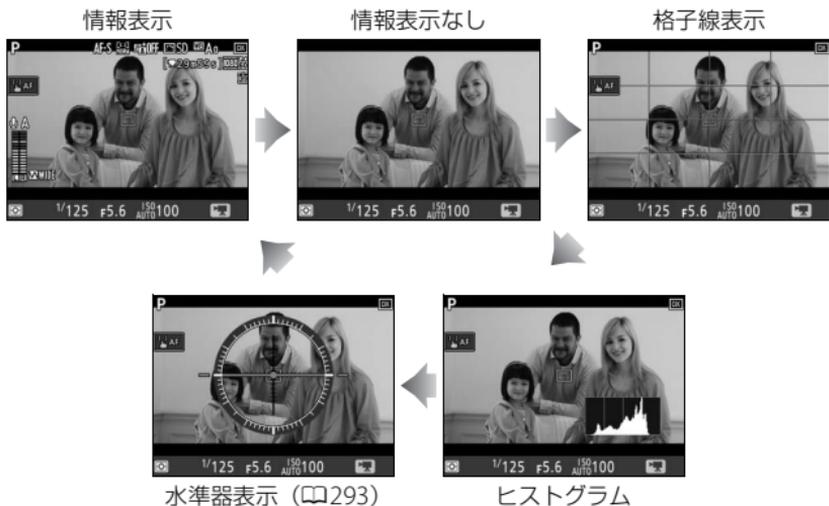
※2 【動画の画質】が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。画像サイズを3840×2160に設定した場合は、常に高画質で記録されます。

※3 画像サイズを3840×2160に設定した場合はが表示されます。

※4 動画は最大8個のファイルに分割されて記録されます。各ファイルのファイルサイズは最大で4GBです。1回の撮影で作成されるファイルの数と1ファイルあたりの記録時間は【画像サイズ/フレームレート】および【動画の画質】の設定によって異なります。

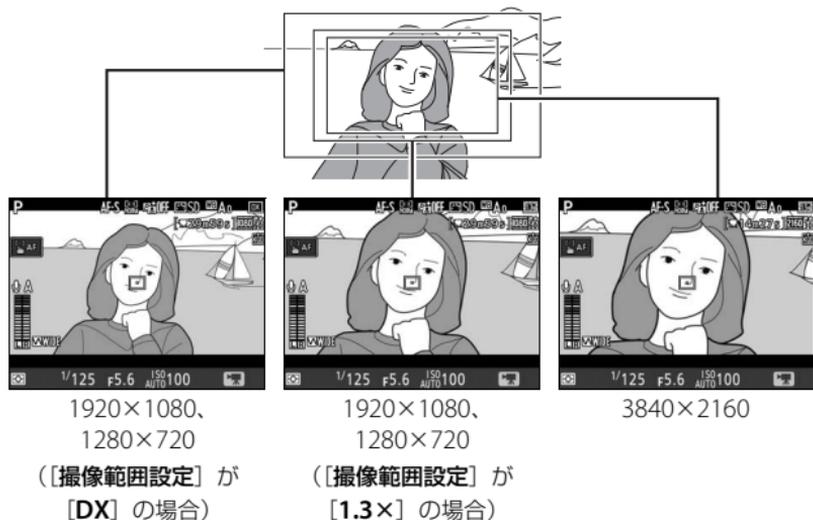
表示を切り換える

info ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。



動画撮影時の画角について

動画のアスペクト比（縦横比）は、16：9です。動画の画角は、動画の画像サイズ（□61）と動画撮影メニューの〔撮像範囲設定〕（□277）によって異なります。



- 画像サイズが1920×1080または1280×720の場合、〔撮像範囲設定〕を〔1.3×〕に設定すると、DXフォーマットの約1.3倍に相当する画角で撮影されます。画像サイズが3840×2160の場合は、〔撮像範囲設定〕の設定に関わらずDXフォーマットの約1.5倍に相当する画角で撮影されます。
- 動画撮影時の撮像範囲は次の通りです。
 - 画像サイズが3840×2160の場合：約16.2×9.1mm
 - 画像サイズが1920×1080または1280×720で、〔撮像範囲設定〕が〔DX〕の場合：約23.5×13.3mm
 - 画像サイズが1920×1080または1280×720で、〔撮像範囲設定〕が〔1.3×〕の場合：約18.0×10.1mm

動画撮影時の静止画撮影

カスタムメニューg1 [カスタムボタンの機能] の [シャッターボタン] (□291) を [静止画撮影] に設定した場合、動画撮影中 (ライブビュー時または動画記録時) にシャッターがきれるまでシャッターボタンを全押しし続けると、静止画を撮影します。撮影される静止画のアスペクト比(横:縦)は、16:9になります。



撮影される静止画のアスペクト比(横:縦)は、16:9になります。

- 動画記録中の場合、動画記録は終了し、そこまでの動画を記録します。
- 画質モードは、静止画撮影メニュー [画質モード] (□85) で設定した内容になります。ただし、動画の画像サイズ (□61) を3840×2160に設定した場合は [FINE★] になります。
- 動画撮影時の静止画撮影の露出は画像モニターでは確認できません。露出モードP、S、Aでの撮影をおすすめします。露出モードMで撮影する場合は、一度ライブビューセレクターを📷に合わせ露出を確認してから撮影することをおすすめします。

■ 撮影できる静止画の画像サイズ

撮影できる静止画の画像サイズは、次の通りです。

- 1920×1080、1280×720の場合、静止画撮影メニュー [画像サイズ] の [JPEG/TIFF] の設定によって、撮影される画像サイズが異なります。

動画の画像サイズ (□61)	撮影される静止画の画像サイズ (□88)
3840×2160	3840×2160ピクセル
1920×1080、1280×720 (動画撮影メニュー [撮像範囲設定] が [DX] の場合)	L (5568×3128ピクセル)
	M (4176×2344ピクセル)
	S (2784×1560ピクセル)
1920×1080、1280×720 (動画撮影メニュー [撮像範囲設定] が [1.3×] の場合)	L (4272×2400ピクセル)
	M (3200×1800ピクセル)
	S (2128×1192ピクセル)

📷 動画撮影について

- 使用しているメモリーカードの書き込み速度によっては、最長記録時間（□61）に満たないで記録が自動的に終了する場合があります。
- 動画撮影時は、AFエリアモードが顔認識AFの場合に認識できる人数が少なくなります。
- 🚫（動画記録禁止）マーク（□59）が表示されているときは、動画記録できません。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 動画撮影中は測光モードをスポット測光に設定できません。
- 動画を撮影するときは、常にsRGBの色空間で撮影されます。
- 動画撮影時は、別売のスピードライト（□317）は発光しません。
- 露出モード**P**、**S**で画像が明るくなりすぎたり、暗くなりすぎたりする場合は、ライブビューを終了してからもう一度ライブビューを開始するか、露出モードを**A**にして、絞りの調整を行ってください。
- 動画撮影時に絞り値、シャッタースピード、ISO感度を設定できるかどうかは、露出モードによって異なります。

	絞り値	シャッタースピード	ISO感度※1
P 、 S	—	—	— ※2
A	○	—	— ※2
M	○	○	○ ※3

※1 動画撮影メニューの「電子手ブレ補正」が「する」のときにISO感度が高感度（Hi 0.3～Hi 5）になった場合は、ISO 51200に制限されます。

※2 動画撮影メニュー「ISO感度設定」（□278）の「制御上限感度」でISO感度の上限を設定できます。

※3 動画撮影メニュー「ISO感度設定」の「Mモード時の感度自動制御」を「する」に設定した場合、「制御上限感度」でISO感度の上限を設定できます。

- 動画撮影中に**WB**ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます（□151）。

📷 マニュアル露出での動画撮影について

露出モード**M**で動画撮影する場合、シャッタースピードを1/25～1/8000秒の範囲で設定できます（動画のフレームレート（□61）によって、低速側の制限が異なります）。

▼ 動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の画像モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する (□279)
 - 動きのある被写体が歪む
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
 - パワー絞りを作動中 (□58)、画面にちらつきが発生する
- 動画撮影時に、 ボタンで画面を拡大した場合 (□45)、ノイズ (ざらつき、むら、すじ)、色の変化が発生しやすくなります。
- 次のような場合は、動画記録は自動的に終了します。
 - 最長記録時間に達したとき
 - メモリーカードの残量がなくなったとき
 - ライブビューセクターを切り換えたとき
 - レンズを取り外したとき
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 次のような場合は、動作音が録音されることがあります。
 - オートフォーカス作動中
 - パワー絞りを作動中
 - 絞り値を変更した場合
 - VRレンズ使用時にVR (手ブレ補正) をONにした場合

🔗 ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードについて

カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] (□291) の [シャッターボタン] を [動画撮影] に設定すると、ワイヤレスリモートコントローラー (□324) やリモートコード (□325) のシャッターボタンを半押ししてライブビューを開始したり、全押しして動画記録の開始と終了を行えます。

🔗 外部マイクについて

別売のステレオマイクロホンME-1またはワイヤレスマイクロホンME-W1を外
部マイク入力端子に接続すると、外部マイクを使用して動画撮影することがで
きます (□325)。

HDMI接続時の撮影について

HDMI 対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。

関連ページ

- 動画撮影時のオートフォーカスについてのご注意 → 「ライブビュー時のオートフォーカスについてのご注意」 (□44)
- レンズのフォーカスリングを使って (マニュアルフォーカスで) ピントを合わせる → 「マニュアルフォーカスで撮影する」 (□45)
- ライブビュー表示中や動画記録時のフリッカー現象を低減する →  **ノ** [フリッカー低減] (□279)
- マルチセレクターの**中央**ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする →  **f2** [中央ボタンの機能] (□289)
-  ボタンの動作を制限する →  **f8** [ライブビューボタンの設定] (□290)
- 動画撮影時の**Pv**ボタン、**Fn1**ボタン、**Fn2**ボタン、サブセレクターの**中央**、シャッターボタンの機能を設定する →  **g1** [カスタムボタンの機能] (□291)
- 動画撮影時の**Pv**ボタン、**Fn1**ボタン、**Fn2**ボタン、サブセレクターの**中央**で撮像範囲を切り換える →  **g1** [カスタムボタンの機能] (□291)
- サブセレクターの**中央**を押し続けなくてもAEロック状態を維持できるようにする →  **g1** [カスタムボタンの機能] の [サブセレクター中央] (□291)

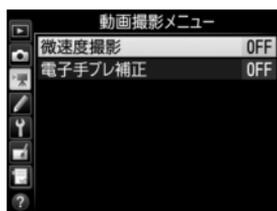
静止画をつないで動画にする (微速度撮影)

微速度撮影では、設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。動画撮影メニューの[撮像範囲設定](□277)、[画像サイズ/フレームレート]、[動画の画質](□61)および[動画記録先](□277)で設定した内容で動画が記録されます。

■■ 微速度撮影の開始

1 動画撮影メニューの[微速度撮影]を選ぶ

- マルチセクターの▶を押すと、微速度撮影の設定画面が表示されます。



🔪 微速度撮影を開始する前に

- 試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクタと AC アダプター、または十分に充電されたバッテリーをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします(□113)。

2 微速度撮影の設定をする

- 撮影間隔（インターバル）を設定する



「撮影間隔」を選んで▶を押す



撮影間隔（分、秒）を設定して▶ボタンを押す

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

- 撮影時間を設定する



「撮影時間」を選んで▶を押す



撮影時間（時、分）を設定して、▶ボタンを押す

- 撮影時間は、最長で7時間59分まで設定できます。

• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



[露出平滑化] を選んで  を押す



露出平滑化をするかどうか
を選んで  ボタンを押す

- [する] を選ぶと、明るさの変化がなめらかになり、より自然な動画を記録します。ただし、露出モードMで静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] が [しない] の場合、露出の平滑化は行いません。

3 [撮影開始] を選んで ボタンを押す

- 約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2で設定した [撮影時間] 内に、設定した [撮影間隔] で撮影を繰り返します。



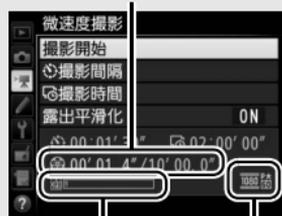
■■ 微速度撮影を終了するには

- 微速度撮影を終了するには、次の操作を行います。
 - 撮影待機中に動画撮影メニュー〔微速度撮影〕で〔終了〕を選び、**OK**ボタンを押す
 - 微速度撮影の待機状態や撮影直後の画像確認時に**OK**ボタンを押す
- 微速度撮影を終了すると、終了時点までの動画がメモリーカードに記録され、通常の撮影待機状態に戻ります。

📄 微速度撮影の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順2で設定する撮影時間を撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）が、記録コマ数（撮影回数）になります。
- 微速度撮影で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数 ÷ 動画撮影メニューの〔画像サイズ/フレームレート〕で選んだフレームレートで計算できます（例えば、〔画像サイズ/フレームレート〕が〔1920×1080 24p〕のときに記録コマ数が48コマの場合、記録される動画の長さは約2秒になります）。
- 最長20分の動画を記録できます。

記録時間/
最長記録時間



メモリーカード
使用状況

動画の画像サイズ/
フレームレート

✔ 微速度撮影についてのご注意

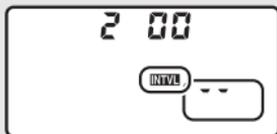
- 微速度撮影で撮影される静止画の画角は、動画撮影時と同じになります。画像サイズを3840×2160に設定している場合は、画角の目安としてファインダーに [撮像範囲設定] が [1.3×] のときの撮像範囲を示す枠 (□6) が表示されます。ライブビューで構図を確認してから撮影することをおすすめします。
- 微速度撮影時には、音声は記録されません。
- 実際の微速度撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、微速度撮影を開始できません。
 - 設定した [撮影時間] が [撮影間隔] より短い場合
 - [撮影時間] または [撮影間隔] が [00:00'00"] の場合
 - メモリーカードのメモリー残量がない場合
- AFモードが**AF-S**で、被写体にピントが合わないときは、その回の撮影をキャンセルし、次の回から撮影を再開します (撮影ごとにピントを合わせます)。
- 微速度撮影中は、▶ ボタンを押しても画像の再生はできません。MENU ボタンを押すと [微速度撮影] 画面が表示され、その他のメニューは選択できません。
- 微速度撮影をする場合、ホワイトバランスを **AUTO** (オート) 以外に設定すると色みを固定することができます (□151)。
- 微速度撮影中は、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] (□284) の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- シャッターボタンを全押しすると、微速度撮影を終了して静止画を撮影します。
- 微速度撮影中にカメラの設定を変更したり、カメラの操作を行ったり、HDMIケーブルを接続すると、撮影が終了することがあります。その場合はその時点までの動画を記録して微速度撮影を終了します。
- 次の場合は動画を記録せずに、微速度撮影が終了します (微速度撮影終了時の電子音は鳴りません)。
 - バッテリーやACアダプターを取り外したとき
 - メモリーカードを取り出したとき

✔ 撮影直後の画像確認について

微速度撮影中は、▶ ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニューの [撮影直後の画像確認] (□271) を [する] にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間画像モニターに表示されます (表示だけを行い、通常の再生時の操作は無効になります)。

📝 微速度撮影の待機状態について

- 微速度撮影の待機状態では、表示パネルに **INTVL** マークが点滅し、微速度撮影中マークが点灯します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部にその回の残りの撮影時間を表示します (時間、分)。
- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影時間を表示します。
- 待機状態で **MENU** ボタンを押すと、画像モニターの微速度撮影画面に撮影間隔と撮影時間、露出平滑化の設定が表示されます。また、**[終了]** を選んで微速度撮影を終了できます (☐71)。



📝 微速度撮影動画の記録先について

微速度撮影で撮影した動画は、動画撮影メニューの **[動画記録先]** (☐277) で選んだスロットに記録されます。

✔ 微速度撮影の制限について

微速度撮影は、次の機能とは同時に使用できません。

- ライブビュー撮影 (☐39)
- 動画撮影 (☐54)
- 長時間露出 (バルブまたはタイム) 撮影 (☐130)
- オートブラケティング撮影 (☐140)
- HDR (ハイダイナミックレンジ) (☐182)
- 多重露出撮影 (☐227)
- インターバルタイマー撮影 (☐232)

📝 レリーズモードについて

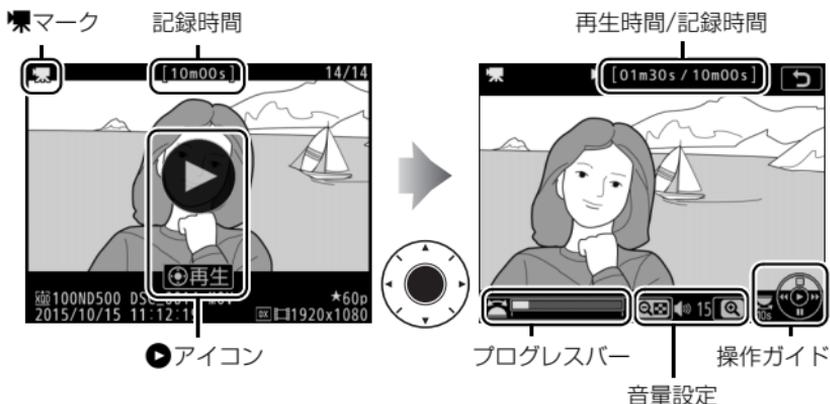
- レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに1コマ撮影します。
- ☺に設定していてもセルフタイマー撮影を行いません。

📝 関連ページ

微速度撮影終了時に電子音が鳴るようにする → 📌 **[電子音設定]** (☐294)

動画の再生

1コマ表示モード（□245）で●マークが表示されている画像が動画です。マルチセクターの**中央ボタン**を押すか、または画面上の**▶アイコン**をタッチして動画を再生します（プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます）。



■■動画再生中の操作方法

一時停止する		マルチセクターの◻を押すと一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中に中央ボタンを押すと動画再生を再開します。

巻き戻しする/ 早送りする		<ul style="list-style-type: none"> • 動画の再生中に  を押すと巻き戻し、 を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、巻き戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 •  を押し続けると、最初のコマに移動し、 を押し続けると、最後のコマに移動します。 • 先頭フレームには  アイコンが、最終フレームには  アイコンが、画面右上に表示されます。  
スロー再生する		一時停止中に  を押すとスロー再生します。
コマ戻しする/ コマ送りする		<ul style="list-style-type: none"> • 一時停止中に  または  を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 •  または  を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/ 10秒戻す		メインコマンドダイヤルを回すと、10秒前または後に移動します。
インデックス マークに移動する		動画記録時に設定したインデックスマークに移動するには、サブコマンドダイヤルを回します。サブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。
先頭フレームに 移動する/最終フ レームに移動する		動画にインデックスマークがない場合にサブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。
音量を調節する		 ボタンを押すと音量が大きくなり、  ボタンを押すと小さくなります。
動画を編集する		一時停止中に  または  ボタンを押すと、[動画編集] 画面を表示します (□77)。
再生終了		 または  ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。

撮影に戻る



シャッターボタンを半押しすると画像モニターが消灯し、すぐに撮影できます。

インデックスマーク

インデックスマークが設定された動画 (□56) の場合、1コマ表示画面に  マークが表示されます。



動画の編集

撮影した動画を編集できます。

🕒 始点/終点の設定

動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残します。

📁 選択フレームの保存

選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

動画の必要な部分を残す



1 1コマ表示モード (📖 245) で編集したい動画を表示する

2 切り取りたい位置で動画を一時停止する

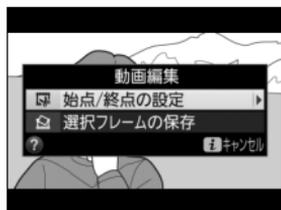
- マルチセレクターの**中央ボタン**を押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクターの**📍**を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- **📍**または**🎛**、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。



プログレスバー

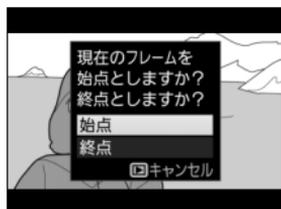
3 [始点/終点の設定] を選ぶ

- **i** または **OK** ボタンを押して、[始点/終点の設定] を選んで **▶** を押します。



4 始点を選ぶ

- [始点] を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ始点より後ろの部分が残ります。



5 手順4で選んだ位置を調整する

- **◀** または **▶** を押して、切り取りたい位置を調整します。
- メインコマンドダイヤルを回すと、10秒前または後に移動します。
- サブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。
- 動画記録時にインデックスマークを設定した場合 (□56) は、サブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。



6 残したい範囲の末尾の部分（終点）を選ぶ

- **OK (E/?)** ボタンを押して **▶ (終点)** に切り換え、手順5と同じ手順で **▶ (終点)** の位置を調整します。



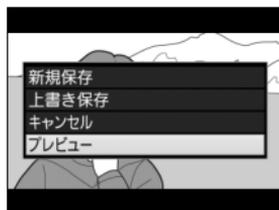
OK (E/?) ボタン



7 **⊙**を押して決定する

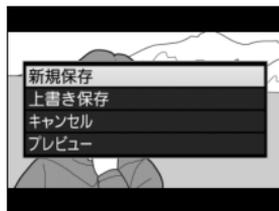
8 保存する動画を確認する

- [プレビュー] を選んで **OK** ボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます（プレビューを終了するには **⊙** を押します）。
- [キャンセル] を選んで **OK** ボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。



9 動画ファイルの保存方法を選ぶ

- [新規保存] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。[上書き保存] を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。



10 動画ファイルを保存する

- **OK** ボタンを押して決定します。

✔ 動画編集時のご注意

- メモリーカードに十分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [始点/終点の設定] では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

✎ 動画の前半または後半だけを残すには

- 動画の前半だけを残したい場合は、手順4で [終点] を選んで  ボタンを押してから、手順6では  ( / ?) ボタンを押さずに手順7に進みます。
- 動画の後半だけを残したい場合は、手順6で  ( / ?) ボタンを押さずに手順7に進みます。

✎ 画像編集メニュー [動画編集]

動画編集は、メニュー操作でも行えます (□302)。

動画の1フレームをJPEG画像として保存する

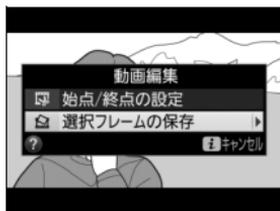
1 保存したい位置で動画を一時停止する

- 動画の再生中にマルチセレクターの \odot を押すと、一時停止します。



2 [選択フレームの保存] を選ぶ

- i または OK ボタンを押して、[選択フレームの保存] を選んで \triangleright を押します。



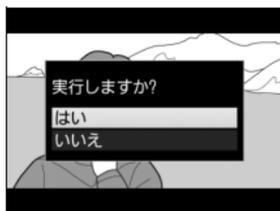
3 JPEG画像として保存したいフレームを決める

- 保存したいフレームを選んで \odot を押します。



4 JPEG画像を作成する

- [はい] を選んで OK ボタンを押すと、JPEGの画像として保存します。



[選択フレームの保存] で作成した画像について

- 画質モード [FINE★] (□□85) のJPEG画像を作成します。
- 画像編集はできません。
- 再生時の画像情報 (□□251) で表示されない項目があります。

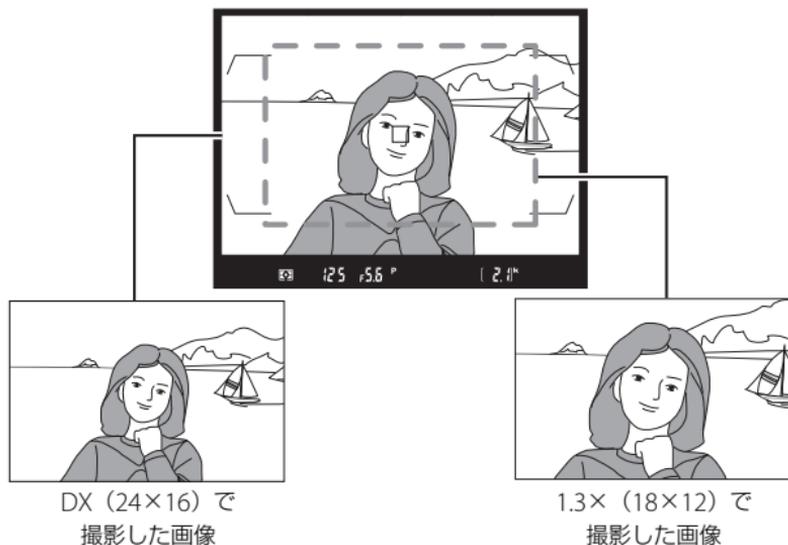
画像の記録

撮像範囲を変更する

撮像範囲を[DX(24×16)](DXフォーマット)または[1.3×(18×12)](対DX 1.3×クロップ)のいずれかに変更できます。

 DX (24×16)	23.5×15.7 mmの撮像範囲で画像を記録します (DXフォーマット)。
 1.3× (18×12)	18.0×12.0 mmで画像を記録します。撮像範囲が[DX(24×16)]の場合と比べ、記録する撮像範囲が狭くなり、レンズを交換しなくても望遠レンズで撮影したときと同様の効果があります。

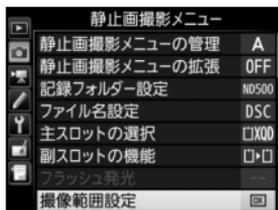
ファインダー表示



撮像範囲は、静止画撮影メニューの[撮像範囲設定]で設定するか、[撮像範囲選択]を割り当てたボタンとコマンドダイヤルで設定します(□84、273)。

■ 静止画撮影メニューの [撮像範囲設定] で設定する場合

- 1 静止画撮影メニューの [撮像範囲設定] を選んでマルチセレクターの  を押す



2 設定したい撮像範囲を選ぶ

- 設定したい撮像範囲を選んで、 ボタンを押します。
- 設定に応じた撮像範囲がファインダー内で確認できます。



撮像範囲が [1.3× (18×12)] のときの表示について

ファインダー撮影時、ファインダー内で撮像範囲を表す枠を右図のように表示します。また、ファインダー右上に  が表示されます。



対DX 1.3×クロップ

撮像範囲の表示について

撮像範囲は、インフォ画面に表示されます。

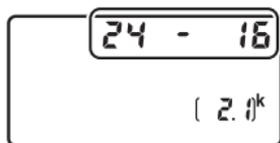


■ ボタンとコマンドダイヤルで設定する場合

1 カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (□289) で任意のボタンに [撮像範囲選択] を割り当てる

2 [撮像範囲選択] を割り当てたボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す

- 設定に応じた撮影範囲がファインダー内で確認できます (□83)。
- [撮像範囲選択] を割り当てたボタンを押すと、表示パネルやインフォ画面で撮像範囲の設定を確認できます。



撮像範囲	表示
DX (24×16)	24 - 16
1.3× (18×12)	18 - 12

🔍 撮像範囲を変更したときの画像サイズについて

同じ画像サイズでも、[撮像範囲設定] の設定により、撮影画像のピクセル数が変化します。

🔍 関連ページ

- 「動画撮影時の画角について」 (□63)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (□376)

画質モードを変更する

■■ 画質モードについて

画像を記録する際の画質モードを選びます。

画質モード	ファイル形式	内容	
RAW	NEF	撮像素子の生データを未現像の状態 で記録します。撮影時に設定した ホワイトバランスやコントラスト などを、撮影後に変更できます。	
RAW + FINE★/ RAW + FINE	NEF + JPEG	RAWとJPEG (FINE) の2種類 の画像を同時に記録します。	
RAW + NORMAL★/ RAW + NORMAL		RAWとJPEG (NORMAL) の2 種類の画像を同時に記録します。	
RAW + BASIC★/ RAW + BASIC		RAWとJPEG (BASIC) の2種類 の画像を同時に記録します。	
FINE★/FINE	高 ↑ 画質 ↓ 低	JPEG	画像データを約1/4に圧縮して 記録します (サイズ優先時)。
NORMAL★/ NORMAL			画像データを約1/8に圧縮して 記録します (サイズ優先時)。
BASIC★/ BASIC			画像データを約1/16に圧縮して 記録します (サイズ優先時)。
TIFF (RGB)	TIFF (RGB)	画像を8ビット非圧縮のTIFF-RGB 形式で記録します。多くの画像 アプリケーションで使用できます。	

📝 JPEG画像の圧縮方式について

JPEG画像は★の有無によって圧縮方式が異なります。

- ★がある項目は画質優先となり、画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。
- ★がない項目はサイズ優先となり、ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。

📝 関連ページ

「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」(□376)

■ 画質モードの設定方法

QUAL ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 画質モードは表示パネルに表示されます。



QUAL ボタン

メインコマンド
ダイヤル

表示パネル

🔪 RAW画像について

画像編集メニューの [RAW現像] (□301)、またはCapture NX-Dなどのソフトウェアを使うと、RAW画像を現像できます。

🔪 [画質モード] について

画質モードは静止画撮影メニュー (□273) でも設定できます。

🔪 RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モード [RAW + FINE ★]、[RAW + FINE]、[RAW + NORMAL ★]、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC ★]、[RAW + BASIC] で撮影したとき、カメラではJPEG画像のみを再生します。メモリーカードを1枚使用している場合、JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
- メモリーカードを1枚使用しているときや、メモリーカードを2枚使用しているも [副スロットの機能] (□90) が [順次記録] または [バックアップ記録] のときに画質モード [RAW + FINE ★]、[RAW + FINE]、[RAW + NORMAL ★]、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC ★]、[RAW + BASIC] で撮影した場合、RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
- [副スロットの機能] を [RAW+JPEG 分割記録] に設定してメモリーカードを2枚使用している場合は、画質モード [RAW + FINE ★]、[RAW + FINE]、[RAW + NORMAL ★]、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC ★]、[RAW + BASIC] で撮影すると、RAW画像が主スロットに、JPEG画像が副スロットに記録されます。RAW画像と同時記録されたJPEG画像を削除する場合は、それぞれのスロットから削除してください (□267)。

■■ RAW画像の圧縮方式を選ぶ

静止画撮影メニュー [RAW記録] で [圧縮方式] を選んで、RAW画像の記録時の圧縮方式を設定します。

ON  ロスレス 圧縮RAW	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。[非圧縮RAW]に対してファイルサイズが約60～80%になります。記録した画像は [非圧縮RAW] と同等の画質になります。
ON  圧縮RAW	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。[非圧縮RAW]に対してファイルサイズが約45～65%になります。非可逆圧縮ですが、記録した画像は [非圧縮RAW] とほぼ同等の画質になります。
非圧縮RAW	圧縮しないため、[ロスレス圧縮RAW] や [圧縮RAW] に比べ、ファイルサイズが大きくなります。

■■ RAW画像の記録ビット数を選ぶ

静止画撮影メニュー [RAW記録] で [記録ビットモード] を選んで、RAW画像の記録ビット数を設定します。

12-bit 12ビット記録	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit 14ビット記録	RAW画像を14ビットで記録します。[12ビット記録]の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは [12ビット記録] よりも大きくなります。

画像サイズを変更する

画像のサイズ（大きさ）は [サイズ L]、[サイズ M]、[サイズ S] のいずれかに設定できます。画像サイズは撮像範囲との組み合わせで変わります（□82）。

撮像範囲設定	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) ※
DX (24×16)	L (5568×3712ピクセル)	約47.1×31.4 cm
	M (4176×2784ピクセル)	約35.4×23.6 cm
	S (2784×1856ピクセル)	約23.6×15.7 cm
1.3× (18×12)	L (4272×2848ピクセル)	約36.2×24.1 cm
	M (3200×2136ピクセル)	約27.1×18.1 cm
	S (2128×1424ピクセル)	約18.0×12.1 cm

※ ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。

■■ 画像サイズの設定方法

QUAL ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

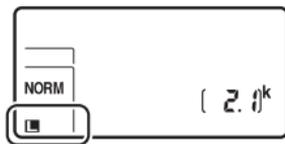
- 表示パネルに画像サイズが表示されます。
- RAW画像の画像サイズは静止画撮影メニュー **[画像サイズ]** の **[RAW]** で設定してください。



QUAL ボタン



サブコマンド
ダイヤル



表示パネル

📝 **[画像サイズ]** について

- JPEGまたはTIFFの画像サイズは、静止画撮影メニュー **[画像サイズ]** の **[JPEG/TIFF]** でも設定できます。
- RAW 画像の画像サイズが **[サイズ M]** または **[サイズ S]** の場合、**[RAW記録]** の **[圧縮方式]** (☐87) は **[ロスレス圧縮RAW]** に、**[記録ビットモード]** (☐87) は **[12ビット記録]** に固定されます。



2枚のメモリーカードに記録する (主スロットの選択、副スロットの機能)

このカメラは、XQDカードとSDカードを同時に使うことができます。このとき、優先的に使うスロット（主スロット）を選んだり、もう一方のスロット（副スロット）の機能を設定できます。

■ 優先的に使うスロットを決める

静止画撮影メニュー [主スロットの選択] を選んで、撮影時や再生時に優先的に使うスロットを設定します。

XQDスロット	XQDカードを優先的に使うときに選びます。
SDスロット	SDカードを優先的に使うときに選びます。

■ 副スロットの機能

静止画撮影メニュー [副スロットの機能] を選んで、副スロットへの記録方法を設定します。

 順次記録	主スロットから優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先を副スロットに変更します。
 バックアップ記録	バックアップ用として同じ画像を主スロット、副スロットに記録します。
 RAW+JPEG分割記録	<ul style="list-style-type: none">• [画質モード] が [RAW+FINE★]、[RAW+FINE]、[RAW+NORMAL★]、[RAW+NORMAL]、[RAW+BASIC★]、または [RAW+BASIC] の場合、主スロットにRAW画像、副スロットにJPEG画像を記録します。• その他の画質モードの場合は、同じ画像を主スロットと副スロットの両方に記録します。

【バックアップ記録】 と 【RAW+JPEG分割記録】 について

- 表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数には、記録可能コマ数が少ないスロットのコマ数を表示します。
- どちらか一方のスロットの空き容量がなくなると、シャッターがきれなくなります。

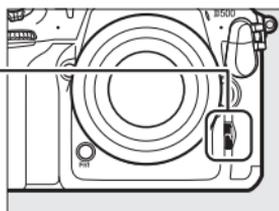
動画を記録するスロットについて

動画撮影メニューの [動画記録先] で、記録するスロットを設定できます (□□277)。

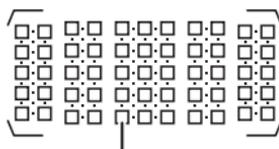
フォーカス

オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセレクターをフォーカスモード
AFに合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、ファインダーを見ながら撮影するときの、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。



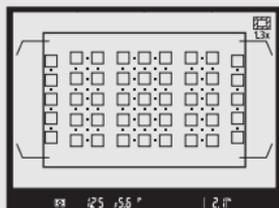
- このカメラは、153点のフォーカスポイントを使用してピントを合わせます。そのうちの55点（右図で□で表示されているポイント）は自分で選ぶことができます（□102）。



選択可能な
フォーカスポイント

[撮像範囲設定] が [1.3× (18×12)] のときのフォーカスポイントについて

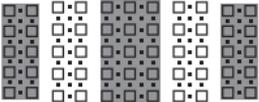
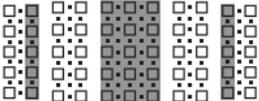
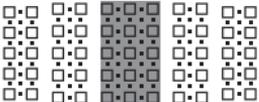
[撮像範囲設定] (□82) が [1.3× (18×12)] の場合、左右両端を除く117点のフォーカスポイントを使用してピントを合わせます。自分で選ぶことができるポイントは45点です (□102)。



[1.3× (18×12)] に
設定したときのフォーカス
ポイント

🔪 クロスセンサーについて

使用できるフォーカスポイントのうち、クロスセンサーを使用するポイントは装着しているレンズによって異なります。

装着するレンズ	クロスセンサー※2、3 (グレーのエリア内にあるフォーカスポイント)
<p>下記のレンズを除く開放絞り値※1がF4以上明るいAF-Sレンズ</p>	 <ul style="list-style-type: none"> クロスセンサー 99点
<ul style="list-style-type: none"> AF-S DX Zoom-Nikkor 12-24mm f/4G IF-ED AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G ED AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR AF-S NIKKOR 600mm f/4E FL ED VR AF-S Nikkor 600mm f/4D IF-ED II AF-S Nikkor 600mm f/4D IF-ED 	 <ul style="list-style-type: none"> クロスセンサー 63点
<ul style="list-style-type: none"> AF-S NIKKOR 200-400mm f/4G ED VR II AF-S VR Zoom-Nikkor 200-400mm f/4G IF-ED AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR AF-S Nikkor 500mm f/4D IF-ED II AF-S Nikkor 500mm f/4D IF-ED 開放絞り値※1がF4より暗いAF-Sレンズ AF-Sレンズを除くその他のレンズ 	 <ul style="list-style-type: none"> クロスセンサー 45点

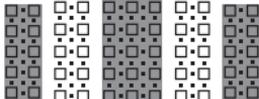
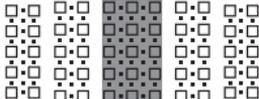
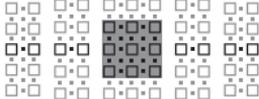
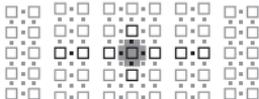
※1 ズームレンズの場合は最も望遠側の開放絞り値。

※2 クロスセンサー以外のポイントは、ラインセンサーで横線を検出します。

※3 [撮像範囲設定] (□273) が [1.3× (18×12)] の場合、左右両端を除くフォーカスポイントを使用してピントを合わせます (□91)。

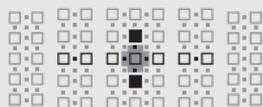
AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて

AF-S/AF-Iテレコンバーターを使用する場合、オートフォーカスとフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです（合成絞り値がF5.6より暗い場合は、コントラストの低い被写体や輝度の低い被写体の撮影時にピン트가合わないことがあります）。

使用する テレコンバーター	装着する レンズの 開放絞り値※1	使用可能なフォーカスポイント (グレーのエリア内にある フォーカスポイントは クロスセンサー※2)
TC-14E/TC-14E II/ TC-14E III TC-17EII TC-20E/TC-20E II/ TC-20E III	F2	 <ul style="list-style-type: none"> • 153点（選択可能ポイント55点） • クロスセンサー 99点
TC-14E/TC-14E II/ TC-14E III	F2.8	<ul style="list-style-type: none"> • クロスセンサー 99点
TC-17EII TC-20E/TC-20E II/ TC-20E III	F2.8	 <ul style="list-style-type: none"> • 153点（選択可能ポイント55点） • クロスセンサー 45点
TC-14E/TC-14E II/ TC-14E III	F4	<ul style="list-style-type: none"> • 153点（選択可能ポイント55点） • クロスセンサー 45点
TC-17EII	F4	 <ul style="list-style-type: none"> • 153点（選択可能ポイント55点） • クロスセンサー 45点
TC-800-1.25E ED	F5.6	<ul style="list-style-type: none"> • 37点（選択可能ポイント17点） • クロスセンサー 25点
TC-20E/TC-20E II/ TC-20E III	F4	 <ul style="list-style-type: none"> • 153点（選択可能ポイント55点） • クロスセンサー 45点
TC-14E/TC-14E II/ TC-14E III	F5.6	<ul style="list-style-type: none"> • 15点（選択可能ポイント9点） • クロスセンサー 5点

※1 ズームレンズの場合は最も望遠側の開放絞り値。

※2 クロスセンサー以外のポイントは、ラインセンサーで横線を検出します。ただし、クロスセンサー5点の場合、右図の■のポイントのみ縦線を検出します。



- AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDをお使いの場合、オートフォーカス撮影はできません。

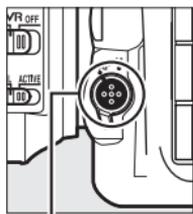
AFモードを変更する

AF-S シングル AFサーボ	静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。 <ul style="list-style-type: none">• 初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです (□281)。
AF-C コンティニュアス AFサーボ	ファインダー内のピント表示 (●) がいったん点灯してもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス (□96) に切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。 <ul style="list-style-type: none">• 初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるリリース優先モードです (□281)。

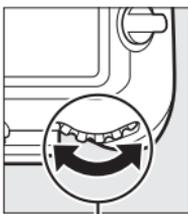
■■ AFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

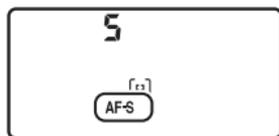
• AFモードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



AFモードボタン



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル



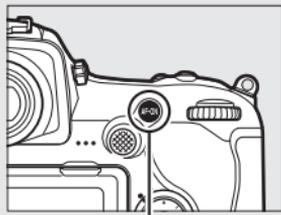
ファインダー内表示

🔗 関連ページ

- AF-Cをフォーカス優先モードにする → 🖋 a1 [AF-Cモード時の優先] (□281)
- AF-Sをリリース優先モードにする → 🖋 a2 [AF-Sモード時の優先] (□281)
- シャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動しないようにする → 🖋 a8 [半押しAFレンズ駆動] (□282)
- AFモードを [AF-S] または [AF-C] に固定する → 🖋 a10 [AFモードの制限] (□282)
- サブコマンドダイヤルでAFモードを切り換えられるようにする → 🖋 f4 [コマンドダイヤルの設定] の [メインとサブの入れ換え] (□290)
- ライブビュー / 動画撮影時の AF モードを設定する → 「AF モードを変更する」 (□42)

🔗 AF-ON ボタンについて

AF-ON ボタンを押すと、カメラが自動的に被写体にピントを合わせます。



AF-ON ボタン

🔗 予測駆動フォーカスについて

ファインダー撮影時のAFモードがAF-Cのときに、シャッターボタンを半押しするか、AF-ON ボタンを押してピントを合わせる場合、被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがきれる時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

AFエリアモードを変更する

AFエリアモード	内容
シングル ポイントAF	フォーカスポイントを自分で選べます (□102)。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。静止している被写体の撮影に適しています。
ダイナミックAF・ 25点	AFモードの AF-C (□95) との組み合わせで、撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。
ダイナミックAF・ 72点	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイナミックAF・25点：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体を捉えやすい撮影に適しています (例：陸上競技やモータースポーツ)。
ダイナミックAF・ 153点	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイナミックAF・72点：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています (例：フィールドスポーツ)。 ● ダイナミックAF・153点：被写体の動きが速く、選んだフォーカスポイントで被写体を捉えにくい場合の撮影に適しています (例：野鳥撮影)。*
3D-トラッキング	<p>AFモードのAF-C (□95) との組み合わせで、153点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾する3D-トラッキングになります。* 選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています (例：テニス)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度フォーカスポイントで被写体にピントを合わせてください。



AFエリアモード	内容
グループエリア AF	<p>撮影者が選んだフォーカスポイント（グループ）を使ってピント合わせをします。広い範囲で被写体を捉えるため、誤って背景にピントが合ってしまうことが起こりにくくなります。1つのフォーカスポイントでは捉えにくい被写体を撮影する場合に適しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> AFモードがAF-Sのときは、人物の顔を認識します。その場合は、認識した顔を優先してピントを合わせます。
オートエリアAF	<p>カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます。</p> <ul style="list-style-type: none"> AFモードがAF-Sのときは、ピントが合った複数のフォーカスポイントを一瞬表示します。AF-Cのときは、使用するフォーカスポイント1点を表示します。

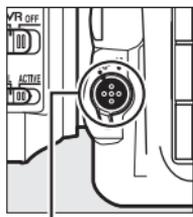


※ [撮像範囲設定] (□82) が [1.3× (18×12)] のときは、左右両端を除く117点のフォーカスポイントを使用してピントを合わせます (□91)。

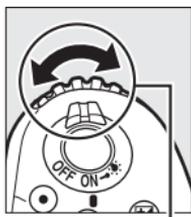
■■ AFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

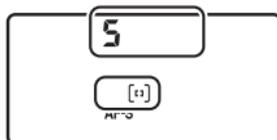
- AFエリアモードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



AFモードボタン



サブコマンド
ダイヤル



表示パネル



ファインダー内表示

🔪 3D-トラッキングについて

3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選んだフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

🔪 マニュアルフォーカス時のAFエリアモードについて

AFエリアモードは自動的にシングルポイントAFになります。

AFエリアモードの表示について

表示パネルおよびファインダー内表示の各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード	表示パネル	ファインダー内表示	ファインダー内表示 (撮影時)
シングルポイントAF	S	S	
ダイナミックAF・25点*	d 25	d 25	
ダイナミックAF・72点*	d 72	d 72	
ダイナミックAF・153点*	d 153	d 153	
3D-トラッキング	3d	3d	
グループエリアAF	GrP	GrP	
オートエリアAF	Auto	Auto	

* 実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。
ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。

AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のAFエリアモードについて

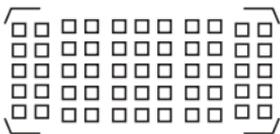
AF-S/AF-Iテレコンバーターを使用して合成絞りがF5.6より暗い場合、AFエリアモードを3D-トラッキングまたはオートエリアAFに設定していても、シングルポイントAFに変更されます。

関連ページ

- AFロックオンを設定する →  a3 [AFロックオン] (□281)
- 3D-トラッキング時に顔認識するかどうかを設定する →  a4 [3D-トラッキングの顔認識] (□281)
- 3D-トラッキング時に追尾する被写体の範囲を設定する →  a5 [3D-トラッキングの捕捉領域] (□281)
- カメラの縦位置と横位置で個別にフォーカスポイントやAFエリアモードを設定する →  a7 [縦/横位置フォーカス切換] (□282)
- 使用するAFエリアモードを限定する →  a9 [AFエリアモードの限定] (□282)
- フォーカスポイントの表示の設定を変更する →  a12 [フォーカスポイント表示の設定] (□283)
- メインコマンドダイヤルでAFエリアモードを切り換えられるようにする →  f4 [コマンドダイヤルの設定] の [メインとサブの入れ換え] (□290)
- ライブビュー/動画撮影時のAFエリアモードを設定する → 「AFエリアモードを変更する」(□43)

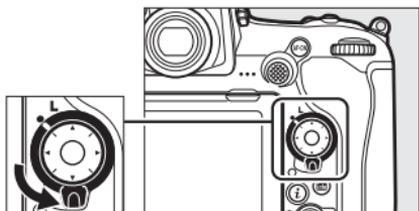
フォーカスポイントを自分で選ぶ

153点のフォーカスポイントのうち、55点を自分で選べます。[撮像範囲設定] (□82) が [1.3× (18×12)] のときは、117点のフォーカスポイントのうち45点が選べます。フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変わります。



1 フォーカスポイントロックレバーのロックを解除する

- フォーカスポイントロックレバーを回して●に合わせ、ロックを解除すると、マルチセレクターでフォーカスポイントを選べるようになります。



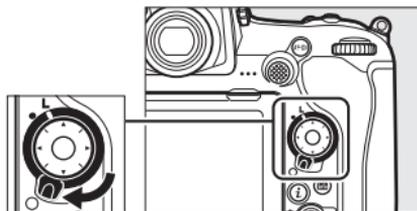
フォーカスポイント
ロックレバー

2 半押しタイマーがオンのときに、ファインダーをのぞきながらマルチセレクターでフォーカスポイントを選ぶ

- ファインダー内で、フォーカスポイントが移動します。
- 中央ボタンを押すと、中央部のフォーカスポイントが選ばれます。



- フォーカスポイントロックレバーをLの位置に回すと、フォーカスポイントをロック（固定）します。

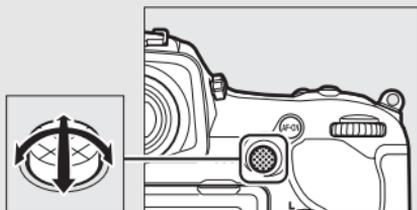


✓ オートエリアAFモードについて

AFエリアモードがオートエリアAFの場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に決めるため、自分ではフォーカスポイントを選べません。

✍ サブセレクターについて

- サブセレクターは、中央を押す操作に加え、右の図のように上下左右に倒して操作することもできます。側面から押すと、正しく動作しないことがあります。
- マルチセレクターの代わりにサブセレクターを上下左右に倒してフォーカスポイントを選ぶこともできます。



サブセレクター

- サブセレクターの中央を押している間、AEロック（□135）とフォーカスロック（□105）を同時に行います。
- サブセレクターを操作するときには、爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

関連ページ

- マルチセレクターで選べるフォーカスポイントの数を变える →  a6 [AF点数切り換え] (□282)
- カメラの縦位置と横位置で個別にフォーカスポイントや AF エリアモードを設定する →  a7 [縦/横位置フォーカス切換] (□282)
- フォーカスポイントの選択を循環方式にする →  a11 [フォーカスポイント循環選択] (□282)
- フォーカスポイントの点灯に関する設定を变更する →  a12 [フォーカスポイント表示の設定] (□283)
- サブセレクターを上下左右に倒したときの機能を変更する →  f1 [カスタムボタンの機能] の [サブセレクター] (□289)
- サブセレクターの中央を押したときの機能を変更する →  f1 [カスタムボタンの機能] の [サブセレクター中央] (□289)
- マルチセレクターの中央ボタンを押したときの機能を変更する →  f2 [中央ボタンの機能] (□289)

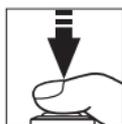
ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体（□107）を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（□97）をオートエリアAF以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。



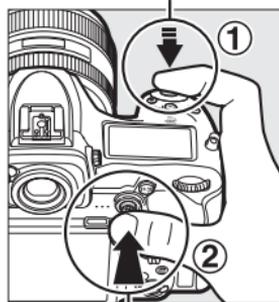
2 ピントを固定する

AFモード（□95）がAF-Cのとき

シャッターボタンを半押ししたまま（①）、サブセレクターの中央を押すと（②）、ピントが固定されます。サブセレクターの中央を押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントと露出が固定されます。

- サブセレクターの中央を押している間、ファインダー内にはAE-Lマークが点灯します。

シャッターボタン



サブセレクター



AFモードがAF-Sのとき

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。サブセレクターの中央を押してピントを固定することもできます。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する

- 被写体との距離は変えないでください。フォーカス



ロック後に被写体との距離が変化した場合は、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。

🔪 シャッターボタンの半押しで露出を固定するには

カスタムメニュー c1 [シャッターボタンAEロック] を [する (半押し)] に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます (□284)。

🔪 ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- サブセレクターの中央を押してフォーカスロックを行った場合は、サブセレクターの中央を押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

🔪 AF-ON ボタンを使ったフォーカスロックについて

- シャッターボタンの代わりにAF-ON ボタンを押してピントを合わせることもできます (□96)。
- ファインダー撮影時にカスタムメニュー a8 [半押しAFレンズ駆動] (□282) が [しない] に設定されている場合は、AF-ON ボタンを押したときだけピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。このとき、AF-ON ボタンでピントを合わせた後でAF-ON ボタンから指を放してもフォーカスロックの状態を維持します。フォーカスロックを解除してピントを合わせ直すには、もう一度AF-ON ボタンを押してください。

❏ オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示(●)が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス(□108)でピントを合わせるか、フォーカスロック(□105)を利用してください。



被写体の明暗差がはっきりしない場合

(白壁や背景と同色の服を着ている人物など)



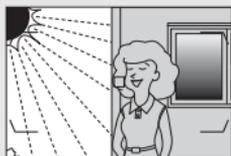
フォーカスポイント内に遠くのものと同近のものが混在する被写体

(オリの中の動物など)



連続した繰り返しパターンの被写体

(ビルの窓やブラインドなど)



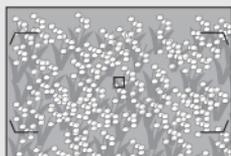
被写体の明暗差が極端に異なる場合

(太陽を背景にした日陰の人物など)



背景に対して被写体が小さい場合

(遠くの建物を背景に近く的人物を撮影する場合など)



絵柄が細かい場合

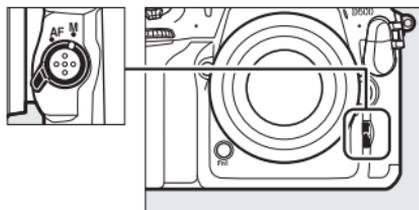
(一面の花畑など)

マニュアルフォーカスで撮影する

使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。

- **AFレンズを使用している場合：** フォーカスモードセレクト

カメラのフォーカスモードセレクトクターを**M**にしてください。レンズにフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードも**M**にしてください。



- AF-S レンズを使用している場

合は、レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。カメラのフォーカスモードセレクトクターを切り換える必要はありません。

- **マニュアルフォーカスレンズを使用する場合：** マニュアルフォーカスレンズを使用すると、常にマニュアルフォーカスで撮影できます。

ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。



☑ AF-Sレンズ以外のAFレンズでマニュアルフォーカスをする場合の ご注意

必ずカメラのフォーカスモードセレクトクターを**M**にしてください。フォーカスモードセレクトクターが**AF**のままマニュアルフォーカスをする、カメラやレンズの故障の原因になります。

■ フォーカスイドによるピント合わせ

マニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示 (●) でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは55カ所〔**撮像範囲設定**〕(□82)が**[1.3× (18×12)]** のときは45カ所) から選べます。



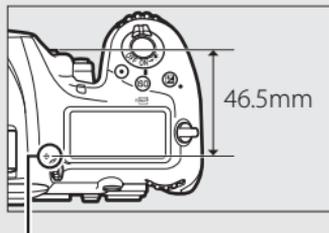
- ピントが合うとピント表示 (●) が表示されます (□35)。
- オートフォーカスの苦手な被写体 (□107) では、ピントが合っていないくてもピント表示 (●) が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。
- 別売の AF-S/AF-I テレコンバーターを装着した場合のフォーカスイドが可能なフォーカスポイントについては、「AF-S/AF-I テレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて」(□93) をご覧ください。

🔪 AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR、AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G使用時のマニュアルフォーカスについて

AF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VRまたはAF-P DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6Gを使ってマニュアルフォーカスでピントを合わせるときに、ファインダー内のピント表示が点滅した場合、それ以上同じ方向にフォーカスリングを回しても、ピントは合いません (ライブビュー撮影時には、画像モニターのフォーカスポイントが点滅します)。

🔪 距離基準マークについて

距離基準マーク ⊕ は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面 (レンズマウント: □3) から撮像面までの寸法 (フランジバック) は46.5mmです。



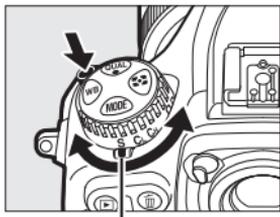
距離基準マーク ⊕

リリースモード

1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、リリースモードを変更する

リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、リリースモードダイヤルを回すと、シャッターをきる（リリースする）ときの動作を設定できます。

- リリースモードのアイコンをリリースモードダイヤル指標に合わせてください。



リリースモードダイヤル
指標

リリースモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約1～9コマ/秒*で連続撮影できます。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約10コマ/秒で連続撮影します。動きのある被写体などに使用すると便利です。
Q 静音撮影	1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。静音撮影では、シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。シャッターボタンを半押し状態に戻すとミラーダウンするため、ミラーダウン音のタイミングを遅らせることができます。また、ミラーダウンする音も1コマ撮影に比べ静かです。 • 静音撮影時には、セットアップメニュー [電子音設定] (□294) の設定にかかわらず、電子音も鳴りません。
QC 静音連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、約3コマ/秒で連続静音撮影します。
 セルフタイマー撮影	セルフタイマー撮影ができます (□113)。

リリースモード	内容
MUP ミラーアップ撮影	カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます (□115)。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。

※ カスタムメニュー d1 [低速連続撮影速度] (□285) で設定した連続撮影速度になります。

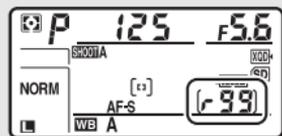
🔪 連続撮影速度について

連続撮影速度は、AFモードが**AF-C**、露出モードが**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピード、電源がEN-EL15で、その他が初期設定のときの値です。次の場合などは連続撮影速度が遅くなることがあります。

- シャッタースピードが低速の場合
- 感度自動制御を [する] にして感度が自動制御されているとき (□118)
- ISO感度を高感度 (Hi 0.3~Hi 5) に設定している場合
- 静止画撮影メニュー [フリッカー低減] の [フリッカー低減機能] が [有効] のときに、フリッカーが検出されている場合 (□276)
- レンズの絞りを著しく絞り込んだ場合
- VRレンズ使用時にレンズの手ブレ補正機能をONにしたとき
- バッテリー残量が少なくなるとき
- 一部のレンズを使用したとき
- 非CPUレンズ装着時およびカスタムメニュー f4 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定した場合 (□290)

🔪 連続撮影可能コマ数について

- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が表示パネルとファインダー内に表示されます。右図の場合、最低99コマ続けて撮影できることを示しています。
- ただし、「r 99」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。



▼ 連続撮影についてのご注意

- メモリーカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度メモリーカードアクセスランプが点灯します。メモリーカードアクセスランプの点灯中にカメラからメモリーカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとメモリーカードに不具合が生じるおそれがあります。
- メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。

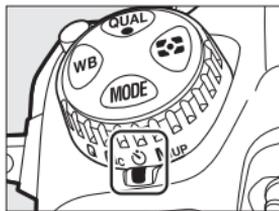
✎ 関連ページ

- 連続撮影した画像を最初のコマから再生するか最後のコマから再生するかを設定する →  **[連続撮影後の再生画像]** (□271)
- 連続撮影時に撮影コマ数を制限する →  d2 **[連続撮影コマ数]** (□285)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (□376)

セルフタイマーを使って撮影する (☺)

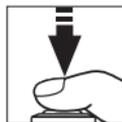
1 レリーズモードダイヤルを☺ (セルフタイマー撮影) に合わせる

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、☺に合わせます。



2 構図を決め、ピントを合わせる

- AFモードが**AF-S**でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。



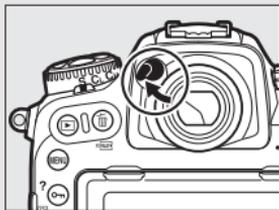
3 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- レリーズモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーは解除されます。



🔍 ファインダーから顔を離して撮影するとき

ファインダーから顔を離して撮影するとき、ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。



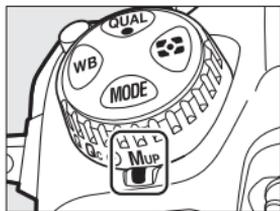
関連ページ

- セルフタイマーの作動時間、撮影コマ数、撮影間隔を設定する →  c3 [セルフタイマー] (□285)
- セルフタイマー撮影時の電子音を設定する →  [電子音設定] (□294)

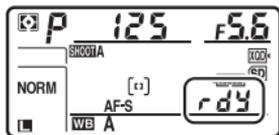
ミラーアップして撮影する (MUP)

ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

- リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、リリースモードダイヤルを**MUP** (ミラーアップ撮影) に合わせます。



- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせた後、全押しするとミラーアップします。ミラーアップ時は表示パネルに「rdy」が表示されます。



- もう一度シャッターボタンを全押しすると撮影できます。

✓ ミラーアップ中のご注意

- ファインダーで構図を確認できません。
- オートフォーカスと測光は使えません。

✍ ミラーアップ撮影について

- 三脚の利用をおすすめします。
- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押ししてください。
- 撮影が終了すると、ミラーダウンします。
- ミラーアップ開始後約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。
- ライブビュー撮影時は、シャッターボタンを一度全押しするだけで撮影できます。

✍ ミラーアップ撮影時の電子音について

セットアップメニュー [電子音設定] (□294) の [音量] を [電子音なし] 以外に設定しているときは、ミラーアップ後のシャッターボタン全押しのときに電子音が鳴ります。

✍ 関連ページ

電子先幕シャッターを使ってさらにカメラブレを低減する →  d6 [電子先幕シャッター] (□286)

ISO感度

ISO感度を変更する

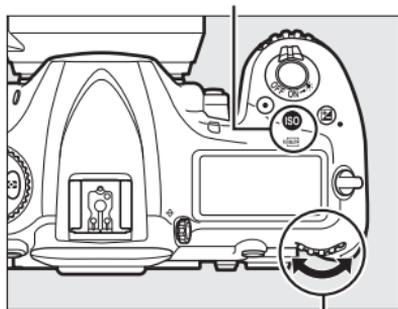
撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。ISO感度はISO 100～51200の間で1/3段ステップで設定できます。また、ISO 100から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 51200から約0.3段～約5段の範囲での増感ができます。

■ ISO感度の設定方法

ISO (FORMAT) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- ISO感度は、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。

ISO (FORMAT) ボタン



メインコマンドダイヤル



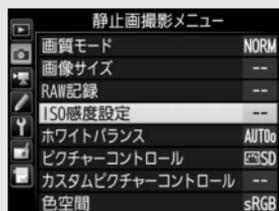
表示パネル



ファインダー内表示

[ISO感度] について

ISO感度は静止画撮影メニュー (□272) の [ISO感度設定] でも設定できます。



ISO感度を高く設定した場合

ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

高感度 (Hi 0.3~Hi 5) に設定した場合

ISO感度を [Hi 0.3] に設定すると、ISO 51200 に対して約0.3段分増感し (ISO 64000相当)、[Hi 5] では約5段分の増感になります (ISO 1640000相当)。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。

低感度 (Lo 0.3~Lo 1) に設定した場合

ISO感度を [Lo 0.3] に設定すると、ISO 100 に対して約0.3段分減感します (ISO 80相当)。**[Lo 1]** では約1段分の減感になります (ISO 50相当)。明るい場所で絞りを開きたい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、やや硬調な仕上がりになりますので、通常の撮影では **[100]** 以上をお使いください。

関連ページ

- ISO感度の設定ステップ幅を変更する →  b1 [ISO感度設定ステップ幅] (□283)
- 表示パネルやファインダーにISO感度を表示する →  d3 [ISO感度表示] (□285)
- 高感度撮影時のノイズを低減する →   [高感度ノイズ低減] (□275、279)

感度自動制御機能を使う

感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

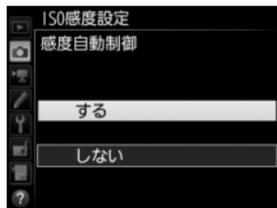
■ 感度自動制御の設定方法

- 1 静止画撮影メニューの [ISO感度設定] で [感度自動制御] を選んでマルチセレクターの  を押す



- 2 [する] を選ぶ

- [する] を選んで  ボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。
- [しない] を選ぶと、[ISO感度] で設定したISO感度に固定されます。



3 感度の制御方法を設定する

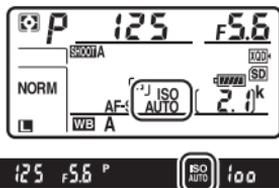
- カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。



制御上限感度	感度自動制御するときISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 5）を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
使用時の制御上限感度	別売スピードライト（□□317）を使用した場合の上限感度（200～Hi 5）を設定できます。[フラッシュなしの設定と同じ]を選ぶと、[制限上限感度]と同じ設定になります。
低速限界設定	露出モードPまたはAで感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを1/4000～30秒から設定できます。また、[オート]に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。例えば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が自動的に高速側に設定され、ブレを軽減できます。 <ul style="list-style-type: none">• [オート]を選んで\odotを押すと、補正値の設定画面が表示されます。低速限界をカメラが自動で設定するとき、より高速側または低速側になるように調整できます。• ISO感度を上欄の[制御上限感度]まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

- \odot ボタンを押して設定します。

[感度自動制御] を [する] にすると、表示パネルとファインダー内表示に、右のように表示されます。ISO-AUTO表示が点灯している場合は、[ISO感度] で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されるとISO-AUTO表示が点滅し、制御されたISO感度が表示されます。



🔍 感度自動制御の設定について

ISO (🔍) ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、感度自動制御のオンとオフが切り替わり、表示パネルとファインダー内表示の感度自動制御アイコンもISO-AUTO (感度自動制御する) とISO (感度自動制御しない) に切り替わります (🔍118)。



✔ 感度自動制御についてのご注意

- [制御上限感度] で設定したISO感度よりも [ISO感度] (🔍116) で設定したISO感度が高い場合、[ISO感度] で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- フラッシュ撮影時のシャッタースピードはカスタムメニューe1 [フラッシュ撮影同調速度] (🔍287) とe2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] (🔍288) で設定した範囲内に制限されます。[低速限界設定] のシャッタースピードをこの範囲外に設定した場合は、シャッタースピードの下限はe2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] で設定したシャッタースピードに制限されます。
- レンズ情報を登録していない非CPUレンズ使用時は、低速限界設定が1/30秒に固定されます。
- 別売スピードライトの装着時にフラッシュモードをスローシンクロに設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります (🔍187、192)。

🔍 関連ページ

フラッシュ撮影時に感度自動制御する場合の、露出を合わせる対象を設定する
→ 🔍 e4 [📷使用時の感度自動制御] (🔍288)

測光・露出

測光モードを設定する

適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。

 マルチパターン 測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
 中央部重点 測光	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 <ul style="list-style-type: none">露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。測光範囲はカスタムメニュー b6 [中央部重点測光範囲] (□□284) で変更できますが、非CPUレンズ使用時は $\phi 8\text{mm}$ 相当になります。
 スポット 測光	フォーカスポイントに重なる $\phi 3.5\text{mm}$ 相当（全画面の約2.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 <ul style="list-style-type: none">測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし、AFエリアモード (□□97) がオートエリアAFのときや、非CPUレンズ使用時は、中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。
 ハイライト重点 測光	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

■ 測光モードの設定方法

📷 ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 測光モードは、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



🔪 マルチパターン測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがマルチパターン測光のときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

● CPUレンズ

- [3D-RGB マルチパターン測光Ⅲ]：G、EまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
- [RGB マルチパターン測光Ⅲ]：G、EまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。

● 非CPUレンズ

- セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (□239) でレンズ情報を設定すると、「RGB マルチパターン測光」になります。レンズ情報を設定しない場合は、中央部重点測光になります。

🔪 ハイライト重点測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがハイライト重点測光のときは、一部のCPUレンズ（G、E、Dタイプ以外のAFレンズ、AI-Pニッコールレンズ）または非CPUレンズを使用すると、自動的に中央部重点測光に変更されます (□310)。

🔪 関連ページ

- マルチパターン測光時に顔検出をするかどうかを設定する → 🔪 b5 [マルチパターン測光] (□284)
- 中央部重点測光の測光範囲を変更する → 🔪 b6 [中央部重点測光範囲] (□284)
- 測光モードごとに適正露出の基準を決める → 🔪 b7 [基準露出レベルの調節] (□284)

シャッタースピードや絞り値で露出を設定する（露出モード）

MODE ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出モードを設定できます。

- 表示パネルの露出モードのアイコンが切り替わります。



P プログラムオート (☞124)	シャッターチャンス逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先オート (☞125)	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート (☞126)	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル (☞128)	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

☑ 使用レンズについてのご注意

- CPUレンズ（G タイプ、Eタイプレンズを除く）の絞りリング（☞313）は、必ず最小絞り（一番大きい数値）にセットしてください。
- 露出モードが**P**または**S**のときに非CPUレンズ（☞313）を装着すると、露出モードを自動的に**A**に切り換えて制御します。このとき、表示パネルの**P**または**S**が点滅して警告し、ファインダー内表示に**A**が点灯します。

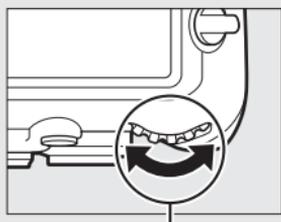
P (プログラムオート)

被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

プログラムシフトについて

露出モード**P**では、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、半押しタイマーがオンのときに次の方法で「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク*が点灯します。

- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク*が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにした後、他の露出モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。



メインコマンド
ダイヤル

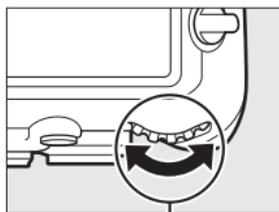
関連ページ

「ファインダー撮影時の半押しタイマーについて」(P38)

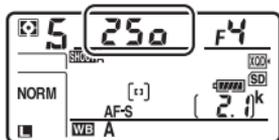
S (シャッター優先オート)

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードは、半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回して設定します。

- シャッタースピードは1/8000 (8000) ~ 30秒 (30'')、x 250に設定できます。
- 設定したシャッタースピードはロックできません (□133)。



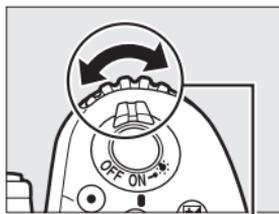
メインコマンド
ダイヤル



A (絞り優先オート)

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞り値を設定するには、半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルを回します。

- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定した絞り値はロックできます (□133)。



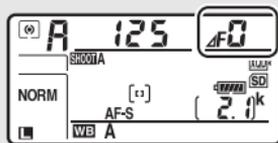
サブコマンドダイヤル



非CPUレンズを取り付けた場合

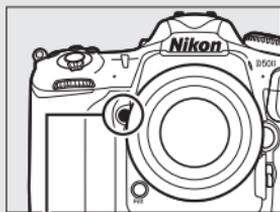
非CPUレンズを装着してセットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (□239) でレンズの開放絞り値 (開放F値) を設定した場合は、表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

- 開放絞り値を設定しない場合は、表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示 (ΔF、開放絞りはΔF0) となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。



被写界深度のプレビュー

Pvボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。別売のニコンクリエイティブライティングシステム（□317）対応スピードライト使用時は、モデリング発光をします（□320）。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニューe5 [モデリング発光] を [しない] に設定してください（□288）。



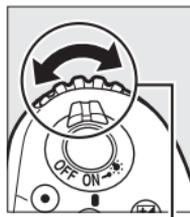
Pvボタン

M (マニュアル)

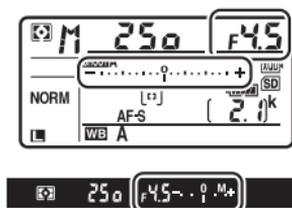
シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影、□□130）で撮影する場合には、この露出モードを使います。半押しタイマーがオンのときに、露出インジケータを確認しながら、コマンドダイヤルを回してシャッタースピードと絞り値を設定します。

- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは、1/8000（8000）～30秒（30''）およびbulb（バルブ）、--（タイム）、x 250に設定できます。
- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定したシャッタースピードと絞り値はロックできます（□□133）。

絞り値の
設定



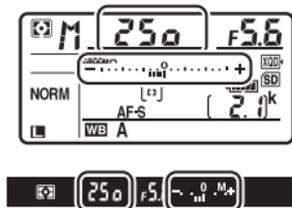
サブコマンドダイヤル



シャッター
スピードの
設定



メインコマンドダイヤル



🔍 AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞り値をサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

🔍 露出インジケータについて

自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、表示パネルとファインダー内表示に表示されます。この「露出インジケータ」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニュー b2 [露出設定ステップ幅] (□283) の設定によって変化します）。

	【露出設定ステップ幅】が【1/3段】のとき		
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	3 1/3段以上 オーバーの場合
表示パネル	-.....+	-.....+	-.....+
ファインダー 内表示	- . 0 . +	- . 0 . +	- . 0 . +

🔍 露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合や、ライブビューでの露出制御範囲を超えた場合には、露出インジケータが点滅して警告します。

🔍 関連ページ

インジケータ表示の+/-方向を変更する → 🖋️ f7 [インジケータの+/-方向] (□290)

長時間露出で撮影する (露出モードMのみ)

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



シャッタースピードを35秒、
絞り値をF25にして撮影した場合の画像

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押しとシャッターが閉じます。

- 長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚、別売のワイヤレスリモートコントローラー (□324)、リモートコード (□325) が必要です。

1 三脚などを使ってカメラを固定する

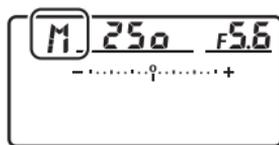
2 MODE ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルにMを表示させる



MODE ボタン



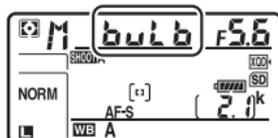
メインコマンド
ダイヤル



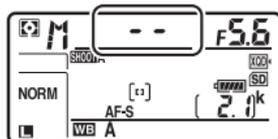
表示パネル

3 半押しタイマーがオンのときに メインコマンドダイヤルを回し、 シャッタースピードを**bulb** (バルブ) または**--** (タイム) にする

- シャッタースピードを**bulb**または**--**に設定すると、露出インジケータは表示されません。



バルブ撮影



タイム撮影

4 ピントを合わせて、長時間露出撮影を開始する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。シャッターボタンは押し続けてください。

タイム撮影：

- シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、長時間露出撮影を開始します。

5 長時間露出撮影を終了する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを放すと、長時間露出撮影は終了します。

タイム撮影：

- もう一度シャッターボタンを全押しします。

長時間露出について

- ファインダーから入った光が画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします (□113)。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ (ざらつき、むら、輝点) が発生することがあります。
- 静止画撮影メニューの [長秒時ノイズ低減] (□275) を [する] に設定すると、画像に発生するむらや輝点が低減されます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー、または別売のパワーコネクタとACアダプターをお使いいただくことをおすすめします。

シャッタースピードと絞り値をロックする

露出モード**S**ではシャッタースピードを、**A**では絞り値を、**M**ではシャッタースピードと絞り値のロックを設定できます。

• **P**では設定できません。

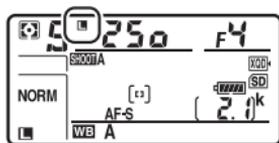
■ シャッタースピードと絞り値のロック方法

- 1 カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (☐289) で任意のボタンに [シャッタースピードと絞り値のロック] を割り当てる

2 シャッタースピードまたは絞り値をロックする

シャッタースピードのロック：

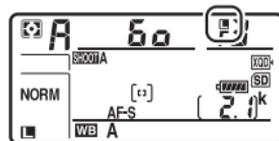
- 露出モード**S**または**M**で、[シャッタースピードと絞り値のロック] を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、表示パネルとファインダー内表示に **L** (シャッタースピードロック) マークを表示させます。



- シャッタースピードのロックを解除する場合は、[シャッタースピードと絞り値のロック] を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、**L** マークを消します。

絞り値のロック：

- 露出モード**A**または**M**で、[シャッタースピードと絞り値のロック] を割り当てたボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、表示パネルとファインダー内表示に **L** (絞り値のロック) マークを表示させます。



- 絞り値のロックを解除する場合は、[シャッタースピードと絞り値のロック] を割り当てたボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、**L**マークを消します。

関連ページ

常にシャッタースピードと絞り値をロックする →  f3[シャッタースピードと絞り値のロック] (□□290)

AEロックして露出を固定する

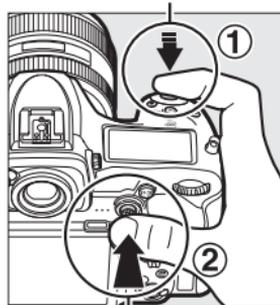
AEロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

1 測光モードで中央部重点測光またはスポット測光を選ぶ (121)

2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、サブセレクターの中央を押して露出を固定する

- サブセレクターの中央を押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内表示に**AE-L**マークが点灯します。
- オートフォーカス撮影時はフォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示（●）の点灯も確認してください。

シャッターボタン



サブセレクター



3 サブセレクターの中央を押したまま、構図を決めて撮影する



測光エリアについて

- スポット測光で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合 (□121) は、選択中のフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- 中央部重点測光に設定した場合は、ファインダー中央部 (φ8mmの円内) を重点的に測光した露出が記憶されます。

AEロック中のカメラ操作について

サブセレクターの**中央**を押している間も次の操作ができます。

露出モード	操作
P	プログラムシフト (□124)
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- 表示パネルやファインダー内表示には、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードは変更できません。

関連ページ

シャッターボタンの半押しでAEロックできるようにする →  c1 [シャッターボタンAEロック] (□284)

露出補正して画像の明るさを調整する

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（☐121）を中央部重点測光またはスポット測光に設定すると効果的です。



-1段補正



露出補正なし

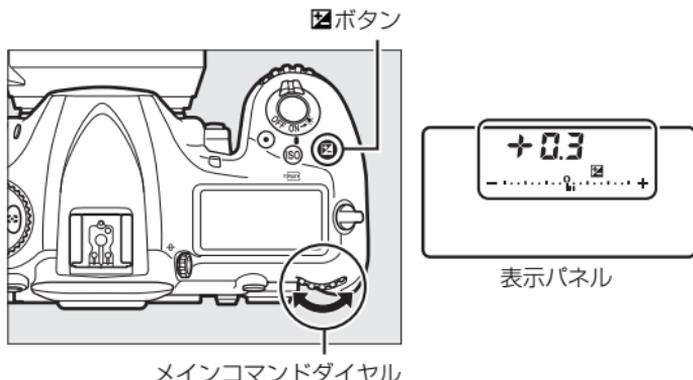


+1段補正

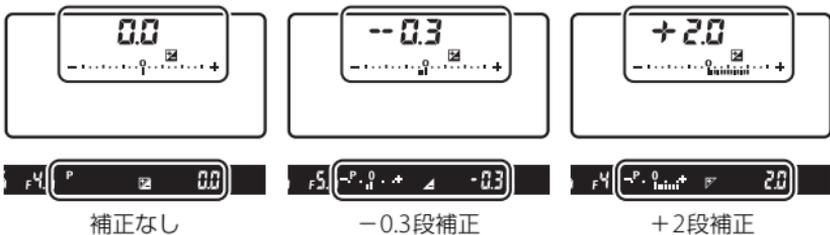
■ 露出補正の設定方法

☒ ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

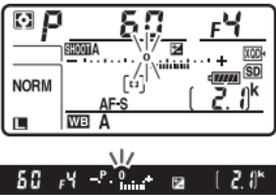
- 露出補正值は、表示パネルに表示されます。
- 露出補正は、1/3段ステップで±5段の範囲で設定できます。



- **☑** ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。



(**☑** ボタンを押したとき)

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク **☑** と露出補正インジケータが表示され、露出モードが **P**、**S**、または **A** の場合は **[0]** が点滅します。
- 
- The image shows a detailed view of the camera's main display and viewfinder. The main display shows 'P' mode, shutter speed '60', aperture 'F4', and exposure compensation '0.0'. The viewfinder shows 'P' mode, shutter speed '60', aperture 'F4', and exposure compensation '0.0'. The exposure compensation value '0.0' is shown with a small square icon next to it.
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。
 - 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

☑ 露出モードMでの露出補正について

露出モードが**M**のときは、インジケータ表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

☑ 別売スピードライト使用時の露出補正

別売スピードライト使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とスピードライトの発光量の両方に補正が行われ、画像全体の明るさが変わりますが、背景の明るさだけを補正することもできます（カスタムメニュー e3 [フラッシュ使用時の露出補正]、□288）。

関連ページ

- 露出補正のステップ幅を変更する →  b3 [露出・調光補正ステップ幅] (□283)
-  ボタンを使わずに露出補正する →  b4 [露出補正簡易設定] (□283)
- 露出補正值を変えながら撮影する → 「AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法」 (□141)

オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

■ オートブラケティングの設定方法

オートブラケティングの種類は、静止画撮影メニューの [オートブラケティングのセット] (□276) で設定できます。



AE・フラッシュ ブラケティング	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AEブラケティング	露出値（AE）を変えながら撮影します。
フラッシュブラケティング	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
WBブラケティング	ホワイトバランス (□151) の色温度を変えながら撮影します。
ADLブラケティング	アクティブD-ライティング (□180) の効果の度合いを変えながら撮影します。

■ AEブラケティング、フラッシュブラケティングの撮影方法



補正なし



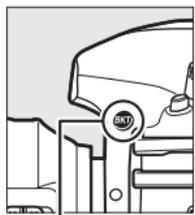
-1段補正



+1段補正

1 撮影コマ数を設定する

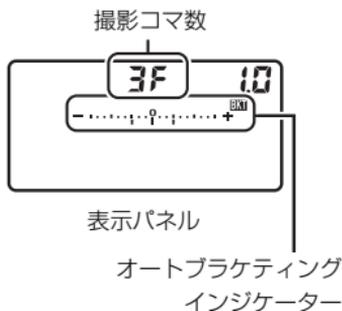
- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



BKT ボタン



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル

オートブラケティング
インジケータ

- **3F** 以外に設定すると、表示パネルに **BKT** マークとオートブラケティングインジケータが、ファインダー内表示に **BKT** が表示されます。



🔍 AEブラケティング、フラッシュブラケティングについて

[AE・フラッシュブラケティング] では、AEブラケティングとフラッシュブラケティングを同時に行います。AEブラケティングだけを行いたいときは [AEブラケティング] を、フラッシュブラケティングだけを行いたいときは [フラッシュブラケティング] を選びます。フラッシュブラケティングはi-TTL調光時および絞り連動外部自動調光 (Ⓐ) 時 (別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ) に使用できます (□189、317)。

2 補正ステップを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、補正ステップを設定できます。



- 補正ステップは、露出設定ステップ幅が「1/3段」の場合、0.3 (1/3段)、0.7 (2/3段)、1.0 (1段)、2.0 (2段)、3.0 (3段) から選ぶことができます。補正ステップを2.0または3.0に設定した場合、撮影コマ数は最大5枚です。手順1で撮影コマ数を7枚または9枚に設定していても、自動的に5枚に変更されます。
- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル	オートブラケティングインジケータ	撮影コマ数	撮影順序
0F 0.3	—.....o.....+	0	0
+3F 0.3	—.....:i:.....+	3	0/+0.3/+0.7
--3F 0.3	—.....:i:.....+	3	0/-0.7/-0.3
+2F 0.3	—.....:i:.....+	2	0/+0.3
--2F 0.3	—.....:i:.....+	2	0/-0.3
3F 0.3	—.....:i:.....+	3	0/-0.3/+0.3
5F 0.3	—.....:i:.....+	5	0/-0.7/-0.3/ +0.3/+0.7
7F 0.3	—.....:i:.....+	7	0/-1.0/-0.7/-0.3/ +0.3/+0.7/+1.0
9F 0.3	—.....:i:.....+	9	0/-1.3/-1.0/-0.7/ -0.3/+0.3/+0.7/ +1.0/+1.3

3 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 表示パネルとファインダー内表示には、オートブラケティングインジケータが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、オートブラケティングインジケータ上から消えます。



撮影コマ数：3

補正ステップ：0.7

1コマ撮影した状態

- AEブラケティングと露出補正 (□137) を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。

■■ AE、フラッシュブラケティング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を **0F** にしてください (**BKT** マークが消灯します)。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット (□222) でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

📄 関連ページ

- オートブラケティングの補正ステップ幅を変更する → 📄 b2 [露出設定ステップ幅] (□283)
- オートブラケティングの撮影順を変更する → 📄 e7 [BKTの順序] (□289)
- **BKT** ボタンの機能を変える → 📄 f1 [カスタムボタンの機能] の [BKTボタン + 📄] (□289)

AE・フラッシュブレイクティング、AEブレイクティング、フラッシュブレイクティング撮影について

- レリーズモード (□110) を **CL**、**CH**、または **QC** に設定した場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時 (□113) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□285) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□141の手順1で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

AEブレイクティング

AEブレイクティングでは、露出モードによって補正される内容(シャッタースピード、絞り値)が異なります。

露出モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2、3

※1 静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] (□118) が [する] のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると自動的にISO感度が変化します。

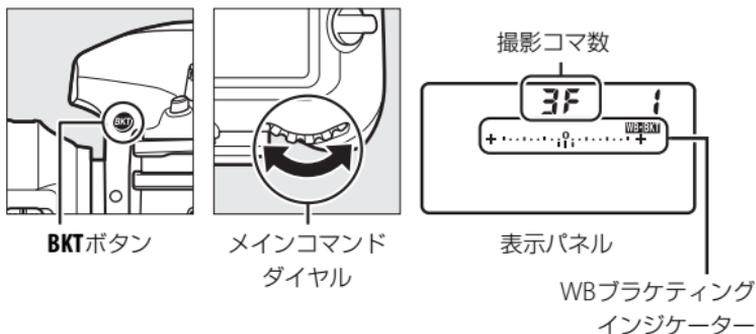
※2 静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] (□118) が [する] のときは、まずISO感度を変化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブレイクティングでシャッタースピードを変化させます。

※3 カスタムメニュー e6 [BKT変化要素 (Mモード)] により変化する内容をシャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、あるいはフラッシュの調光量のみに変更できます (□289)。

WBブラケットの撮影方法

1 撮影コマ数を設定する

- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



- **CF**以外に設定すると、表示パネルには、**WB-BKT**マークとWBブラケットイングインジケータが、ファインダー内表示には**BKT**が表示されます。



WBブラケットの制限について

WBブラケットは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

2 補正ステップを設定する

- **BKT** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。

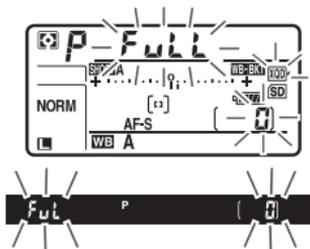


- 補正ステップは、1 (1段)、2 (2段)、3 (3段) から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります (□154)。
- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

表示パネル	WB ブラケティングインジケータ	撮影コマ数	補正ステップ	撮影順序
0F	+.....°.....+	0	1段	0
b3F	+.....:i:.....+	3	B方向1段	0/B1/B2
A3F	+.....:i:.....+	3	A方向1段	0/A2/A1
b2F	+.....:i:.....+	2	B方向1段	0/B1
A2F	+.....:i:.....+	2	A方向1段	0/A1
3F	+.....:i:.....+	3	各方向1段	0/A1/B1
5F	+.....:i:.....+	5	各方向1段	0/A2/A1/B1/B2
7F	+.....:i:.....+	7	各方向1段	0/A3/A2/A1/ B1/B2/B3
9F	+.....:i:.....+	9	各方向1段	0/A4/A3/A2/ A1/B1/B2/B3/ B4

3 撮影する

- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整している場合は、微調整値にWBブラケットिंगの補正ステップが加算されます。
- WBブラケットिंगの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、表示パネルに**Full**が、ファインダー内表示に**Full**が右図のように点滅し、シャッターがきれません（表示パネルの残量の無いメモリーカードのアイコンも点滅します）。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。



■ WBブラケットिंग撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を**0F**にしてください（**WB-BKT** マークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツールボタンリセット（□222）でもブラケットिंगを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

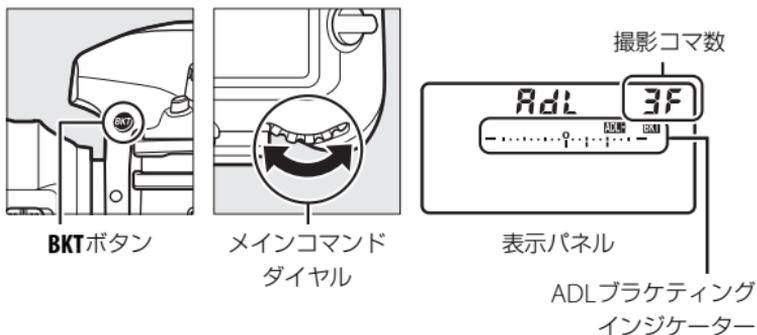
🔍 WBブラケットिंग撮影について

- WBブラケットिंगでは、色温度（A（アンバー）からB（ブルー）への横方向）の補正のみを行います（□154）。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時（□113）には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc3 [セルフタイマー] の [撮影コマ数]（□285）で設定した撮影コマ数にかかわらず、□145の手順1で設定した撮影コマ数が全て記録されます。

■ ADLブラケットの撮影方法

1 撮影コマ数を設定する

- **BKT** ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を設定できます。



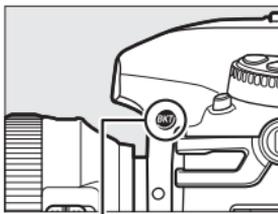
- **0F**以外に設定すると、表示パネルには、**ADL-BKT** マークとADLブラケットングインジケーターが、ファインダー内表示には**BKT**が表示されます。
- 設定した撮影コマ数により、ブラケットングの内容が次のように異なります。

撮影コマ数	ブラケットングの内容
2コマ	[しない] → (手順2で設定するアクティブD-ライティングの度合い)
3コマ	[しない] → [弱め] → [標準]
4コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め]
5コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め] → [より強め]

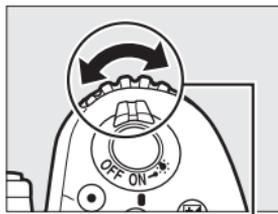
- 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順3に進んでください。

2 アクティブD-ライティングの度合いを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。



BKT ボタン



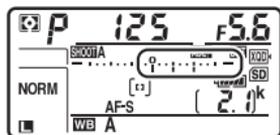
サブコマンドダイヤル

- アクティブD-ライティングの度合いは、表示パネルのADLブラケティングインジケータで確認できます。

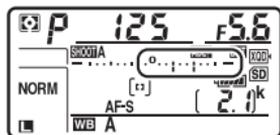
アクティブD-ライティングの度合い	表示パネル
暗A オート	
暗L 弱め	
暗N 標準	
暗H 強め	
暗H+ より強め	

3 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 表示パネルには、ADLブラケットングインジケータが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、ADLブラケットングインジケータ上から消えます。



撮影コマ数：3



1コマ撮影した状態

■■ ADLブラケットング撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して表示パネルの撮影コマ数を **GF** にしてください (**ADL-BKT** マークが消灯します)。ただし、設定したアクティブD-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツーボタンリセット (□222) でもブラケットングを解除できますが、この場合は設定したアクティブD-ライティングの度合いもリセットされます。

📝 ADLブラケットング撮影について

- レリーズモード (□110) を **CL**、**Ch**、または **Qc** に設定した場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時 (□113) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□285) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□148の手順1で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更する

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定の**AUTO**（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランス	設定される色温度	内容
AUTO オート	約3500～8000K*	AUTO （オート）で十分な効果を得るには、G、EまたはDタイプレンズをお使いになることをおすすめします。また、別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
AUTO0 白を優先する		
AUTO1 標準		
AUTO2 電球色を残す		
 電球	約3000K*	白熱電球下での撮影に適しています。
 蛍光灯	—	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
ナトリウム灯 混合光	約2700K*	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
電球色蛍光灯	約3000K*	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
温白色蛍光灯	約3700K*	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
白色蛍光灯	約4200K*	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼白色蛍光灯	約5000K*	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼光色蛍光灯	約6500K*	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
高色温度の 水銀灯	約7200K*	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。
 晴天	約5200K*	晴天の屋外での撮影に適しています。

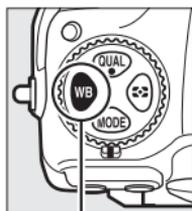
ホワイトバランス	設定される色温度	内容
フラッシュ	約5400K※	別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
曇天	約6000K※	曇り空の屋外での撮影に適しています。
晴天日陰	約8000K※	晴天の日陰での撮影に適しています。
色温度設定	約2500～10000K	色温度を直接指定できます (□157)。
PRE プリセット マニュアル	—	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます (□159)。

※ 微調整が0の場合の値です。

■ ホワイトバランスの設定方法

WBボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

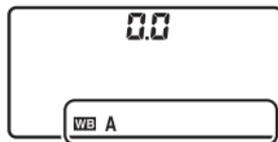
- ホワイトバランスは、表示パネルに表示されます。



WBボタン



メインコマンド
ダイヤル



表示パネル

【ホワイトバランス】について

ホワイトバランスは静止画撮影メニュー (□272) または動画撮影メニュー (□277) でも設定できます。

🔍 AUTO（オート）について

AUTO（オート）の場合は、静止画撮影メニューで「**AUTO0白を優先する**」、「**AUTO1標準**」または「**AUTO2電球色を残す**」から選べます。電球色の光源下で撮影した場合、「**AUTO0白を優先する**」を選べると電球色を残さずに白く補正され、「**AUTO2電球色を残す**」を選べると暖かみのある画像の仕上がりになります。

🔍 蛍（蛍光灯）について

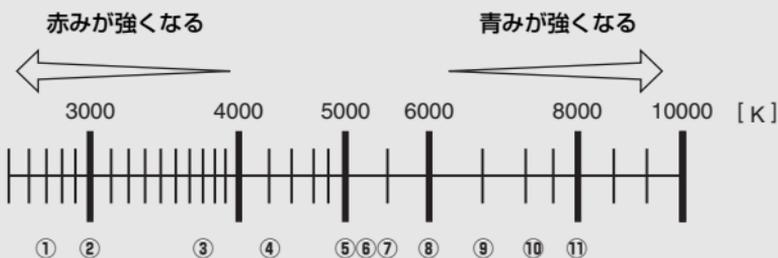
蛍（蛍光灯）の場合は、静止画撮影メニュー（□272）で選んだ種類の蛍光灯になります。

✔ スタジオ用大型ストロボを使用する場合

スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、AUTO（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られないことがあります。その場合は、⚡（フラッシュ）モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

🔍 色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。



- | | | | |
|---|----------------------|---|---------------------|
| ① | 🔍 ナトリウム灯混合光 (約2700K) | ⑥ | ☀️ 晴天 (約5200K) |
| ② | 💡 電球 (約3000K) | ⑦ | ⚡ フラッシュ (約5400K) |
| ③ | 🔍 電球色蛍光灯 (約3000K) | ⑧ | ☁️ 曇天 (約6000K) |
| ④ | 🔍 温白色蛍光灯 (約3700K) | ⑨ | 🔍 昼光色蛍光灯 (約6500K) |
| ⑤ | 🔍 白色蛍光灯 (約4200K) | ⑩ | 🔍 高色温度の水銀灯 (約7200K) |
| | 🔍 昼白色蛍光灯 (約5000K) | ⑪ | 🏠 晴天日陰 (約8000K) |

🔍 関連ページ

ホワイトバランスを変えながら撮影する → 「WBブラケットの撮影方法」(□145)

ホワイトバランスを微調整する

■メニューの【ホワイトバランス】で設定する場合

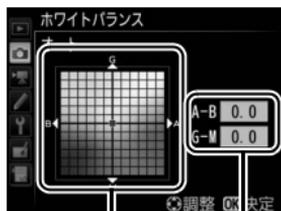
- 1 静止画撮影メニューの【ホワイトバランス】で、設定したいホワイトバランスを選び、微調整画面が表示されるまで \blacktriangle を押す

- [プリセットマニュアル] での微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」(P170) をご覧ください。



2 微調整値を設定する

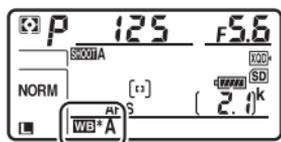
- マルチセレクターを操作すると、A (アンバー)、B (ブルー)、G (グリーン)、M (マゼンタ) の4方向で、設定段数を各方向6段階まで微調整できます。
- A (アンバー)、B (ブルー) 方向は、色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G (グリーン)、M (マゼンタ) 方向は、色補正用 (CC) フィルターと同じような微調整を0.25段単位で行えます。1段は濃度約0.05に相当します。



座標 設定段数

3 微調整値を決定する

- \odot ボタンを押して微調整値を決定すると、メニューに戻ります。
- ホワイトバランスを微調整すると、表示パネルにアスタリスク (*) が表示されます。



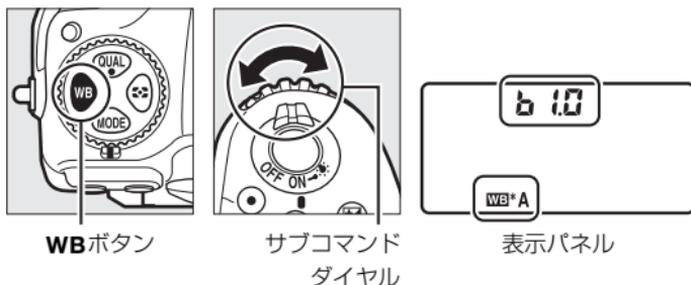
🔍 ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを☀️（電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

■ ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合（アンバーおよびブルー方向のみ）

WBボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- ホワイトバランスの微調整値は、表示パネルに表示されます。

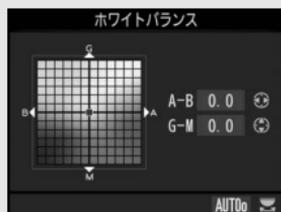


- **WB** ボタンとサブコマンドダイヤルで微調整する場合は、A（アンバー）からB（ブルー）への横軸の方向のみ設定できます。
- サブコマンドダイヤルを左に回すとA（アンバー）方向に、右に回すとB（ブルー）方向に色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- 微調整値を0以外に設定すると、表示パネルにアスタリスク（*）が表示されます。
- **WB** ボタンの操作では、**PRE**（プリセットマニュアル）のホワイトバランスは微調整できません。メニューで微調整してください（□154）。

🔪 インフォ画面で設定を変更する

ファインダー撮影時、インフォ画面表示中に**WB** ボタンを押すと、ホワイトバランス調整画面が表示されます。

- メインコマンドダイヤルを回すとホワイトバランスの設定を変更できます。
- ホワイトバランスの設定が**K**（色温度設定）の場合はサブコマンドダイヤルを回して色温度を設定できます（□158）。
- ホワイトバランスの設定がプリセットマニュアルの場合はサブコマンドダイヤルを回してプリセットマニュアルデータの保存場所を設定できます（□161）。
- その他のホワイトバランスの場合、マルチセレクターを操作してA（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向の調整が可能です。



🔪 ミレッド (MIRED) について

色温度の逆数を百万（ 10^6 ）倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例) 色温度の差 (K:ケルビン) : ミレッドの差 (M:ミレッド)

4000K - 3000K = 1000 K : 83 M

7000K - 6000K = 1000 K : 24 M

色温度設定で色温度を指定する

■ メニューの【ホワイトバランス】で設定する場合

A (アンバー)、B (ブルー) 方向とG (グリーン)、M (マゼンタ) 方向の両方の色温度を設定できます。

1 静止画撮影メニューの【ホワイトバランス】で、【色温度設定】を選んでマルチセレクターの \odot を押す

2 A (アンバー)、B (ブルー) 方向の色温度を設定する

- ①または②を押して色温度を1桁ずつ選び、③または④を押して数値を設定します。



A (アンバー)、B (ブルー) 方向の色温度

3 G (グリーン)、M (マゼンタ) 方向の色温度を設定する

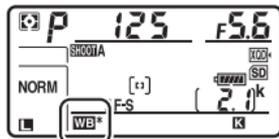
- ①または②を押して、G (グリーン)、M (マゼンタ) 方向の色温度にカーソルを移動し、③または④を押して数値を設定します。



G (グリーン)、M (マゼンタ) 方向の色温度

4 色温度を決定する

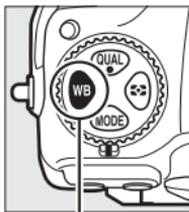
- OK ボタンを押して色温度を決定すると、メニューに戻ります。
- G (グリーン)、M (マゼンタ) 方向の色温度を0以外に設定すると、表示パネルにアスタリスク (*) が表示されます。



■ ボタン操作で色温度を設定する場合 (アンバーおよびブルー方向のみ)

ホワイトバランスが  (色温度設定) のときに **WB** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す、またはマルチセレクターの  を押す

- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度が切り替わります (ミレッド単位、 156)。



WB ボタン



サブコマンド
ダイヤル

- **WB** ボタンを押しながらマルチセレクターの  または  を押すと、色温度を1桁ずつ選べます。  または  を押すと選んだ桁の数値を設定できます。
- A (アンバー)、B (ブルー) 方向の色温度のみ設定できます。
- 色温度は、表示パネルに表示されます。



表示パネル

■ 色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ  (蛍光灯)、 (フラッシュ) に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

プリセットマニュアルで基準となる白を設定する

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明や特殊照明下で、前記の**AUTO**（オート）や**☀**（電球）などの各設定や、色温度設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

最大6種類のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）をカメラに保存できます。プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

プリセットマニュアルデータをカメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（□160）。ライブビュー時（□39、54）には、画像モニターに表示中の被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス、□164）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	メモリーカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（□168）。

すでに設定されているプリセットマニュアルデータの変更について

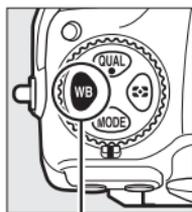
プリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）の内容は、静止画撮影メニュー「A」～「D」（□272）で共用しています。このため、たとえば静止画撮影メニュー「A」でプリセットマニュアルデータの内容を変更すると、静止画撮影メニュー「B」～「D」のプリセットマニュアルデータも変更されます。

ファインダー撮影時にプリセットマニュアルデータを新規取得する

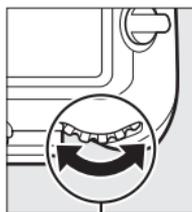
プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。露出モードが**M**の場合は、露出インジケータを確認して、適正露出になるよう設定してください（□129）。

1 WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、表示パネルのホワイトバランス表示をPREに合わせる



WBボタン



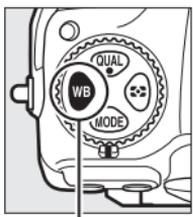
メインコマンド
ダイヤル



表示パネル

2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

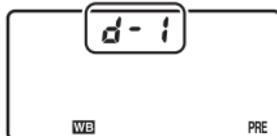
- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



WB ボタン



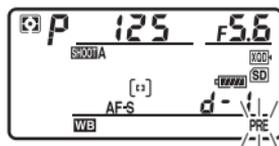
サブコマンド
ダイヤル



表示パネル

3 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん**WB** ボタンから指を放し、再度**WB** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、表示パネルには**PRE**が、ファインダー内表示には**P_rE**の文字がそれぞれ数秒間点滅します。



表示パネル



ファインダー内表示

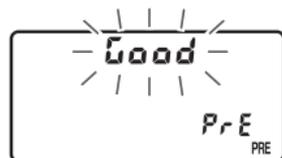
4 P_rEの点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する

- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、手順2で選んだ保存場所に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。メモリーカードに画像は記録されません。



5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- プリセットマニュアルデータが取得されると、表示パネルに **Good** の文字が、ファインダー内表示に **Ed** の文字が、それぞれ点滅します。シャッターボタンを半押しすると、プリセットマニュアル取得モードが終了し、撮影が可能になります。

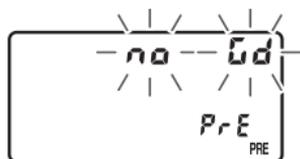


表示パネル



ファインダー内表示

- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、表示パネルとファインダー内表示に **no Ed** の文字が、それぞれ点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順4）に戻ります。



表示パネル



ファインダー内表示

✓ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について（ファインダー撮影時）

プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニュー c2 [半押しタイマー]（□284）で設定した時間が過ぎると解除されます。

✎ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について（ファインダー撮影時）

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません。

- HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影時（□182）
- 多重露出撮影時（□227）

🔪 ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定 (□170) されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません（表示パネルとファインダー内表示でPrとが点滅します）。

🔪 プリセットマニュアルデータについて

- ご購入時のプリセットマニュアルデータd-1～d-6は、晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。
- 静止画撮影メニューから[ホワイトバランス]の[プリセットマニュアル]を選ぶと、取得したプリセットマニュアルデータが右のように表示されます。マルチセレクターでプリセットマニュアルデータを選んでⓧボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。



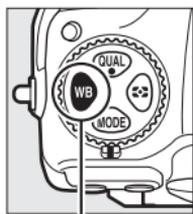
ライブビュー時にスポットホワイトバランスで プリセットマニュアルデータを取得する

ライブビュー撮影時（□39、54）には、画像モニターに表示されている被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス）。被写体の一部に白、またはグレーの部分があれば、あらかじめプリセットマニュアル取得用の被写体を用意する必要はなく、望遠レンズ装着時にも、レンズを交換せずにそのままプリセットマニュアルデータを取得できます。

1 **Lv** ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。

2 **WB** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、 画像モニターのホワイトバランス表示をPREに合わせる



WB ボタン



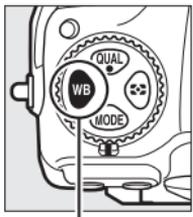
メインコマンド
ダイヤル



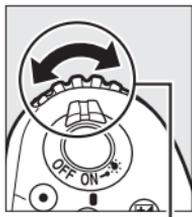
画像モニター

3 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



WB ボタン



サブコマンド
ダイヤル



画像モニター

4 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん**WB** ボタンから指を放し、再度**WB** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、画像モニターに**PRE**が点滅します。



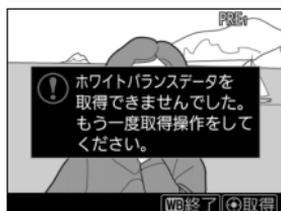
5 PREの点滅中に、マルチセレクターを操作して、□を被写体の白またはグレーの部分に重ねる

- **M** ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、□で選んだ部分を細部まで確認できます。
- タッチ操作でもプリセットマニュアルデータを取得できます。画像モニター上で被写体の白またはグレーの部分タッチすると、□が移動してデータを取得します。タッチで取得した場合は、手順7に進んでください。



6 マルチセレクトターの中央ボタンを押すか、シャッターボタンを全押しして、プリセットマニュアルデータを取得する

- データが取得できなかった場合は、画像モニターに右の画面が表示され、手順5の状態に戻ります。□の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。



7 WBボタンを押してプリセットマニュアル取得モードを終了する

- 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー [ホワイトバランス] の [プリセットマニュアル] を選ぶと、ライブビューで取得したプリセットマニュアルデータを確認できます。ホワイトバランスを取得した範囲には白い枠が表示されます。



☑ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について（ライブビュー撮影時）

ライブビュー撮影時のプリセットマニュアル取得モードの時間制限は、カスタムメニューc4 [モニターのパワーオフ時間] の [ライブビュー表示] で設定した時間になります (□285)。

✔ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について（ライブビュー撮影時）

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

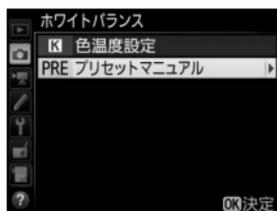
- HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影時（□182）
- [静止画Lv画面のホワイトバランス] が [撮影時と同じ] のとき（□47）

プリセットマニュアルデータを管理する

■ 撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

選んだプリセットマニュアルデータの保存場所に、メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

- 1 静止画撮影メニューの【ホワイトバランス】で【プリセットマニュアル】を選んでマルチセレクターの  を押す



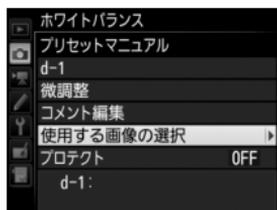
- 2 コピー先を選ぶ

- マルチセレクターで黄色い枠を移動して d-1～d-6の中からコピー先を選びます。
- 中央ボタンを押すと設定画面が表示されます。



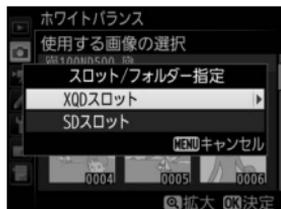
- 3 【使用する画像の選択】を選ぶ

- 【使用する画像の選択】を選んで  を押すと、メモリーカード内の画像が一覧表示されます。



4 ホワイトバランスデータをコピー したい画像を選ぶ

- マルチセクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 画像は、 ボタンを押している間、拡大して確認できます。
-  ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□247)。

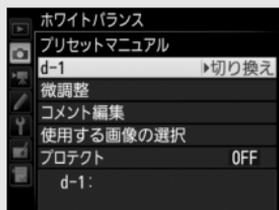


5 ホワイトバランスデータをコピーする

-  ボタンを押すとメモリーカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選んだ画像に画像コメント (□294) がある場合、画像コメントもコピーされます。

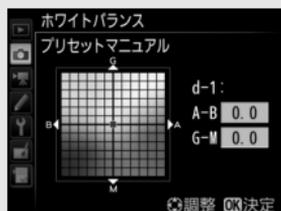
設定画面でのプリセットマニュアルデータの切り換えについて

設定画面でプリセットマニュアルデータ (d-1～d-6) を選び、 を押すと、プリセットマニュアルデータが切り替わります。



プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で**〔微調整〕**を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます (□154)。



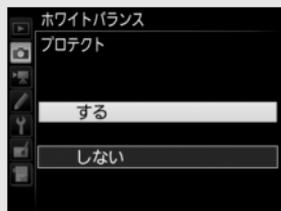
プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

設定画面で**〔コメント編集〕**を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにコメント (最大36文字) を入力できます。コメントの入力方法は、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□177)。



プリセットマニュアルデータを保護する (プロテクト)

設定画面で**〔プロテクト〕**を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにプロテクト (保護) を設定できます。プロテクトの設定画面で**〔する〕**を選んで**Ⓚ**ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルデータがプロテクト設定されます。プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータは微調整やコメント編集ができなくなります。



画像処理

ピクチャーコントロールを使って画像の仕上がりを簡単に設定したり、思い通りに調整する

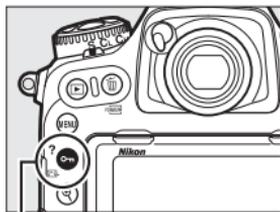
ピクチャーコントロールを選ぶ

被写体や撮影シーンに合わせて、次のピクチャーコントロールから選びます。

 SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• ほとんどの撮影状況に適しています。
 NL ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
 VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
 MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
 PT ポートレート	人物の肌がなめらかで自然な画像になります。
 LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
 FL フラット	シャドー部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。

1 (P/?) ボタンを押す

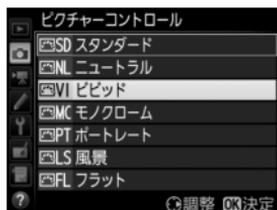
- ピクチャーコントロールの一覧画面が表示されます。



 (P/?) ボタン

2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



【カスタムピクチャーコントロール】について

静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで【カスタムピクチャーコントロール】を選べると、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり (□176)、メモリーカードを使って、同じ機種のカメラやピクチャーコントロールに対応するソフトウェアと共用することができます。

【ピクチャーコントロール】について

ピクチャーコントロールは静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューでも設定できます。

撮影中のピクチャーコントロールの確認について

使用しているピクチャーコントロールは、 ボタンを押すと表示されるインフォ画面で確認できます。



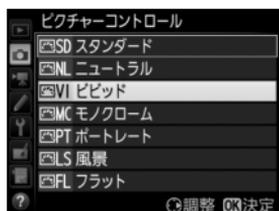
ピクチャーコントロール
マーク

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロール (□176) の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。輪郭強調、コントラスト、色の濃さ(彩度)をバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」ができます。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールの一覧画面 (□172) で、マルチセレクターの (⬇️) を押します。



2 ピクチャーコントロールを調整する

- (⬆️) または (⬇️) で調整する項目 (□174) を選びます。(⬅️) または (➡️) を押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を設定します。
- [クイック調整] を選んで (⬆️) または (⬇️) を押すと、各項目のレベルを自動的に調整します。
- (FORMAT) ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。

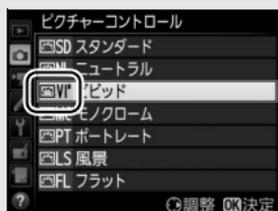


3 設定する

- (OK) ボタンを押して設定します。

ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンの横にアスタリスク (*) が表示されます。



■ レベル調整の設定項目

クイック調整※1	輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。	
手動調整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明瞭度	画像の明瞭度を調整します。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します※2。明瞭度の設定は、動画には反映されません。
	コントラスト	画像のコントラストを調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
	色の濃さ（彩度）※3	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	色合い（色相）※3	画像の色合いを調整できます。
	フィルター効果※4	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます（□175）。
調色※4	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます（□175）。	

※1 [ニュートラル]、[モノクローム] または [フラット] はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（□176）の場合も、クイック調整できません。手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。

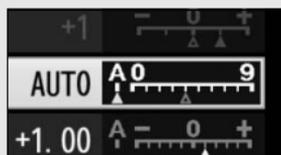
※2 設定する強度や撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。

※3 [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールや [モノクローム] のときは、表示されません。

※4 [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールや [モノクローム] のときのみ表示されます。

🔧 レベル調整時の手動調整とオートの切り換えについて

[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] の場合、🔍 ボタンを押して手動調整と [A]（オート）を切り換えられます。

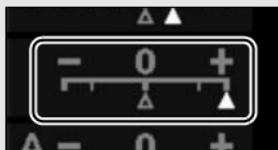


✓ [輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] の [A]（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がりが変化します。
- 十分な効果を得るには、Gタイプ、EタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

🔍 ピクチャーコントロール調整時の△マークについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される△マークは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するとき便利です。



🔍 [モノクローム] の [フィルター効果] について

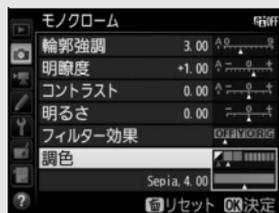
[フィルター効果] には、次のような効果があります。

Y（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。
O（オレンジ※）	[Y] → [O] → [R] の順にコントラストが強くなります。
R（赤※）	
G（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。

🔍 [モノクローム] の [調色] について

[調色] の項目（[B&W] 以外）を選んでマルチセクターの👉を押すと、さらに色の濃淡を選べます。👈または👉を押して選んでください。

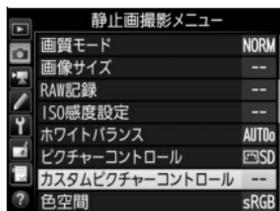


カスタムピクチャーコントロールを登録する

カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

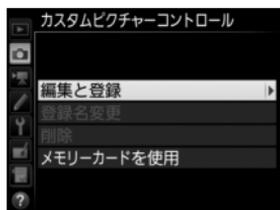
■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

- 1 静止画撮影メニューの【カスタムピクチャーコントロール】を選んでマルチセレクターの \odot を押す



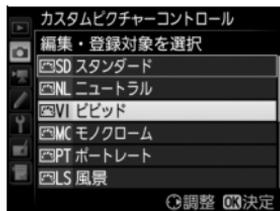
- 2 【編集と登録】を選ぶ

- 【編集と登録】を選んで \odot を押すと、
【編集・登録対象を選択】画面が表示されます。



- 3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで \odot を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は \otimes ボタンを押します。【登録先の選択】画面が表示されます（手順5へ）。



4 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は [ピクチャーコントロール] と同じです。
- **OK** ボタンを押すと [登録先の選択] 画面が表示されます。
- **FORMAT** ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



5 登録先を選ぶ

- C-1~9 (カスタム1~9) の中から登録先を選びます。



6 登録名を編集する

- 登録先を選んで **OK** を押すと、[登録名変更] 画面が表示されます。
- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名) -XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 登録名を変更しない場合は、手順7へ進みます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、キーボードエリアで文字をタッチしてください。マルチセクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、**中央ボタン**を押しても入力できます。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、名前エリアをタッチするか **Q** (←) ボタンを押しながら **←** または **→** を押します。



キーボード エリア
文字種変更
エリア

- 文字種変更アイコンをタッチすると、アルファベット大文字/小文字/記号を切り換えられます。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 登録名を1文字削除するには、削除する文字の上にカーソルを移動させ、 ボタンを押します。

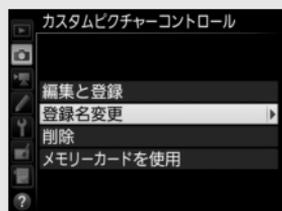
7 登録名の編集を終了する

-  ボタンを押します。
- 登録したカスタムピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。



登録名変更について

[カスタムピクチャーコントロール] で [登録名変更] を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更できます。



登録したカスタムピクチャーコントロールを削除するには

[カスタムピクチャーコントロール] で [削除] を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

元になった
ピクチャーコントロール

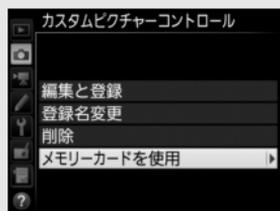


📌 カスタム1～9で調整できる項目について

カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

📌 カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールについて

[カスタムピクチャーコントロール]の[メモリーカードを使用]を使うと、カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーできます。また、メモリーカード内のカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録したり、削除したりできます（メモリーカードを2枚使用している場合、静止画撮影メニューの[主スロットの選択]（□272）で選んだ主スロットのカードが対象になります）。



- [メモリーカードにコピー]: カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピー（エクスポート）できます。メモリーカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んでⓧボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがメモリーカードにコピーされます。
- [カメラに登録]: メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録（インポート）できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。
- [メモリーカードから削除]: メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。

白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

アクティブD-ライティングで撮影する

撮影の前にあらかじめ[アクティブD-ライティング]を設定しておくことで、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします(□121)。



アクティブD-ライティング
[しない]



アクティブD-ライティング
[暗A オート]

📌 静止画撮影メニューおよび動画撮影メニューの[アクティブD-ライティング]と画像編集メニュー[D-ライティング]の違い

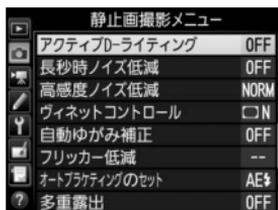
[アクティブD-ライティング]を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドウ部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、[D-ライティング](□301)は、撮影済みの画像に対して階調を再調整してシャドウ部を明るく補正します。

📌 アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ(ざらつき、むら、すじ)が強調される場合があります。
- 露出モードがMのときは、[暗Aオート]に設定していても[暗N標準]相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- ISO感度が高感度(Hi 0.3~Hi 5)のときは機能しません。

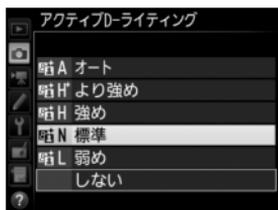
■ アクティブD-ライティングの設定方法

- 1 静止画撮影メニューの【アクティブD-ライティング】を選んでマルチセクターの  を押す



- 2 効果の度合いを選び、 ボタンを押す

- [暗A オート] に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に効果の度合いを設定します。



✓ 動画撮影時のアクティブD-ライティングについて

- 動画の画像サイズを3840×2160に設定している場合、動画撮影時のアクティブD-ライティングは機能しません。
- 静止画撮影メニューのアクティブDライティングが [オート] のときに、動画撮影メニューで [静止画の設定と同じ] を選んだ場合は、[標準] と同じ設定になります。

📄 関連ページ

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影する → 「ADLブラケティングの撮影方法」 (□148)

HDR (ハイダイナミックレンジ) 合成を行う

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。HDRモードを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします(□121)。



露出暗めで撮影した画像

+

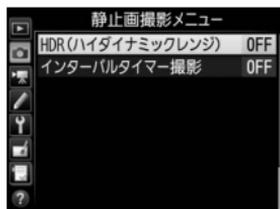


露出明るめで撮影した画像



HDRモードで合成された画像

- 1 静止画撮影メニューの【HDR (ハイダイナミックレンジ)】を選んでマルチセクターの▶を押す

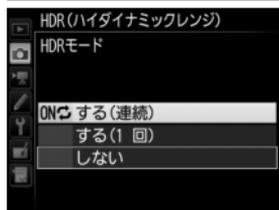


RAWを含む画質モードについて

RAWを含む画質モードの場合、HDR撮影はできません。

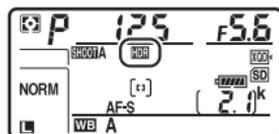
2 [HDRモード] を設定する

- [HDRモード] を選んで  を押します。
-  または  を押してHDRモードを設定し、 ボタンを押します。



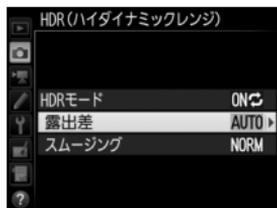
ON  する (連続)	解除するまで連続してHDR撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度 [HDRモード] を選んで [しない] を選んでください。
する (1回)	撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。
しない	HDRモードを解除します。

- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、HDRモードの撮影待機状態になり、表示パネルにHDRマークが点灯します。



3 [露出差] を設定する

- [露出差] を選んで  を押します。

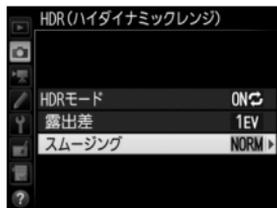


-  または  を押して露出差を設定し、 ボタンを押します。
- 露出差を大きく設定するほど、輝度範囲のより広い被写体に対応できます。
- 被写体の輝度範囲に適した露出差以上に設定すると、不自然な画像になる場合があります。被写体の輝度範囲に合わせて選んでください。
- [オート] に設定すると、シーンに適した露出差が選ばれます。

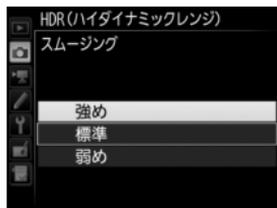


4 [スムージング] を設定する

- [スムージング] を選んで  を押します。

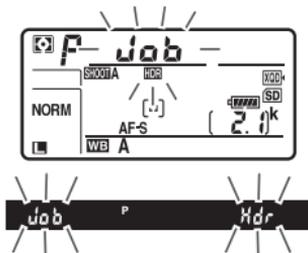


-  または  を押してスムージング（2枚の画像の境界のなめらかさ）の強さを設定し、 ボタンを押します。
- スムージングを強めに設定するほど、画像がよりなめらかに合成されます。



5 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

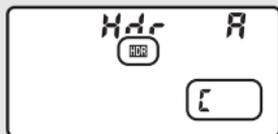
- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれます。
- 合成処理中は、表示パネルに **Job HDR** が、ファインダー内表示に **Job Hdr** が点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。
- [する (連続)] の場合、[HDRモード] で [しない] を選んでHDRモードを解除するまで、HDRモードで撮影できます。
- HDRモードが [する (1回)] の場合、1回撮影すると、HDRモードが解除され、**HDR** マークが消灯します。



BKTボタンとコマンドダイヤルでHDRモードと露出差を設定する

カスタムメニューf1 [カスタムボタンの機能] の [BKTボタン+

- BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して **FF** ([しない])、**I** ([する (1回)])、**L** ([する (連続)]) から選んでください。



- BKTボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルの露出差の表示が切り替わります。



▼ HDR撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が多い場合は、正しく合成されない場合があります。撮影時は、三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影がでたり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。[スムーズング] の設定で調整できます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが中央部重点測光またはスポット測光のときや、非CPUレンズ装着時に、[露出差] を [オート] に設定すると、露出差は [2 EV] 相当の度合いに固定されます。
- 別売のスピードライトは発光しません。
- レリーズモード (□110) を **CL**、**CH**、または **QC** に設定した場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードは、**b**、**1/b** (パルプ) または **-** (タイム) に設定できません。

🔪 HDRモードの制限について

HDRモードは、次の機能とは同時に使用できません。

- オートブラケティング撮影 (□140)
- 多重露出撮影 (□227)
- 微速度撮影 (□68)

🔪 HDRモードとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- HDRモードを [する (連続)] に設定してインターバルタイマー撮影 (□232) を設定すると、設定されたインターバルでHDR撮影ができます。この場合、[インターバルタイマー撮影] で設定されたインターバルで撮影されます。
- HDRモードが [する (1回)] の場合は、1回だけHDRモードで撮影した後、インターバルタイマーとHDRモードが解除されます。

🔪 静止画撮影メニューの管理

HDRモードは、静止画撮影メニュー (「A」～「D」) (□272) ごとに設定できますが、多重露出撮影中 (□227) またはインターバルタイマー撮影中 (□232) にHDRモードを [する (連続)] または [する (1回)] に設定した静止画撮影メニューに切り換えた場合、HDRモードが解除されます。また、HDRモードが [する (連続)] または [する (1回)] のときに、RAWを含む画質モードが選ばれている静止画撮影メニューに切り換えた場合も、HDRモードが解除されます。

フラッシュ撮影

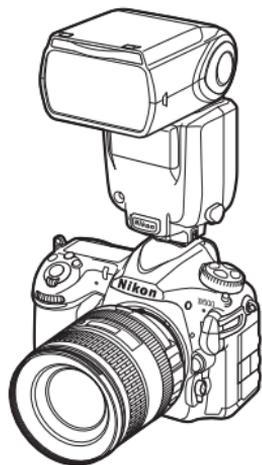
別売スピードライト（□317）をカメラに装着すると、フラッシュ撮影ができます。複数のスピードライトをリモート制御して、増灯撮影することもできます。

- お使いのスピードライトの使用方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

別売スピードライトをカメラに装着して撮影する

1 カメラのアクセサリシューにスピードライトを装着する

- スピードライトの装着方法については、お使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。



2 カメラとスピードライトの電源をONにする

- スピードライトの充電が開始され、撮影ができる状態になるとファインダー内表示に⚡（レディーライト）が点灯します。

3 発光モード（□190）とフラッシュモード（□192）を設定する

4 シャッタースピード、絞り値を設定する

5 撮影する

✎ ユニファイドフラッシュコントロールについて

ユニファイドフラッシュコントロールは、ユニファイドフラッシュコントロールに対応した別売スピードライトをカメラに装着しているとき、フラッシュ発光に関する各種設定をスピードライトとカメラで共有できる機能です。カメラや別売のCamera Control Pro 2を使用してスピードライトの設定を行えます。スピードライトで設定を行った場合は、カメラやCamera Control Pro 2に反映されます。

✎ 別売スピードライト使用時のシャッタースピード

別売のスピードライト使用時にカメラで設定できるシャッタースピードと絞り値は、次の通りです。

露出モード	設定可能なシャッタースピード
P、A	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット※
S	1/250～30秒
M	1/250～30秒、 b u l b (バルブ)、-- (タイム)

※ フラッシュモード (□192) をスローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモードに設定している場合は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

✎ シンクロターミナル

シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時に、シンクロコードをシンクロターミナル (JIS-B型外れ防止ネジ付き) に接続してください。ただし、後幕シンクロ撮影ができるスピードライトをアクセサリシューに装着して後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行わないでください。



▼ 他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

🔪 スピードライトの調光方式について

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト（□317）をカメラに装着し、スピードライトの発光モードをTTLにセットすると、モニター発光を行う専用TTLモード（i-TTLモード）になり、i-TTL-BL調光などによるフラッシュ撮影ができます。ニコンクリエイティブライティングシステム非対応のスピードライトでは、i-TTLモードでの撮影はできません。i-TTLモード時は、次のような調光方式が利用できます。

i-TTL-BL 調光	180Kピクセル（約180,000ピクセル）RGBセンサーによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、シャッターの開く直前にスピードライトがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。 <ul style="list-style-type: none">• G、EまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も利用して最適な発光量を決定します。• 非CPUレンズ装着時は、レンズ情報（開放絞り値、焦点距離）を設定することにより、より精度が向上します（□239）。
スタンダード i-TTL調光	背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。

- カメラの測光モード（□121）がスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。

カメラに装着したスピードライトの発光モードを設定する

SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合、スピードライトの発光モードや補正量などは、静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [発光モード] で設定できます。選べる発光モードは装着したスピードライトによって異なります (□317)。選んだ項目によって [発光モード] の下に表示されるメニュー項目が変更されます。



- SB-5000をお使いの場合はスピードライト本体でも設定できます。
- SB-500、SB-400、SB-300以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。

<p>TTL調光</p>	<p>スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [TTL調光補正] でスピードライトの調光補正值を設定します。SB-500、SB-400またはSB-300を装着した場合、調光補正は  ボタンを押して行えます (□194)。
<p>外部自動調光</p>	<p>スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [外部自動調光補正] でスピードライトの調光補正值を設定します。 • 「絞り連動外部自動調光」 (⊕A) と「外部自動調光」 (A) があります。セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (□239) でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。
<p>距離優先 マニュアル発光</p>	<p>スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [距離優先マニュアル発光設定] の [距離] で被写体までの距離を、[調光補正] でスピードライトの調光補正值を設定します。

マニュアル発光	<p>指定した発光量でスピードライトが発光します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [マニュアル発光量] でスピードライトの発光量を設定します。
リピーティング発光	<p>1回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [リピーティング発光設定] の [発光量] でスピードライトの発光量を、[回数] で連続発光する回数を設定できます。[周波数] で発光周波数（1秒あたりの発光回数）をHz（ヘルツ）単位で設定できます。 • 最大連続発光回数は [発光量] と [周波数] の組み合わせにより異なります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。

フラッシュモードを設定する

モード	内容
 先幕シンクロ モード	通常のフラッシュ撮影時にはこのモードを設定します。露出モードを P または A にセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/250~1/60秒(オートFPハイスピードシンクロ時は1/8000~1/60秒)に自動的にセットします。
 赤目軽減 モード	赤目軽減発光機能付きのスピードライトを使用することにより、暗いところで人物の目が赤く写るのを軽減できます。 <ul style="list-style-type: none">シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください(シャッターチャンス優先するような撮影にはおすすめでできません)。
 赤目軽減 スローシンクロ モード	赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードは P または A に設定してください。夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。 <ul style="list-style-type: none">シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 スローシンクロ モード	露出モードを P または A に設定してフラッシュ撮影すると、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらスピードライトを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影ができます。 <ul style="list-style-type: none">シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 後幕シンクロ モード	シャッター後幕の走行開始(シャッターが閉じる)直前にスピードライトが発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌道などを表現したい場合などに適しています。 <ul style="list-style-type: none">露出モードをPまたはAに設定すると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 発光禁止	スピードライトは発光しません。

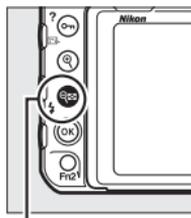
スタジオ用大型ストロボ使用時について

スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

フラッシュモードを切り換える

Q (⚡) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

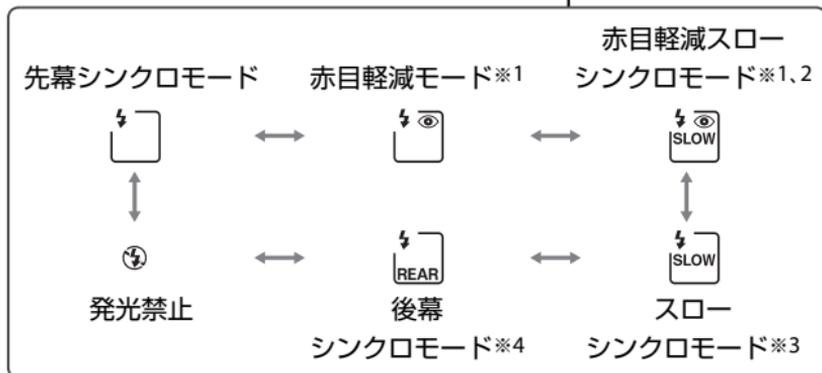
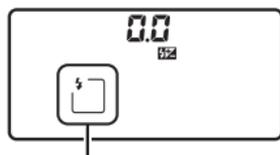
- フラッシュモードは、表示パネルに表示されます。



Q (⚡) ボタン



メインコマンドダイヤル



※1 スピードライト側が赤目軽減発光機能に対応していない場合は、フラッシュモード表示の赤目軽減マーク👁️が点滅します。

※2 露出モードが**S**または**M**の場合、赤目軽減スローシンクロモードは設定できません。このモードを選んだ場合は自動的に「赤目軽減モード」に変更されます。

※3 露出モードが**S**または**M**の場合、スローシンクロモードは設定できません。このモードを選んだ場合は自動的に「先幕シンクロモード」に変更されます。

※4 露出モードが**P**または**A**の場合は、スローシンクロモードも自動的にセットされ、Q (⚡) ボタンから指を放すと右のように表示されます。



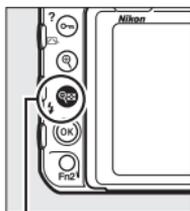
調光補正してフラッシュの発光量を変更する

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強くなりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

調光補正の設定方法

Q (⚡) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 調光補正值は、表示パネルに表示されます。
- 調光補正は、1/3段ステップで -3段～+1段の範囲で設定できます。

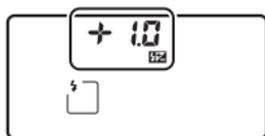
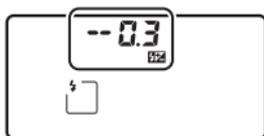
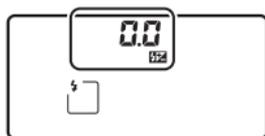


Q (⚡) ボタン



サブコマンドダイヤル

- Q (⚡) ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。



補正なし (Q (⚡) ボタンを押したとき)



-0.3段補正



+1段補正

- 補正量を設定すると、表示パネルとファインダー内表示に  マークが表示されます。
- Q (⚡) ボタンを押すと、表示パネルで設定した補正量を確認できます。

- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

別売スピードライトの調光補正について

i-TTL調光時および絞り連動外部自動調光 (⊕A) 時は、 (⚡) ボタンを押して設定した調光補正と、スピードライト本体または静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] で設定した調光補正を同時に行う場合、両方の補正値を加算します。

関連ページ

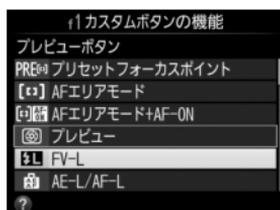
- 調光補正のステップ幅を変更する →  b3 [露出・調光補正ステップ幅] (□283)
- フラッシュ撮影時に露出補正した場合に調光量も補正するかどうかを設定する →  e3 [フラッシュ使用時の露出補正] (□288)
- 調光補正値を変えながら撮影する → 「AEブラケットング、フラッシュブラケットングの撮影方法」 (□141)

FVロックして調光量を固定する

別売のニコクリエイティブライティングシステム (☐317) 対応スピードライト使用時は、調光量を固定 (FVロック) することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

1 カスタムメニューf1 [カスタムボタンの機能] (☐289) で任意のボタンに [FV-L] を割り当てる

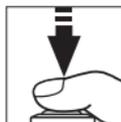


2 FVロック対応スピードライト (☐318) をカメラのアクセサリシューに装着する

- ### 3 スピードライトの電源をONにし、発光モードをTTLまたは「モニター発光あり」のⓂAまたはAのいずれかにセットする
- 別売スピードライトの発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

4 被写体にピントを合わせる

- 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。



5 モニター発光を行う

- ファインダー内表示に⚡が点灯していることを確認し、[FV-L]を割り当てたボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内表示にFVロックマーク (FL) が表示されます。



6 構図を変更する



7 シャッターボタンを全押しして撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影できます。必要に応じて手順6～7を繰り返してください。

8 FVロックを解除する

- もう一度[FV-L]を割り当てたボタンを押すと、FVロックが解除され、ファインダー内表示のFVロックマーク (FL) が消灯します。

測光エリアについて

FVロック時の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央φ6mm相当
	絞り連動外部自動調光 ( A)	スピードライトの 外部測光エリア
アドバンスワイヤレス ライティングによる 増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光 ( A)	スピードライトの 外部測光エリア
	外部自動調光 (A) (マスターフラッシュ)	

複数のスピードライトを同時に 発光させる（ワイヤレス増灯撮影）

カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンストワイヤレスライティング（AWL）、□318）。リモートフラッシュを制御する方法は、マスターフラッシュの微小発光によって制御する光制御（光制御アドバンストワイヤレスライティング）と、カメラに装着したWR-R10からの電波によって制御する電波制御（電波制御アドバンストワイヤレスライティング）があります。

カメラにSB-5000、SB-500、またはWR-R10を装着した場合、カメラの静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [ワイヤレス設定] でリモートフラッシュの制御方法を選べます。

光制御AWL	マスターフラッシュの微小発光で、リモートフラッシュを制御します。 <ul style="list-style-type: none">カメラのアクセサリースューにSB-5000またはSB-500を装着した場合に選べます。光制御アドバンストワイヤレスライティングで使用できるスピードライトについては、317ページの「ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで使用できる機能」をご覧ください。
光制御/ 電波制御AWL	光で制御するリモートフラッシュと、電波で制御するリモートフラッシュを併用してフラッシュ撮影を行います。 <ul style="list-style-type: none">カメラにWR-R10を装着し、アクセサリースューにSB-500またはマスターフラッシュとして設定したSB-910、SB-900、SB-800、SB-700またはSU-800を装着した場合に選べます。[増灯発光モード] (□205) は [グループ発光] のみ使用できます。
電波制御AWL	カメラに装着したWR-R10を使用して、電波によってリモートフラッシュを制御します。 <ul style="list-style-type: none">カメラにWR-R10を装着した場合に選べます。リモートフラッシュは、電波制御AWL対応のスピードライトのみ使用できます。
しない	リモートフラッシュの制御を行いません。

ワイヤレス増灯撮影の準備をする

ここでは、カメラおよびカメラに装着している機器での操作を 、リモートフラッシュとして使用するスピードライトでの操作を  で表しています。

- スピードライトの操作については、詳しくはスピードライトの使用説明書をご覧ください。

■ 光制御アドバンストワイヤレスライティングの場合

ここでは、SB-5000またはSB-500をマスターフラッシュとして装着した場合の説明をしています。

- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700またはSU-800をマスターフラッシュとして装着した場合、設定は全てスピードライトで行います。詳しくはスピードライトの使用説明書をご覧ください。

1 : SB-5000またはSB-500をカメラのアクセサリシューに装着する

2 : 静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [ワイヤレス設定] で [光制御AWL] を選ぶ

- 準備完了後、ワイヤレス増灯撮影を行うには205ページの「ワイヤレス増灯撮影を行う」をご覧ください。

■ 電波制御アドバンスワイヤレスライティングの場合

WR-R10を装着したカメラで、電波制御AWLに対応したスピードライトをリモートフラッシュとして制御して増灯撮影します。

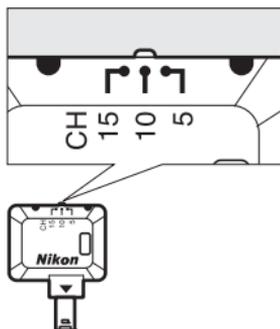
1 : WR-R10をカメラに装着する

- 装着方法については、WR-R10の使用説明書をご覧ください。

2 : 静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [ワイヤレス設定] で [電波制御AWL] を選ぶ

3 : WR-R10のチャンネルを設定する

- WR-R10のチャンネル切り換えスイッチを任意のチャンネルに設定します。



ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10について

- カメラに装着するには、WR用変換アダプター WR-A10が必要です。
- 電波制御アドバンスワイヤレスライティングを行うためには、別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10のファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

4 : WR-R10のリンクモードを設定する

- カメラのセットアップメニュー [リモコン (WR) 設定] の [リンクモード] で次のどちらかを設定します (☞295)。



ペアリング	WR-R10とスピードライトをペアリングして通信を行います。
PINコード	カメラとスピードライトに同じ4桁のPINコードを入力して通信を行います。

5 : スピードライトとWR-R10を接続する

- スピードライトをリモートモードにします。
- スピードライトのチャンネルは必ず手順3で設定したWR-R10のチャンネルと同じものを設定してください。
- スピードライトのリンクモードは手順4で設定したWR-R10のリンクモードと同じものを設定してください。
 - [ペアリング] を選んだ場合、スピードライトでペアリングを開始すると同時にWR-R10のペアリングボタンを押します。ペアリングが完了すると、WR-R10とスピードライトのLINKライトが緑とオレンジの点滅を行います。接続が完了すると、スピードライトのLINKライトが緑色に点灯します。
 - [PINコード] を選んだ場合、カメラで入力したものと同一PINコードをスピードライトで入力します。PINコードの入力が完了すると、自動で接続を開始します。接続が完了すると、スピードライトのLINKライトが緑色に点灯します。

6 : 使用する全てのスピードライトで手順5を繰り返す

- 準備完了後、ワイヤレス増灯撮影を行うには205ページの「ワイヤレス増灯撮影を行う」をご覧ください。

一度接続したスピードライトと再度接続する場合

チャンネルやリンクモードの設定を変更していない場合、手順3～6を行わずにスピードライトをリモートモードにするだけでカメラと接続できます。接続が完了すると、スピードライトのLINKライトが緑色に点灯します。

電波制御時にスピードライトを装着した場合

電波制御でワイヤレス増灯をした場合に、電波制御で接続したリモートフラッシュに加えてアクセサリースューに装着したスピードライトも発光させることができます。

- SB-5000の場合、スピードライトで電波制御マスターモード（画面左上にが表示されている状態）に設定し、グループ発光または増灯リピーティング発光を選んで装着してください。装着したSB-5000の設定は、スピードライト本体またはカメラで行えます。カメラで行う場合、グループ発光は[グループ発光設定]の[マスターフラッシュ]、増灯リピーティング発光は[増灯リピーティング発光設定]の[M]（マスターフラッシュ）で設定してください。
- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700の場合、1灯で使用する設定にして装着してください。発光モードや補正量はスピードライト側で設定してください。
- SB-500、SB-400、SB-300の場合、そのまま装着してください。発光モードや補正量はカメラの[グループ発光設定]の[マスターフラッシュ]で設定してください。

電波制御で接続しているスピードライトの情報をカメラで一覧表示する

カメラの静止画撮影メニュー[フラッシュ発光]の[電波リモートフラッシュ情報]では、接続中のスピードライトの情報を一覧表示できます。

- 一覧表示するときの識別用の名前は、スピードライト側で設定できます（リモートフラッシュネーム設定）。



■■ 光制御アドバンストワイヤレスライティングと 電波制御アドバンストワイヤレスライティングを 併用する場合

静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [ワイヤレス設定] で [光制御/電波制御AWL] を選びます。電波で制御するリモートフラッシュには201ページの「電波制御アドバンストワイヤレスライティングの場合」の準備を行ってください。

- リモートフラッシュのグループは、A～Fの最大6グループまで構成できます。光で制御するリモートフラッシュにはA～C、電波で制御するリモートフラッシュにはD～Fが設定できます。
- 準備完了後、ワイヤレス増灯撮影を行うには205ページの「ワイヤレス増灯撮影を行う」をご覧ください。

ワイヤレス増灯撮影を行う

静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [増灯発光モード] で [グループ発光]、[クイックワイヤレス]、[増灯リピーティング発光] のいずれかを選びます。

■ [グループ発光] で撮影する

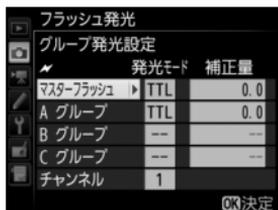
リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面で [グループ発光設定] を選んでマルチセクターの  を押す



- 2  : 発光モードと調光補正量（または発光量）を設定する

- マスターフラッシュおよびリモートフラッシュグループそれぞれの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。



TTL	i-TTL調光を行います (□189)。
 A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
-- (非発光)	リモートフラッシュは発光しません。[補正量] は設定できません。

- [ワイヤレス設定] (□199) で [光制御AWL] または [光制御/電波制御AWL] を選んだ場合は、[チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル (1~4) を選びます。

フラッシュ発光		
グループ発光設定		
	発光モード	補正量
マスターフラッシュ	TTL	+0.7
A グループ	TTL	-0.7
B グループ	M	1/4
C グループ	--	--
チャンネル	3	

- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。

3 : 光制御の場合は、リモートフラッシュのチャンネルを設定する

- 手順2の [チャンネル] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

4 : グループの設定をする

光制御の場合：

- A~Cのグループを設定できます。
- SB-500をマスターフラッシュにしている場合、設定できるグループはAとBのみになります。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

電波制御の場合：

- A~Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。電波制御時は、フラッシュインフォ画面 (□214) で  ボタンを押して [**テスト発光**] を選んで、テスト発光を行うこともできます。

6 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

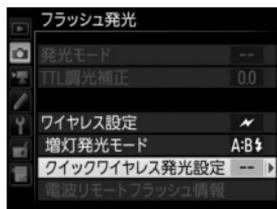
- 電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、ファインダー内表示 (□7) やフラッシュインフォ画面にレディーライトが点灯します。カメラの静止画撮影メニュー [**フラッシュ発光**] の [**電波リモートフラッシュ情報**] で確認することもできます。



■ [クイックワイヤレス] で撮影する

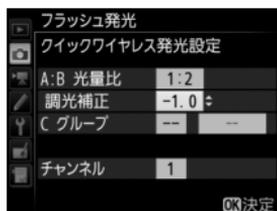
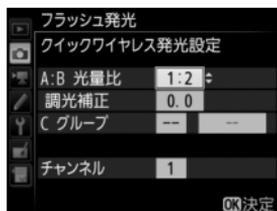
リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比とCグループの発光量を入力することで、全体の発光量を設定できます。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面で [クイックワイヤレス発光設定] を選んでマルチセレクターの  を押す



2 : クイックワイヤレスモードの設定をする

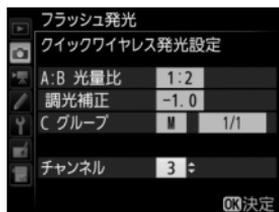
- AグループとBグループの光量比を設定する
- AグループとBグループの調光補正量を設定する
- Cグループの設定をする
 - [M] に設定すると発光し、[---] に設定すると発光しません。
 - [M] にした場合は設定した発光量でCグループが発光します。



●チャンネルを設定する

- [ワイヤレス設定] (□199) で [光制御AWL] を選んだ場合は、[チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル (1~4) を選びます。

- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。



3 : 光制御の場合は、リモートフラッシュのチャンネルを設定する

- 手順2の [チャンネル] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

4 : グループの設定をする

- A~Cのグループを設定できます。

光制御の場合：

- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

電波制御の場合：

- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 / : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。電波制御時は、フラッシュインフォ画面 (□214) で  ボタンを押して [テスト発光] を選んで、テスト発光を行うこともできます。

6 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

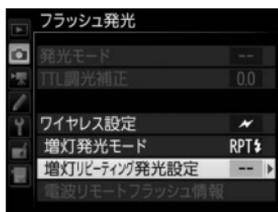
- 電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、ファインダー内表示 (□7) やフラッシュインフォ画面にレディーライトが点灯します。カメラの静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [電波リモートフラッシュ情報] で確認することもできます。



■ [増灯リピーティング発光] で撮影する

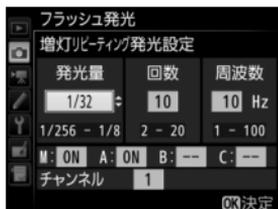
1回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面で [増灯リピーティング発光設定] を選んでマルチセクターの  を押す



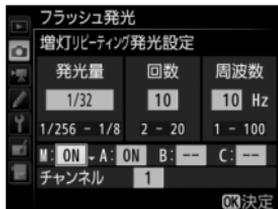
2 : 増灯リピーティング発光モードの設定をする

- 発光量、発光回数、周波数を設定する



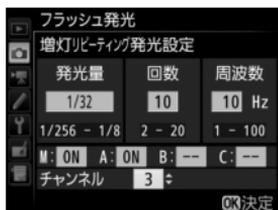
- 発光するかどうかをグループごとに設定する

- [ON] に設定すると発光し、[--] に設定すると発光しません。



- チャンネルを設定する

- [ワイヤレス設定] () [199] で [光制御AWL] を選んだ場合は、[チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル (1~4) を選びます。



- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。

3 ：光制御の場合は、リモートフラッシュのチャンネルを設定する

- 手順2の [チャンネル] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

4 ：グループの設定をする

光制御の場合：

- A～Cのグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

電波制御の場合：

- A～Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 ：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。電波制御時は、フラッシュインフォ画面 (□214) で  ボタンを押して [ テスト発光] を選んで、テスト発光を行うこともできます。

6 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

- 電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、ファインダー内表示 (□7) やフラッシュインフォ画面にレディーライトが点灯します。カメラの静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [電波リモートフラッシュ情報] で確認することもできます。



光制御で増灯撮影する場合のご注意

- リモートフラッシュは、マスターフラッシュの光がセンサー窓に入る位置に置きます。特に、手持ちで撮影するときには、マスターフラッシュの光が確実にセンサー窓に入るようにしてください。
- リモートフラッシュの直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ ([TTL] 設定時) や他のリモートフラッシュの外部自動調光用受光窓 ([⊕A] 設定時) に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- [マスターフラッシュ] の [発光モード] を [---] にした場合でも、リモートフラッシュの発光タイミングを合わせるため、モニター発光とは別に、撮影中にマスターフラッシュが微小発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り (大きい絞り値) で撮影してください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

増灯撮影時の調光補正と表示について

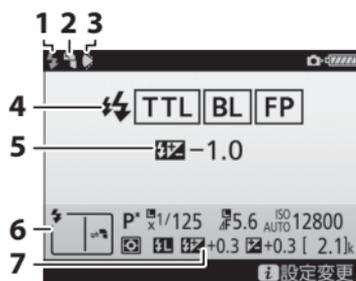
- 増灯撮影時に、 () ボタンとサブコマンドダイヤルで調光補正を行うと、マスターフラッシュとリモートフラッシュのそれぞれの [補正量] に加算されます。
- マスターフラッシュとリモートフラッシュのいずれかを [TTL] または [⊕A] にして補正値を0以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示に  が点滅します。

スピードライトの設定を確認する

カメラのアクセサリシューにSB-5000、SB-500、SB-400、SB-300を取り付けた場合またはWR-R10を使用して電波でリモートフラッシュを制御している場合、スピードライトの設定内容をカメラのフラッシュインフォ画面で確認できます。フラッシュインフォ画面は、インフォ画面(□218)表示中に再度ボタンを押すと表示されます。

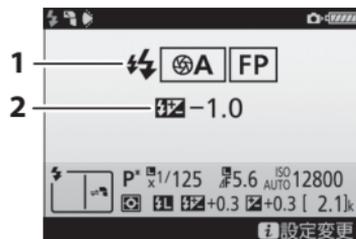
各発光モードの表示について

■ TTL調光



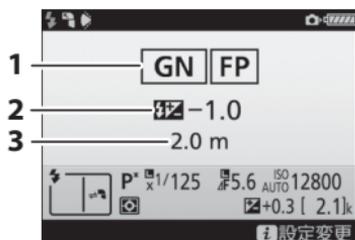
1	レディーライト	187
2	パンスマーク (スピードライトのフラッシュヘッドを正面以外に設定している場合に表示されます)	
3	照射角不適合マーク (照射角の設定が適切でない場合に表示されます)	
4	発光モード	190
	FP発光表示	287
5	TTL調光補正量	194
6	フラッシュモード	192
7	調光補正量	194

■ 外部自動調光



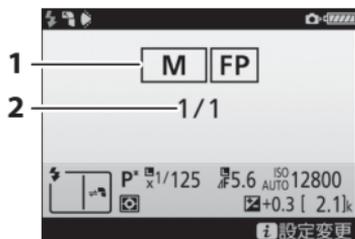
1	発光モード	190
	FP発光表示	287
2	外部自動調光補正量	194

■ 距離優先マニュアル発光



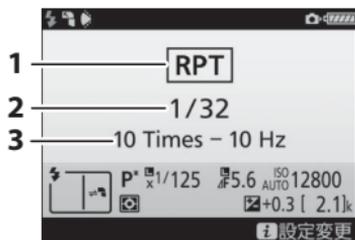
1	発光モード	190
	FP発光表示	287
2	距離優先マニュアル発光	
	調光補正量	194
3	距離	190

■ マニュアル発光



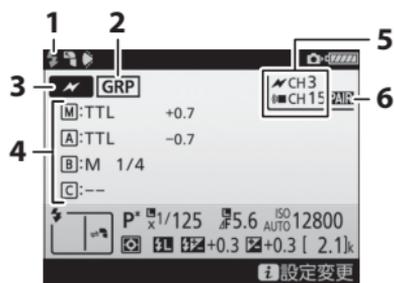
1	発光モード	190
	FP発光表示	287
2	発光量	194

■ リピーティング発光



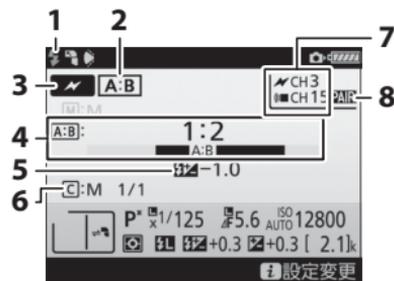
1	発光モード	190
2	発光量	191
3	回数	191
	周波数	191

■ グループ発光



1	レディーライト*1	207
2	増灯発光モード	205
3	リモートフラッシュの 制御方法*2	199
4	各グループの制御方法*2, 3 各グループの発光モード	205
	調光補正量 (または発光量)	205
5	チャンネル*2	201、202、206
6	リンクモード	202

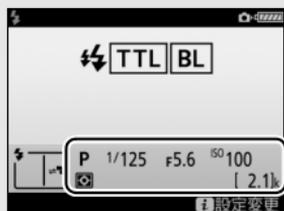
■ クイックワイヤレス



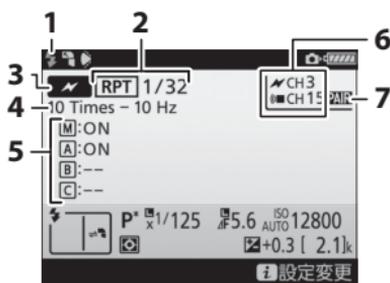
1	レディーライト*1	210
2	増灯発光モード	205
3	リモートフラッシュの 制御方法*2	199
4	AグループとBグループの 光量比	208
5	調光補正量	194
6	Cグループの発光の有無と 発光量	208
7	チャンネル*2	201、202、209
8	リンクモード	202

📌 フラッシュインフォ画面での撮影に関する情報について

フラッシュインフォ画面で、露出モードやシャッタースピード、絞り値、ISO感度など、撮影に関する情報や設定の確認することもできます。



■増灯リピーティング発光

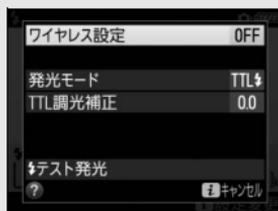


1	レディーライト※1213
2	増灯発光モード205
	発光量211
3	リモートフラッシュの 制御方法※2199
4	回数211
	周波数211
5	各グループの発光の有無211
6	チャンネル※2201、202、211、212
7	リンクモード202

- ※1 電波制御時、レディーライトは全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると表示されます。
- ※2 光制御時は 、電波制御時は 、併用時は両方のアイコンが表示されます。併用時に光制御のチャンネルが表示されるのは、SB-500をマスターフラッシュとして装着している場合のみです。
- ※3 光制御と電波制御を併用している場合のみ、各グループの制御方法がアイコンで表示されます。

設定を変更する

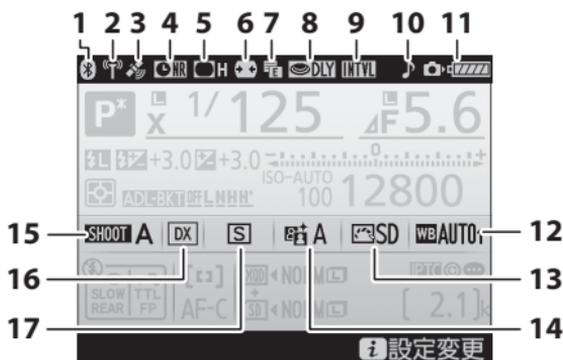
フラッシュインフォ画面表示中に ボタンを押すと、フラッシュの設定を変更できます。表示される項目は、接続しているスピードライトや設定によって異なります。テスト発光することもできます。



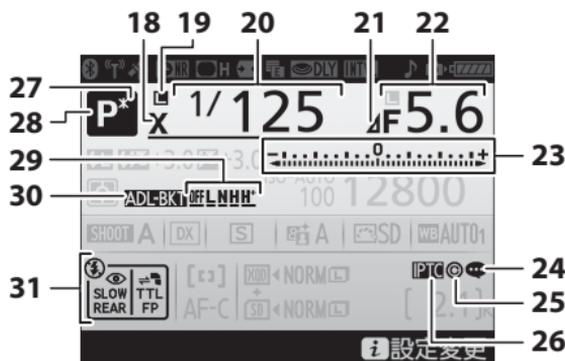
撮影の便利な機能

info ボタンを使う

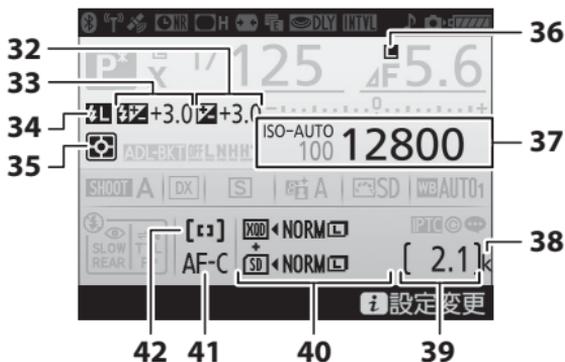
ファインダー撮影時に **info** ボタンを押すと、画像モニターに「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、撮影コマ数、記録可能コマ数、AFエリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます（図は、説明のため全ての表示を点灯させています）。



1	Bluetooth通信マーク296 機内モード295	10	電子音マーク294
2	Wi-Fi通信マーク296 Eye-Fi通信マーク296	11	カメラのバッテリー残量表示 ...31 MB-D17のバッテリー種別表示297 MB-D17のバッテリー残量表示296
3	衛星受信状態マーク242	12	ホワイトバランス151
4	長秒時ノイズ低減マーク275	13	ピクチャーコントロール マーク172
5	ヴィネットコントロールマーク275	14	アクティブD-ライティング マーク181
6	自動ゆがみ補正275	15	静止画撮影メニュー設定表示 ...272
7	電子先幕シャッター286	16	撮像範囲表示82
8	露出ディレーモード286	17	リリースモード110
9	インターバルタイマー設定 マーク235 微速度撮影設定マーク68 ⊕マーク		



18	フラッシュシンクロマーク287	29	オートブラケティング 撮影コマ数表示141 WBブラケティング 撮影コマ数表示145 ADLブラケティング 度合い表示149 HDR露出差184 HDR(連続)マーク185 多重露出撮影コマ数229 多重露出(連続)マーク229
19	シャッタースピードロック マーク133	30	オートブラケティングマーク141 WBブラケティングマーク145 ADLブラケティングマーク148 HDRマーク183 多重露出マーク227
20	シャッタースピード125、128	31	フラッシュモード192
21	絞り込み段数マーク126、313		
22	絞り値126、128 絞り込み段数126、313		
23	インジケータ 露出129 露出補正138 オートブラケティング141 WBブラケティング145		
24	画像コメント入力設定マーク294		
25	著作権情報設定マーク294		
26	IPTC設定マーク294		
27	プログラムシフトマーク124		
28	露出モード123		



<p>32 露出補正マーク 138</p> <p>露出補正值 138</p> <p>33 調光補正マーク 194</p> <p>調光補正量 194</p> <p>34 FVロックマーク 197</p> <p>35 測光モード 121</p> <p>36 絞り値ロックマーク 133</p> <p>37 ISO感度 116</p> <p>ISO感度マーク 116</p> <p>感度自動制御設定マーク 119</p>	<p>38 1000コマ以上補助表示 32</p> <p>39 記録可能コマ数 32、376</p> <p>手動設定レンズNo. 239</p> <p>40 画質モード 85</p> <p>副スロットの機能 90</p> <p>画像サイズ 88</p> <p>XQDカードマーク 32、292</p> <p>SDカードマーク 32、292</p> <p>41 AFモードマーク 91</p> <p>42 AFエリアモード表示 97、100</p>
---	---

🔍 インフォ画面を消灯するには

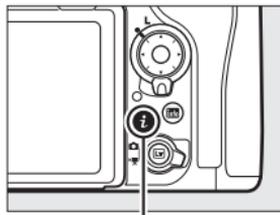
- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面またはフラッシュインフォ画面の表示中に、**Info** ボタンを押す操作を行わないまま約10秒経過したときも、インフォ画面は消灯します。

🔍 関連ページ

- 画像モニターの点灯時間を変更する → 🖋️ c4 [モニターのパワーオフ時間] (□285)
- インフォ画面の表示を手動で白黒反転する → 🖱️ [インフォ画面の表示設定] (□293)

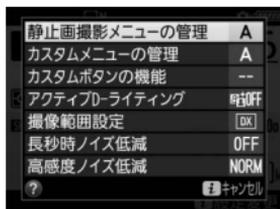
iボタンを使う

ファインダー撮影時に*i*ボタンを押すと、次のメニューが表示されます。マルチセクターで項目を選んでOKボタンを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。



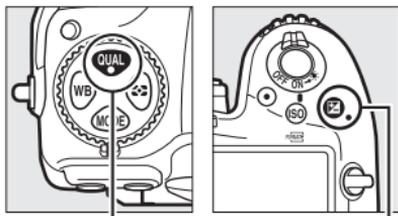
iボタン

メニュー項目	📖
静止画撮影メニューの管理	272
カスタムメニューの管理	281
カスタムボタンの機能	289
アクティブD-ライティング	181
撮像範囲設定	82
長秒時ノイズ低減	275
高感度ノイズ低減	275



ツボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す

QUAL ボタンと  ボタン（それぞれのボタンに緑色の●が付いています）を2秒以上同時に押し、一瞬表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。



QUAL ボタン

 ボタン

■■ 静止画撮影メニュー項目 ※1

メニュー項目	初期設定
静止画撮影メニューの拡張	しない
画質モード	NORMAL
画像サイズ	
JPEG/TIFF	サイズL
RAW	サイズL
ISO感度設定	
ISO感度	100
感度自動制御	しない
ホワイトバランス	AUTO0 白を優先する
微調整	A-B: 0、G-M: 0
ピクチャーコントロールの調整値	解除※2
多重露出	解除※3
HDR（ハイダイナミックレンジ）	解除※4
インターバルタイマー撮影	解除※5
フリッカー低減	
フリッカー低減機能	無効
フリッカー検出の表示	する

※1 現在選択中の静止画撮影メニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます（多重露出とインターバルタイマー撮影は、全ての静止画撮影メニューで共通です）。

※2 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

- ※3 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが**【する（連続）】**または**【する（1回）】**の場合は**【しない】**に設定されます。コマ数と合成モードは初期設定には戻りません。
- ※4 HDRモードが**【する（連続）】**または**【する（1回）】**の場合は**【しない】**に設定されます。露出差とスムージングは初期設定には戻りません。
- ※5 インターバルタイマー撮影が中断されます。開始日時、撮影間隔、撮影回数×1回のコマ数、露出平滑化は初期設定には戻りません。

■■ 動画撮影メニュー項目

メニュー項目	初期設定
ISO感度設定	
Mモード時のISO感度設定	100
Mモード時の感度自動制御	しない
制御上限感度	51200
ホワイトバランス	静止画の設定と同じ
アクティブD-ライティング	しない
電子手ブレ補正	しない

■ その他の撮影関連の機能

機能	初期設定
フォーカスポイント※1	中央
プリセットフォーカスポイント	中央
露出モード	P
プログラムシフト	解除
露出補正	解除 (0.0)
AE-L (ホールド)	解除
コマンドロック (絞り)	解除
コマンドロック (シャッタースピード)	解除
AFモード	AF-S
ファインダー撮影時のAFエリアモード	シングルポイントAF
ライブビュー時のAFエリアモード	ノーマルエリアAF
静止画Lv画面のホワイトバランス	撮影時と同じ
マルチセレクターによるパワー絞り	無効
ハイライト表示	しない
ヘッドホン音量	15
測光モード	マルチパターン測光
オートブラケティング	解除※2
フラッシュモード	先幕シンクロ
調光補正	解除 (0.0)
FVロック	解除
露出ディレーモード※3	しない

※1 AFエリアモードがオートエリアAFのときは、フォーカスポイントは表示されません。

※2 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュ、WBブラケティングの補正ステップは1になります。ADLブラケティングで撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いは、**[暗A オート]**になります。

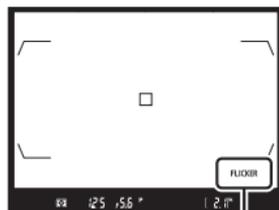
※3 現在選択中のカスタムメニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます。

フリッカー低減機能を使う

フリッカー低減機能を使うと、撮影時に蛍光灯や水銀灯などの光源下で生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）の影響を低減できます。フリッカー低減機能には、ファインダー撮影時に使う静止画撮影メニューの「フリッカー低減」と、ライブビュー表示中や動画記録時に使う動画撮影メニューの「フリッカー低減」の2種類があります。

■ ファインダー撮影時

- 静止画撮影メニューの「フリッカー低減」で「フリッカー低減機能」を「有効」に設定すると、ファインダー撮影時に「フリッカー現象」の影響が少ないタイミングで撮影できます。
- 「フリッカー検出の表示」を「する」に設定すると、フリッカーを検出しているときにシャッターボタンを半押しした場合、ファインダー内に **FLICKER** アイコンが点灯します。**FLICKER** アイコンが点滅した場合は「フリッカー低減機能」の設定が「無効」になっています。フリッカー現象を低減したい場合は、「フリッカー低減機能」を「有効」に設定してください。



FLICKERアイコン

■ ライブビュー表示中および動画記録時

動画撮影メニュー「フリッカー低減」では、ライブビュー表示中（□39）や動画記録中（□54）に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で画面に生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）を低減できます。



🔪 静止画撮影メニュー【フリッカー低減】について

- 撮影の前に、試し撮りをするをおすすめします。
- フリッカー低減機能を使うと、光源によってシャッターのきれるタイミングが少し遅れることがあります。また、連続撮影時は撮影速度が遅くなったり、撮影間隔が一定ではなくなることがあります。
- 電源周波数が50Hzの場合は100Hzの点滅周期を、また電源周波数が60Hzの場合は120Hzの点滅周期を検出します。連続撮影中に光源の点滅周期が変化した場合、フリッカーの影響は低減できません。
- 背景が暗い場合や輝度が高い光源が含まれる場合など光源や撮影条件によっては、フリッカーが検出できなかったり、フリッカー低減の効果が得られないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカー低減機能の効果が得られないことがあります。
- 増灯時 (□199) を除くフラッシュ撮影では、フリッカー低減が機能します。

🔪 静止画撮影メニュー【フリッカー低減】の制限について

次の場合など、静止画撮影メニュー【フリッカー低減】が無効になります。

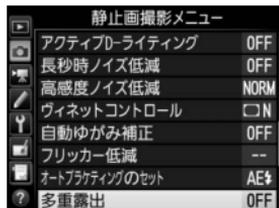
- レリーズモード (□110) が **Mup** (ミラーアップ撮影) の場合
- 露出ディレイモード (□286) が有効の場合
- シャッタースピードが 1/100 秒より低速の場合や、**bulb** (バルブ) または **- -** (タイム) の場合

多重露出撮影で1つの画像に重ねて写し込む

多重露出撮影は2～10コマまで重ねて写し込み、1つの画像として記録します。

■ 多重露出の撮影方法

- 1 静止画撮影メニューの [多重露出] を選んでマルチセレクターの  を押す



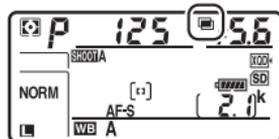
- 2 [多重露出モード] を設定する

- [多重露出モード] を選んで、 を押します。
-  または  を押して多重露出モードを設定し、 ボタンを押します。



ON  する(連続)	同じ設定で続けて多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度 [多重露出モード] を選んで [しない] に設定してください。
する(1回)	多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。
しない	多重露出撮影を解除します。

- [する(連続)] または [する(1回)] を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルに  マークが点灯します。



3 [コマ数] (露光回数) を設定する

- [コマ数] を選んで、を押します。
- またはを押して露光回数を設定し、ボタンを押します。

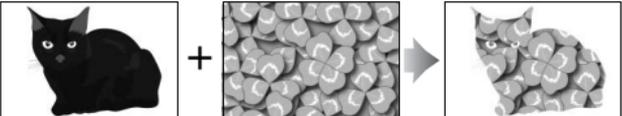
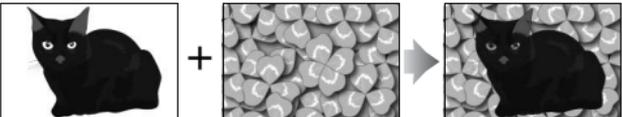


4 [合成モード] を設定する

- [合成モード] を選んで、を押します。

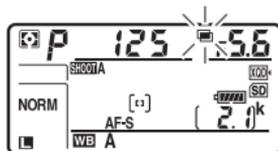


- 合成モードの設定により、撮影した画像の仕上がりが異なります。

加算	全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。
加算平均	重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。 • 各コマのゲインは、「 $1 \div \text{露光回数}$ 」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。
比較明合成	撮影した画像の中から、画素ごとに明るい方を選んで合成します。 
比較暗合成	撮影した画像の中から、画素ごとに暗い方を選んで合成します。 

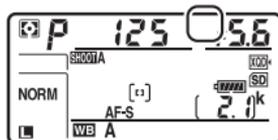
5 1回目の撮影をする

- 撮影を始めると、マークが点滅します。



6 2回目以降の撮影をする

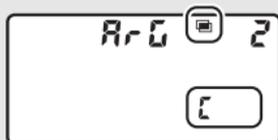
- [する (連続)] の場合、[多重露出モード] で [しない] を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。
- 多重露出モードが [する (1回)] の場合、手順3で設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、マークが消灯します。



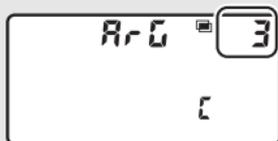
BKTボタンとコマンドダイヤルで多重露出モードとコマ数を設定する

カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] の [BKTボタン+

- BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して  ([しない])、 ([する (1回)])、 ([する (連続)]) から選んでください。



- BKTボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのコマ数が切り替わります。

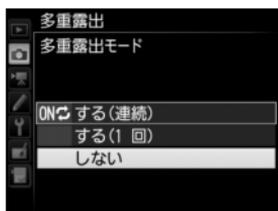


▼ 多重露出撮影時のご注意

- 多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で画像モニターを点灯した場合、画像モニターが消灯してから操作のないまま30秒程度経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニューc2 [半押しタイマー] (□284) を長めに設定すると、多重露出が解除されるまでの時間が延長されます。
- 多重露出撮影中は、ライブビューを開始できません。
- 多重露出モードを [する (連続)] または [する (1回)] に設定していても、ライブビュー表示にすると [しない] になります。
- 多重露出で撮影する場合、ノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生しやすくなります。
- レリーズモード (□110) を **CL**、**CH**、または **Qc** に設定した場合、多重露出モードが [する (1回)] のときは、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数の撮影後、多重露出撮影を解除します。[する (連続)] のときは、シャッターボタンを押し続けている間、多重露出で設定された撮影コマ数で多重露出撮影を繰り返します。
- セルフタイマー撮影時 (□113) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニューc3 [セルフタイマー] (□285) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出の撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、1コマ目の内容になります。
- 多重露出による撮影中は、メモリーカードを交換しないでください。
- 多重露出撮影中はメモリーカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選択できません。

■ 多重露出撮影を終了するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を終了するには、多重露出モードを [しない] に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（[合成モード] を [加算平均] に設定していた場合は、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。



このほか、次の場合も、多重露出は終了されます。

- ツーボタンリセット (□222) を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき

🔪 多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影 (□232) を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影ができます。この場合、[インターバルタイマー撮影] で設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、[多重露出] で設定されたコマ数の撮影が終了すると、インターバルタイマー撮影を終了します。多重露出が [する (1回)] の場合は、多重露出も終了します。

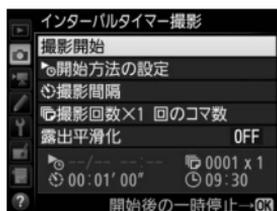
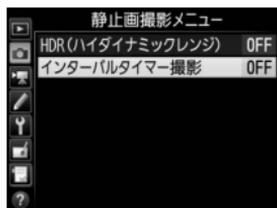
設定した間隔で撮影する (インターバルタイマー撮影)

このカメラは、設定した開始方法（即時または設定時刻）と撮影間隔で自動的に撮影を行う、インターバルタイマー撮影が可能です。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です。インターバルタイマー撮影は、リリースモードをS、CL、CH、Q、QCまたはMUPに設定して撮影してください。

■ インターバルタイマー撮影の開始

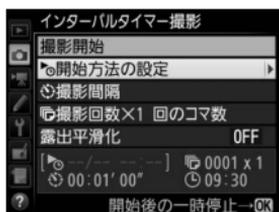
1 静止画撮影メニューの [インターバルタイマー撮影] を選ぶ

- マルチセレクターの  を押すと、インターバルタイマー撮影の設定画面が表示されます。



2 インターバルタイマー撮影の設定をする

• 開始方法を選ぶ



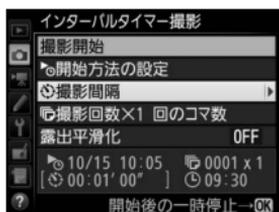
「開始方法の設定」を選んで
を押す



開始方法を選んでOKボタン
を押す

- インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は、「即時スタート」を選びます。
- インターバルタイマー撮影の開始日時を設定する場合は、「開始日時設定」を選びます。表示される画面で開始日時を設定してOKボタンを押します。

• 撮影間隔（インターバル）を設定する

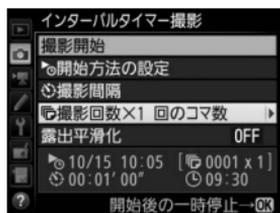


「撮影間隔」を選んで
を押す



撮影間隔（時、分、秒）を
設定してOKボタンを押す

• 撮影回数と1回のコマ数を設定する



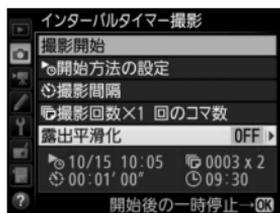
[撮影回数×1回のコマ数]
を選んで \odot を押す



撮影回数と1回で撮影する
コマ数を設定して、 \odot ボタ
ンを押す

- リリースモードが**S**の場合、撮影コマ数を2コマ以上に設定すると、カスタムメニュー d1 [低速連続撮影速度] (□285) で設定された速度で撮影します。

• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



[露出平滑化]を選んで \odot
を押す

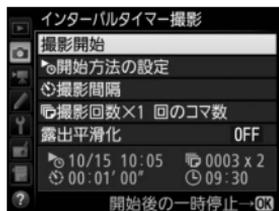


露出平滑化をするかどうか
を選んで \odot ボタンを押す

- [する] を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。ただし、露出モード**M**で静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] が [しない] の場合、露出の平滑化は行いません。

3 [撮影開始] を選んで **OK** ボタンを押す

- 手順2の [開始方法の設定] で [即時スタート] を選んでいる場合は、約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2の [開始方法の設定] で [開始日時設定] を選んでいる場合は、設定した日時に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。

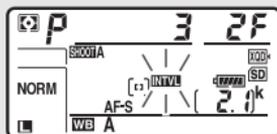


✓ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをするをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの [地域と日時] (□292) で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクタとACアダプターをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします (□113)。

📄 インターバルタイマー撮影の待機状態について

インターバルタイマー撮影の待機状態では、表示パネルに **INTVL** マークが点滅します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。



- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。

■■ インターバルタイマー撮影を一時停止するには

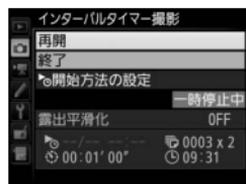
インターバルタイマー撮影を一時停止するには、次の操作を行います。

- 撮影待機中に \odot ボタンを押す
- 撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [一時停止] を選び、 \odot ボタンを押す

■■ インターバルタイマー撮影を再開するには

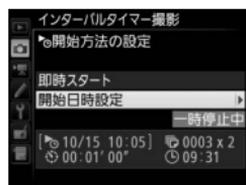
インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

すぐに再開する場合



[再開] を選んで \odot ボタンを押す

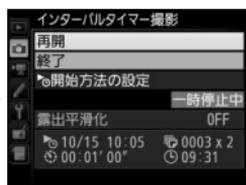
再開する日時を設定する場合



[開始方法の設定] 画面で [開始日時設定] を選び \odot を押す



開始日時を設定して \odot ボタンを押す



[再開] を選んで \odot ボタンを押す

■■ インターバルタイマー撮影を終了するには

インターバルタイマー撮影を終了するには、撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [終了] を選び、 \odot ボタンを押します。

▼ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに1回の撮影コマ数を掛けた値よりも長い時間を設定してください。実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した [撮影回数×1回のコマ数] で撮影できないことがあります。
- スピードライトを使用する場合は、適正な発光を行うために必要な充電時間よりも長い時間を設定してください。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、発光量が不足することがあります。
- 設定した開始日時が現在時刻後1分以内の場合や [撮影間隔] が [00:00'00"] の場合、シャッタースピードが **b** **u** **l** **b** (バルブ) または **-** (タイム) の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- メモリーカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるメモリーカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください (□236)。
- 次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。
 - 電源をOFFにして、再度ONにしたとき (電源がOFFの間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します)
 - レリーズモードを  に切り換えたとき
- インターバルタイマー撮影中にカメラの設定を変更すると、インターバルタイマー撮影が終了する場合があります。
- AFモードが **AF-S** の場合は、撮影ごとにピント合わせを行います。被写体にピントが合わないときに撮影開始予定時刻を8秒過ぎると、その回の撮影をキャンセルして次の回の撮影時刻から撮影を再開します。

📷 撮影コマ数について

レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

📷 インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

🔪 オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時にAE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティングまたはADLブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時にWBブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。

🔪 インターバルタイマー撮影の制限について

インターバルタイマー撮影は、次の機能とは同時に使用できません。

- ライブビュー (□39)
- 長時間露出 (バルブまたはタイム) 撮影 (□130)
- 微速度撮影 (□68)
- カスタムメニュー-g1 [カスタムボタンの機能] > [シャッターボタン] > [動画撮影] (□291)

🔪 インターバルタイマー撮影の設定について

電源をOFFにしたり、リリースモードを切り換えたりした場合も、設定した内容は記憶されています。

🔪 静止画撮影メニューの切り換えとリセットについて

インターバルタイマー撮影設定画面の内容は、全ての静止画撮影メニュー（「A」～「D」）（□272）で共通です。このため、静止画撮影メニューの「**静止画撮影メニューの管理**」で静止画撮影メニューを切り換えても、インターバルタイマー撮影は続行します。また、「**静止画撮影メニューの管理**」で静止画撮影メニューをリセットすると、全ての静止画撮影メニューでインターバルタイマー撮影設定が初期状態（開始方法の設定：即時スタート、撮影間隔：1分、撮影回数×1回のコマ数：1回/1コマ、露出平滑化：しない）にリセットされ、実行中のインターバルタイマー撮影は終了します。

非CPUレンズを使う（レンズ情報手動設定）

このカメラでは、非CPUレンズ装着時も露出モード**A**または**M**で撮影ができます。非CPUレンズを使用する場合、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの情報をカメラに登録すると、非CPUレンズ（□□313）を使って撮影するときに、次の機能が使用できるようになります。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
 - 別売のスピードライトのオートパワーズーム
 - 再生画面での焦点距離表示（焦点距離に*印が付きます）
- **開放絞り値（開放F値）を設定して使用できる機能：**
 - レンズで設定した絞り値表示（表示パネル、ファインダー内表示）
 - スピードライトの絞り連動外部自動調光（A）
 - 再生画面での絞り値表示（絞り値に*印が付きます）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
 - RGB マルチパターン測光（レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では十分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光に設定して撮影してください）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
 - 中央部重点測光
 - スポット測光
 - i-TTL調光

ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

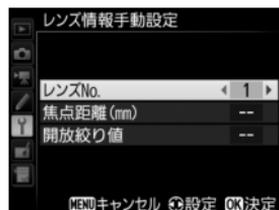
■ レンズ情報の登録方法

- 1 セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] を選んでマルチセクターの  を押す



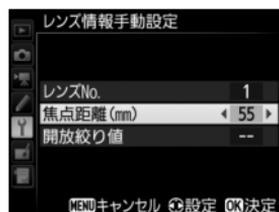
- 2 [レンズNo.] を選ぶ

-  または  を押して、登録したいレンズNo.を選びます。



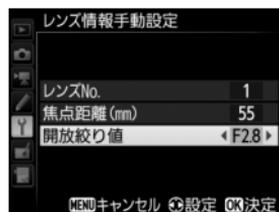
- 3 [焦点距離 (mm)] を選ぶ

-  または  を押して、レンズの焦点距離を選びます。



- 4 [開放絞り値] を選ぶ

-  または  を押して、レンズの開放絞り値を選びます。



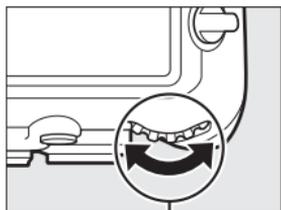
- 5  ボタンを押して、設定を終了する

- レンズの設定が保存されて、セットアップメニュー画面に戻ります。

■ 手動設定済みレンズ情報の選択方法

1 カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (289) で任意のボタンに [手動設定済みレンズの選択] を割り当てる

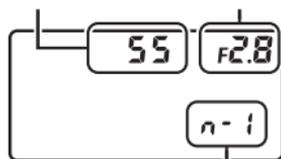
2 [手動設定済みレンズの選択] を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す



メインコマンド
ダイヤル

- レンズNo.は表示パネルに表示されません。使用したいレンズの番号が表示されるまでメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回します。

焦点距離 開放絞り値



レンズNo.

🔍 ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、もう一度レンズ情報を設定してください。

GPS機器で取得した位置情報を画像に記録する

このカメラは、10ピンターミナル（□2）に接続したGPS機器により、位置情報を画像に記録することができます。GPS機器と通信して撮影した画像には、再生時の画像情報に位置情報のページ（□258）が追加されます。位置情報を記録するには、次の2つの方法があります。

● 別売のGPSユニットGP-1またはGP-1Aと接続する

GP-1/GP-1Aを接続すると、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。

● 他社製のGPS機器と接続する（□325）

別売のGPS変換コードMC-35を介して、市販の対応GPS機器（□325）と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）、撮影方位を記録できます。

■ 別売のGPSユニットGP-1/GP-1Aと接続する

別売のGPSユニットGP-1/GP-1Aは、ニコンデジタルカメラ専用のGPS機器です。カメラとGP-1/GP-1Aの接続方法については、GP-1/GP-1Aの使用説明書をご覧ください。

🔍 GPS機器使用時の表示について

GPS機器との通信状態は、インフォ画面の衛星受信状態マーク📶で確認できます。

- 📶（点灯）：位置情報が確定しています。
- 📶（点滅）：GPS機器が取得している情報が確定していないため、位置情報は記録されません。
📶が点灯するまでお待ちください。
- 📶（消灯）：GPS機器との通信が2秒以上途絶えると、📶が消灯します。この状態で撮影した画像データには位置情報は記録されません。



🔍 スマートフォンからの位置情報取得について

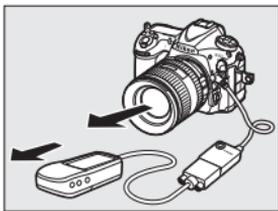
カメラとスマートフォンを接続して、セットアップメニュー [位置情報] の [スマートフォンから取得]（□294）を [する] にすると、スマートフォンから位置情報を取得して画像データに記録することができます。

■ GPS機器接続時のカメラの設定について

セットアップメニューの [位置情報] を選んでマルチセレクターの  を押し、GPS機器と接続時の半押しタイマーの設定、取得した位置情報の表示、衛星による日時合わせの設定ができます。

- [情報表示] では、GPS機器接続時に取得した情報を表示します。

緯度	緯度を表示。
経度	経度を表示。
標高	標高を表示。
方位	<p>撮影方位を表示。</p> <ul style="list-style-type: none">• 撮影方位は、電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ記録されます。• GP-1/GP-1Aを接続した場合、撮影方位は記録されません。• 撮影方位を正確に記録したい場合は、カメラからGPS機器を20cm以上離し、撮影する方位にGPS機器の向きを合わせてください。
UTC	<p>UTC (協定世界時) を表示。</p> <p>UTC (Coordinated Universal Time = 協定世界時) は、GPS機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。</p>



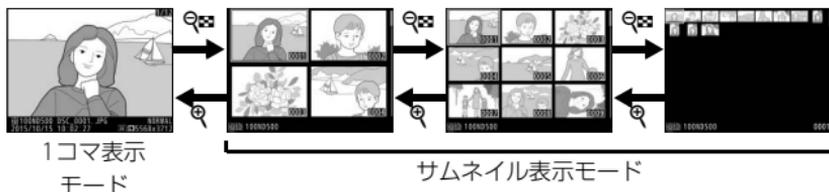
- [GPS機器設定] の [半押しタイマー] では、カメラとGPS機器を接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

有効	<p>カメラを操作していないときは、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□□284) で設定された時間で半押しタイマーがオフになります。</p> <ul style="list-style-type: none">• カメラのバッテリーの消費を少なくすることができます。• GP-1/GP-1Aとの接続時には、電源をONにした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラが位置情報を取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。• GP-1/GP-1Aとの接続時には、半押しタイマーがオフになってからも、位置情報の測位を一定時間継続します。
無効	<p>GPS機器と接続中は、半押しタイマーがオフにならず、位置情報を測位し続けます。</p>

- **[GPS機器設定]** の **[衛星による日時合わせ]** が **[する]** の場合、GPS機器接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。GPS機器を使用して日時を合わせないときは、**[しない]** を選んでください。

画像の再生

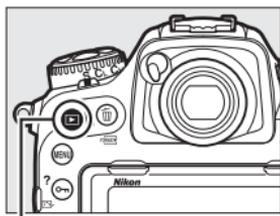
画像を再生する



1コマ表示モード

▶ ボタンを押すと、最後に撮影した画像が画像モニターに表示されます。

- マルチセレクターの を押すと前の画像が、 を押すと次の画像が表示されます。タッチパネルをフリックしても画像を切り換えられます。
- または を押すと、表示中の画像についての詳しい情報が表示されます (□251)。

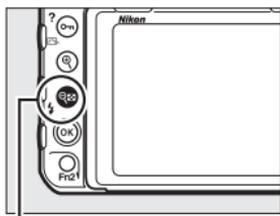


▶ ボタン

サムネイル表示モード

1コマ表示モードのときに ボタンを押すと、複数の縮小画像 (サムネイル画像) を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

- 表示される画像の数は、 ボタンを押すたびに4コマ、9コマ、72コマの順に増え、 ボタンを押すたびに減ります。
- マルチセレクターの またはななめを押して画像を選びます。
- タッチパネルを上下にスライドすると画面をスクロールできます。



ボタン

画像再生時のボタン操作

🗑️ (FORMAT) : 画像を削除する (☞267)

MENU : メニューに移る (☞270)

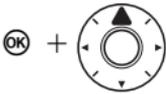
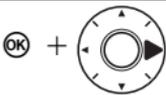
🔒 (🔒/?): 画像を保護する (☞263)

🔍 : 画像を拡大する (☞261)

🖼️ (🔌) : サムネイル表示モードで画像を一覧表示する (☞245)

🔍 ボタンで使える再生機能

マルチセレクターとの組み合わせで次の機能を使えます。

	<p>[スロット/フォルダー指定] 画面が表示されます。スロットを選んで🔍を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んで🔍ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> • 静止画の場合 : 画像編集メニュー (☞301) が表示されます。 • 動画の場合 : 動画編集メニュー (☞77) が表示されます。
	<p>セットアップメニュー [IPTC] (☞294) でカメラに登録したIPTCプリセットの一覧が表示されます。IPTCプリセットを選んで🔍ボタンを押すと、選んだIPTCプリセットが表示中の静止画に添付されます(すでに画像にIPTCプリセットが添付されている場合は、選んだIPTCプリセットに上書きされます)。</p>
	<p>WT-7を装着したときに、選んだ画像を画像送信モードでパソコンやFTPサーバーに送信できます。</p>

メモリーカードスロットの切り換えについて

サムネイル表示モードの72コマ表示時にQ \boxtimes (⚡) ボタンを押して [スロット/フォルダー指定] 画面を表示することもできます。

縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの [縦位置自動回転] (□271) を [する] に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。



撮影直後の画像確認について

再生メニューの [撮影直後の画像確認] (□271) で [する] が設定されているときは、▶ ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に画像モニターに表示します。

- レリーズモードがCH、CL、またはQCのときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの [縦位置自動回転] (□271) を [する] に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

関連ページ

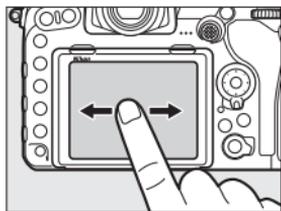
- 画像モニターの表示時間を変更する → \pencil c4 [モニターのパワーオフ時間] (□285)
- マルチセレクターの中央ボタンの機能を変更する → \pencil f2 [中央ボタンの機能] (□289)
- 画像のコマ送りやメニュー操作をコマンドダイヤルで行えるようにする → \pencil f4 [コマンドダイヤルの設定] の [再生/メニュー画面で使用] (□290)

再生時にタッチパネルでできること

このカメラの画像モニターは、再生時に指で画面にタッチして次の操作ができます。

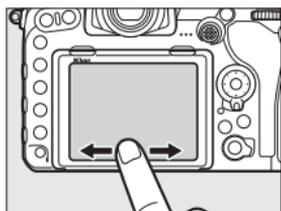
前後の画像を表示する

左右にフリックすると、前後の画像を表示します。



前後の画像を高速で切り換える

1コマ表示時に画面下部をタッチすると、フレームアドバンスバーが表示されます。フレームアドバンスバーに触れたまま指を左右にスライドすると、前後の画像を高速で切り換えられます。

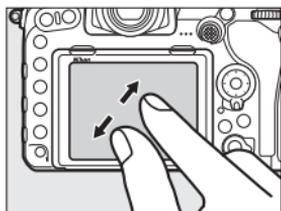


フレームアドバンスバー

拡大表示する（静止画のみ）

1コマ表示中に広げる操作をするか、画面を素早く2回タッチすると、拡大表示 (□261) します。

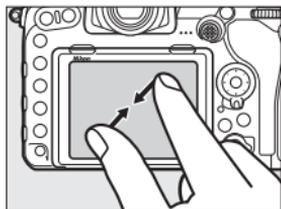
- さらに広げる操作をすると、拡大率が上がります。
- つまむ操作をすると、拡大率が下がります。
- 画面をスライドすると、見たい部分に移動できます。
- 画面を素早く2回タッチすると、拡大表示を解除します。



サムネイル表示する

1コマ表示中につまむ操作をすると、サムネイル表示 (□245) します。

- 広げる/つまむ操作をすると、表示コマ数 (4コマ/9コマ/72コマ) が切り替わります。



動画を再生する

▼が表示されている画像で、操作ガイドにタッチすると再生します。

- 再生中に画面をタッチすると一時停止します。もう一度タッチすると再生を再開します。



操作ガイド

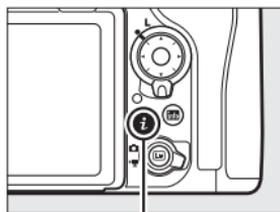
- 再生中に◀にタッチすると、再生を終了して1コマ表示モードに戻ります。
- タッチでは操作できない操作ガイドもあります。



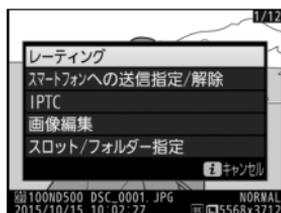
i ボタンを使う

1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードで*i* ボタンを押すと、次のメニューが表示されます。項目を選んでマルチセレクターの \odot を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 動画再生の一時停止中に*i* ボタンを押すと、動画の編集 (□77) を行えます。
- 再生画面に戻るには、再度*i* ボタンを押してください。



i ボタン



レーティング	選んだ画像にレーティングを設定します (□264)。
スマートフォンへの送信指定/解除	スマートフォンに取り込みたい静止画を送信指定することができます (□265)。
IPTC	選んだ静止画に設定したIPTC情報を添付します (□294)。
画像編集	選んだ静止画を編集できます (□301)。
動画編集	選んだ動画を編集できます (□77)。
スロット/ フォルダー指定	スロットとフォルダーを切り換えられます。スロットを選んで \odot を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んで \odot ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。

画像情報を表示する

1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセクターの  または  を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



※1 再生メニューの [再生画面設定] (□270) で設定している場合のみ表示します。

※2 IPTCプリセット (□294) を添付した静止画の場合のみ表示します。

※3 撮影時に位置情報 (□242) を記録した画像の場合のみ表示します。

標準表示



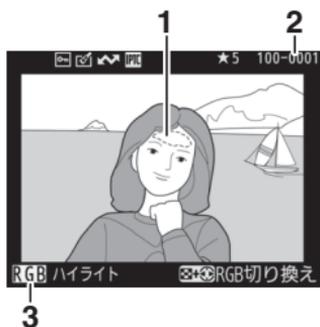
1	プロテクト設定の有無	263	8	画質モード*	85
2	画像編集の有無	301	9	画像サイズ	88
3	送信指定の有無	265	10	撮像範囲	82
4	IPTCプリセット添付の有無	246、294	11	撮影時刻	292
5	フォーカスポイント※1,2	102	12	撮影日付	292
6	コマ番号/ フォルダー内全画像数		13	スロット	36
7	AFエリアフレーム※1	26	14	レーティング	264
			15	フォルダー名	272
			16	ファイル名	272

※1 再生メニューの【再生画面設定】(□270)で【フォーカスポイント】を設定している場合のみ表示します。

※2 表示されるフォーカスポイントは、撮影時の設定により、次のように異なります。

- ファインダー撮影時にAFエリアモード(□97)がシングルポイントAF、ダイナミックAFまたはグループエリアAFの場合、またはファインダー撮影時にマニュアルフォーカスで撮影した場合、自分で選んだフォーカスポイントを表示します。
- ファインダー撮影時のAFエリアモードが3D-トラッキング、オートエリアAFの場合、撮影時にカメラが選んだフォーカスポイントを表示します。

■ ハイライト表示

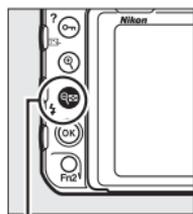


1 画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します※

2 フォルダ番号-ファイル名を表す4桁の数字272

3 ハイライト部分が点滅表示している色※

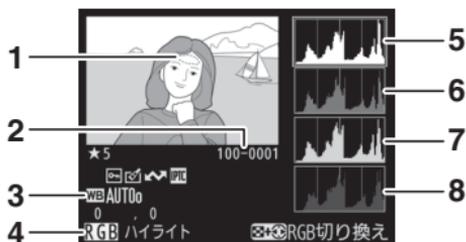
※  ボタンを押しながらマルチセレクターの  または  を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



 ボタン

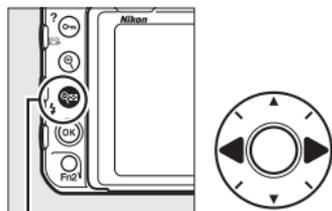


RGBヒストグラム

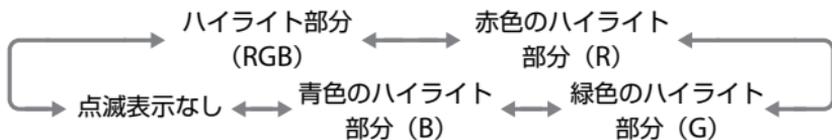


- | | |
|--|--|
| <p>1 画像のハイライト部分を各色ごとに点滅表示します※
.....253</p> <p>2 フォルダ番号-ファイル名を表す4桁の数字272</p> <p>3 ホワイトバランス151
 ホワイトバランス色温度157
 ホワイトバランス微調整154
 プリセットマニュアル159</p> | <p>4 ハイライト部分が点滅表示している色※</p> <p>5 RGBのヒストグラム</p> <p>6 赤色 (R) のヒストグラム</p> <p>7 緑色 (G) のヒストグラム</p> <p>8 青色 (B) のヒストグラム</p> |
|--|--|

※ ボタンを押しながらマルチセクターの または を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



ボタン



④ 拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で \mathcal{Q} ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。 \mathcal{Q} (⚡) ボタンを押すと画像を縮小表示します。



④ ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



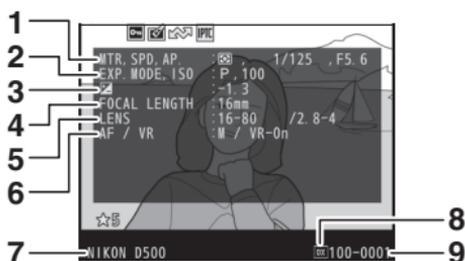
露出補正を+側にすれば山が右側に寄り、-側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて画像モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

④ ヒストグラム表示について

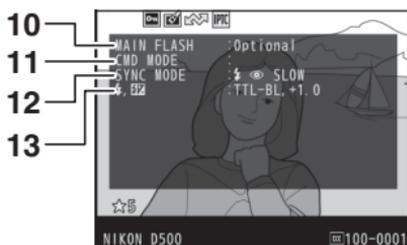
- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

■ 撮影情報

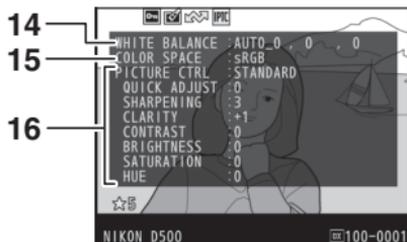
撮影時の設定の詳細を表示します。



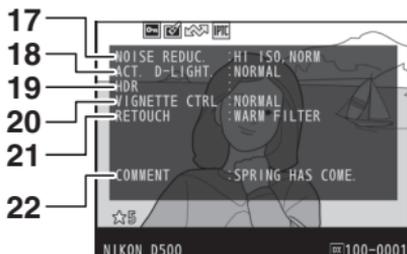
1	測光モード	121	5	レンズ情報	239
	シャッタースピード	125、128	6	フォーカスモード	91
	絞り値	126、128		レンズのVR（手ブレ補正）機能のON/OFF※3	
2	露出モード	123	7	カメラ名	
	ISO感度※1	116	8	撮像範囲	82
3	露出補正值	137	9	フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字	
	基準露出レベルの調節値※2	284			
4	焦点距離	239、316			



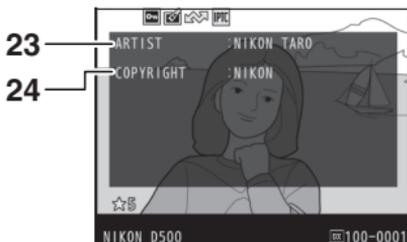
10	フラッシュの種類※4		12	フラッシュモード※4	192
11	リモートフラッシュの制御方法※4	199	13	スピードライトの設定※4	214
				調光補正值※4	194



14	ホワイトバランス151	15	色空間274
	ホワイトバランス色温度157	16	ピクチャーコントロール*5171
	ホワイトバランス微調整154		
	プリセットマニュアル159		



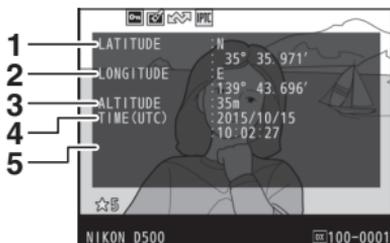
17	高感度ノイズ低減275	21	画像編集メニュー (□301) で行われた画像編集の内容が一覧表示されます。複数の画像編集が行われた場合は、順番に表示されます。
	長秒時ノイズ低減275	22	画像コメント294
18	アクティブD-ライティング180		
19	HDRの露出差184		
	HDRのスモーキング184		
20	ヴィネットコントロール275		



23 撮影者名※6294 **24** 著作権者名※6294

- ※1 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
- ※2 カスタムメニューb7 [基準露出レベルの調節] (□284) を0以外に設定している場合のみ表示します。
- ※3 VRレンズ装着時のみ表示します。
- ※4 別売のスピードライト使用時のみ表示します (□317)。
- ※5 表示される項目は、撮影時に設定したピクチャーコントロールによって異なります。
- ※6 セットアップメニューの [著作権情報] (□294) を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。

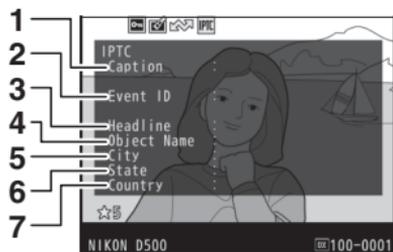
■ 位置情報※1 (□242)



- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 緯度 | 4 UTC (協定世界時) |
| 2 経度 | 5 撮影方位※2 |
| 3 標高※2 | |

- ※1 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。
- ※2 対応するGPS機器と接続して撮影した場合のみ表示します。

■ IPTC情報 (📖 294)



1 Caption

2 Event ID

3 Headline

4 Object Name

5 City

6 State

7 Country



8 Category

9 Supp. Cat. (Supplemental
Categories)

10 Byline

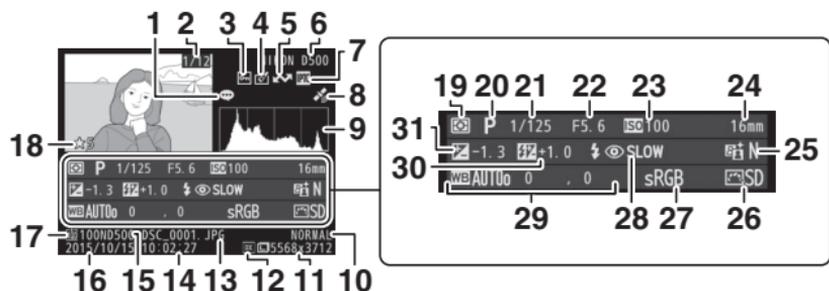
11 Byline Title

12 Writer/Editor

13 Credit

14 Source

■ 統合表示



1	画像コメントの有無	294	18	レーティング	264
2	コマ番号/フォルダー内全画像数		19	測光モード	121
3	プロテクト設定の有無	263	20	露出モード	123
4	画像編集の有無	301	21	シャッタースピード	125、128
5	送信指定の有無	265	22	絞り値	126、128
6	カメラ名		23	ISO感度*1	116
7	IPTCプリセット添付の有無	246、294	24	焦点距離	239、316
8	位置情報の有無	242	25	アクティブD-ライティングの強度	181
9	画像のヒストグラムを表示します (☐255)。		26	ピクチャーコントロール	171
10	画質モード*	85	27	色空間	274
11	画像サイズ	88	28	フラッシュモード*2	192
12	撮像範囲	82	29	ホワイトバランス	151
13	ファイル名	272		ホワイトバランス色温度	157
14	撮影時刻	292		ホワイトバランス微調整	154
15	フォルダー名	272		プリセットマニュアル	159
16	撮影日付	292	30	調光補正值*2	194
17	スロット	90		コマンダーモードの有無*2	
			31	露出補正值	137

※1 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

※2 別売のスピードライト使用時のみ表示します (☐317)。

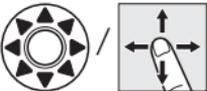
画像を拡大表示する

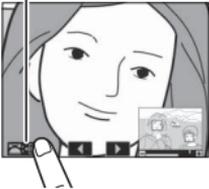
1コマ表示モードのときに \odot ボタンまたは中央ボタンを押すか、画面を素早く2回タッチすると、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約21倍、**M**では約16倍、**S**では約10倍です（撮像範囲が【DX (24×16)】の場合）。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、最大35人までの顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して順次移動することができます。



\odot ボタン

■■ 拡大表示中の操作方法

拡大率を上げる		ボタンを押すか、画面で広げる操作をするごとに拡大率が上がります。	 <p>拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。ナビゲーションウィンドウの下には拡大率を示すバーが表示され、拡大率が100%の場合、バーの色が緑で表示されます。ナビゲーションウィンドウは数秒すると消えます。</p>
拡大率を下げる		ボタンを押すか、画面でつまむ操作をするごとに拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）させる		マルチセレクターを押すか、画面をスライドすると見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。	

<p>人物の顔へ移動させる</p>		<p>拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すか、操作ガイドをタッチすると、認識した顔に順次移動します。</p>	<p>操作ガイド</p> 
<p>前後の画像を見る</p>		<p>メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。画面下部に表示される ◀▶ をタッチしても画像を切り換えられます。</p>	
<p>画像を保護する</p>		<p>表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します (□263)。</p>	
<p>撮影に戻る</p>		<p>シャッターボタンを半押しするか、▶ ボタンを押すと、画像モニターが消灯し、すぐに撮影できます。</p>	
<p>メニューに移る</p>	<p>MENU</p>	<p>メニューが表示されます (□270)。</p>	

プロテクトで画像を削除できないように保護をする

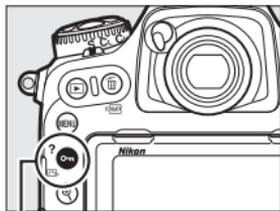
大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、メモリーカードを初期化（フォーマット：□292）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。
- サムネイル表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセクターで選びます。

2 (/ ?) ボタンを押す

-  アイコンが表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、 ( / ?) ボタンを押します。



 ( / ?) ボタン

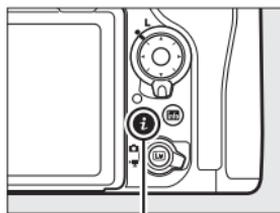


プロテクトの一括解除について

画像の再生中に、 ( / ?) ボタンと  () ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの [再生フォルダー設定] で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

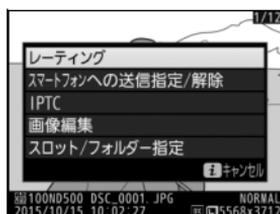
画像にレーティングを設定する

- 1 マルチセクターでレーティングを設定する画像を選んで*i*ボタンを押す



iボタン

- 2 [レーティング] を選んでマルチセクターの \blacktriangle を押す



- 3 レーティングを設定する

- \odot または \blacktriangle を押して、★★★★★～★、星なし、 ☆ (削除候補) から選びます。
- OK ボタンを押して決定します。



Fn2ボタンを押してレーティングを設定する

カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] で [Fn2ボタン] を [レーティング] に設定している場合、再生画面でFn2ボタンを押しながら \odot または \blacktriangle を押してレーティングを設定できます。

レーティングについて

画像に設定したレーティングは、Capture NX-DまたはViewNX-iにも反映されます。プロテクトした画像にはレーティングを設定できません。

スマートフォンに取り込みたい画像をカメラで送信指定する

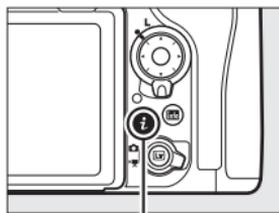
カメラとスマートフォンを接続していないときに、スマートフォンに取り込みたい静止画をあらかじめカメラで選んで送信指定することができます。動画は送信指定できません。

表示中の画像を送信指定する

1 送信指定する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、送信指定する画像を表示します。
- サムネイル表示モードのときは、送信指定する画像を選びます。

2 *i*ボタンを押す



*i*ボタン

3 [スマートフォンへの送信指定/解除] を選んで **OK** ボタンを押す



-  アイコンが表示されます。

送信指定を解除するには

解除したい画像を選んで、手順2と3を行います。

複数の画像をまとめて送信指定する

1 再生メニューの [スマートフォンへの送信指定] で [画像の選択] を選んでマルチセクターの  を押す

2 送信指定する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選び、**中央** ボタンを押すと、 が表示されて送信指定されます。もう一度**中央** ボタンを押すと解除されます。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 設定を完了する

-  ボタンを押して、設定を完了します。

画像を削除する

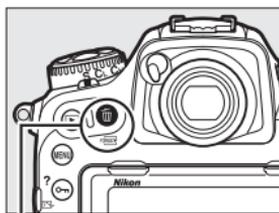
メモリーカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのご注意ください。ただし、プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。

ボタン操作で画像を削除する

🗑️ (FORMAT) ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除できます。

1 マルチセレクターで削除する画像を選んで🗑️ (FORMAT) ボタンを押す

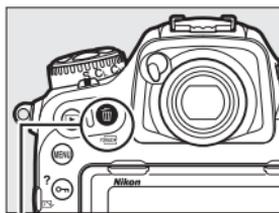
- 削除確認の画面が表示されます。
- ▶ ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。



🗑️ (FORMAT) ボタン

2 もう一度🗑️ (FORMAT) ボタンを押す

- 表示中の画像が削除されます。



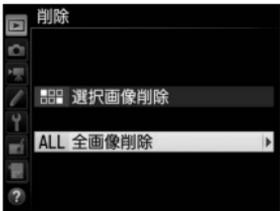
🗑️ (FORMAT) ボタン

📄 関連ページ

画像の削除後に表示される画像を変更する → ▶ [削除後の次再生画像] (□271)

複数の画像をまとめて削除する

再生メニューの [削除] では、複数の画像を一括して削除できます。たくさんの画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

■ ■ ■ 選択画像削除	選んだ画像を削除します。	
ALL 全画像削除	<p>[再生フォルダー設定] (□270) で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none">• メモリーカードを 2 枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。	

■ ■ 選択画像削除

- 1 再生メニューの [削除] で [選択画像削除] を選んでマルチセクターの  を押す



- 2 削除する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選びます。



-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

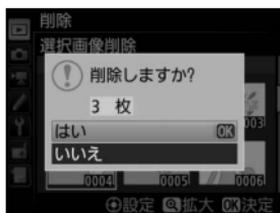
3 設定する

- **中央**ボタンを押すと、**🗑**が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、**🗑**が消えます。
- 削除する画像全てに設定してください。



4 設定を完了する

- **OK**ボタンを押して、設定を終了します。
- 確認画面で **はい** を選んで **OK**ボタンを押すと、選んだ画像が全て削除されます。



メニュー一覧

ここでは各メニュー項目の一覧が記載されています。各メニュー項目についての詳しい説明は、メニューガイドをご覧ください。

▶ 再生メニュー

削除	
選択画像削除	複数の画像を一括して削除するときに使います (□268)。
全画像削除	
再生フォルダー設定 初期設定：[全てのフォルダー]	
(フォルダーグループ名)	ここで選んだフォルダーに保存されている画像が、再生時に表示されます。
全てのフォルダー	
記録中のフォルダー	
非表示設定	
設定	画像の表示/非表示を設定できます。このメニューで非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。
一括解除	
再生画面設定	
標準表示への情報追加	1コマ表示モードで表示する画像情報を追加できます (□251)。
フォーカスポイント	
再生画面の追加	
画像のみ	
ハイライト	
RGBヒストグラム	
撮影情報	
統合表示	

画像コピー	
コピー元の選択	メモリーカードを2枚使用しているときに、メモリーカード内の画像をもう一方のメモリーカードにコピーできます。
コピー元画像の選択	
コピー先フォルダーの選択	
コピー実行	
撮影直後の画像確認	
	初期設定：[しない]
する	撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します (□247)。
しない	
削除後の次再生画像	
	初期設定：[後ろのコマ]
後ろのコマ	画像を削除した後に表示する画像を設定できます。
前のコマ	
直前コマ送り方向に従う	
連続撮影後の再生画像	
	初期設定：[最後の画像]
先頭の画像	最後に撮影した画像が連続撮影の場合、画像を再生したときに連続撮影した最初のコマまたは最後のコマのどちらを表示するかを設定できます。
最後の画像	
縦横位置情報の記録	
	初期設定：[する]
する	撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。
しない	
縦位置自動回転	
	初期設定：[する]
する	縦位置で撮影した画像を、自動的に回転して表示します (□247)。
しない	
スライドショー	
開始	画像や動画を連続再生します。
再生画像の種類	
インターバル設定	
スマートフォンへの送信指定	
画像の選択	スマートフォンに取り込みたい静止画を送信指定することができます (□266)。
送信指定の一括解除	

📷 静止画撮影メニュー

静止画撮影メニューの管理

A	静止画撮影メニューの設定内容を、「A」、 「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。
B	
C	
D	

静止画撮影メニューの拡張

初期設定：[しない]

する	静止画撮影メニュー（「A」～「D」）ごとに 露出モード、シャッタースピード（露出モード S 、 M のみ）、絞り値（露出モード A 、 M のみ）、フラッシュモードを記憶できます。
しない	

記録フォルダー設定

フォルダーグループ名変更	画像を保存するフォルダーを設定します。フォル ダーを新しく作成することもできます。
フォルダー番号指定	
既存フォルダーから選択	

ファイル名設定

ファイル名設定	このカメラで撮影した画像のファイル名 DSC_nnnn.xxx または _DSCnnnn.xxx の 「DSC」の3文字を任意に変更できます。
---------	---

主スロットの選択

初期設定：[XQDスロット]

XQDスロット	XQDカードとSDカードを同時に使うとき の、優先的に使うスロット（主スロット）を 設定できます。
SDスロット	

副スロットの機能

初期設定：[順次記録]

順次記録	メモリーカードスロットを両方使用して画 像を記録する場合の、副スロットの機能を設 定できます（□90）。
バックアップ記録	
RAW+JPEG分割記録	

フラッシュ発光

発光モード	別売のスピードライトを取り付けた場合の、発光モードとワイヤレス増灯撮影時の設定を行います (□190)。
ワイヤレス設定	
増灯発光モード	
電波リモートフラッシュ情報	

撮像範囲設定

初期設定：[DX (24×16)]

DX (24×16)	撮像範囲を設定できません (□82)。
1.3× (18×12)	

画質モード

初期設定：[NORMAL]

RAW+FINE★	画像を記録するときの画質モードを設定できます (□85)。★がない項目はサイズ優先、★がある項目は画質優先となります。
RAW+FINE	
RAW+NORMAL★	
RAW+NORMAL	
RAW+BASIC★	
RAW+BASIC	
RAW	
FINE★	
FINE	
NORMAL★	
NORMAL	
BASIC★	
BASIC	
TIFF (RGB)	

画像サイズ

JPEG/TIFF	画像を記録するときの画像サイズ (大きさ) をファイル形式ごとに設定できます (□88)。
RAW	

RAW記録

圧縮方式	RAW画像を記録するときの圧縮方式や記録ビット数を設定します (□87)。
記録ビットモード	

ISO感度設定	
ISO感度	静止画撮影時のISO感度に関する設定ができません (□116、118)。
感度自動制御	
ホワイトバランス	
	初期設定：[オート]
オート	光源の種類に合わせてホワイトバランスを設定します (□151)。
電球	
蛍光灯	
晴天	
フラッシュ	
曇天	
晴天日陰	
色温度設定	
プリセットマニュアル	
ピクチャーコントロール	
	初期設定：[スタンダード]
スタンダード	記録する画像の仕上がり (ピクチャーコントロール) を、撮影シーンや好みに合わせて選べます (□171)。
ニュートラル	
ビビッド	
モノクローム	
ポートレート	
風景	
フラット	
カスタムピクチャーコントロール	
編集と登録	「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます (□176)。
登録名変更	
削除	
メモリーカードを使用	
色空間	
	初期設定：[sRGB]
sRGB	記録する静止画の色空間を指定できます。
Adobe RGB	

アクティブD-ライティング		初期設定：[しない]
オート	白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます (□180)。	
より強め		
強め		
標準		
弱め		
しない		
長秒時ノイズ低減		初期設定：[しない]
する	シャッタースピードが遅いときに発生するノイズ（むら、輝点）を低減できます。	
しない		
高感度ノイズ低減		初期設定：[標準]
強め	ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。	
標準		
弱め		
しない		
ヴィネットコントロール		初期設定：[標準]
強め	レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、またはDタイプレンズを装着しているときのみ機能します（PCレンズを除く）。	
標準		
弱め		
しない		
自動ゆがみ補正		初期設定：[しない]
する	広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。	
しない		

フリッカー低減

フリッカー低減機能	[フリッカー低減機能] を [有効] にすると、ファインダー撮影時に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）の影響が少ないタイミングで撮影できます（□225）。[フリッカー検出の表示] では、フリッカーを検出したとき、ファインダー内に FLICKER を表示するかどうかを設定できます。
フリッカー検出の表示	

オートブラケティングのセット

初期設定：[AE・フラッシュブラケティング]

AE・フラッシュ ブラケティング	オートブラケティング（□140）の種類を設定できます。
AEブラケティング	
フラッシュブラケティング	
WBブラケティング	
ADLブラケティング	

多重露出

多重露出モード	2～10コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録します（□227）。
コマ数	
合成モード	

HDR（ハイダイナミックレンジ）

HDRモード	輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します（□182）。
露出差	
スムージング	

インターバルタイマー撮影

撮影開始	設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます（□232）。
開始方法の設定	
撮影間隔	
撮影回数×1回のコマ数	
露出平滑化	

● 動画撮影メニュー

動画撮影メニューのリセット

する	動画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します。
しない	

ファイル名設定

ファイル名設定	このカメラで撮影した動画のファイル名 DSC_nnnn.mov の「DSC」の3文字を任意に変更できます。
---------	---

動画記録先

初期設定：[XQDスロット]

XQDスロット	メモリーカードを2枚使用している場合に、動画を記録するスロットを設定します。
SDスロット	

撮像範囲設定

初期設定：[DX]

DX	撮像範囲を設定できます (□63)。
1.3×	

画像サイズ/フレームレート

初期設定：[1920×1080 60p]

3840×2160 30p	動画の画像サイズ (ピクセル) とフレームレートを設定します (□61)。
3840×2160 25p	
3840×2160 24p	
1920×1080 60p	
1920×1080 50p	
1920×1080 30p	
1920×1080 25p	
1920×1080 24p	
1280×720 60p	
1280×720 50p	

動画の画質

初期設定：[高画質]

高画質	動画の画質を選べます (□61)。
標準	

ISO感度設定

Mモード時のISO感度設定	動画撮影時のISO感度に関する設定ができません。
Mモード時の感度自動制御	
制御上限感度	

ホワイトバランス

初期設定：[静止画の設定と同じ]

静止画の設定と同じ	動画撮影時のホワイトバランスを設定できません。[静止画の設定と同じ]を選ぶと、静止画撮影メニューの[ホワイトバランス]と同じ設定になります (□274)。
オート	
電球	
蛍光灯	
晴天	
曇天	
晴天日陰	
色温度設定	
プリセットマニュアル	

ピクチャーコントロール

初期設定：[静止画の設定と同じ]

静止画の設定と同じ	動画撮影時のピクチャーコントロールを設定できます。[静止画の設定と同じ]を選ぶと、静止画撮影メニューの[ピクチャーコントロール]と同じ設定になります (□274)。
スタンダード	
ニュートラル	
ビビッド	
モノクローム	
ポートレート	
風景	
フラット	

カスタムピクチャーコントロール

編集と登録	「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます (□176)。
登録名変更	
削除	
メモリーカードを使用	

アクティブD-ライティング		初期設定：[しない]
静止画の設定と同じ	白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い動画を記録できます (□180)。 [静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画撮影メニューの [アクティブ D-ライティング] (□275) と同じ設定になります。	
より強め		
強め		
標準		
弱め		
しない		
高感度ノイズ低減		初期設定：[標準]
強め	ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ (ざらつき) を低減します。	
標準		
弱め		
しない		
フリッカー低減		初期設定：[オート]
オート	ライブビュー表示中 (□39) や動画記録中 (□54) に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で画面に生じるちらつきや横縞 (フリッカー現象) を低減できます。	
50 Hz		
60 Hz		
マイク感度		初期設定：[マイク感度 オート]
マイク感度 オート	内蔵マイクまたは外部マイク (□325) の感度の程度を設定します。	
マイク感度 マニュアル		
録音しない		
録音帯域		初期設定：[広帯域]
広帯域	内蔵マイクまたは外部マイクの周波数特性を設定します。	
音声帯域		
風切り音低減		初期設定：[しない]
する	内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えるローカットフィルター機能を有効にするかどうかを設定できます。	
しない		

微速度撮影

撮影開始	設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます (□68)。
撮影間隔	
撮影時間	
露出平滑化	

電子手ブレ補正

初期設定：[しない]

する	動画記録時に電子手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。
しない	

カスタムメニュー

カスタムメニューの管理

A	カスタムメニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。
B	
C	
D	

a オートフォーカス

a1 AF-Cモード時の優先

初期設定：[リリース]

リリース	ファインダー撮影時のAFモードが AF-C のとき (□95) にシャッターボタンを全押しした場合の動作を設定できます。
フォーカス/リリース	
リリース/フォーカス	
フォーカス	

a2 AF-Sモード時の優先

初期設定：[フォーカス]

リリース	ファインダー撮影時のAFモードが AF-S のとき (□95) にシャッターボタンを全押しした場合の動作を設定できます。
フォーカス	

a3 AFロックオン

横切りへの反応	ファインダー撮影時のAFモードが AF-C (□95) のときのピント合わせの動作について設定できます。
被写体の動き	

a4 3D-トラッキングの顔認識

初期設定：[しない]

する	AFエリアモード (□97) が3D-トラッキングの場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔にピントを合わせるかどうかを選べます。
しない	

a5 3D-トラッキングの捕捉領域

初期設定：[標準]

広い	AFエリアモード (□97) が3D-トラッキングの場合に、半押ししたときに記憶する被写体情報の捕捉領域を設定できます。
標準	

a6 AF点数切り換え		初期設定：[55点]
55点	ファインダー撮影時、手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。	
15点		
a7 縦/横位置フォーカス切換		初期設定：[しない]
フォーカスポイント	ファインダー撮影時、カメラを正位置（横位置）にしたときと縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントとAFエリアモードを設定できます。	
フォーカスポイントとAFエリアモード		
しない		
a8 半押しAFレンズ駆動		初期設定：[する]
する	シャッターボタンを半押ししたときの、ピント合わせ動作を設定できます。[しない]を選んだ場合は、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。	
しない		
a9 AFエリアモードの限定		
シングルポイントAF	ファインダー撮影時に、AFモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回した場合に選べるAFエリアモード（□97）を設定できます。	
ダイナミックAF（25点）		
ダイナミックAF（72点）		
ダイナミックAF（153点）		
3D-トラッキング		
グループエリアAF		
オートエリアAF		
a10 AFモードの制限		初期設定：[制限しない]
AF-S	ファインダー撮影時のAFモード（□95）を固定できます。	
AF-C		
制限しない		
a11 フォーカスポイント循環選択		初期設定：[しない]
する	ファインダー撮影時、フォーカスポイントをマルチセレクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。	
しない		

a12 フォーカスポイント表示の設定

マニュアルフォーカス時の表示	ファインダー内のフォーカスポイントの表示に関する設定ができます。
ダイナミックAF時のアシスト表示	
グループエリアAFモード時の表示	
フォーカスポイント照明	

a13 AF設定時のフォーカスリング操作 初期設定：[有効]

有効	このメニューに対応したレンズを装着したときのみ表示されます。[無効]にすると、オートフォーカス時にレンズのフォーカスリングを回してもマニュアルフォーカスに切り替わりません。
無効	

b 露出・測光

b1 ISO感度設定ステップ幅 初期設定：[1/3段]

1/3段	ISO感度のステップ幅を設定できます。
1/2段	
1段	

b2 露出設定ステップ幅 初期設定：[1/3段]

1/3段	シャッタースピード、絞り値、およびオートブラケティング補正值のステップ幅を設定できます。
1/2段	
1段	

b3 露出・調光補正ステップ幅 初期設定：[1/3段]

1/3段	露出補正時と調光補正時の補正量のステップ幅を設定できます。
1/2段	
1段	

b4 露出補正簡易設定 初期設定：[しない]

する（自動リセット）	<input checked="" type="checkbox"/> ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルの操作だけで露出補正值を設定できます。
する	
しない	

b5 マルチパターン測光 初期設定：[顔認識する]

顔認識する	測光モード (□121) がマルチパターン測光の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔の明るさに合わせて露出を決定するかどうかを選べます。
顔認識しない	

b6 中央部重点測光範囲 初期設定：[φ8mm]

φ 6mm	ファインダー撮影時、測光モードが中央部重点測光の場合の重点測光範囲を変更できません (非CPU レンズを装着しているときの測光範囲は、φ8mm相当になります)。
φ 8mm	
φ10mm	
φ13mm	
画面全体の平均	

b7 基準露出レベルの調節

マルチパターン測光	測光モードごとに適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、明るめ (+側) または暗め (-側) に調節できます。
中央部重点測光	
スポット測光	
ハイライト重点測光	

c AEロック・タイマー**c1 シャッターボタンAEロック** 初期設定：[しない]

する (半押し)	シャッターボタンを押してAEロックを行うかどうかを設定できます。
する (連続撮影時)	
しない	

c2 半押しタイマー 初期設定：[6秒]

4秒	表示パネルやファインダー内表示を自動的に消灯するまでの時間を設定できます (□38)。
6秒	
10秒	
30秒	
1分	
5分	
10分	
30分	
制限なし	

c3 セルフタイマー

時間	セルフタイマー撮影時にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。
撮影コマ数	
連続撮影間隔	

c4 モニターのパワーオフ時間

画像の再生	画像モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。
メニュー表示	
インフォ画面表示	
撮影直後の画像確認	
ライブビュー表示	

d 撮影・記録・表示

d1 低速連続撮影速度

初期設定：[5コマ/秒]

9コマ/秒	レリーズモードがCL（低速連続撮影）時の連続撮影速度を設定できます（□□110）。
8コマ/秒	
7コマ/秒	
6コマ/秒	
5コマ/秒	
4コマ/秒	
3コマ/秒	
2コマ/秒	
1コマ/秒	

d2 連続撮影コマ数

初期設定：[200]

1~200	連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。
-------	----------------------------

d3 ISO感度表示

初期設定：[しない]

する	表示パネルとファインダー内の記録可能コマ数表示部に、ISO感度を表示するかどうかを設定できます。
しない	

d4 連動リリースモード設定		初期設定：[連動する]
連動する	マスターカメラのリリースに連動してリモートカメラをリリースさせるかどうかを設定できます。	
連動しない		
d5 露出ディレイモード		初期設定：[しない]
3秒	シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1~3秒後にシャッターがきれるように変更できます。カメラブレを最小限に抑えられます。	
2秒		
1秒		
しない		
d6 電子先幕シャッター		初期設定：[無効]
有効	電子先幕シャッターを有効にするかどうかを設定できます。電子先幕シャッターで撮影することにより、カメラブレを低減できます。電子先幕シャッターで撮影するには、リリースモードダイヤルを MUP （ミラーアップ）に合わせてください（□115）。	
無効		
d7 連番モード		初期設定：[する]
する	ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。	
しない		
リセット		
d8 ファインダー内格子線表示		初期設定：[しない]
する	ファインダー内に構図用格子線を表示するかしないかを設定できます。	
しない		

電子先幕シャッターについて

- Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のレンズを装着していると、むら、すじなどが発生する場合があります。その場合は、[無効] に設定して撮影してください。
- **MUP**以外のリリースモードの場合は、常にメカニカルシャッターで撮影します。
- 電子先幕シャッター使用時は、シャッタースピードの上限が1/2000秒、ISO感度の上限が51200に制限されます。

d9 イルミネーター点灯 初期設定：[しない]

する	電源スイッチを●に合わせたときだけではなく、半押しタイマーの作動中にも、表示パネルやボタンのイルミネーター（照明）を点灯するように設定できます。
しない	

d10 光学手ブレ補正 初期設定：[する]

する	このメニューに対応するレンズをカメラに装着した場合に、手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。
しない	

e フラッシュ・BKT撮影**e1 フラッシュ撮影同調速度** 初期設定：[1/250秒]

1/250秒（オートFP）	フラッシュ撮影時の同調速度を設定します。
1/250秒	
1/200秒	
1/160秒	
1/125秒	
1/100秒	
1/80秒	
1/60秒	

✎ シャッタースピードの同調速度を固定するには

露出モードが**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した値に固定するには、最も低速側（30秒または-）の次の位置を選んでください。表示パネルとファインダー内表示に**X**（フラッシュシンクロマーク）と設定した同調速度が表示されます。

✎ FP発光について

- フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます（□188）。[1/250秒（オートFP）] に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。
- FP発光に切り替わると、インフォ画面のフラッシュモードに「FP」が表示されます（□214）。

e2 フラッシュ時シャッタースピード制限 初期設定：[1/60秒]

1/60秒	フラッシュ撮影時の露出モードが P または A の場合に、シャッタースピードの低速側の制限を設定できます。
1/30秒	
1/15秒	
1/8秒	
1/4秒	
1/2秒	
1秒	
2秒	
4秒	
8秒	
15秒	
30秒	

e3 フラッシュ使用時の露出補正 初期設定：[全体を補正]

全体を補正	フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。
背景のみ補正	

e4 使用時の感度自動制御 初期設定：[被写体と背景]

被写体と背景	フラッシュ撮影時に感度自動制御を行う場合の、露出を合わせる対象を設定できます。
被写体のみ	

e5 モデリング発光 初期設定：[する]

する	別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト (□□317) 使用時に、カメラの Pv ボタンを押してモデリング発光を行うかどうかを設定できます。
しない	

e6 BKT変化要素 (Mモード)

初期設定：[フラッシュ・シャッタースピード]

フラッシュ・シャッタースピード	露出モード M でオートブラケティングを行うときに変化する内容を設定できます。
フラッシュ・シャッター スピード・絞り値	
フラッシュ・絞り値	
フラッシュ	

e7 BKTの順序

初期設定：[[0] → [-] → [+]]

[0] → [-] → [+]	オートブラケティングの補正順序を変更できます。
[-] → [0] → [+]	

f 操作

f1 カスタムボタンの機能

プレビューボタン	カメラの各ボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。
プレビューボタン+ 	
Fn1ボタン	
Fn1ボタン+ 	
Fn2ボタン	
AF-ONボタン	
サブセレクター	
サブセレクター中央	
サブセレクター中央+ 	
BKTボタン+ 	
動画撮影ボタン+ 	
レンズのフォーカス作動 ボタン	

f2 中央ボタンの機能

撮影モード	マルチセレクターの 中央 ボタンを押したときの機能を設定できます。
再生モード	
ライブビュー	

f3 シャッタースピードと絞り値のロック

シャッタースピードのロック	露出モード S または M ではシャッタースピードを、露出モード A または M では絞り値を現在の設定でロックします。
絞り値のロック	

f4 コマンドダイヤルの設定

回転方向の変更	メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を変更できます。
メインとサブの入れ換え	
絞り値の設定方法	
再生/メニュー画面で使用	
サブコマンドダイヤルで画像送り	

f5 マルチセレクターの半押し起動 初期設定：[しない]

する	半押しタイマー (□38) がきれたときにマルチセレクターを操作して、半押しタイマーを起動するように設定できます。
しない	

f6 ボタンのホールド設定 初期設定：[しない]

する	[する] に設定して対象のボタンを1回押すと、ボタンを放しても設定できる状態が維持され、コマンドダイヤル単独で設定できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると解除されます。
しない	

f7 インジケータの+/-方向 初期設定：[]

	ファインダー内表示、表示パネルおよびインフォ画面 (Info) での露出、露出補正、オートブラケティングのインジケータの+と-方向を入れ換えることができます。
	

f8 ライブビューボタンの設定 初期設定：[有効]

有効	意図せずに  ボタンを押したときにライブビューが開始しないように、  ボタンを無効に設定できます。
半押しタイマー作動中のみ有効	
無効	

f9 点灯スイッチの機能

初期設定：[点灯/消灯]

点灯/消灯	電源スイッチを点灯マークの方向に回したときの動作を設定できます。
点灯/消灯とインフォ画面の点灯/消灯	

f10 MB-D17のボタンの機能

Fnボタン	別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D17のボタンの機能を設定します。
Fnボタン+ 	
AF-ONボタン	
マルチセレクター	

g 動画

g1 カスタムボタンの機能

プレビューボタン	ライブビュー時のライブビューセレクターが点灯の場合に、カメラの各ボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。 • [シャッターボタン] の設定を [動画撮影] にすると、動画記録以外のシャッターボタンを使う操作は行えません。
プレビューボタン+ 	
Fn1ボタン	
Fn1ボタン+ 	
Fn2ボタン	
サブセレクター中央	
サブセレクター中央+ 	
シャッターボタン	

Y セットアップメニュー

カードの初期化（フォーマット）

XQDスロット	メモリーカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで【はい】を選ぶと、選んだスロットのメモリーカードを初期化します。 初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。 カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。
SDスロット	

言語（Language）

メニュー画面やメッセージの表示言語を選びます。

地域と日時

現在地の設定	現在地と日時、年月日の表示順、スマートフォンから日時の情報を取得するかどうかを設定します。
日時の設定	
スマートフォンと同期	
日付の表示順	
夏時間の設定	

モニターの明るさ

メニュー / 再生	画像の再生時、メニュー表示時、ライブビュー時の画像モニターの明るさを調整できます。
ライブビュー	

ボタン操作でメモリーカードを初期化（フォーマット）する

-  ボタンと **ISO**  ボタンを同時に2秒以上押し、表示パネルとファインダー内表示に **F o r** が点滅している間に、もう一度  ボタンと **ISO**  ボタンを同時に押すと、表示パネルで点滅しているメモリーカードを初期化します。
- メモリーカードが2枚入っている場合は、表示パネルで点滅している側のメモリーカードを初期化します。**F o r** が点滅しているときにメインコマンドダイヤルを回すと、初期化するスロットを切り換えられます。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。

モニターのカラースタマイズ

カメラの画像モニターの色調を好みに合わせて変更できます。

水準器表示

カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、画像モニターに水準器を表示します。

インフォ画面の表示設定

初期設定：[自動]

自動

明るい場所や暗い場所で画像モニターが見づらいときにインフォ画面の見え方を設定できます。

手動

AF微調節

AF微調節（する/しない）

個別レンズの登録

その他レンズの登録

個別レンズ登録リスト

装着したレンズごとに自分でピント位置を調節できます。通常はAF微調節を行う必要はありません。必要な場合のみ調節を行ってください。正常なレンズを調整すると、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。また、このカメラでは自動でAF微調節ができます。詳しくは298ページの「AF微調節の自動設定」をご覧ください。

レンズ情報手動設定

レンズNo.

焦点距離（mm）

開放絞り値

非CPUレンズの焦点距離と開放絞り値をカメラに登録することにより、CPUレンズ装着時と同じ機能が一部使えるようになります（□239）。

イメージセンサークリーニング

実行

電源スイッチに連動

撮像素子の前面に付いたゴミをふるい落とします（□327）。

クリーニングミラーアップ

撮像素子前面をクリーニングするために、ミラーを上げた状態で固定できます（□329）。Bluetoothを使ってスマートフォンと接続しているとき、無線および有線LANを使って通信機器と接続しているとき、またはバッテリー残量表示が以下のときは選べません。

イメージダストオフデータ取得

開始	Capture NX-D (□v) の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。
イメージセンサー クリーニング後 開始	

画像コメント

コメント添付	あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、Capture NX-DまたはViewNX-iのメタデータで確認できます。
コメント入力	

著作権情報

著作権情報添付	撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、Capture NX-DまたはViewNX-iのメタデータで確認できます。
撮影者名入力	
著作権者名入力	

IPTC

編集と登録	IPTC情報をカメラで新規作成または編集して、撮影した静止画に添付することができます。
削除	
撮影時自動付加	
メモリーカードを使用	

電子音設定

音量	電子音の音の高さや音量を設定できます。
音の高さ	

タッチ操作

タッチ操作の設定	画像モニターのタッチ操作の機能を設定できます (□10)。
1コマ送り時のフリック操作	

HDMI

出力解像度	HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます。
詳細設定	

位置情報

スマートフォンから取得	位置情報に関する設定を変更できます (□242)。
情報表示	
GPS機器設定	

リモコン (WR) 設定	
LEDランプの点灯	別売ワイヤレスリモートコントローラーのLEDランプの点灯とリンクモードを設定できます。
リンクモード	
リモコン (WR) のFnボタンの機能	
	初期設定：[設定しない]
プレビュー	別売のワイヤレスリモートコントローラーのFnボタンを押したときの機能を設定できます。
FV-L	
AE-L/AF-L	
AE-L	
AE-L (リリースでリセット)	
AF-L	
AF-ON	
⚡発光禁止/許可切換	
プラスRAW記録	
ライブビュー	
設定しない	
機内モード	
	初期設定：[無効]
有効	[機内モード] を [有効] に設定すると、Bluetooth、Wi-Fi、およびEye-Fiを使った無線通信をOFFにできます。 <ul style="list-style-type: none"> 内蔵無線機能、Eye-Fi以外の無線通信機器との接続を無効にする場合は、カメラから無線通信機器を取り外してください。
無効	
スマートフォンと接続	
開始	[開始] を選ぶと、カメラとスマートフォンを接続するためのガイドを表示します。[パスワードによる保護] では、Bluetooth接続時にパスワードによる保護を行うかどうかを設定できます。
パスワードによる保護	
スマートフォンへの自動送信	
	初期設定：[しない]
する	[する] に設定すると、撮影するたびに画像をスマートフォンに自動送信します。
しない	

Wi-Fi	
接続設定	スマートフォンとカメラをWi-Fi (無線LAN) で接続するときの設定を行います。
現在の設定	
接続設定の初期化	
Bluetooth	
通信機能	スマートフォンとカメラをBluetoothで接続するときの設定を行います。
ペアリング済み機器	
電源OFF中の通信	
ネットワーク	
ハードウェアの選択	WT-7を装着して有線LANまたは無線LANでパソコンやFTPサーバーと通信する場合の設定を行います。このメニュー項目は、WT-7を装着したときのみ設定できます。
接続設定	
オプション	
Eye-Fi送信機能	
	初期設定：[有効]
有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。この機能に対応したEye-Fi カードを挿入したときのみ表示されます。
無効	
認証マークの表示	
	このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。
MB-D17電池設定	
	初期設定：[アルカリ単3形電池]
アルカリ単3形電池	別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D17に単3形電池を入れて使用するときに、電池の種類を指定することでより正確に電池残量を表示できます。Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15b/EN-EL15a/EN-EL15または別売のEN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18を使用する場合は、設定する必要がありません。
Ni-MH単3形充電電池	
リチウム単3形電池	

電池の使用順序		初期設定：[MB-D17から]
MB-D17から	別売のマルチパワーバッテリーパック	カメラから MB-D17装着時に、MB-D17に入っている電池から使用するか、カメラに入っているバッテリーから使用するかを設定します。
カメラから		
電池チェック		
		カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。
カードなし時リリース		初期設定：[リリース許可]
リリース禁止	カメラにメモリーカードを入れていないとき	のリリース操作を設定できます。
リリース許可		
カメラ設定の保存と読み込み		
保存	カメラの各機能の設定データをメモリーカードに保存できます。また、メモリーカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできます。複数のD500を同じ設定で使う場合などに便利です。	
読み込み		
カメラの初期化		
初期化する	セットアップメニュー [言語 (Language)] と [地域と日時] を除く、すべての設定をリセットして初期設定に戻します。	
初期化しない		
ファームウェアバージョン		
	カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。	

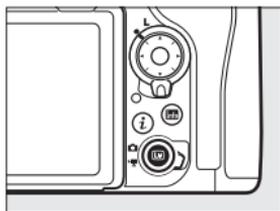
カメラの初期化

- 著作権情報や IPTC などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元には戻せないのをご注意ください。
- あらかじめセットアップメニュー [カメラ設定の保存と読み込み] で設定データを保存しておくことをおすすめします。

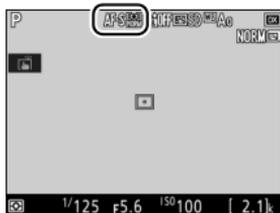
■■ AF微調節の自動設定

AF微調節（□293）を自動で行う方法は次の通りです。

- 1 ライブビューセレクターを📷に合わせてLvボタンを押す

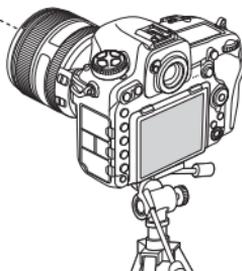
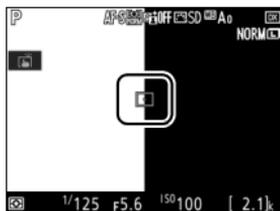


- 2 AFモードをAF-S、AFエリアモードをワイドエリアAFまたはノーマルエリアAFに設定する



3 フォーカスポイントの位置を画面中央に設定する

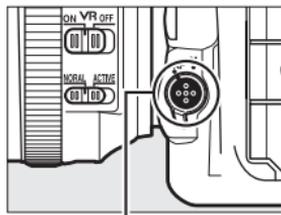
- マルチセレクターの中央ボタンを押すと、フォーカスポイントが画面中央に移動します。



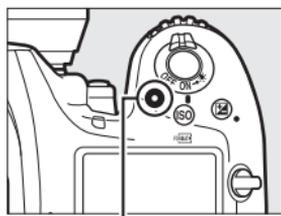
4 シャッターボタンを半押ししてピント合わせを行う

- ピント合わせをするときは、カメラを三脚に固定し、コントラストの高い平面を被写体として選んでください。
- 絞りを開放にすることをおすすめします。
- ピント合わせの後に拡大表示をしてピントが正確に合っているか確認してください。
- 暗い環境では、ライブビューでのオートフォーカスや、自動AF微調節ができない場合があります。

5 AFモードボタンと動画撮影ボタンを2秒以上同時に押す



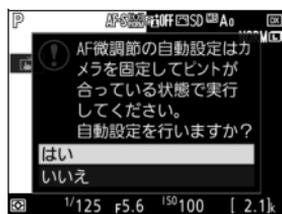
AFモードボタン



動画撮影ボタン

6 [はい] を選んで **OK** ボタンを押す

- 自動AF微調節が実行され、[個別レンズ登録リスト] に装着しているCPUレンズの微調節値が登録されます。
- 同一モデルのレンズは複数登録できません。



7 セットアップメニュー [AF微調節] の [AF微調節 (する/しない)] で [する] を選んで **OK** ボタンを押す

- AF微調節が有効になります。



画像編集メニュー

RAW現像

RAWを含む画質モード（□85）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成します（□304）。

トリミング

画像の一部を切り抜きます（□306）。

リサイズ

画像選択

サイズの小さい画像を作成します。

記録先スロットの選択

画像サイズの設定

D-ライティング

画像の暗い部分を明るく補正できます。

赤目補正

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を補正できます。

傾き補正

画像の傾きを±5°の範囲（約0.25°ステップ）で補正できます。

ゆがみ補正

オート

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。

マニュアル

• [オート] を選ぶと画像のゆがみを自動的に判別して補正します。

アオリ効果

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

フィルター効果	
スカイライト	レンズにフィルターを装着して撮影したような画像になります。 • スカイライト ：画像の青みを抑えます。 • ウォームトーン ：画像を暖色にします。
ウォームトーン	
モノトーン	
白黒	モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。 • セピアはセピア色（褐色）、クールはブルー系のモノトーンの画像になります。
セピア	
クール	
画像合成	
	RAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成します（□307）。このメニュー項目は、 MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選んだときのみ表示されます。
動画編集	
始点/終点の設定	撮影した動画を編集できます（□77）。
選択フレームの保存	
編集前後の画像表示	
	画像編集を行った画像を、編集元の画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示して  ボタンを押しながら  を押すか、  ボタンを押して、画像編集メニューを選んだときのみ表示されます。

📄 マイメニュー / 📄 最近設定した項目

マイメニュー登録

再生メニュー	再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。
静止画撮影メニュー	
動画撮影メニュー	
カスタムメニュー	
セットアップメニュー	
画像編集メニュー	

登録項目の削除

マイメニューの登録項目を削除します。

登録項目の順序変更

マイメニューの登録項目の順序を変更します。

このタブの機能変更

初期設定：[マイメニュー]

マイメニュー	「マイメニュー」を「最近設定した項目」に変更します。[最近設定した項目]に設定すると、最後に設定したメニュー項目から順番に最新の20項目が自動的に表示されます。
最近設定した項目	

画像編集メニューの詳細

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

RAWを含む画質モード（□85）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 画像編集メニュー画面で「RAW現像」を選ぶ

- 「RAW現像」を選んでマルチセクターの▶を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。

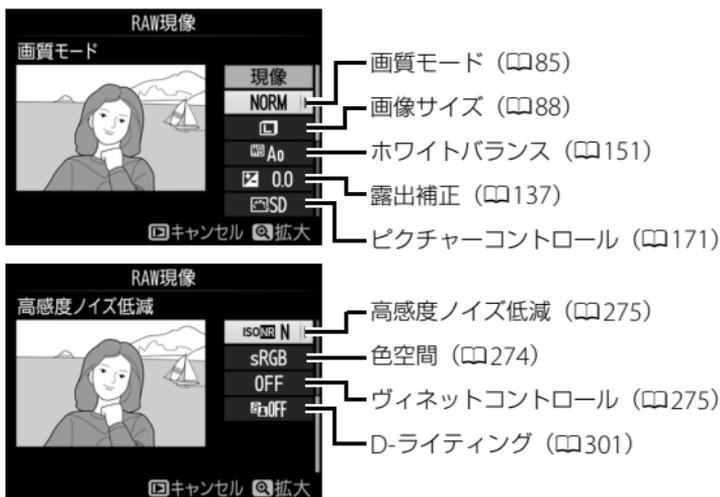


2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセクターでRAW現像する画像を選んでⓀボタンを押します。
- Ⓚボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 表示されている項目をそれぞれ設定する



4 RAW現像する

- [現像] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存されます。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**MENU** ボタンを押してください。



✓ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 多重露出撮影した画像や [画像合成] で編集した画像の場合、[ホワイトバランス] と [ヴィネットコントロール] は選べません。
- [露出補正] で設定できる明るさ (-2~+2) は、通常の露出補正の段数とは異なります。

トリミング

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

切り抜く範囲を狭くする		 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が狭くなります。
切り抜く範囲を広くする		 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が広がります。
画像のアスペクト比（縦横比）を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセレクターを押し続けると、高速で移動します。
画像のプレビューを見る		トリミングした画像のイメージを見ることができます。
トリミングを実行して画像を保存する		トリミングした画像が記録されます。

▼ トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画質モード（85）は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードやTIFFのときは**[FINE★]**になり、JPEGのときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲とアスペクト比（横：縦）により変わります。



画像合成

メモリーカードに記録されているRAW 画像2 コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で「画像合成」を選ぶ

- 「画像合成」を選んでマルチセクターの  を押すと、右のような画面が表示され、「画像1」欄がハイライト表示されます。



2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

-  ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネイル一覧から、1コマ目の画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
-  () ボタンを押すと、「スロット/フォルダー指定」画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□246)。



3 1コマ目の画像を決定する

-  ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、「画像1」欄にプレビューが表示されます。



4 2コマ目の画像を選ぶ

- を押して「画像2」を選び、手順2〜3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に「画像1」と「画像2」を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、「画像1」または「画像2」を選んでから  または  を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



6 プレビュー欄に移動する

-  または  を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、「保存」を選んで  ボタンを押してください。



7 合成画像の構図を確認する

- 「合成」を選び、 ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、 () ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。



8 合成画像を保存する

- もう一度**OK**ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



✓ 画像合成についてのご注意

- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方が異なることがあります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影した静止画撮影メニュー **[画像サイズ]** の **[RAW]** が **[サイズL]** のRAW 画像だけです。機種異なるカメラやRAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード (□85) と画像サイズ (□88) は、合成時のカメラの設定と同じになります (ただし **[画像サイズ]** の **[RAW]** が **[サイズM]** または **[サイズS]** の場合は、**[サイズL]** として合成されます)。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW 画像と合成したいときは、画質モードをRAW、画像サイズを **[サイズL]** に設定してください。
- 次の項目の設定が同じRAW画像のみ合成できます。
 - **[撮像範囲設定]**
 - **[画像サイズ]**
 - **[RAW記録]** の **[記録ビットモード]**
- 合成時にRAWを含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、RAW圧縮は合成時のカメラの設定になります。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、**[画像1]** で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

資料

このカメラで使えるアクセサリやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。とくにGタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

レンズ	モード	フォーカスモード		露出モード		測光モード			
		AF (オート フォーカス)	M (フォーカス エイド) ※1	P S	A M	☒		☒	☒*
						3D-RGB	RGB		
CPUレンズ※2	Gタイプレンズ※3、 Eタイプレンズ※3、 Dタイプレンズ※3、 AF-Sレンズ、 AF-Pレンズ、 AF-Iレンズ	○	○	○	○	○	×	○※4	○
	PC-E NIKKOR シリーズ	×	○※5	○※5	○※5	○※5	×	○※4、5	○
	PCマイクロ 85mm F2.8D ※6	×	○※5	×	○※7	○	×	○※4、5	○
	AF-S/AF-I テレコン バーター ※8	○	○	○	○	○	×	○※4	○
	Gタイプ、Eタイプ、 Dタイプ以外の AFレンズ (F3AF用 を除く)	○※9	○※9	○	○	×	○	○※4	×
	AI-Pニッコール	×	○※10	○	○	×	○	○※4	×

☒=マルチパターン測光、☒=中央部重点測光、☒=スポット測光、☒*=ハイライト重点測光

レンズ	モード	フォーカスモード		露出モード		測光モード			
		AF (オート フォーカス)	M (フォーカス エイド) ※1	P S	A M	測光モード		☉	☐*
						☐	☐		
		3D-RGB	RGB						
非CPUレンズなど※11	AI-S、AI、AI改造 レンズ、シリーズ Eレンズ※12	×	○※10	×	○※13	×	○※14	○※15	×
	メディカル 120mm f/4	×	○	×	○※16	×	×	×	×
	レフレックスレン ズ	×	×	×	○※13	×	×	○※15	×
	PCニッコール	×	○※5	×	○※17	×	×	○	×
	AI-S、AIテレコン パーター ※18	×	○※19	×	○※13	×	○※14	○※15	×
	ペローズアタッチ メントPB-6 ※20	×	○※19	×	○※21	×	×	○	×
	オート接写リング (PK-11A、12、 13、PN-11)	×	○※19	×	○※13	×	×	○	×

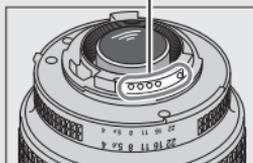
- ※1 M (マニュアルフォーカス) は全てのレンズで使用可能です。
- ※2 IXレンズは装着できません。
- ※3 このカメラはVRレンズのVR (手ブレ補正) 機能に対応しています。
- ※4 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能 (☐121)。
- ※5 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
- ※6 カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作 (シフトまたはティルト) をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。
- ※7 露出モードはMで使用可能。
- ※8 オートフォーカスとフォーカスエイドが可能なフォーカスポイントについては、☐93をご覧ください。
- ※9 AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S (New) 、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
- ※10 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
- ※11 一部装着不可能なレンズ (☐314) があります。
- ※12 AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。

- ※13 レンズ情報手動設定 (□239) でレンズの開放絞り値を設定することにより表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。
 - ※14 レンズ情報手動設定 (□239) でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても十分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選んで撮影してください。
 - ※15 レンズ情報手動設定 (□239) で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。
 - ※16 露出モードが **M** でフラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードのときに使えます。
 - ※17 絞り込み測光で使用します。露出モードが**A**の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後にアオリ操作を行ってください。露出モードが**M**の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。
 - ※18 AI 28–85mm f/3.5–4.5S、AI 35–105mm f/3.5–4.5S、AI 35–135mm f/3.5–4.5S、AF-S 80–200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。
 - ※19 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
 - ※20 オート接写リング PK-12 または PK-13 を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。
 - ※21 絞り込み測光で使用可能、露出モードが**A**の場合はペローズアタッチメント側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。
- 複写装置PF-4へはカメラアダプター PA-4を併用すると装備できます。
 - 高感度撮影時には、オートフォーカス作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。また、動画撮影時やライブビュー表示中にISO感度が高い場合は、絞り作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。

④ CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

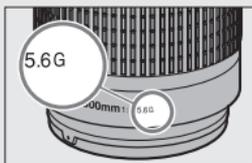
CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリングがありません。

CPU信号接点

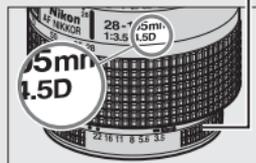


CPUレンズ

絞りリング



G/Eタイプレンズ



Dタイプレンズ

④ レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5-5.6」などと記されています。

④ 非CPUレンズを使用する場合は

- 非CPUレンズを使用する場合は、セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」(□239)でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGBマルチパターン測光などの機能が使用できるようになります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、測光モードをマルチパターン測光に設定しても、自動的に中央部重点測光になります。
- 絞り値はレンズの絞りリングでのみ設定できます。「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値を設定しない場合、表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞り値は、レンズの絞りリングで確認してください。

❑ 使用できないレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとする、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ（AI方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180–600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360–1200mm f/11（製品 No.174031～174127）
- 200–600mm f/9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品 No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品 No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品 No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品 No.200111～200310）

VRレンズ装着時のご注意

次のレンズは、高感度や長時間露出で撮影する場合に装着するとVR制御システムの特性により画像にむらが出ることがあるため、このような条件でお使いになることはおすすめしません。

- AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–200mm f/2.8G IF-ED
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–300mm f/4.5–5.6G IF-ED
- AF-S VR Nikkor 200mm f/2G IF-ED
- AF-S VR Nikkor 300mm f/2.8G IF-ED
- AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
- AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR
- AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18–200mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S DX NIKKOR 16–85mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II
- AF-S DX Micro NIKKOR 85mm f/3.5G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 55–300mm f/4.5–5.6G ED VR

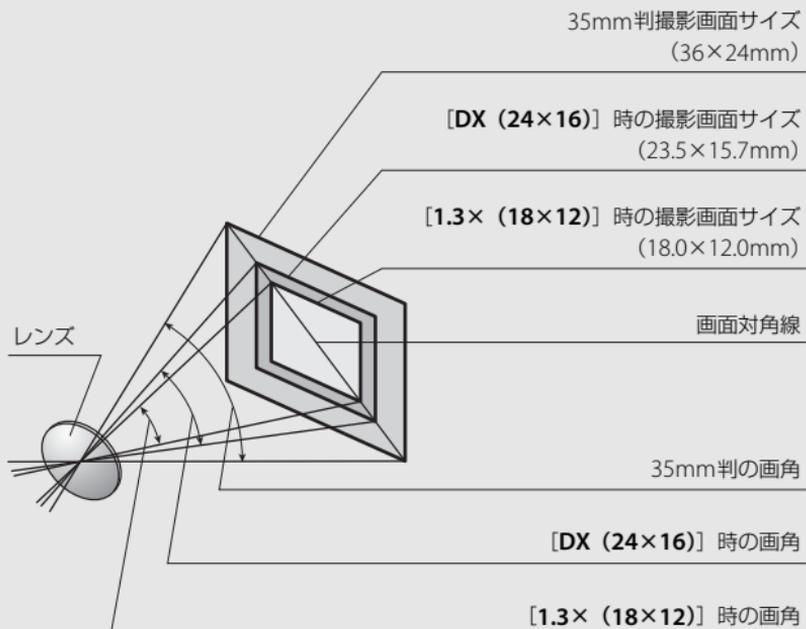
その他のレンズをお使いの場合、画像への影響を避けるためにVRはOFFにしてください。

🔪 レンズの画角と焦点距離について

D500ではさまざまなニコン一眼レフカメラ用レンズが使えます。ただし、これらのレンズをD500に装着したときの画角は、レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。これは35mm判カメラの撮影画面サイズ(36×24mm)に対して、D500の撮影画面(23.5×15.7mm)が小さいためです。

例：D500に24mmのレンズを装着した場合の画角は、35mm判カメラ換算でおおよそ36mmの焦点距離となります。

静止画撮影メニューの**〔撮像範囲設定〕**が**〔DX (24×16)〕**の場合、D500の撮影画面サイズ(23.5×15.7mm)で撮影します。**〔1.3× (18×12)〕**を選んだ場合、画面サイズは狭くなります(〔撮像範囲設定〕が**〔DX (24×16)〕**の場合の約1.3倍長い焦点距離に相当する画角になります)。



ニコクリエイティブライティングシステム (CLS) について

ニコクリエイティブライティングシステム (CLS) は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。

■ ニコクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトとの組み合わせで使用できる機能

		SB-5000	SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
1灯	i-TTL	i-TTL-BL調光※1	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○
		スタンダード i-TTL調光	○※2	○※2	○	○※2	○	—	—	○	○	
	⊗A	絞り連動外部 自動調光	○	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	—※4	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—
	GN	距離優先 マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○※5	—	—	○※5	○※5	
	RPT	リピーティング フラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—

		SB-5000	SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300	
光制御アドバンストワイヤレスライティング	マスターフラッシュ	リモートフラッシュへの発光指示	○	○	○	—	○※5	○	—	—	—	—	
		i-TTL	i-TTL 調光	○	○	○	—	○※5	—	—	—	—	—
		[A : B]	クイックワイヤレスコントロール	○	—	○	—	—	○※6	—	—	—	—
		⊗A	絞り連動外部自動調光	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		A	外部自動調光	—	—※7	—	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	—	○※5	—	—	—	—	—	
	RPT	リピーティングフラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	
	リモートフラッシュ	i-TTL	i-TTL 調光	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—
		[A : B]	クイックワイヤレスコントロール	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—
		⊗A/A	絞り連動外部自動調光/ 外部自動調光	○※8	○※8	—	—	—	—	—	—	—	—
M		マニュアル発光	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—	
RPT		リピーティングフラッシュ	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	
電波制御アドバンストワイヤレスライティング		○※9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
発光色温度情報伝達 (フラッシュ)		○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	○	
発光色温度情報伝達 (LEDライト)		—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	
オートFPハイスピードシンク口※10		○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	
FVロック※11		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
マルチポイントAF補助光		○	○	○	○	○	—	○※12	—	—	—	—	
赤目軽減発光		○	○	○	○	○	○	—	—	○	—	—	
カメラ起動モデリング発光		○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—	

	SB-5000	SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
ユニファイドフラッシュ コントロール	○	—	—	—	—	—	○	—	—	○	○
カメラからのスピードライト ファームアップ	○	○※13	○	○	—	—	○	—	—	—	○

- ※1 スポット測光時は設定できません。
- ※2 スピードライト側でも設定できます。
- ※3 AとAの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。また、セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。
- ※4 セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合は外部自動調光になります。
- ※5 カメラ側でのみ設定できます。
- ※6 クローズアップ撮影時のみ設定できます。
- ※7 スピードライトのカスタム設定にかかわらず、セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。
- ※8 AとAの選択は、マスターフラッシュの設定に準じます。
- ※9 使用できる機能は、光制御アドバンストワイヤレスライティングのリモートフラッシュと同じです。
- ※10 発光モードがi-TTL、A、A、GN、Mの場合のみ動作します。
- ※11 発光モードがi-TTLまたは「モニター発光あり」のA、Aの場合のみ動作します。
- ※12 コマンダー撮影時のみ設定できます。
- ※13 SB-910とSB-900のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

■■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800は、ワイヤレスでSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて光制御できます。SU-800には発光機能はありません。

🔪 モデリング発光について

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト装着時には、**Pv** ボタンを押すとモデリング発光が行われます。アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時には、使用する全てのスピードライトのモデリング発光が行われるので、照射光の効果を簡単に確認できます。プレビュー時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニュー e5 [モデリング発光] (□288) を [しない] に設定してください。

🔪 その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光 (A) あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変わることはありません。

スピードライト		SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27*1 SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29*2 SB-21B*2 SB-29S*2	
☑	A	外部自動調光	○	—	○	○	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○
	☑	マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR *3	後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 このカメラと SB-27 を組み合わせると自動的に **TTL** モードになりますが、**TTL** モードでは使えません。SB-27を**A**モードに設定し直してください。

※2 SB-29・21B・29Sでオートフォーカスができるレンズは、AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDとAF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G EDのみです。

※3 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

✔ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後に⚡(レディーライト)が約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100~12800相当です。
- ISO感度を12800よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- 露出モードがPの場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り (F)

100	200	400	800	1600	3200	6400	12800
4	5	5.6	7.1	8	10	11	13

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- パワーアシストパック SD-8A または SD-9 をカメラに固定した状態でフラッシュ撮影をすると、筋状のノイズが写り込むことがあります。その場合は、ISO感度を下げるか、SD-8AまたはSD-9をカメラから離してお使いください。
- スピードライト SB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800の使用時に、AF補助光の照射条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。

- スピードライトSB-5000のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント		
焦点距離が24mmから 49mmの場合	焦点距離が50mmから 84mmの場合	焦点距離が85mmから 135mmの場合

- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント	
焦点距離が17mmから 19mmの場合	焦点距離が20mmから 135mmの場合

- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント		
焦点距離が24mmから 34mmの場合	焦点距離が35mmから 49mmの場合	焦点距離が50mmから 105mmの場合

- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント	
焦点距離が24mmから 27mmの場合	焦点距離が28mmから 135mmの場合

- 使用するレンズや撮影シーンによっては、オートフォーカスによるピント合わせができずにシャッターがきれなかったり、ピントが合わなくてもピント表示(●)が点灯してシャッターがきれることがあります。
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材(拡散板など)を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。

使用できるアクセサリ

このカメラには撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリが用意されています。詳しくは最新のカタログや当社のホームページなどでご確認ください。

電源	<ul style="list-style-type: none">• Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15 (□iv、12) - EN-EL15の代わりにEN-EL15b/EN-EL15aも使えます。• バッテリーチャージャー MH-25a (□iv)• マルチパワーバッテリーパックMB-D17• パワーコネクタ EP-5B、ACアダプター EH-5b
ワイヤレス トランスミッター (□296)	<ul style="list-style-type: none">• ワイヤレストランスミッター WT-7
ワイヤレス リモートコントローラー	<ul style="list-style-type: none">• ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10• ワイヤレスリモートコントローラー WR-1
ファインダー用 アクセサリ	<ul style="list-style-type: none">• 接眼目当てDK-19• 接眼補助レンズDK-17C• マグニファイングアイピースDK-17M• マグニファイヤー DG-2• アイピースアダプター DK-18• アンティフォグ ファインダーアイピースDK-14、DK-17A• フッ素コート付きファインダーアイピースDK-17F• 変倍アングルファインダー DR-5• アングルファインダー DR-4
HDMIケーブル	<ul style="list-style-type: none">• HDMIケーブルHC-E1
アクセサリ シューカバー	<ul style="list-style-type: none">• アクセサリシューカバー BS-3• アクセサリシューカバー BS-1
ボディー キャップ	<ul style="list-style-type: none">• ボディーキャップBF-1B、BF-1A
ニコンデジタル カメラ専用 ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none">• Camera Control Pro 2

10ピン ターミナルに 接続する アクセサリ	<ul style="list-style-type: none"> • リモートコードMC-22、MC-22A（長さ：約1 m） • リモートコードMC-30、MC-30A（長さ：約80 cm） • リモートコードMC-36、MC-36A（長さ：約85 cm） • 延長コードMC-21、MC-21A（長さ：約3 m） • 接続コードMC-23、MC-23A（長さ：約40 cm） • 変換コードMC-25、MC-25A（長さ：約20 cm） • WR用変換アダプター WR-A10 • GPSユニットGP-1/GP-1A • GPS変換コードMC-35（長さ：約35 cm） • ルミコントロールセットML-3
外部マイク	<ul style="list-style-type: none"> • ステレオマイクロホンME-1（□60） • ワイヤレスマイクロホンME-W1
端子カバー	<ul style="list-style-type: none"> • ステレオミニプラグケーブル用端子カバー UF-8 • USBケーブル用端子カバー UF-7

使用できるアクセサリについて

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または-10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	ほこりや糸くずをブローアード払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブローアード払いします。スプレー缶タイプのブローアードは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
画像モニター	ほこりや糸くずをブローアード払いします。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

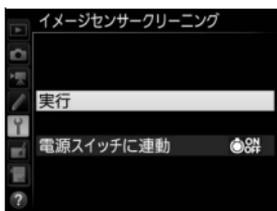
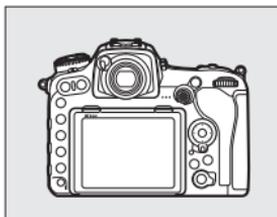
アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

撮像素子のお手入れについて

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

■ セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】から操作する

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えるときの向き）にしてください。
- セットアップメニューの【イメージセンサークリーニング】を選び、【実行】を選んで **OK** ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は、表示パネルに **bUSY** が点滅し、撮像素子のチェックも行われます。
- イメージセンサークリーニング実行中は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- クリーニングが完了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。

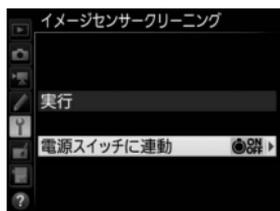


■ 電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニング する

 ON 電源ONで実行	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
 OFF 電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
 ON/OFF 電源ONとOFFで実行	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

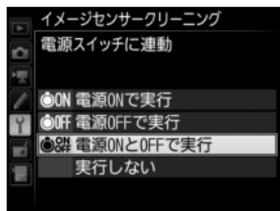
1 [イメージセンサークリーニング] 画面で[電源スイッチに連動]を 選ぶ

- [電源スイッチに連動]を選んでマルチセレクトターの  を押しと、[電源スイッチに連動] 画面が表示されます。



2 イメージセンサークリーニングの方 法を選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、撮像素子前面を市販のプロアーで掃除する (□329) か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続して行くと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

撮像素子前面をブローで掃除する

イメージセンサークリーニング (☐327) でゴミやほこりを取りきれないときは、撮像素子前面を次の手順でクリーニングできます。ただし、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせるお使いください。
- セットアップメニューの [クリーニングミラーアップ] を使用します。バッテリー残量表示が  以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

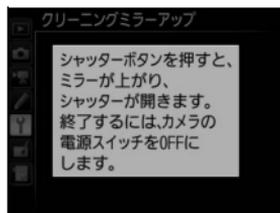
- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

2 セットアップメニューで [クリーニングミラーアップ] を選んでマルチセレクターの を押す



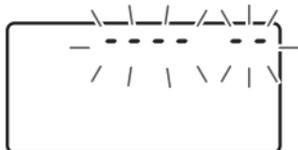
3 ボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 画像モニター、表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されません。
- 撮像素子のお手入れをやめるには、カメラの電源をOFFにしてください。



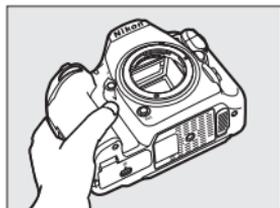
4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは右のような点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。

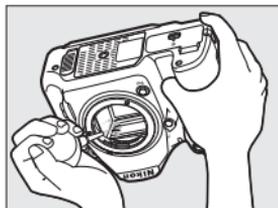


5 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 撮像素子前面に付いたゴミやほこりをブローアード払う



- ブラシの付いていないブローアードをお使いください。ブラシで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブローアードで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✓ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、直ちに作業を終了してください。

✓ 撮像素子前面に付着するゴミなどについて

撮像素子前面には、カメラからレンズまたはボディキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によっては撮像素子前面に付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほこりの多い場所でのレンズ交換やボディキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。撮像素子前面に付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング(□□327)で取り除ききれないときは、329ページの手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

▼ 定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、プロアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブローアで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのプロアの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● 撮像素子の手入れ方法について

撮像素子のクリーニングの方法については□327、329をご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

- シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブローアなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。
- シャッター幕に色むらが見える場合がありますが、異常ではありません。また、撮影した画像には影響ありません。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤のあるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストープの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくことより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 画像モニターについて

- 画像モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で画像モニターが見えにくい場合があります。
- 画像モニター表面を強くこすったり、強く押ししたりしないでください。画像モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブローアで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、画像モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

バッテリーの使用上のご注意

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
 - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
 - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
 - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
 - 必ず指定のバッテリーを使う。
 - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
 - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなることがあります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの【電池チェック】(□□297)で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、十分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。

● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion00

数字の有無と数値は、電池によって異なります。

チャージャーの使用上のご注意

- 充電中にチャージャーをゆすったり、充電中のバッテリーに触れたりすると、振動や静電気の影響により、きわめてまれではありますが、未充電にもかかわらず充電完了表示になる場合があります。このような場合にはバッテリーを取り外し、再度セットして充電を再開してください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-25a 対応のバッテリー以外は充電しないでください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態、カメラの操作ができない

- 画像の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
- 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- ACアダプター使用時は付け直してください。
 - 記録中であったデータは保存されません。
 - 保存済みのデータはバッテリーやAC アダプターの取り外しでは失われません。

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ノブを回して調節できます (□26)。
- 視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は、AFモード(□95)を**AF-S**、AFエリアモード (□97) をシングルポイントAFに設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節の範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします (□26、324)。

● ファインダー内が暗い

バッテリー残量は充分ですか？バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量がない場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります (□7、31)。

● ファインダー内や表示パネル、画像モニターの表示が、すぐに消えてしまう

カスタムメニューc2 [半押しタイマー] やc4 [モニターのパワーオフ時間] で、表示が消えるまでの時間を設定できます (□284、285)。

● 表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなる場合があります。

撮影関連

- **電源をONにしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる**
メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。
 - **シャッターがきれない**
 - 残量のあるメモリーカードが入っていますか？ (□32、376)
 - SDカードがロックされていませんか？ (□15)
 - Gタイプ、Eタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。表示パネルに**fE E**と表示されている場合、カスタムメニューf4 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます (□290)。
 - 露出モード**M**でシャッタースピードを**bulb** (バルブ) または**- -** (タイム) に設定し、そのまま露出モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください (□348)。
 - セットアップメニュー [カードなし時リリース] が [リリース禁止] になっていませんか？ (□297)
 - **シャッターがきれるのが遅い**
カスタムメニューd5 [露出ディレイモード] を [しない] にしてください (□286)。
 - **連続撮影できない**
HDR撮影時は、連続撮影できません (□182)。
 - **ピントが合わない**
 - マニュアルフォーカスになっていませんか？オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセレクターを**AF**に合わせてください (□91)。
 - 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください (□105、108)。明暗差がはっきりしない/遠くのものと同近のものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい
 - **電子音が鳴らない**
 - AFモードが**AF-C**の場合、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。
 - [電子音設定] (□294) の [音量] を [電子音なし] 以外に設定すると電子音が鳴ります。
-

● **設定できるシャッタースピードの範囲が狭い**

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。[1/250秒 (オートFP)] に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFP ハイスピードシンクロが可能です (□192)。

● **シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない**

AFモードが**AF-C**に設定されている場合、サブセレクターの**中央**を押してフォーカスをロックしてください (□105)。

● **フォーカスポイントを選べない**

- フォーカスポイントロックレバーが**L**(ロック)の位置になっていませんか？ (□102)
- AFエリアモードがオートエリアAFのときは、選べません (□97)。
- AF エリアモードを顔認識 AF にしてライブビュー撮影を行っている場合は、選べません (□43)。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選択できません (□245、270)。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選ぶには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください (□38)。

● **AFモードを変更できない**

カスタムメニュー a10 [AFモードの制限] を [制限しない] に設定してください (□282)。

● **画像の記録に時間がかかる**

静止画撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] が [する] になっていませんか？ (□275)

● 画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ISO感度を低く設定して撮影すると、ざらつき、むら、すじ、輝点を低減できます。
- シャッタースピードが1秒より低速な場合は、静止画撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] にして撮影すると、むら、輝点を低減できます (□275)。
- 高温となる場所での撮影や長時間露出撮影などでカメラが熱くなっている場合は、むら、輝点が強調されることがあります。カメラの電源をOFFにしてカメラ内部の温度が下がるまで涼しいところにしばらく置いてから撮影すると、むら、輝点を低減できます。
- 一部のスピードライトを使用したときに ISO 感度を高く設定して撮影すると、すじが発生することがあります。この場合、ISO感度を下げて撮影してください。
- 次の場合、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの [高感度ノイズ低減] を [しない] 以外に設定すると、ざらつきを低減できます (□275、279)。
 - ISO感度を高く設定している場合
 - [感度自動制御] を [する] にしてISO感度が高くなった場合
- 次の条件で撮影する場合、ISO 感度を高く設定しているとざらつき、むら、すじ、輝点が強調されることがあります。
 - アクティブD-ライティングを [しない] 以外に設定して撮影する場合
 - [ピクチャーコントロール] で [フラット] (□171) を選んで撮影する場合
 - ピクチャーコントロール調整で調整する値が大きい場合 (□173)
 - 多重露出撮影する場合
 - 長時間露出撮影する場合
 - 高温となる場所で撮影する場合

● ライブビュー表示中の画像モニターに表示された明るさと、撮影した画像の明るさ（露出）が違う

ライブビュー時に画像モニターの明るさを調整しても、撮影した画像には反映されません (□46)。

● 動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる

動画撮影メニュー [フリッカー低減] の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください (□279)。

● ライブビューで横帯状の明るい部分が生じる

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。

● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください（□327）。

● ライブビューが開始されなかったり、自動的に終了する

- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
 - 連続撮影を行った直後など
- カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディ表面が熱くなることがありますが故障ではありません。

● ライブビューで画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ライブビューで長時間カメラを使用すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ざらつき、むら、輝点が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- ライブビュー時、 ボタンで画面を拡大すると（□45）、ざらつき、むら、すじや色の変化が発生しやすくなります。
- 動画撮影メニューの[画像サイズ/フレームレート]の設定によっては（□61）、撮影した動画のざらつき、むら、輝点の見え方が異なります。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□162）。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（□168）。

● ホワイトバランス（WB）ブラケティング撮影ができない

- RAWまたはRAWを含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケティング撮影はできません（□85、145）。
- ホワイトバランスブラケティングと多重露出による撮影を同時に行うことはできません（□227）。

● [ピクチャーコントロール] の効果が安定しない

[ピクチャーコントロール]、[カスタムピクチャーコントロール] の調整画面で、[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] のいずれかが [A]（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を [A]（オート）以外に設定してください（□175）。

● 測光モードが変更できない

AEロック中は、測光モードを変更できません (□136)。

● 露出補正ができない

露出モードがMの場合、露出補正を行っても、露出インジケータの表示が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません (□138)。

● 画像の一部が赤っぽくなる

シャッタースピードを**ぶじぶ** (バルブ) または**- -** (タイム) にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなる場合があります。この現象は、静止画撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] に設定することで低減できます (□275)。

● 動画に音声録音されない

動画撮影メニュー [マイク感度] が [録音しない] になっていませんか? (□279)

再生関連

● RAW画像が表示されない

[画質モード] を [RAW + FINE★]、[RAW + FINE]、[RAW + NORMAL★]、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC★]、[RAW + BASIC] にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません (□86)。

● 他のカメラで撮影した画像が表示されない

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● 全ての画像が表示されない

再生メニュー [再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にしてください (□270)。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない

- 再生メニュー [縦横位置情報の記録] が [しない] になっていませんか? (□271)
 - 再生メニュー [縦位置自動回転] が [しない] になっていませんか? (□271)
 - 撮影直後の画像確認では自動回転はしません (□271)。
 - カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。
-

● 画像が削除できない

画像にプロテクトが設定されていませんか? (□263)

● 画像が編集できない

このカメラでは編集できない画像です。

● **画像を記録するのに [撮影画像がありません] と表示される**

再生メニュー [再生フォルダー設定] を [全てのフォルダー] にしてください (□270)。

● **ダイレクトプリントができない**

RAW画像やTIFF画像はダイレクトプリントできません。

● **RAW画像をプリントできない**

- 画像編集メニューの [RAW現像] などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください (□304)。
 - RAW 画像はパソコンに転送してから、Capture NX-Dなどのソフトウェアを使ってプリントしてください (□v)。
-

● **画像がHDMI対応機器で再生できない**

HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください (□324)。

● **Capture NX-Dでイメージダストオフ機能が動作しない**

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、撮像素子前面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
 - イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき (□294)
-

● **[ピクチャーコントロール]、[アクティブD-ライティング]、[ヴィネットコントロール] の効果がパソコンで確認できない**

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像はCapture NX-Dをお使いください。

● **画像をパソコンに転送できない**

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります。カードリーダーなどの機器を使って、メモリーカードの画像をパソコンに保存してください。

Wi-Fi（無線LAN）およびBluetooth関連

- スマートフォンにカメラのSSID（ネットワーク名）が表示されない
 - セットアップメニューの [機内モード] が [無効] になっていること、および [Bluetooth] の [通信機能] が [有効] になっていることを確認してください（□295、296）。
 - スマートフォンの無線機能をOFFにしてからONにし直してください。
 - NFCでカメラとスマートフォンを接続できない
カメラの （Nマーク）（□20）とスマートフォンのNFCアンテナ部をタッチしても接続できない場合は、その他の方式で接続してください（□20）。
 - プリンターなどの無線通信機器と接続できない
このカメラは、SnapBridgeアプリがインストールされたスマートフォン以外の機器とは無線接続できません。
-

その他

- 撮影日時が正しく表示されない
カメラの内蔵時計は合っていますか？ カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします（□292）。
 - 表示されているメニュー項目が選べない
 - 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選べない場合があります。
 - セットアップメニュー [電池チェック] は電源に別売のパワーコネクターとACアダプターを使用している場合は選べません（□297）。
-

警告メッセージ

表示パネル、ファインダー、画像モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示 パネル	ファインダー 内表示			
		レンズの絞りリングが最小絞りになっています。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	18
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	14、 31
		<ul style="list-style-type: none"> バッテリーが消耗しています。 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーを交換してください。 バッテリーを充電してください。 	14 12
		<ul style="list-style-type: none"> バッテリーとの情報通信ができません。 	<ul style="list-style-type: none"> このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。 	324、 388
		<ul style="list-style-type: none"> 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。 	14、 31
		<ul style="list-style-type: none"> カメラと通信できないバッテリーを使用しています。 	<ul style="list-style-type: none"> カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。 	xix、 14、 324
		<ul style="list-style-type: none"> バッテリーの温度が高くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーをカメラから取り出して、バッテリーの温度が下がるまでお待ちください。 	—

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示 パネル	ファインダー 内表示			
 (点滅)	 (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> 別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D17装着時に、極端に消耗しているLi-ion リチャージャブルバッテリー、またはカメラと通信できないバッテリーをカメラかMB-D17のいずれかで使用しています。 	<ul style="list-style-type: none"> カメラと通信できないバッテリーを使用している場合は、ニコン純正品のバッテリーと交換してください。 	xix、 14、 324
ΔF	ΔF	開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	239
—	 (点滅)	オートフォーカスでピント合わせができません。	構図を変えるか、マニュアル(手動)でピント合わせを行ってください。	35、 108
b u l b (点滅)	b u l b (点滅)	露出モードが S のときにシャッタースピードが b u l b (バルブ)にセットされています。	<ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードを変えてください。 露出モードMで撮影してください。 	125、 128
-- (点滅)	-- (点滅)	露出モードが S のときにシャッタースピードが--(タイム)にセットされています。	<ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードを変えてください。 露出モードMで撮影してください。 	125、 128
b u s y (点滅)	b s y (点滅)	カメラが処理を行っています。	カメラが処理を終えるまでお待ちください。	—

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示 パネル	ファインダー 内表示			
—	⚡ (点滅)	スピードライトがフル発光しました。	撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO感度などをご確認ください。	321
(シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかと、露出インジケータが点滅)		被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	<ul style="list-style-type: none"> ISO感度を低くしてください。 露出モードがPのときは市販のNDフィルター（光量調節用）を使用してください（S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 	116
			<ul style="list-style-type: none"> 露出モードがSのときはシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 	125
			<ul style="list-style-type: none"> 露出モードがAのときは絞りを絞り込んでください（より大きい数値）。 	126

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示 パネル	ファインダー 内表示			
(シャッタースピード表示、絞り値表示のいずれかと、露出インジケータが点滅)		被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	<ul style="list-style-type: none"> ISO感度を高くしてください。 露出モードがPのときは別売スピードライトを使用してください (S、Aのときに下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください)。 露出モードがSのときはシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 露出モードがAのときは絞りを開いてください (より小さい数値)。 	116 187 125 126
👁️ (点滅)	—		<ul style="list-style-type: none"> 赤目軽減発光機能が可能な専用スピードライトをお使いください。 フラッシュモードの設定を変更してください。 	318 192

こんなとき		原因	対処方法	📖
表示 パネル	ファインダー 内表示			
FULL (点滅)	FUL (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • 画像を記録する空き容量がありません。 • カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。 	<ul style="list-style-type: none"> • メモリーカードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 • 新しいメモリーカードに交換してください。 	267 14
Err (点滅)	Err (点滅)	撮影中に何らかの異常を検出しました。	もう一度シャッターボタンを押してください。警告表示が解除されない場合や、頻繁に警告が表示される場合は、ニコンサービス機関にご相談ください。	388

こんなとき		原因	対処方法	📖
画像モニター	表示パネル			
メモリーカードが入っていません。	[-E-]	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。	メモリーカードを正しくセットしてください。	14
このメモリーカードにアクセスできません。カードを交換してください。	[Err]、 [Err] (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> メモリーカードへのアクセス異常です。 	<ul style="list-style-type: none"> このカメラ用のメモリーカードであるかどうかを確認してください。 メモリーカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。 	375
		<ul style="list-style-type: none"> 新規フォルダーが作成できません。 	<ul style="list-style-type: none"> メモリーカードに記録されている画像を削除して、メモリーカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 	388
			<ul style="list-style-type: none"> 新しいメモリーカードに交換してください。 	267
	[Err]、 [Err] (点滅)	Eye-Fiカードをコントロールできません。	<ul style="list-style-type: none"> Eye-Fiカードのファームウェアが最新版になっているか確認してください。 新しいEye-Fiカードに交換するか、必要な画像をパソコンなどに転送してバックアップした後、カメラでEye-Fiカードをフォーマットしてからご使用ください。 	14
				—
				292

こんなとき		原因	対処方法	📖
画像モニター	表示パネル			
メモリーカードが書き込み禁止になっています。	[Err] --- (点滅)	SDカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	SDカードのロックを解除してください。	15
Eye-Fiカードは書き込み禁止の状態では使用できません。	[Err] Err (点滅)	Eye-Fiカードの書き込み禁止スイッチがロックされています。	Eye-Fiカードのロックを解除してください。	15
このメモリーカードは初期化(フォーマット)されていません。フォーマットしてください。	[For] (点滅)	メモリーカードが正しく初期化されていません。	<ul style="list-style-type: none"> メモリーカードを初期化してください。 正しく初期化されたメモリーカードに交換してください。 	292 14
ライブビューを開始できません。しばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が高くなっています。	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影または動画撮影を一時休止してください。	52、343
撮影画像がありません。	—	<ul style="list-style-type: none"> 撮影画像がありません。 再生するフォルダーの指定に問題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 画像が記録されているメモリーカードを入れてください。 再生メニューの[再生フォルダー設定]で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください。 	14 270
全ての画像が非表示に設定されています。	—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニューの [非表示設定] で、画像の非表示設定を解除してください。	270

こんなとき		原因	対処方法	📖
画像モニター	表示パネル			
このファイルは表示できません。	—	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションソフトで編集された画像や DCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 画像ファイルに異常があるため再生できません。 	アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。	—
このファイルは選択できません。	—	編集できない画像です。	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	—
この動画は編集できません。	—	編集できない画像です。	<ul style="list-style-type: none"> このカメラで撮影した動画しか編集できません。 2 秒未満の動画は編集できません。 	80
プリンターの状態を確認してください。*	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、[継続]を選んで  ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、[継続]を選べない場合があります）。	—
用紙を確認してください。*	—	指定したサイズ用の紙がセットされていません。	指定したサイズ用の紙をセットした後、[継続]を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
紙詰まりです。*	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、[継続]を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	—

こんなとき		原因	対処方法	📖
画像モニター	表示パネル			
用紙がありません。*	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズ用の紙をセットした後、[継続]を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
インクを確認してください。*	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、[継続]を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—
インクがありません。*	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、[継続]を選んで OK ボタンを押して、プリントを再開してください。	—

※ プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D500

型式

型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント (AFカップリング、AF接点付)
実撮影画角	ニコンDXフォーマット、焦点距離が約1.5倍のレンズのFXフォーマット (35mm判相当) での画角に相当

有効画素数

有効画素数	2088万画素
-------	---------

撮像素子

方式	23.5×15.7 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	2151万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得 (Capture NX-Dが必要)

記録形式

記録画素数	<ul style="list-style-type: none">撮像範囲 [DX (24×16)] の場合： 5568×3712 ピクセル (サイズL) 4176×2784 ピクセル (サイズM) 2784×1856 ピクセル (サイズS)撮像範囲 [1.3× (18×12)] の場合： 4272×2848 ピクセル (サイズL) 3200×2136 ピクセル (サイズM) 2128×1424 ピクセル (サイズS)撮像範囲 [DX] で動画撮影中に静止画撮影する場合： 5568×3128 ピクセル (サイズL) 4176×2344 ピクセル (サイズM) 2784×1560 ピクセル (サイズS)撮像範囲 [1.3×] で動画撮影中に静止画撮影する場合： 4272×2400 ピクセル (サイズL) 3200×1800 ピクセル (サイズM) 2128×1192 ピクセル (サイズS)動画の画像サイズを 3840×2160 に設定し、動画撮影中に静止画撮影した場合： 3840×2160ピクセル

記録形式

画質モード	<ul style="list-style-type: none"> RAW 12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮、非圧縮）、サイズL/M/S選択可能（サイズM/Sは12ビット、ロスレス圧縮に固定） TIFF（RGB） JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先または画質優先選択可能 RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ピビッド、モノクローム、ポートレート、風景、フラット、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	XQDカード、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード（SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードはUHS-II規格に対応）
ダブルスロット	メモリーカードの順次記録、同時記録、RAW + JPEG分割記録ならびにカード間コピー可能
対応規格	DCF 2.0、Exif 2.3、PictBridge

ファインダー

ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	<ul style="list-style-type: none"> 撮像範囲 [DX(24×16)]：上下左右とも約100% (対実画面) 撮像範囲 [1.3×(18×12)]：上下左右とも約98% (対実画面)
倍率	約1.0倍（50mm f/1.4レンズ使用、 ∞ 、 -1.0 m^{-1} のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から16 mm（ -1.0 m^{-1} のとき）
視度調節範囲	$-2\sim+1\text{ m}^{-1}$
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンII（AFエリアフレーム付、構図用格子線表示可能）
ミラー	クイックリターン式
プレビュー	Pv ボタンによる絞り込み可能、露出モード A 、 M では設定絞り値まで絞り込み可能、 P 、 S では制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ

交換レンズ

- **G、EまたはDタイプレンズ**（PCレンズ一部制限あり）
- **G、EまたはDタイプ以外のAFレンズ**（IX用レンズ、F3AF用レンズ使用不可）
- **Pタイプレンズ**
- **DXレンズ**
- **非CPUレンズ**（ただし、非AIレンズは使用不可）：露出モード**A、M**で使用可能
- 開放F値がF5.6以上明るいレンズで、フォーカスイド可能。ただしフォーカスポイント15点（選択可能9点）は、F8以上明るいレンズで、フォーカスイド可能。

シャッター

型式

電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター、電子先幕シャッター（ミラーアップ撮影時）

シャッター スピード

1/8000～30秒（1/3、1/2、1ステップに変更可能）、Bulb、Time、X250

フラッシュ同調 シャッター スピード

X=1/250秒、1/250秒以下の低速シャッタースピードで同調

レリーズ機能

レリーズモード

S（1コマ撮影）、**CL**（低速連続撮影）、**CH**（高速連続撮影）、**Q**（静音撮影）、**QC**（静音連続撮影）、**☺**（セルフタイマー撮影）、**MUP**（ミラーアップ撮影）

連続撮影速度

CL：約1～9コマ/秒

CH：約10コマ/秒

QC：約3コマ/秒

セルフタイマー

作動時間：2、5、10、20秒、撮影コマ数：1～9コマ、
連続撮影間隔：0.5、1、2、3秒

露出制御	
測光方式	180Kピクセル(約180,000ピクセル) RGBセンサーによるTTL開放測光方式
測光モード	<ul style="list-style-type: none"> ● マルチパターン測光：3D-RGB マルチパターン測光Ⅲ (G、EまたはDタイプレンズ使用時)、RGBマルチパターン測光Ⅲ (その他のCPUレンズ使用時)、RGBマルチパターン測光 (非CPUレンズのレンズ情報手動設定時) ● 中央部重点測光：φ8 mm相当を測光 (中央部重点度約75%)、φ6 mm、φ10 mm、φ13 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能 (非CPUレンズ使用時はφ8 mm) ● スポット測光：約φ3.5 mm相当 (全画面の約2.5%) を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動 (非CPUレンズ使用時は中央に固定) ● ハイライト重点測光：G、EまたはDタイプレンズ使用時のみ
測光範囲	<ul style="list-style-type: none"> ● マルチパターン測光、中央部重点測光：-3～20 EV ● スポット測光：2～20 EV (ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃) ● ハイライト重点測光：0～20 EV
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用
露出モード	P ：プログラムオート (プログラムシフト可能)、 S ：シャッター優先オート、 A ：絞り優先オート、 M ：マニュアル
露出補正	範囲：±5段、補正ステップ：1/3、1/2、1ステップに変更可能
AEロック	輝度値ロック方式
ISO感度 (推奨露光指数)	ISO 100～51200 (1/3、1/2、1ステップ)、ISO 100に対し約0.3、0.5、0.7、1段 (ISO 50相当) の減感、ISO 51200に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段、3段、4段、5段 (ISO 1640000相当) の増感、感度自動制御が可能
アクティブ D-ライティング	オート、より強め、強め、標準、弱め、しない
オートフォーカス	
方式	TTL位相差検出方式：フォーカスポイント153点 (選択可能55点) <ul style="list-style-type: none"> ● クロスタイプセンサー 99点 (選択可能35点) ● F8対応15点 (選択可能9点) マルチCAM20Kオートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF微調節可能
検出範囲	-4～+20 EV (ISO 100、常温 (20℃))

オートフォーカス

レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none">• オートフォーカス：シングルAFサーボ (AF-S) またはコンティニューアスAFサーボ (AF-C)、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行• マニュアルフォーカス (M)：フォーカスエイド可能
フォーカスポイント	フォーカスポイント153点 <ul style="list-style-type: none">• AF55点設定時：55点のフォーカスポイントから選択可能• AF15点設定時：15点のフォーカスポイントから選択可能
AFエリアモード	シングルポイントAFモード、ダイナミックAFモード (25点、72点、153点)、3D-トラッキング、グループエリアAFモード、オートエリアAFモード
フォーカスロック	サブセレクターの中央押し、またはシングルAFサーボ (AF-S) 時にシャッターボタン半押し

フラッシュ

調光方式	180Kピクセル (約180,000ピクセル) RGB センサーによる TTL調光制御 ：i-TTL-BL調光 (マルチパターン測光、中央部重点測光またはハイライト重点測光)、スタンダードi-TTL調光 (スポット測光) 可能
フラッシュモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、後幕スローシンクロ、発光禁止 <ul style="list-style-type: none">• オートFPハイスピードシンクロ可能
調光補正	範囲：-3~+1段、補正ステップ：1/3、1/2、1ステップ
レディーライト	別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリシュー	ホットシュー (ISO 518) 装備：シンクロ接点、通信接点、セーフティロック機構 (ロック穴) 付
ニコンクリエイティブライティングシステム	i-TTL調光、電波制御アドバンストワイヤレスライティング、光制御アドバンストワイヤレスライティング、モデリング発光、FVロック、発光色温度情報伝達、オートFPハイスピードシンクロ、マルチポイントAF補助光、ユニファイドフラッシュコントロール
シンクロターミナル	シンクロターミナル (ISO 519) 装備 (外れ防止ネジ付)

ホワイトバランス

ホワイトバランス	オート（3種）、電球、蛍光灯（7種）、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル（6件登録可、ライブビュー時にスポットホワイトバランス取得可能）、色温度設定（2500K～10000K）、いずれも微調整可能
----------	--

ブラケティング

ブラケティング	AEブラケティング、フラッシュブラケティング、ホワイトバランスブラケティング、アクティブD-ライティングブラケティング
---------	---

ライブビュー機能

撮影モード	📷（静止画ライブビュー）モード、🎥（動画ライブビュー）モード
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none">• オートフォーカス（AF）：シングルAFサーボ（AF-S）、常時AFサーボ（AF-F）• マニュアルフォーカス（M）
AFエリアモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能（顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能）

動画機能

測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光、中央部重点測光、ハイライト重点測光
記録画素数/ フレームレート	<ul style="list-style-type: none">• 3840×2160（4K UHD）：30p/25p/24p• 1920×1080：60p/50p/30p/25p/24p• 1280×720：60p/50p ※ 60p：59.94fps、50p：50fps、30p：29.97fps、25p：25fps、24p：23.976fps ※ 標準/★高画質選択可能（3840×2160は★高画質のみ）
ファイル形式	MOV
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM
録音装置	内蔵ステレオマイク、外部マイク使用可能、マイク感度設定可能

動画機能	
感度	<ul style="list-style-type: none"> ● 露出モードM : ISO 100~51200 (1/3、1/2、1ステップ)、ISO 51200に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段、3段、4段、5段 (ISO 1640000相当) の増感、感度自動制御 (ISO 100~Hi 5) が可能、制御上限感度が設定可能 ● 露出モードP、S、A : 感度自動制御 (ISO 100~Hi 5)、制御上限感度が設定可能
アクティブD-ライティング	より強め、強め、標準、弱め、しない
その他の機能	インデックスマーク、微速度撮影、電子手ブレ補正

画像モニター	
画像モニター	チルト式3.2型TFT液晶モニター (タッチパネル)、約236万ドット (XGA)、視野角170°、視野率約100%、明るさ調整可能

再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル (4、9、72分割)、拡大再生、動画再生、スライドショー (静止画/動画選択再生可能)、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、撮影画像の縦位置自動回転、レーティング、IPTCプリセット添付/表示可能

インターフェース	
USB	SuperSpeed USB (USB 3.0 Micro-B端子) (標準装備されたUSBポートへの接続を推奨)
HDMI出力	HDMI端子 (Type C) 装備
外部マイク入力	ステレオミニジャック (φ3.5mm)、プラグインパワーマイク対応
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック (φ3.5 mm)
10ピンターミナル	<ul style="list-style-type: none"> ● リモートコントロール : 10ピンターミナルに接続 ● GPS : GPSユニットGP-1/GP-1A (別売) を10ピンターミナルに接続。または、10ピンターミナルに接続したGPS変換コードMC-35 (別売) を介して、NMEA0183 Ver. 2.01およびVer. 3.01に準拠したGPS機器 (D-sub 9ピンケーブル併用) に接続 ● ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 (WR用変換アダプター WR-A10が必要) /WR-1

Wi-Fi (無線LAN)・Bluetooth

Wi-Fi	<ul style="list-style-type: none">● 準拠規格：IEEE802.11b、IEEE802.11g● 周波数範囲（中心周波数）：2412～2462 MHz（1～11ch）● 出力：3.0 dBm (EIRP)● 認証方式：オープンシステム、WPA2-PSK
Bluetooth	<ul style="list-style-type: none">● 通信方式：Bluetooth標準規格 Ver.4.1● 周波数範囲（中心周波数）： Bluetooth：2402～2480 MHz Bluetooth Low Energy：2402～2480 MHz● 出力（EIRP）： Bluetooth：1.0 dBm Bluetooth Low Energy：1.0 dBm
通信距離 （見通し）	約10 m* ※ 電波干渉がない場合。通信距離は遮蔽物や電波状態などにより影響されます。

NFC

方式	NFCフォーラム Type 3 Tag
周波数範囲 （中心周波数）	13.56 MHz

表示言語

表示言語	日本語、英語
------	--------

電源

使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15* 1個使用 ※ EN-EL15の代わりにEN-EL15b/EN-EL15aも使えます。
バッテリーバック	<ul style="list-style-type: none">● マルチパワーバッテリーパック MB-D17（別売）：Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18（別売）*1またはEN-EL15*2 1個使用。単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池）8本使用 ※1 別売のバッテリーチャージャー MH-26a または MH-26と、バッテリー室カバー BL-5 が必要です。EN-EL18を使用した場合、EN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18aを使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。 ※2 EN-EL15の代わりにEN-EL15b/EN-EL15aも使えます。
ACアダプター	ACアダプターEH-5b（パワーコネクターEP-5Bと組み合わせで使用）（別売）

三脚ネジ穴

三脚ネジ穴	1/4 (ISO 1222)
-------	----------------

寸法・質量	
寸法 (W×H×D)	約147×115×81 mm
質量	約850 g (バッテリーおよびXQDカードを含む、ボディーキャップを除く)、約760 g (本体のみ)

動作環境	
温度	0℃～40℃
湿度	85%以下 (結露しないこと)

- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA (カメラ映像機器工業会) 規格またはガイドラインに準拠しています。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- カメラに表示されるサンプル画像、および説明書内の画像やイラストは、機能を説明するためのイメージです。

■ バッテリーチャージャー MH-25a

電源	AC 100–240 V、50/60 Hz、0.23–0.12 A
定格入力容量	21–28VA
充電出力	DC 8.4 V、1.2 A
適応充電電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15b/EN-EL15a/EN-EL15
充電時間	約2時間35分 ※ 残量のない状態からの充電時間 (周囲温度25℃)
使用温度	0℃～40℃
寸法 (W×H×D)	約95×33.5×71 mm (突起部除く)
質量	約115 g (電源プラグ (直付け型) を除く)

製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。

～ AC (交流)、≡ DC (直流)、 クラスⅡ機器 (二重絶縁構造)

■ Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15

形式	リチウムイオン充電電池
定格容量	7.0 V、1900 mAh
使用温度	0℃～40℃
寸法 (W×H×D)	約40×56×20.5 mm
質量	約78 g (端子カバーを除く)

■ レンズAF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VR

型式	ニコンフマウントCPU内蔵Eタイプ、AF-S DXレンズ
焦点距離	16 mm-80 mm
最大口径比	1 : 2.8-4
レンズ構成	13群17枚 (EDレンズ4枚、非球面レンズ3枚、ナノクリスタルコートあり、フッ素コートあり)
画角	83°-20°
焦点距離目盛	16、24、35、50、80 mm
撮影距離情報	カメラへの撮影距離情報を出力可能
ズーミング	ズームリングによる回転式
ピント合わせ	IF (ニコン内焦) 方式、超音波モーターによるオートフォーカス、マニュアルフォーカス可能
手ブレ補正	ボイスコイルモーター (VCM) によるレンズシフト方式
撮影距離目盛	∞~0.35 m
最短撮影距離※1	撮像面から0.35 m (ズーム全域)
絞り羽根枚数	7枚 (円形絞り)
絞り方式	電磁絞りによる自動絞り
絞りの範囲※2	• 焦点距離16 mm時: f/2.8-22 • 焦点距離80 mm時: f/4-32
測光方式	開放測光
アタッチメントサイズ	72 mm (P=0.75 mm)
寸法	約80 mm (最大径) × 85.5 mm (レンズマウント基準面からレンズ先端まで)
質量	約480 g

※1 距離基準マーク (□109) は撮像面の位置を示します。

※2 カメラの露出値設定のステップ幅により、最小絞り値の表示が異なる場合があります。

- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

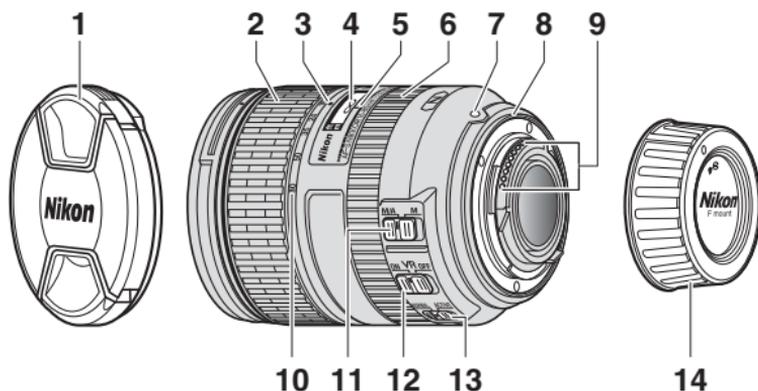
AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VRについて

このカメラとAF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VRをレンズキットでご購入の場合は、こちらをレンズの使用説明書としてお使いください。

- 国または地域によっては、レンズキットを販売していない場合があります。

■ 各部名称

AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VRの各部名称は次の通りです。



1	レンズキャップ	9	CPU信号接点	313
2	ズームリング	10	焦点距離目盛	
3	焦点距離目盛指標	11	フォーカスモード切り換え	
4	距離目盛		スイッチ	108
5	距離目盛基準線	12	手ブレ補正スイッチ	368
6	フォーカスリング	13	手ブレ補正モード切り換え	
7	レンズ着脱指標		スイッチ	369
8	レンズマウントゴムリング	14	裏ぶた	

- AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VRは、DXフォーマットのニコンデジタル一眼レフカメラ専用です。
- このレンズは、デジタル一眼レフカメラのD2シリーズ、D1シリーズ、D200、D100、D90、D80、D70シリーズ、D60、D50、D40シリーズ、D3000、およびフィルム一眼レフカメラには対応していません。

✔ 距離目盛について

距離目盛は目安であり、被写体までの距離を保証するものではありません。また、遠景撮影でも被写界深度などの影響により∞マークに届かない位置でピントが合う場合があります。

✔ レンズのお手入れと取り扱い上のご注意

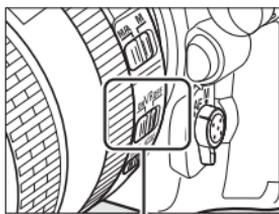
- レンズをカメラから取り外すと、絞りが開放状態になります。レンズ内部を保護するために、レンズキャップを取り付けるか、太陽光のあたらない所に保管してください。
- フードをレンズに装着した状態で、フードだけを持たないでください。
- CPU信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズマウントゴムリングが破損した場合は、そのまま使用せず販売店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- レンズ面の清掃は、ホコリを払う程度にしてください。
- 最前面と最後面のレンズの表面はフッ素コート加工されています。乾いた布で軽く拭くだけで、汚れを取り除くことができます。表面に指紋がついたときは、柔らかい清潔な木綿の布または市販のレンズクリーニングペーパーでレンズの中心から外周へ渦巻き状に、拭きムラ、拭き残りがないように注意して拭いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布を少量の真水、無水アルコール（エタノール）、または市販のレンズクリーナーで湿らせ、軽く拭いてください。フッ素コート加工されたレンズ面は、撥水性、撥油性が高いため、水滴状の拭き残りが生じることがあります。その場合は、乾いた布で拭き取ってください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズ表面の汚れや傷を防ぐためには、NCフィルターをお使いいただけます。また、レンズのフードも役立ちます。
- レンズをケースに入れるときは、必ずレンズキャップと裏ぶたを取り付けてください。
- レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。また、直射日光の当たるところ、防虫剤のあるところも避けてください。
- レンズを水にぬらすと、部品がサビつくなどして故障の原因となりますのでご注意ください。
- ストープの前など、高温になるところに置かないでください。極端に温度が高くなると、外観の一部に使用している強化プラスチックが変形することがあります。

■手ブレ補正機能 (VR) を使う

AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VR で手ブレ補正機能を使用すると、使わないときと比べて4.0段 (NORMALモード使用時) ※シャッタースピードを遅くして撮影できるため、シャッタースピードの選択範囲が広がります。

※ CIPA 規格準拠。ただし、FXフォーマット対応レンズはFXフォーマットデジタル一眼レフ使用時、DXレンズはDXフォーマットデジタル一眼レフ使用時。ズームレンズは最も望遠側で測定。

- 手ブレ補正機能を使うときは、手ブレ補正スイッチをONにしてください。
- シャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正を開始します。ファインダー像のブレも補正するため、ピント合わせが容易で、フレーミングしやすくなります。



☑ 手ブレ補正使用時のご注意

- シャッターボタンを半押し後、ファインダー像が安定してから撮影することをおすすめします。
- 手ブレ補正の原理上、シャッターをきくとファインダー像がわずかに動くことがあります。異常ではありません。
- 手ブレ補正中にカメラの電源をOFFにしたり、レンズを取り外したりしないでください (その状態でレンズを振るとカタカタ音がすることがありますが、故障ではありません。カメラの電源スイッチを再度ONにすれば、音は消えます)。
- 内蔵フラッシュ搭載のカメラで、内蔵フラッシュの充電中は、手ブレ補正は行いません。
- 三脚撮影時にONにすると、三脚ブレを軽減します。また、三脚を使っても雲台を固定しないときや一脚を使用する場合は、ONにすることをおすすめします。ただし、三脚の種類や撮影条件によりOFFにした方がよい場合があります。

🔪 AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VRの手ブレ補正 モード切り換えスイッチの使い方

手ブレ補正スイッチをONにし、手ブレ補正モード切り換えスイッチを設定します。

NORMAL	手ブレ補正効果が高く、静止している被写体を撮影する時などに適しています。
ACTIVE	乗り物に乗っている場合など、揺れの激しい条件でのブレから通常の手ブレまで補正します。

- 流し撮りする場合は、NORMALモードにすることをおすすめします。NORMALモードでは、流し撮りなどでカメラの向きを大きく変えた場合、流した方向の手ブレ補正は機能しません。例えば、横方向に流し撮りすると、縦方向の手ブレだけが補正されます。

🔪 AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VRのM/A（マニュアル優先オートフォーカスモード）の使い方

オートフォーカス撮影中にマニュアルフォーカスに切り換えることができます。

- 1 レンズのフォーカスモード切り換えスイッチ (□366) を **[M/A]** にセットする
 - 2 オートフォーカス撮影時、シャッターボタンを半押ししたまま、あるいはカメラの**AF-ON**ボタンを押したまま、フォーカスリング (□366) を手で回転させる
- 瞬時にマニュアルフォーカス撮影が行えます。
 - シャッターボタンの半押しやカメラの**AF-ON**ボタンを再度操作するとオートフォーカスで撮影が可能となります。

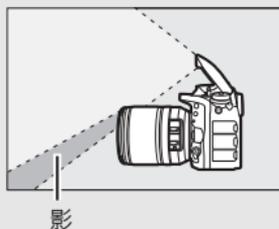
☑ カメラの内蔵フラッシュ使用時にケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離について

カメラにこのレンズを取り付けて内蔵フラッシュを使用したときに、ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離は次の通りです。

カメラ	ケラレなく撮影できる焦点距離と撮影距離※
D7200/D7100/D7000	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離18mmでは撮影距離1.0m以上• 焦点距離24、35、50、80mmでは撮影距離0.6m以上
D5500/D5300/D5200/ D5100/D5000/D3300/ D3200/D3100	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離24mmでは撮影距離1.0m以上• 焦点距離35、50、80mmでは撮影距離0.6m以上
D300シリーズ	<ul style="list-style-type: none">• 焦点距離18mmでは撮影距離1.5m以上• 焦点距離24、35、50、80mmでは撮影距離0.6m以上

※ レンズのフードを取り付けていない場合の値です。

- ケラレとは、フラッシュの光がレンズの先端でさえぎられて影になり、画像に映り込む現象です。

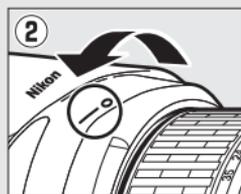
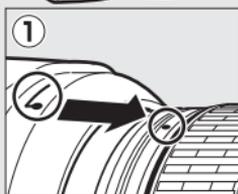
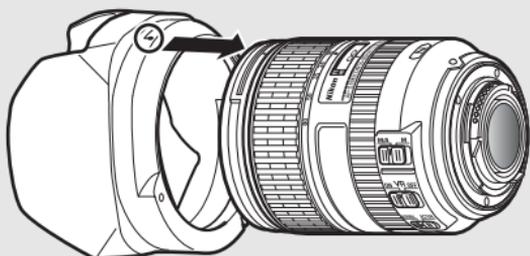


🔪 AF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VRの付属アクセサリー

- 72mmスプリング式レンズキャップ LC-72
- 裏ぶた LF-4
- バヨネットフード HB-75

レンズフードの取り付け方

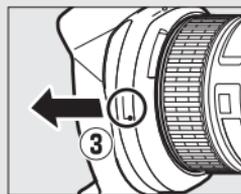
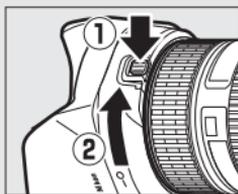
フード着脱指標 (●) とフード取り付け指標 (◐) を合わせて (①)、フードを矢印の方向に回転させ、フード着脱指標とフードセット指標 (—○) を合わせてください (②)。



- フード先端を強くつかむと着脱が困難になります。着脱の際は、フード取り付け指標 (◐) 付近を持って回転させてください。
- フードが正しく取り付けられないと画像にケラレを生じますのでご注意ください。
- 収納時はフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。

レンズフードの取り外し方

フードロック解除ボタンを押さえ (①)、矢印の方向に回転させて (②)、取り外します (③)。



AF-S DX NIKKOR 16–80mm f/2.8–4E ED VRで利用できる アクセサリ

- 72mmネジ込み式フィルター
- レンズケース CL-1218

広角・超広角レンズのオートフォーカス撮影について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。このような場合は、マニュアルフォーカスでピントを合わせるか、フォーカスロックを利用してください。

1 背景に対してメインの被写体が小さい場合

フォーカスポイント内に遠くの建物と近くの人物が混在する場合は、背景にピントが合い、人物のピント精度が低下することがあります。

〈人物〉



2 絵柄が細かい場合

背景に対して被写体が小さい場合や被写体と背景の明暗差が少ない場合は、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。

〈花畑〉



「オートフォーカスの苦手な被写体について」の説明も参照してください(□107)。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0** : 各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **Exif Version 2.3** : (Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras) : デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge** : デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)** : 家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

商標説明

- XQDはソニー株式会社の商標です。
- SDロゴ、SDHCロゴ、およびSDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple®、App Store®、Appleロゴ、iPhone®、iPad®、iPod touch®、MacおよびOS Xは米国およびその他の国々で登録された、Apple Inc.の商標です。
- iPhoneの商標は、アイホン株式会社 (<http://www.aiphone.co.jp/>) のライセンスに基づき使用しています。
- AndroidとGoogle PlayおよびGoogle Playロゴは、Google LLCの商標です。Androidロボットは、Googleが作成および提供している作品から複製または変更したものであり、Creative Commons 3.0 Attribution ライセンスに記載された条件に従って使用しています。
- IOSの商標は、米国およびその他の国におけるCiscoのライセンスに基づき使用しています。
- PictBridge ロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社ニコンはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。
- Wi-FiおよびWi-Fiロゴは、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- Nマークは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

Use of the Made for Apple badge means that an accessory has been designed to connect specifically to the Apple products identified in the badge, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with an Apple product may affect wireless performance.

認証マークの表示

セットアップメニューの「**認証マークの表示**」では、このカメラが取得している認証マークの一部を確認できます (□296)。

FreeType License (FreeType2)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2012 The FreeType Project (<http://www.freetype.org>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

MIT License (HarfBuzz)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2016 The HarfBuzz Project (<http://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

使用できるメモリーカード

■ XQDカード

- XQDカードを使用できます。
- 動画撮影には、最大 45MB/s（300 倍速）以上の転送速度を持つメモリーカードをおすすめします。転送速度が遅いメモリーカードでは、動画の記録が途中で終了したり、カメラでの動画再生がスムーズに行われないことがあります。
- メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。

■ SDカード

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、およびSDXCメモリーカードが使用できます。
- UHS-IおよびUHS-IIに対応しています。
- 動画の撮影には、UHSスピードクラス3以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の記録が途中で終了することがあります。
- カードリーダーなどをお使いの場合は、お使いのメモリーカードに対応していることをご確認ください。
- メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにお問い合わせください。



記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮像範囲 (□82)、画質モード (□85)、画像サイズ (□88) の組み合わせによって、64GBのメモリーカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります*1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

■【撮像範囲設定】が【DX (24×16)】の場合

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数*2	連続撮影可能コマ数*2、3
RAW (ロスレス圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約20.1 MB	1700コマ	200コマ
	M	約14.5 MB	2400コマ	200コマ
	S	約11.0 MB	3200コマ	200コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約25.0 MB	1300コマ	200コマ
RAW (圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約17.2 MB	2400コマ	200コマ
RAW (圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約21.3 MB	2000コマ	200コマ
RAW (非圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約33.1 MB	1700コマ	200コマ
RAW (非圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約43.1 MB	1300コマ	79コマ
TIFF (RGB)	L	約62.5 MB	975コマ	48コマ
	M	約35.6 MB	1600コマ	56コマ
	S	約16.4 MB	3600コマ	64コマ
FINE*4	L	約10.4 MB	4400コマ	200コマ
	M	約6.4 MB	7300コマ	200コマ
	S	約3.4 MB	13700コマ	200コマ
NORMAL*4	L	約5.3 MB	8600コマ	200コマ
	M	約3.3 MB	14100コマ	200コマ
	S	約1.8 MB	25900コマ	200コマ
BASIC*4	L	約2.8 MB	16600コマ	200コマ
	M	約1.8 MB	26600コマ	200コマ
	S	約1.0 MB	46500コマ	200コマ

■■ [撮像範囲設定] が [1.3× (18×12)] の場合

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3
RAW (ロスレス圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約12.4 MB	2900コマ	200コマ
	M	約9.1 MB	3900コマ	200コマ
	S	約7.0 MB	5100コマ	200コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約15.4 MB	2300コマ	200コマ
RAW (圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約10.7 MB	3900コマ	200コマ
RAW (圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約13.1 MB	3300コマ	200コマ
RAW (非圧縮RAW/ 12ビット記録)	L	約20.1 MB	2900コマ	200コマ
RAW (非圧縮RAW/ 14ビット記録)	L	約25.9 MB	2300コマ	200コマ
TIFF (RGB)	L	約37.2 MB	1600コマ	135コマ
	M	約21.4 MB	2700コマ	200コマ
	S	約10.0 MB	5700コマ	200コマ
FINE※4	L	約6.5 MB	7000コマ	200コマ
	M	約4.2 MB	11100コマ	200コマ
	S	約2.4 MB	19200コマ	200コマ
NORMAL※4	L	約3.4 MB	13600コマ	200コマ
	M	約2.2 MB	21200コマ	200コマ
	S	約1.3 MB	35700コマ	200コマ
BASIC※4	L	約1.8 MB	25600コマ	200コマ
	M	約1.2 MB	39200コマ	200コマ
	S	約0.8 MB	60600コマ	200コマ

※1 Lexar Professional 2933× XQD 2.0のメモリーカードを使用した場合
(2016年4月現在)

※2 撮影条件により、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は増減することがあります。

- ※3 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。
次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。
- [画質モード] で画質を優先した ([★] が付いた) 項目に設定してJPEG画像を撮影した場合
 - [自動ゆがみ補正] (□275) を [する] に設定した場合
- ※4 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、[画質モード] でサイズを優先した ([★] が付いていない) 項目に設定されている場合です。画質を優先した ([★] が付いた) 項目に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。

 **カスタムメニュー d2 [連続撮影コマ数] (□285)**

カスタムメニュー d2 [連続撮影コマ数] では、連続撮影時の連続撮影コマ数を1~200コマの範囲で設定できます。

撮影可能コマ数（電池寿命）について

カメラ単体または別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D17装着時の撮影可能コマ数（電池寿命）は、次の通りです。

● 撮影可能コマ数（1コマ撮影モード）：CIPA基準準拠※1

- 約1240コマ（カメラ本体でLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15※2 使用時）
- 約1240コマ（MB-D17を装着してEN-EL15※2 1個使用時）
- 約2510コマ（MB-D17を装着してEN-EL18a※3 1個使用時）
- 約1140コマ（MB-D17を装着してアルカリ単3形電池使用時）

● 撮影可能コマ数（連続撮影モード）：当社試験条件※4

- 約2740コマ（カメラ本体でEN-EL15※2 使用時）
- 約2740コマ（MB-D17を装着してEN-EL15※2 1個使用時）
- 約6570コマ（MB-D17を装着してEN-EL18a※3 1個使用時）
- 約2620コマ（MB-D17を装着してアルカリ単3形電池使用時）

● 動画記録可能時間※5

- 約50分（カメラ本体でEN-EL15※2 使用時）
- 約50分（MB-D17を装着してEN-EL15※2 使用時）
- 約130分（MB-D17を装着してEN-EL18a※3 使用時）
- 約60分（MB-D17を装着してアルカリ単3形電池使用時）

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。装着レンズAF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VR、温度23（±2）℃。

※2 EN-EL15の代わりにEN-EL15b/EN-EL15aも使えます。

※3 別売のバッテリーチャージャーMH-26aまたはMH-26と、バッテリー室カバーBL-5が必要です。EN-EL18aの代わりにEN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18も使えます。EN-EL18を使用した場合、EN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18aを使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。

※4 画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続レリーズした後、画像モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VR II（VR機能OFF）、温度23℃。

※5 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格による実撮影電池寿命です。装着レンズAF-S DX NIKKOR 16-80mm f/2.8-4E ED VR、温度23（±2）℃。カメラは初期設定状態。

- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は29分59秒です。

- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。

- カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画記録が終了することがあります。

※ バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって電池寿命が異なります。また、単3形電池使用時は、銘柄や保管状態により撮影可能コマ数が減少することがあります。単3形電池は、銘柄によっては使用できないこともあります。

次の場合はバッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビューなどで画像モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAW、TIFF（RGB）に設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- BluetoothおよびWi-Fi（無線LAN）機能を使用した場合
- アクセサリーを装着して使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合
- AF-Pレンズ使用時にズーム操作を繰り返した場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15の性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。

索引

マーク・英数字

- P** (プログラムオート) 123, 124
- S** (シャッター優先オート) 123, 125
- A** (絞り優先オート) 123, 126
- M** (マニュアル) 123, 128
- S** (1コマ撮影) 110
- CL** (低速連続撮影) 110
- CH** (高速連続撮影) 110
- Q** (静音撮影) 110
- ⊙** (セルフタイマー撮影) 110, 113
- MUP** (ミラーアップ撮影) 111, 115
- []** (シングルポイントAF) 97, 100
- []** (ダイナミックAF) 97, 100
- []** (グループエリアAF) 98, 100
- []** (オートエリアAF) 98, 100
- []** (顔認識AF) 43
- []** (ワイドエリアAF) 43
- []** (ノーマルエリアAF) 43
- []** (ターゲット追尾AF) 43
- []** (マルチパターン測光) 121, 284
- []** (中央部重点測光) 121, 284
- []** (スポット測光) 121
- []*** (ハイライト重点測光) 121
- Fn** (ファンクション) ボタン
..... 84, 291
- Pv** (プレビュー) ボタン
..... 41, 127, 291
- []** (インフォ) ボタン 50, 62, 218
- []** ボタン 46, 57, 221, 250
- []** (ライブビュー) ボタン 290
- []** (連続撮影可能コマ数) 111, 376
- []** 使用時の感度自動制御 288
- []** 使用時の感度自動制御 (感度自動
制御) 119
- []** スイッチの機能 291
- 10ピンターミナル 2, 242, 325
- 12ビット記録 87
- 14ビット記録 87
- 180Kピクセル (約180,000ピクセル)
RGBセンサー 189, 359, 360
- 1.3× (18×12) (撮像範囲設定)
..... 82, 84
- 1.3× (撮像範囲設定) 63
- 1コマ撮影 110
- 1コマ表示 245
- 2点拡大 47, 48
- 3D-RGBマルチパターン測光III 122
- 3D-トラッキング 97
- ACアダプター 324
- ADLブラケットिंग (オート
ブラケットिंगのセット) 148
- Adobe RGB (色空間) 274
- AE-Lマーク 135
- AE・フラッシュブラケットिंग
(オートブラケットिंगのセット)
..... 141
- AEブラケットिंग (オート
ブラケットिंगのセット) 141
- AEロック 135
- AF-C (コンティニユアスAFサーボ)
..... 95, 281
- AF-F (常時AFサーボ) 42
- AF-ONボタン 96, 282
- AF-S (シングルAFサーボ)
..... 42, 95, 281
- AFエリアモード 43, 97, 282
- AF点数切り換え 282
- AF微調節 293
- AFモード 42, 95, 282

AFモードボタン	42, 44, 95, 99	JPEG	85, 301, 304
AFロックオン	281	JPEG/TIFF記録	89
BASIC	85	Li-ionリチャージャブルバッテリー	iv, 12
BASIC★	85	Lo (ISO感度)	117
BKTの順序	289	L (画像サイズ)	88
BKT変化要素 (Mモード)	289	MB-D17	291, 296, 297, 324
BKTボタン	141, 145, 148, 185, 229	M (画像サイズ)	88
Bluetooth	296	M (マニュアルフォーカス)	45, 108
Bulb (バルブ撮影)	130	NEF	85
Camera Control Pro 2	324	NORMAL	85
Capture NX-D	v	NORMAL★	85
CPU信号接点	313	PictBridge (ピクトブリッジ)	372
CPUレンズ	18, 310, 313	PRE (プリセットマニュアル)	152, 159
DCF Version 2.0	372	RAW	85, 86, 87, 273, 301, 304
DX (24×16) (撮像範囲設定)	82, 84	RAW+JPEG分割記録 (副スロットの機能)	90
DX (撮像範囲設定)	63	RAW圧縮 (RAW記録)	87
DXベースの (動画) フォーマット	63	RAW記録	87, 273
Dタイプレンズ	313	RAW現像	301, 304
D-ライティング	301	RGBヒストグラム表示	254
Exif Version 2.3	372	RGBマルチパターン測光	122, 239, 313
Eye-Fi送信機能	296	SDカード	14, 375
Eタイプレンズ	313	sRGB (色空間)	274
FINE	85	S (画像サイズ)	88
FINE★	85	TIFF (RGB)	85
FVロック	196	USBケーブル	iv
Gタイプレンズ	313	UTC	243, 258
HDMI (High-Definition Multimedia Interface)	372	ViewNX-i	v
HDR (ハイダイナミックレンジ)	182	WBブラケットティング (WB-BKT)	145
Hi (ISO感度)	117	WT-7	296
H.264	361	XQDカード	375
IPTC	294		
ISO感度	116, 118, 278, 283		
ISO感度設定	278		
ISO感度設定ステップ幅	283		
i-TTL調光	189, 317		

ア

アイピース	26, 113, 324
アイピースシャッターレバー	26, 113

アオリ効果	301	カードの初期化 (フォーマット)	292
赤目軽減	192	外部マイク	2, 60, 325
赤目補正	301	開放F値	239, 313
明るさ (ピクチャーコントロール)	174	開放絞り	239, 313
アクセサリー		顔認識	284
(使用できるアクセサリー)	324	顔認識AF	43
アクセサリーシューカバー	324	画角	316
アクティブD-ライティング	180	拡大表示	261
アクティブD-ライティング		画質モード	85
ブラケットング	148	カスタムピクチャーコントロール	176
圧縮RAW	87	カスタムメニュー	281
後幕シンクロモード	192	カスタムメニューの管理	281
位置情報	242, 258, 294	風切り音低減	279
イメージセンサークリーニング	327	画像合成	302, 307
イメージダストオフ	294, 345	画像コピー	271
イルミネーター	3, 287	画像コメント	294
色合い (色相)		画像サイズ	88
(ピクチャーコントロール)	174	画像サイズ/フレームレート	61
色温度	151, 153, 157	画像情報	251
色温度設定	152	画像編集メニュー	301
色空間	274	画像モニター	8, 245, 285, 292, 293
色の濃さ (彩度)		傾き補正	301
(ピクチャーコントロール)	174	カメラ設定の保存と読み込み	297
インジケータの+/-方向	290	感度自動制御	118
インターバルタイマー撮影	232	基準露出レベルの調節	284
インデックスマーキング	56	機内モード	295
インフォ画面	218, 293	距離基準マーク	109
ヴェネットコントロール	275	記録可能コマ数	376
オート (ホワイトバランス)	151, 153	記録ビットモード (RAW記録)	87
オートエリアAF	98, 100	記録フォルダー設定	272
オートフォーカス	42, 43, 91, 97, 105, 107	クイック調整	174
オートブラケットング	140, 276	クイックワイヤレス	208
		クリーニングミラーアップ	329
		グループエリアAF	98, 100
		グループ発光	205
		クロスセンサー	92
		蛍光灯 (ホワイトバランス)	151

カ

カードなし時リリース	297
------------	-----

言語 (Language).....	292
光学手ブレ補正.....	287
高感度 (Hi).....	117
高感度ノイズ低減.....	275
高速連続撮影.....	110
このタブの機能変更.....	303
コマ送り.....	75
コマンドダイヤルの設定.....	290
コンティニユアスAFサーボ (AF-C)	95
コントラスト (ピクチャーコントロール).....	174

サ

最小絞り.....	18, 123
サイズ.....	64, 88, 301, 306
再生.....	36, 74, 245
再生画面設定.....	270
再生フォルダー設定.....	270
再生メニュー.....	270
先幕シンクロモード.....	192
削除.....	37, 267
削除後の次再生画像.....	271
撮影画面サイズ.....	316
撮影情報.....	256
撮影直後の画像確認.....	247, 271
撮影メニュー.....	272, 277
撮影メニューの拡張.....	272
撮影メニューの管理.....	272
撮像範囲.....	46, 57, 63, 82
サブセレクター.....	105, 135
サムネイル.....	245
自動ゆがみ補正.....	275
視度調節機能.....	26, 324
絞り値.....	123, 126, 133
絞り値のロック.....	133, 290
絞り優先オート.....	126
シャッタースピード.....	123, 125, 133

シャッタースピードのロック	133, 290
シャッターボタン.....	35, 105, 135, 196
シャッターボタンAEロック.....	284
シャッター優先オート.....	125
順次記録 (副スロットの機能).....	90
常時AFサーボ (AF-F).....	42
焦点距離の設定.....	239
焦点距離目盛.....	366
初期化 (フォーマット).....	292
シングルAFサーボ (AF-S).....	42, 95
シングルポイントAF.....	97, 100
シンクロナミナル.....	2, 188
水準器.....	50, 62, 293
推奨メモリーカード.....	375
スタンダードi-TTL調光.....	189, 317
スタンダード (ピクチャーコントロール).....	171
ステレオミニプラグケーブル用 端子カバー.....	iv
スピードライト.....	187, 320
スポット測光.....	121
スポットホワイトバランス.....	164
スマートフォンへの自動送信.....	295
スマートフォンへの送信指定/解除	265
スムージング.....	184
スライドショー.....	271
スローシンクロモード.....	192
スロット/フォルダー指定メニュー	250
スロット切り換え.....	169, 246
制御上限感度 (感度自動制御).....	119
静止画Lv画面のホワイトバランス	47
晴天 (ホワイトバランス).....	151
晴天日陰 (ホワイトバランス).....	152
接眼補助レンズ.....	324
設定の保存.....	297

セットアップメニュー	292
セルフタイマー	113, 285
全押し (シャッターボタン)	35
全画像削除	268
選択画像削除	268
増灯発光モード (フラッシュ発光)	205
増灯リピーティング発光	211
測光モード	121

タ

ターゲット追尾AF	43
対DX 1.3×クロップ	83
ダイナミックAF	97, 100
タイマー (セルフタイマー)	113, 285
タイム撮影 (長時間露出)	130
多重露出	227
タッチシャッター	51
タッチ操作	10, 248
縦位置自動回転	271
縦横位置情報の記録	271
縦/横位置フォーカス切換	282
地域と日時	292
チャージャー	12
着脱指標	366
中央部重点測光	121, 284
中央ボタンの機能	289
調光補正	194
長時間露出	130
調色 (ピクチャーコントロール)	174, 175
長秒時ノイズ低減	275
著作権情報	294
チルト式画像モニター	8
ツールボタンリセット	222
低感度 (Lo)	117
低速限界設定 (感度自動制御)	119

低速連続撮影	110, 285
手ブレ補正スイッチ	366, 368
電球 (ホワイトバランス)	151
電子音設定	294
電子先幕シャッター	286
電子手ブレ補正	58, 280
電池チェック	297
電波制御アドバンストワイヤレス ライティング	201
動画	54, 74, 77
動画記録先	277
動画撮影ボタン	55
動画撮影メニューのリセット	277
動画の画質	61
動画編集	77, 81
動画ライブビュー	54
統合表示	260
同調シャッタースピード	287, 341
登録項目の削除	303
登録項目の順序変更	303
トリミング	301, 306
曇天 (ホワイトバランス)	152

ナ

ニュートラル (ピクチャーコントロール)	171
ノーマルエリアAF	43
ノイズ低減	275

ハ

ハイダイナミックレンジ	182
ハイライト表示	58
バックアップ記録 (副スロットの 機能)	90
発光禁止	192
発光モード (フラッシュ発光)	190
バッテリー	iv, 12, 14, 31, 364

バッテリーチャージャー.....iv, 12, 364	フォーマット (カードの初期化).....292
バッテリーパック.....324	副スロットの機能.....90
バルブ撮影 (長時間露出).....130	ブラケットング.....141, 145, 148, 276
パワーオフ時間.....285	フラッシュ.....187
パワーコネクター.....324	フラッシュ (ホワイトバランス).....152
半押しAFレンズ駆動.....282	フラッシュインフォ画面.....214
半押し (シャッターボタン).....35	フラッシュ撮影同調速度.....287
半押しタイマー.....38, 284	フラッシュ使用時の露出補正.....288
非CPUレンズ.....239, 311, 313	フラッシュ時シャッタースピード制限.....288
非圧縮RAW.....87	フラッシュ発光.....190, 199, 205
光制御アドバンストワイヤレス	フラッシュブラケットング (オート ブラケットングのセット).....141
ライティング.....200	フラッシュモード.....192, 193
ピクチャーコントロール.....171	フランジバック.....109
被写界深度.....126, 127	プリセットマニュアル (ホワイトバランス).....152, 159
ヒストグラム表示.....254, 255	フリッカー低減.....225, 279
微速度撮影.....68	フレームレート.....61
ピピッド	プログラムオート.....124
(ピクチャーコントロール).....171	プログラムシフト.....124
非表示設定.....270	プロテクト.....263
標準表示.....252	ヘッドホン音量.....58
ファームウェアバージョン.....297	編集前後の画像表示.....302
ファイル名設定.....272	ポートレート
ファインダー (視度調節).....26, 324	(ピクチャーコントロール).....171
ファインダー内格子線表示.....286	ボタン照明.....3, 287
フィルター効果.....174, 302	ボタンのホールド設定.....290
フィルター効果	ボディキャップ.....324
(ピクチャーコントロール).....175	ホワイトバランス.....151
風景 (ピクチャーコントロール).....171	ホワイトバランスブラケットング (WBブラケットング).....145
フォーカスエイド.....109	
フォーカスポイント	
.....34, 43, 92, 93, 97, 102, 282, 283	
フォーカスモード.....42, 91, 108	
フォーカスモード切り換えスイッチ	
.....366	
フォーカスモードセレクター	
.....42, 91, 108	
フォーカスリング.....45, 108, 366	
フォーカスロック (AFロック).....105	
	マ
	マイク.....279, 325
	マイク感度.....279
	マイメニュー.....303

マイメニュー登録.....	303
マニュアル（露出）.....	128
マニュアルフォーカス.....	45, 108
マルチセレクターの半押し起動.....	290
マルチパターン測光.....	121, 284
ミラーアップ撮影.....	111, 115
ミレッド.....	156
無線LAN.....	296, 324
明瞭度.....	174
メモリーカード.....	14, 90, 375
モデリング発光.....	127, 288
モニターの明るさ.....	58
モニターのカラーカスタマイズ.....	293
モニター発光.....	189, 197
モノクローム （ピクチャーコントロール）.....	171
モノトーン.....	302

ヤ

ゆがみ補正.....	301
ユニファイドフラッシュ コントロール.....	188
予測駆動フォーカス.....	96

ラ

ライブビュー.....	39, 54
ライブビュー撮影.....	39
ライブビューセレクター.....	39, 54
リサイズ.....	301
リセット.....	222, 277
リモートコード.....	66, 325
リモコン（WR）設定.....	202
リモコン（WR）のFnボタンの機能	295
輪郭強調.....	174
レーティング.....	264
レディーライト.....	187, 360

リリースモード.....	110
レンズ（使用できるレンズ）.....	310
レンズ情報手動設定.....	239, 240
レンズの取り外し.....	18
レンズマウント.....	109
連続撮影.....	110, 111
連続撮影コマ数.....	285
連続撮影速度.....	285
連番モード.....	286
録音帯域.....	279
露出.....	121, 123, 135, 137, 140
露出インジケータ.....	129
露出差.....	184
露出設定ステップ幅.....	283
露出・調光補正ステップ幅.....	283
露出ディレーモード.....	286
露出プレビュー.....	40, 41
露出補正.....	137, 283
露出モード.....	123
ロスレス圧縮RAW.....	87

ワ

ワイドエリアAF.....	43
ワイヤレス設定 （フラッシュ発光）.....	199
ワイヤレスリモートコントローラー	66, 201, 295, 324

修理サービスのご案内

■修理のご依頼

ニコンサービス機関（修理センター、ニコンプラザサービスセンター）、ご購入店、または最寄りの販売店にご依頼ください。

※修理品をお預けいただく場合のご注意

- ボディーキャップやレンズキャップが付属している製品の場合は、製品保護のため、装着してお預けください。
- 修理に必要と思われるもの以外の付属品は、ご自身で保管ください。
- カメラなどの修理では、受付や修理の過程で撮影データをやむを得ず消去する場合があります。大切なデータは必ずバックアップをお取りください。

■インターネットでのお申込み

<https://www.nikon-image.com/support/repair/>

■修理センター

株式会社ニコンイメージングジャパン修理センター



修理センター ナビダイヤル

0570-02-8200

〒230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26

営業時間：9:30～18:00(土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業などを除く毎日)

- 修理センターでは、「ニコンピックアップサービス」などの宅配便のみをお受けします。ご来所の方の受付はございません。ご了承ください。
- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター(03) 6702-0577 におかけください。
- 最新情報につきましては、下記のホームページをご覧ください。
<https://www.nikon-image.com/support/repair/>

■ニコンピックアップサービス

修理品梱包用資材のお届けから修理が完了した製品のご返送までをセットにしたサービスです。全国一律の料金にて承ります（大きさや重さには制限があり、取り扱いできない製品もあります）。



ニコンピックアップサービス専用 フリーダイヤル

0120-02-8155

営業時間：9:30～18:00(土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業などを除く毎日)

- ※ 上記フリーダイヤルは、修理のお申込み専用です。修理内容に関するお問い合わせは、修理センターへ、製品に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターへお願いいたします。

補修用性能部品と修理可能期間について

補修用性能部品（機能維持に必要な部品）の保有期間内を、修理可能期間とさせていただきます。なお、部品保有期間の経過後も修理できる場合もありますので、ニコンサービス機関、ご購入店または最寄りの販売店にお問い合わせください。また、水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、保有期間内であっても修理できません。この故障や破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

ニコンプラザについて

ニコンプラザは、ショールーム、サービスセンター、ギャラリーを統合したニコン映像製品の総合情報拠点です。

※ニコンプラザサービスセンターでは持ち込み修理の受け付けも行っていきます。



ニコンプラザショールーム ナビダイヤル

0570-02-8080



ニコンプラザサービスセンター ナビダイヤル

0570-02-8060

音声ガイダンスにしたがって、ご利用になるニコンプラザをお選びください。

- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター (03) 6702-0577 におかけください。

ニコンプラザについては、当社ホームページの下記URLをご覧ください。

<https://www.nikon-image.com/support/showroom/>



ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内



<https://www.nikon-image.com/enjoy/membership/about/>

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。「ニコンイメージング会員のご案内」ページからお手続きいただけます。

ニコンイメージング会員とは登録製品に関するサポート情報や、お得で便利な会員特典^{*}などフォトライフをよりお楽しみいただくための会員サービスです。この機会にぜひご登録ください。

^{*}特典は登録製品ごとに異なります。

ニコンイメージングサポートページのご案内



<https://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧ください。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。

製品の使い方に関するお問い合わせ先

<https://www.nikon-image.com/support/contact/>



ニコン カスタマーサポートセンター ナビダイヤル

0570-02-8000

営業時間：9：30～18：00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業などを除く毎日）

- ・ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。
- ・ファクシミリは、（03）5977-7499 にお送りください。
- ・最新情報につきましては、下記のホームページをご覧ください。
<https://www.nikon-image.com/support/contact/>

お問い合わせ時のお願い

- ・おわかりになる範囲で「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、問題が発生した場合は「手順」、「現象（表示されたメッセージ）」、「発生頻度」などをご確認のうえ、お問い合わせください。

株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**

Printed in Thailand